

一 登録ノ方法ハ先ツ一名ヲ限リトシ他日廢業シタルトキハ後ニ届出タル者ヲ次欄ニ記入スルモノトス尤モ本様式ハ補欄一名ニ止ルヲ以テ二名以上三及ヒタルトキハ便宜別紙ト引換フヘキモノトス

一 本様式ハ車種數ニ就テハ六箇ヨリ登載シ能ハサルヲ以テ若シ六箇以上二及ヒタルトキハ次欄ニ記入スヘシ但シ次欄ニ記入シ能ハサルトキハ便宜其二三トシ本紙ヲ用フヘキモノトス

一 車體檢査證番號ハ一營業者毎ニ第一號ヨリ更始スヘキモノトス但シ營業者ノ番號ヲ冠スヘシ假令ハ第一號營業者ノモノナルトキハ第一號ノ一又ハ二トスルカ如シ

一 檢査年月日及檢査官認印ノ欄ニハ其年月日ヲ書シ認印ヲ捺捺スヘキモノトス

一 人力車人力車互用ノモノニシテ其兼用ノモノニ對シ檢査ヲ爲シタルトキハ其主用檢査欄内ニ左ノ如ク記入スルモノトス

一 年 月 日 欄

一 轆子免許證番號欄内ニハ其營業者ニ屬スル各轆子免許證ノ番號ヲ登載シ置クモノトス其變更アリタルトキハ隨時訂正スヘシ

第二號様式 人力車轆子兼用 (用紙美濃紙)

| 第 一 | | 第 二 | |
|------------|------------|------------|------------|
| 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 |
| 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 |
| 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 |

| 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 |
| 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 |

| 第 一 | | 第 二 | |
|------------|------------|------------|------------|
| 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 | 氏番營業名號者 | 免許月証下日付 |
| 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 | 日年解月罷 |
| 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 |

記載取扱例

一 番號ハ第一號ヨリ起シ押番號トス

一 登記ノ方法ハ先ツ一號一名ヲ限リトシ他日廢業シタルトキハ順次後ニ届出テタル者ヲ空欄ニ記入シ閑號ナキ様補填スルモノトス

一 閑號簿ハ賭營業ノ例ニ從ヒ調製スヘシ

一 營業者氏名ノ欄内ニハ其所屬營業者ノ業名及番號氏名ヲ記入スルモノトス

一 檢査年月日及檢査官認印ノ欄内ニハ其年月日ヲ書シ認印ヲ捺捺スヘキモノトス

一 免許證亡失毀損等ノ事故ニヨリ再度下付シタルトキハ其事故ヲ前項欄内ニ記入スルモノトス

第三號様式

第四號様式

| 第 一 | 第 二 |
|------------|------------|
| 年 月 日 | 年 月 日 |
| 年 月 日 | 年 月 日 |
| 日年解月罷 | 日年解月罷 |
| 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 |

長五寸 木札

| 第 一 | 第 二 |
|------------|------------|
| 年 月 日 | 年 月 日 |
| 年 月 日 | 年 月 日 |
| 日年解月罷 | 日年解月罷 |
| 年氏身住族齡名分所籍 | 年氏身住族齡名分所籍 |

長五寸 木札

| | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 車檢日查 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 |
| 車檢印 | | | | | | | |
| 年檢日查 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 | 年月日 |
| 年檢印 | | | | | | | |
| 續檢印 | | | | | | | |

分五寸六幅

明治二十七年五月二日總令第二十五號
 乘合馬車營業取締規則左ノ通り定ム
 但シ明治二十二年(十一月)北海道廳令第七十一號乘合馬車取締規則ハ廢止ス(未令發布以降廢改正アリ今一條下ニ註記スルヲ略シ三十六年三月三十一日現行ノモノヲ指ク)

第一章 通則
 第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 第二條 營業者ハ車掌取者馬丁ノ住所氏名年齢ヲ所轄警察署ヘ届出一人毎ニ免許證ヲ受クヘシ
 第三條 營業者自ラ車掌取者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ前項ノ例ニ從フヘシ
 第四條 營業者ハ車馬ノ使用前馬匹ノ年齢車體乘客ノ定員ヲ所轄警察官署ニ届出檢査受ク車體檢査及馬匹檢査證ヲ受クヘシ
 第五條 車掌取者馬丁免許證及車體馬匹ハ毎年一回所轄警察官署ヘ指定シタル日時場所ニ於テ檢査受ク免許證及檢査證ニ檢印ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ無効トス

第二章 車體馬匹及附屬品
 第六條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス臨時檢査スルコトアルヘシ
 第七條 檢査ヲ經タル車體ト雖モ破損スルカ又ハ不潔ニ至リタルトキハ其檢査ヲ禁止スルコトアルヘシ
 第八條 免許證ヲ貸借シ又ハ檢査證ヲ轉用スヘカラス
 第九條 車體檢査證ハ車體内部ノ見易キ箇所ニ釘附シ馬匹檢査證ハ馬首ニ結着スヘシ
 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ車掌取者馬丁ヲ兩ケヘカラス但シ便宜ニ依リ馭車馬丁ノヨリ置キ又ハ車掌取者馬丁ヲ兼ネシムルモ妨ケナシ
 第十一條 (刪除)
 第十二條 左ニ記載シタル各項ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出免許證及檢査證ヲ再換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 一 轉居改氏名ヲシタルトキ
 二 免許證又ハ檢査證ヲ失毀損シ若クハ其文字不分明ニ至リタルトキ
 第十三條 左ニ記載シタル各項ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出免許證及檢査證ヲ返納スヘシ但シ營業者ノ死亡ニ因リ廢業シタルトキハ相續人ヨリ届出ヘシ
 一 廢業又ハ他ノ警察官署所轄内ニ轉居シタルトキ
 二 車馬ヲ賣渡又ハ讓渡シタルトキ
 三 車掌取者馬丁ヲ解僱シ又ハ車掌取者馬丁ノ失職逃亡若クハ死亡シタルトキ
 第十四條 營業者申合規約ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 第十五條 軌道ヲ用ヒサル馬車ノ車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 車輪ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 輪徑三尺以上

一 輪幅一寸五分以上
 二 車體ハ駐車器及泥除キ備ヘ且ツ無地車檢査ニシテ屋根ハ木製其他適當ノモノヲ以テ設ケヘシ
 三 屋根根ハ腰掛ノ上面ヨリ四尺以上ヲ隔ツヘシ
 四 日覆ハ布類兩層ハ鐵線引又ハ桐油製ヲ以テ之ヲ設ケヘシ
 五 客坐ハ前後若クハ左右ニ腰掛ヲ設ケ其相對スルモノハ腰掛ト腰掛トノ間二尺以上ノ餘地ヲ存シ腰掛ノ高サハ一尺三寸乃至一尺五寸トシ其幅ハ八寸以上トシ又一人ノ座席ハ幅一尺二寸以上トス
 六 腰掛ニハ清潔ナル蒲團ヲ備フヘキモノトス
 七 車體前面ニハ硝子燈ヲ備フヘシ
 八 運轉器心棒、發條、力平、手綱其他ノ屬具ハ堅牢強靱ナルモノヲ用フヘシ
 九 (刪除)
 第十條 馬匹ハ滿三歳以上強壯ニシテ惡癖ナキモノニ限ルヘシ
 第三章 車掌取者馬丁ノ資格及服裝
 第十一條 車掌取者及馬丁ハ滿十六年以上ニシテ身體強壯ナル者且ツ車掌取者ハ取術ニ熟達シ馬丁ハ馬匹ノ取扱ニ慣熟シタルモノニ限ルヘシ
 第十二條 車掌取者馬丁ノ服裝ハ簡潔法被ズボン服引ノ類ヲ用フヘシ
 第四章 車掌取者馬丁ノ就業制限
 第十三條 車掌取者馬丁ハ就業中免許證ヲ推帶シ警察官署又ハ乘客ニ於テ見ントナラズメタルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ
 第十四條 車掌取者馬丁ハ就業中煩雜餘其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス

第二十一條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但シ止ムヲ得サル事故アルトキハ馬丁又ハ其他ノ者ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシメ進行ヲ止ムヘシ
 第二十二條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ馬車ヲ置クヘカラス
 第二十三條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇切ニ保護ヲ爲スヘシ
 第二十四條 乘客著席シ又ハ降車シ終リタル後ニアラサレハ車ヲ運轉スヘカラス
 第二十五條 乘客中粗暴ノ行爲アル者ハ之ヲ制止シ若シ背セサルトキハ降車セシムヘシ
 第二十六條 馭者蓋ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サシメ物品ヲ載スヘカラス
 第二十七條 行車中ハ飲食又ハ喫煙ヲ爲スヘカラス
 第二十八條 禁止ヲ背セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス
 第二十九條 車掌取者馬丁ハ醉中其業ヲ執ルヘカラス
 第三十條 行人ニ對シ強サテ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言ヲ爲スヘカラス
 第三十一條 馬車ヲ竄ヘ進メ又ハ濫リニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス
 一 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スルトキハ徐行シ相當ノ合圍ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ
 二 軍隊、郵便用、消防用ノ車馬撤水車又ハ葬儀等ニ行進フトキハ其進行ニ障害ヲ與ヘサル様駐車又ハ避讓スヘシ
 第三十二條 軌道ヲ用ヒサル馬車ノ通行及避讓ハ左ノ各號ニ從フヘシ

一 人道車馬道ノ設ケアル場所ニ在リテハ人道ヲ通行スヘカラス但シ人道ニ沿フタル家屋ニ出入スルカ爲メ一時輸入ルルハ此限ニアラス
 二 路幅三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但シ其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限ニアラス
 三 車馬道ハ左側其他ハ道路ノ中央ヲ通行スヘシ但シ積雪中行人ノ妨害トナラサル様避讓スヘシ
 四 車馬及歩行者ニ行進フトキハ左ニ避クヘシ
 五 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ク坂路ハ上リ車之ヲ避クヘシ但シ坂路ニ於テ貨車空車行進フトキハ空車之ヲ避クヘシ
 六 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圍ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ
 七 (刪除)
 八 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ
 九 (刪除)
 十 街角ヲ轉ルトキハ右ハ大轉リ爲シ左ハ小轉リ爲スヘシ
 第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス
 第三十四條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス
 第三十五條 夜中燈火ヲシテ行車スヘカラス
 第三十六條 車體及馬匹ハ常に清潔ニスヘシ
 第三十七條 定員二分一以上ノ乘客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス
 第三十八條 乘車ヲ請メタル者アルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムヘカラス

第三十九條 乘客ノ承認ヲ得ス中途ニ於テ他車ニ
乘セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス
第四十條 乘客急病ニ罹リ其住所氏名分明ナラズ
又ハ居宅遠隔ナルトキハ速ニ警察官吏ニ申告ス
ヘシ

第四十一條 乘客降車ノ際ハ遺留品ナキヤ否ヤニ
注意シ若シ之アルトキ其主分明ナレハ直チニ返
付シ分明ナラサルトキハ速ニ其地警察官署又ハ
巡查派出所駐在所ニ届出ヘシ

第五節 乘載制限
第四十二條 定員外ノ客ヲ乗スヘカラス但シ十年
未満ノ者ハ二人チ以テ一人ニ算シ六年未満ノ者
ハ定員外トス

第四十三條 左記各號ニ該當スル者ハ乗載スヘカ
ラス但シ警察官吏ノ命シタルモノ若ハ認可ヲ得
タルモノハ此限ニアラス
一 傳染病預防法ニ據ル傳染病患者
二 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ憂アル物
品
三 亂醉者
四 獸類

第六節 貨錢
第四十四條 貨錢ハ警察官署ノ管轄區域毎ニ同業
者ノ申合ヲ以テ之ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ
受クヘシ其之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ
申合ニ入ラスシテ營業スルコトヲ得ス
他ノ警察官署所轄内ニ於テ營業ヲ爲ストキハ其
地營業者ノ定メタル額ニ從フヘシ

第四十五條 貨錢表ハ車内見易キ箇所ニ釘附シ置
クヘシ
第四十六條 何等ノ名義ヲ以テスルモ定額以外ノ
ノ貨錢ヲ請求スヘカラス

第七節 罰則
第四十七條 本則第一條第二條第四條第八條第十
條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條ノ
一第三十一條ノ二第三十二條第一項第二項第三
十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十二
條第四十三條第四十六條ニ違犯シタル者ハ一日
以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓
二十五錢以下ノ科料ニ處ス
本則第五條第十一條第十二條第十三條第十八條
第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十
四條第二十五條第二十六條第二十七條第三十一
條第三十四條第三十五條第五十條ニ違犯シ又ハ
第九條第三十六條第四十五條ニ背キ督促ヲ受ケ
尙ホ爲ササル者若クハ第三十二條(第一項第二
項ヲ除ク)第三十三條ニ背キ通行ノ妨害ヲ爲シ
タル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
但シ刑法ヲ以テ處分セラルヘキモノニハ本條
ヲ適用セス
前項ノ罰則ハ商事會社ニ在リテハ業務擔當者ニ
之ヲ適用ス

第八節 附則
第四十八條 本則ハ乗合馬車營業ニモ亦之ヲ適用
ス
但シ客ヲ乗載スル面ノ構造ハ適宜裝置ヲ爲ス
ヘシ
第四十九條 乗合馬車及乗合馬車營業ヲ兼スル者
ハ各別ニ本則第一條第二條ノ手續ヲ爲スニ及ハ
ス
第五十條 馬車ハ馬首ニ鈴鐸ヲ結束スヘシ
第五十一條 本則第二十一條第二十二條第二十八
條第二十九條第三十一條第三十二條ノ一(馬丁
ノ前行ヲ除ク)第三十一條ノ二第三十二條第三

十四條第三十五條第四十七條第五十條ハ自用馬
車馬車ニモ亦之ヲ適用ス
第五十二條 本則第十條第三十一條ノ一馬丁ノ前
行ハ札幌、函館、小樽、旭川、根室、釧路、江
差、室蘭、岩内、海部、増毛、網走及之ニ接續
セル人家稠密ノ場所ノ外施行セス
第五十三條 從來使用セル馬車ニシテ本則第十五
條第一項ニ違フ者ハ本令施行後三箇年間其使
用ヲ許スヘシ但シ其使用ヲ爲サントスル者ハ本
令施行後三箇月以内ニ其使用地各警察官署ヘ届
出ヘシ
本則第十五條第一項外ノ各項ニ違フ者ハ本令施
行後一箇年以内ニ之ヲ改ムヘシ
○明治二十七年五月七日訓第七十號(警察部警
察署同分署宛)

乗合馬車營業取締規則取扱手續
但シ明治二十二年(十二月九日)北海道廳訓令該
外乗合馬車取締規則取扱手續及明治二十四年
(八月)訓第九十二號乗合馬車取締規則施行細則
ハ廢止ス

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

乗合馬車營業取締規則取扱手續
第一條 警察官署ニ於テハ第一號樣式ニヨリ乗合
馬車馬車營業取締第二號樣式ニヨリ乗合馬車馬
車取締者馬丁着帽ヲ調製スヘシ
第二條 取締者馬丁免許證ハ第三號樣式ニヨリ調製
下付スヘシ
第三條 車體又ハ構造檢査證ハ第四號樣式馬車檢査
證ハ第五號樣式ニヨリ調製下付スヘシ
第四條 免許證及檢査證ニ押捺スヘキ署印ハ烙印
ヲ用フヘシ
第五條 免許證及檢査證ノ檢印ハ左ノ烙印ヲ用フ
ヘシ

第四號樣式 (三十四年二月訓第百二十九號ヲ以テ本樣式中改正)

登録番號

長五寸

木札

第 號

住所

乘客定員(何)人 乘合馬車檢査證

乘合馬車檢査證

(乘合馬車檢査證)

| | | | |
|----|---|---|---|
| 年檢 | 日 | 月 | 年 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |

檢 印

明治 年 月 日

北海道廳

何警察官署

印署

第五號樣式 (三十四年二月訓第百二十九號ヲ以テ本樣式中改正)

登録番號

長二寸五分

木札

第 號

馬 匹 檢 査 證

乘合馬車檢査證 乘人何某所有
馬名稱毛色年齡(牝)(牡)

分八寸一福

面 表

| | | | |
|----|---|---|---|
| 年檢 | 日 | 月 | 年 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |
| 日 | 月 | 年 | 日 |

○明治二十七年五月二日廳令第二十六號

荷馬車取締規則左ノ通り定ム

荷馬車取締規則

第一章 荷馬車

第一條 街路ニ於テ使用スル荷馬車車輪ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 輪徑三尺以上

一 輪幅二寸以上

第二條 荷馬車ハ十五歳以上ノ者ヲシテ使用セシムヘカラス

第三條 荷馬車ハ十五歳以上ノ者ニテ使用スルコトヲ得ス

第四條 荷馬車ヲ進行スルトキハ口籠ニ在リテ牽繩ヲ取ルヘシ

第五條 荷馬車ヲ疾驅セシムヘカラス

第六條 夜中燈火ナクシテ荷馬車ヲ進行スヘカラス

第七條 荷馬車ニハ狂暴ナル馬匹ヲ使用シ又ハ馬匹ヲ殘留ニ取扱フヘカラス

第八條 一頭牽又ハ二頭牽ノ荷馬車ニハ其頭數以上ノ馬匹ヲ附スヘカラス

第九條 荷馬車ヲ使用スル者ハ醉中其業ヲ執ルヘカラス

第十條 通行及遊蕩方ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一 入道馬車道ノ設ケアル場所ニ在リテハ荷馬車ヲ入道ニ通行スヘカラス

二 但シ入道ニテ沿タル家屋ニ出入スルカ爲メ一時進入ルハ此限ニア

二 路幅三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但シ其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限ニアラス

三 車馬道ハ左側其他ノ道路ノ中央ヲ通行スヘシ但シ積雪中ハ行人ノ妨害トナラサル程度ヲ以テ之ヲ通行スヘシ

四 車馬及歩行者ニ行進フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

五 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車之ヲ避ケヘシ但シ坂路ニ於テ實車空車行進フトキハ空車之ヲ避ケヘシ

六 前車徐行シ後車疾行セントストキハ後車ヨリ相當ノ距離ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

七 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行進フトキハ避讓スヘシ

八 二車以上引續キ行進ストキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

九 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圍ヲ爲スヘシ

十 街角ヲ廻ルトキハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第十條 空車ヲ轆テ路上ヲ行進シテ妨害ヲ爲スヘカラス

第十一條 荷馬車ヲ轆ヘ轆キ又ハ二臺以上ヲ連繫シテ轆クヘカラス但シ長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數臺ヲ連結スルハ此限ニアラス

第十二條 制止ヲ背ケス荷馬車ヲ出火揚其他群集ノ場所ニ轆入ルヘカラス

第十三條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ荷馬車ヲ置クヘカラス

第十四條 荷馬車ヲ路傍ニ駐止スルトキハ其側面ヲ街路ニ向ケ且ツ馬ノ奔逸セサル程度留置クハ口取ヲ附シ置クヘシ

第十五條 荷馬車ノ積荷ハ路上ニ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第十六條 荷馬車ノ積荷ハ可成車蓋ノ左右へ突出セシ且ツ危險ノ虞ナキ程度積載スヘシ

第十七條 荷馬車ノ積荷ノミニテ運轉スヘカラス但シ坂路ハ此限ニアラス

第十八條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺幅三尺ヲ超過スヘカラス

第十九條 本則第九條(第一項第三項ヲ除ク)第十條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條ハ荷車ニモ亦之ヲ適用ス

第二十章 罰則

第二十一條 本則第一條第三條第四條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十八條第二十條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 本則第五條第六條第七條第十條第十一條第十三條第十五條第十六條ニ違反シタル者ハ第九條(第一項第二項ヲ除ク)ニ背キ通行ノ妨害ヲ爲シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス但シ刑法ヲ以テ處分セラルヘキ者ニハ本條ヲ適用セズ

第二十三章 附則

第二十一條 本則第一章ハ荷馬車第二章ハ荷馬車第三章ハ荷馬車ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 荷馬車ハ馬首ニ鈴鐸ヲ結束スヘシ

第二十三條 (二十三年七月廳令第六十四號ヲ以テ本條削除)

第二十四條 本則第一條ハ社帳、商帳、小帳又ハ二接帳セル人家欄柵ノ場所ノ外之ヲ施行セズ

第二十五條 從來使用セル荷馬車ニシテ本則第一條ニ違反スル者ハ本令施行後滿三箇年間其使用ヲ許スヘシ但シ其使用ヲ爲サントスル者ハ本令施行後二箇月以内ニ其使用地各警察官署へ届出ヘシ

○明治三十年八月四日廳令第五十號
貨馬車取締規則左ノ通り定ム

貨馬車取締規則

第一條 本則ニ於テ貨馬車ト稱スルハ科料金ヲ受ケ兼用ニ供スル爲メ馬匹ヲ貨運スルモノヲ云フ

第二條 貨馬車ト爲サントスル者ハ馬匹警察官ノ位置及構造ヲ詳記シタル圖面並ニ検査シテ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受クヘシ其位置構造ハ變更セントストキモ亦同シ

第三條 馬匹警察官ノ構造落成シタルトキハ其新築變更トモ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ検査シ終ルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第四條 馬匹警察官ノ検査ノ後ト雖モ危險又ハ衛生上有害アルモノト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ位置又ハ構造ノ變更ヲ命シ若クハ其使用ヲ禁スルコトアルヘシ

第五條 馬匹ハ使用前其名稱毛色年齢身軀ヲ記シ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其記録ヲ受クヘシ

第六條 馬匹ハ滿三歳以上ノモノニシテ強壯且惡癖ナキモノニ限ルヘシ

第七條 馬匹ハ毎年一回所轄警察官署ノ指定シタル日時場所ニ於テ検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出馬匹検査證ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ一 轉居改氏名又ハ馬匹検査證面ニ異動ヲ生シ

營業者其責ニ任ス

附則

第二十條 本則ハ函館區及龜田郡龜田村ノ外施行ス

○明治三十三年六月八日廳令第四十七號

人馬車繼立營業取締規則左ノ通り定ム

但シ明治二十一年(四月)北海道廳令第二十六號

人馬車繼立營業規則及同二十二年(四月)同廳令

第三十號ヲ廢止ス

人馬車繼立營業取締規則

第一條 本則ニ於テ人馬車繼立營業ト稱スルハ貨

物ヲ運搬スル人夫牛馬荷車荷馬車荷馬車等ヲ使

用シ旅客及財物ヲ運搬スルモノヲ云フ

第二條 人馬車繼立營業ヲ爲サントスルモノハ左

ノ事項ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一 人夫馬丁ノ員數

二 乘用ニ供スル馬匹ノ頭數及毛色年令

三 貨物運搬ニ供スル牛馬ノ頭數

四 車輪及乗鞍ノ員數

第三條 營業者轉居改氏名變更死亡又ハ人夫馬丁

牛馬車輪乗鞍員數ニ異動ヲ生シタルトキハ五日

以內ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ死亡シタル

トキハ家督相續人又ハ家族ヨリ届出ヘシ

第四條 營業者死亡ノ場合ニ於テ家督相續人營業

ヲ繼承セントスルトキハ其旨所轄警察官署ニ届

出ヘシ

第五條 人夫ハ身體強壯乘用馬匹ハ三歳以上ニシ

テ惡癖ナク車輪及附屬器具ハ堅牢ノモノヲ用ユ

ヘシ

第六條 營業ニ供スル牛馬車輪及器具ハ警察官ニ

於テ隨時検査ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 營業所及取扱所ニハ營業名ヲ記シタル看

板ヲ掲出シ尙隣村及十里未満各驛ノ里程貨物及

運搬制限ヲ揭示シ置クヘシ

第八條 牛馬ハ一定ノ場所ニ飼養スルヲ要ス但シ

牧又ハ營業所若クハ取扱所ヨリ十里以外ノ箇所

ニ飼養セントスルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ

受クヘシ

第九條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 旅客及貨物ヲ運搬ニ保護シ粗暴ノ行爲アル

ヘカラス

二 旅客ニ對シ侮慢ノ行アルヘカラス

三 醉中執業スヘカラス

四 運送中渋滞ニ車馬ヲ休止シ又ハ疾驅セシメ

若クハ競争スヘカラス

五 牛馬ヲ殘虐ニ取扱フヘカラス

六 客ノ許諾ナクシテ人夫牛馬車輪及乗鞍等ヲ途中

ニテ轉換ヲ爲スヘカラス

七 正當ノ理由ナクシテ人夫牛馬車輪及乗鞍等ヲ

拒ミ又ハ渋滞ニ請求ノ時間ヲ遲延スヘカラス

第十條 營業者ハ牛馬車輪及附屬器具ヲ常ニ清潔

ニシ置クヘシ

第十一條 乘用ニ供スル馬匹ニハ客ノ需メアルト

キハ馬丁ヲ附スヘシ

馬丁ハ滿十六年以上ノ者ニシテ馬匹ノ取扱ニ慣

熟シタル者タルヘシ

第十二條 左ニ記載シタル事項ハ所轄警察官署ノ

認可ヲ受クヘシ但シ所轄警察官署區域內ニ二人

以上ノ同業者アルトキハ申合ヲ以テ之ヲ定メ認

可ヲ受クルモノトス此場合ニハ申合ニ入ラサル

者ハ營業スルコトヲ得ス

一 貨物ニ關スル事項

二 里程ニ關スル事項

二 馬匹検査證書ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明

ニ至リタルトキ

第九條 左ノ場合ニ於テ五日以內ニ所轄警察官署

ニ届出検査證書ヲ返納スヘシ但シ死亡ノトキハ相

續人又ハ家屬ヨリ届出ヘシ

一 廢業死亡ノトキ

二 馬匹死亡又ハ其使用ヲ廢止シタルトキ

三 馬匹ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ

第十條 貨馬料ハ營業開始前所轄警察官署ニ届出

認可ヲ受クヘシ其變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第十一條 馬匹検査證書ハ馬首ニ粘着スヘシ

第十二條 馬匹検査證書ヲ貸借シ又ハ轉用スヘカラス

第十三條 何等ノ名義ニ拘ラス貨馬料以外ニ金銭

ヲ請求スヘカラス

第十四條 酷耐者白痴瘋癲者ニハ馬匹ヲ貸與スヘ

カラス

第十五條 市街區域內ニ於テハ繫留所以外ノ箇所

ニ於テ馬匹ヲ貸與スヘカラス

第十六條 市街區域內ニ於テハ各馬匹毎ニ馬丁ヲ

前行セシムヘキコトヲ所轄警察官署ニ於テ命令

スルコトアルヘシ

第十七條 貨馬業者組合ヲ設ケントスルトキハ規

約書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

其變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第十八條 本則第二條第三條第五條第七條第八條

第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四

條第十五條ニ違反シ又ハ第四條第十六條ノ命ニ

從ハサルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ

又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處シ

第十九條 營業上ニ付テハ家屬雇人ノ所爲ト雖モ

三 運搬ニ關スル事項

第十三條 何等ノ名義ヲ以テスルモ定額以外ノ貨物ヲ請求スヘカラス

第十四條 里程ハ北海道廳ニ於テ告示シタルモノアルトキハ其告示ニ據ルヘシ

第十五條 貨物ノ運搬ハ左ノ制限迄ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 人夫一人 七貫目迄
- 二 牛馬一頭 三十二貫目迄
- 三 荷馬車一頭曳 八十貫目迄
- 四 同 二頭曳 百三十五貫目迄
- 五 荷馬糞一壺 九十貫目迄
- 六 荷車荷糞一壺 十五貫目迄

道路險惡等ノ爲メ前項ノ制限ニ據ル能ハサルトキハ申合又ハ組合規約ヲ以テ更ニ其制限ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 組合設置ノ必要アリト認ムルトキハ警察官署ニ於テ特ニ區域ヲ定メ其設置ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 組合ニ於テハ組合地區内ノ營業者ハ組合ニ入ラスシテ營業スルコトヲ得ス

第十八條 組合ニハ獨立取扱所ヲ設ケ取入ヲ置クヘシ

第十九條 取扱人ハ組合内同業者ノ互選ヲ以テ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 組合ハ規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其規約スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合名稱及取扱所ノ位置
- 二 旅客及貨物積立方法
- 三 貨物ノ定額
- 四 取扱人選舉手續
- 五 取扱人ノ事務及任期

第六 組合加入者及退去者手續

第七 組合費用ノ收入支出手續

第八 規約違背者處分手續

第九 前各條ノ外必要ナル事項

第十九條 取扱人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 公益上必要ト認ムルトキハ警察官署ニ於テ貨物定額ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 本則第二條第三條(廢業死亡ヲ除ク)第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條

以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 營業者不正ノ行爲アリ又ハ本則第二十一條第一項ノ期間ヲ定メ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十三條 本則第九條第二十一條ハ雇人ニモ之ヲ適用ス

第二十四條 營業上ニ就テハ家族雇人(前條ニ據リ處罰セラルヘキ者ヲ除ク)又ハ同居者ノ所爲ト雖トモ營業者其責ニ任ス

第二十五條 營業者未成年者禁治產者ナルトキハ父母又ハ後見人營業上ノ責ニ任ス

附則

第二十六條 乘合馬車營業取締規則人力車營業取締規則貨馬車取締規則ニ據ルヘキモノ及一市内ノ營業ニ就テハ本則ヲ適用セス

第二十七條 従前ノ營業者ハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本則ニ據リ更ニ届出ヘシ

○明治三十三年六月八日訓第三百五十七號(警察署同分署宛)

人馬車獨立營業取締規則取扱手續ノ通り定ム

人馬車獨立營業取締規則取扱手續

第一條 營業者ハ別紙第一號様式ニ據リ調製スヘシ

第二條 營業ニ供スル牛、馬、荷車、荷糞、荷馬糞、荷馬糞及器具ハ營業届出ノ節及毎年一回以上検査ヲ爲スヘシ

第三條 定時検査ハ荷馬車荷糞ハ毎年四月五月ニ於テ荷糞検査ハ十一月十二月ニ於テ行フヘシ

第四條 検査ハ可成其所在ニ就テ行フヘシ

第五條 營業者所在地名人員貸借人夫馬丁牛馬車糞糞等ノ員數ハ毎年十二月末日現在ニ據リ調査シ第二號様式ニ據リ警察部長ニ報告スヘシ

第六條 規則第二十二條ニ據リ營業ヲ停止シ必要トスルモノハ其實情ヲ詳記シ警察部長ニ具申スヘシ

第七條 規則第十二條又ハ第十八條ニ據リ認可セシメタルトキハ貨物及運搬ニ關スル事項ハ認可前所轄支廳長ノ意見ヲ照合スヘシ規則第二十條ニ據リ貨物定額ノ變更ヲ命スルトキ亦同シ

第八條 前項ノ場合ニ於テ若シ意見ヲ異ニシタルトキハ警察部長ニ具申指揮ヲ受クヘシ

| 號 | | 第 | | | | |
|---|---|-----|--------------|--------------|---------------------------|----|
| 考 | 備 | 荷車數 | 運搬用牛馬數 | 人夫員數 | 届出年月日 | 業名 |
| | | | 官馬牝牡 私馬牝牡 | | | |
| | | 荷棧數 | 荷馬車數 | 馬丁員數 | 年 身 本 齡 分 籍 氏 名 住 所 | |
| | | 乘鞍數 | 荷馬棧數 | 乘川馬匹數 | | |
| | | | | 官馬牝牡 私馬牝牡 | | |
| | | | | | | |

一 番號ハ第一號ヨリ起シ押番號トス
 一 検査及異動等ハ備考欄内ニ記載スルモノトス
 一 扶號簿ハ一般營業章程ノ例ニ從ヒ調製スルモノトス

○明治二十三年四月二十四日廳令第十八號
港内取締規則左ノ通知改ム
但明治十四年(二月)開拓使函館支廳第四號布達
及同年(二月)同支廳第十一號布達ハ廢止ス
港内取締規則

第一章 通則
第一條 本則ハ第二章ニ記載スル各港内及其海岸
地ニ適用ス
第二條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經由
シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
一 船舶定額標ヲ設置及改造スル事
二 棧橋架設又ハ標燈其他ノ目標ヲ建設及改造
スル事
第三條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所ヲ經
由シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
一 波止揚物揚場石垣板棚等ヲ築造建設及改造
スル事
第四條 左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出
許可ヲ受クヘシ
但函館港ニ於テハ第六項第七項ハ函館警察署水
上等警察所ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ(二十五年三
月廳令第十四號ヲ以テ本文中改正)

一 繫船杭又ハ筏等ノ繫留杭ヲ建設改造及修理
スル事
二 波除杭石垣根留等ヲ建設改造及修理スル事
三 棧橋標燈其他ノ目標及波止揚物揚場石垣板
棚等ヲ修理スル事
四 海中波瀾又ハ土砂ヲ探掘スル事
五 游泳場ヲ設ケル事
六 波止揚物揚場及海岸地ニ一夜以上諸車其他
ノ物品ヲ置ク事
七 足代ヲ設ケル事

八 花火其他火技ヲ弄スル事
第五條 左ノ事項ハ二日以前所轄警察署ニ届出ヘ
シ
一 船舶ノ進水式ヲ執行スル事
二 端艇ノ競漕ヲ執行スル事
三 施砲鬼ヲ執行スル事
第六條 第二條第三條第四條ノ各項ニシテ一旦許
可シタルモノト雖トモ不都合ノ際アリト認ムル
時ハ之ヲ差止メ又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ
第七條 前條ニ記載シタル各條ノ各項ニシテ撤去
又ハ譲受等ヲシタル時ハ速ニ許可ヲ受ケタル
官署ニ届出ヘシ
第八條 船舶及筏等ハ他ノ船舶出入ノ航路ニ障礙
ヲキ場所ヲ撰ミ碇泊スヘシ
但シ障礙ノ場所ト認ムル時ハ他ニ碇泊ヲ命ス
ルコトアルヘシ
第九條 船舶ノ燈火及航法ハ明治二十五年法律第
五號海上衝突豫防法ニ遵フヘシ(二十八年十月
廳令第七十七號ヲ以テ本文中改正)

第十條 軍艦ヲ除クノ外火藥其他被製質ヲ含有ス
ル物品ヲ搭載シタル船舶又ハ傳染病者ヲ搭載シ
タル船舶ハ速ニ所轄警察署(函館港ハ函館警察
署水上警察所又ハ水上巡邏ノ巡查)ニ届出其指
示スル場所ニ碇泊スヘシ其火藥及被製質ヲ含有
スル物品ヲ搭載セントスル時モ亦同シ(二十五
年三月廳令第十四號ヲ以テ本文中改正)
第十一條 港内ニ積物ヲ置ク又ハ波止揚物揚場棧
橋海岸地等ニ車馬竹木其他ノ物品ヲ放置スヘカ
ラス
第十二條 棧橋又ハ堤防ノ患トナルヘキ場所若ク
ハ護岸ノ建設物或浮橋標其他標木等ニ船舶及
筏等ヲ繫留スヘカラス

第十三條 波止揚物揚場ノ沿岸ニ碇泊船舶及筏等
ヲ繫留スヘカラス
第十四條 他人ノ繫キタル船舶及筏等ヲ解放スヘ
カラス
第十五條 水路ニ船舶其他ノ物件ヲ積ヘ又ハ空列
シテ通航ノ妨害ヲナスヘカラス
第十六條 港内及波止揚物揚場其他沿岸堤防地等
ニ塵芥瓦礫炭灰其他畜糞ノ死屍等滓ヲ墮落物ヲ
投棄スヘカラス
第十七條 棧橋又ハ波止揚物揚場外ニ於テ碇泊
客及荷物ノ揚卸ヲナスヘカラス
但シ棧橋ハ荷物積卸ノ爲メ特設シタルモノノ
外手荷物外ノ荷物ヲ積卸スルヲ得ス(二十八
年十二月廳令第九十八號ヲ以テ本文中改正)

第十八條 夜間燈火ヲクシテ乗客及荷物ノ揚卸シ
ヲナスヘカラス
第十九條 港内ニ於テ碇泊スヘカラス
第二章 各港
第二十條 函館港ハ山形市町南端ヨリ上磯郡上磯
村右川末流ニ至ル直線ヲ以テ其境界トス
第二十一條 根室港ハ辨天島四端ヨリ「ルエカ」
岬迄及同島東端ヨリ根室村字ペンケムイ岬ニ至
ル直線ヲ以テ其境界トス(二十八年四月廳令第
三十七號ヲ以テ本文中改正)
第二十二條 根室港ハ西洋形航走船及日本形船ハ
辨天島ニ泊ラザル限リ汽船ハ其東方ニ於テ碇泊
スヘシ(二十八年四月廳令第三十七號ヲ以テ本
條中改正)
第二十三條 小樽港ハ小樽郡熊鷹村字平磯岬ヨリ
高島郡高島村字「カクシバ」岬ニ至ル直線ヲ以
テ其境界トス(二十八年二月廳令第四號ヲ以テ
本條中改正)

第二十四條 室蘭港ハ繪鞆村字シクツシ岬ヨリ輪
 四村字ホロイ岬ニ至ル直線ヲ以テ其境界トス
 第二十五條 江差港ハ鷗島ヲ以テ起點トシ南ハ
 寺小屋町字武士川北ハ片原町字輪島澤ニ至ル直
 線ヲ以テ其境界トス(二十六年十一月廳令第三
 十九號ヲ以テ第二十四條第二十五條追加)
 第二十六條 岩内港ハ岩内郡榑村字砂崎ヨリ野
 東及敷島内村界海濱ニ至ル直線ヲ以テ其境界ト
 ス(三十三年八月廳令第七十六號ヲ以テ本條ヨ
 リ第三十條マテ追加舊第二十六條ヲ第三十一條
 ニ繰下シ)
 第二十七條 増毛港ハ増毛郡増毛町字辨天町野塚
 ノ崎ヨリ天谷ノ崎ニ至ル直線ヲ以テ其境界トス
 第二十八條 釧路港ハ釧路ヲ基點トシ直西三哩ノ
 沖ヲ距テ「オタノシタ」川口ニ至ル直線ヲ以テ
 其境界トス
 第二十九條 森郡榑村「ホロシキ」澤ヲ起點
 トシ沖合三百間ヲ距テ直線同郡政治村瀨ノ瀨ノ
 澤沖合三百間ニ至リ同澤ヲ終點トシ以テ其境界
 トス
 第三十條 厚岸港ハ厚岸郡床潭村字「ヌワサン」
 岬ヨリ同郡若多村字「ペンナイ」岬ニ至ル直線
 ヲ以テ其境界トス
 第三十一條 同例

日ヨリ施行ス
 河川航通船規則
 第一條 航通船トハ汽船西洋形帆走船日本形船及
 筏ヲ總稱ス
 第二條 河川ヲ航通スル船ハ陸地曳船ニ係ルモ
 ノヲ除クノ外上航下航共其右方ヲ航行スヘシ
 (二十三年八月廳令第四十七號ヲ以テ本條中改
 正)
 第三條 航通船若クハ斜航シ他船ノ航路ヲ妨害スヘカ
 ラズ
 第四條 上航ノモノ下航ノモノニ遭遇スルトキハ
 上航ノモノ右方ニ避クヘシ
 第五條 風曲セル場所若クハ霧中ニ於テハ汽笛號
 鐘號角其他ヲ以テ信號ヲナシ且ツ一時間六海里
 以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス
 第六條 同一ノ航路ニ進航スルトキハ直流ノ場所
 又ハ他船ヲ超過セントスル場合ヲ除クノ外必ス
 相當ノ距離ヲ保ツヘシ
 第七條 夜中航行スルトキ西洋形船日本形同漕船
 ハ海上衝突豫防規則第三條ノ燈火ヲ掲ケ其他ノ
 船ハ左ノ區別ニ從ヒ燈火ヲ掲ケニ掲ケヘシ
 但燈火ノ位置ハ水面上四尺以上ニ掲ケヘシ
 第八條 自燈二箇(縦ニ連揚ス)
 上航船
 下航船
 第九條 航行中ハ航走ヲ爲スヘカラス
 第十條 船中ニ於テ故障ヲ生シ航行シ能ハサル場
 合ニ於テハ他船ノ航通ヲ妨ケサル様其手配ヲナ
 ス

第十一條 第二條第三條第四條第六條第七
 條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ一日以
 上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二
 十五錢以下ノ科料ニ處ス(二十八年十月廳令第
 七十八號ヲ以テ本條中改正)
 附則
 本則ハ當分ノ内石狩川釧路川十勝川ノ外之レヲ施
 行セズ(三十三年九月廳令第九十一號ヲ以テ本條
 中改正)
 ●風俗
 ○明治二十二年一月二十六日廳令第三號
 劇場取締規則左ノ通定ス
 但明治十五年(四月)函館縣甲第三十三號布達明治
 十七年(九月)札幌縣甲第五十三號布達明治十七
 年(九月)根室縣第五十八號布達ハ廢止ス
 劇場取締規則
 第一條 劇場ヲ開設セントスル時ハ座主タルヘキ
 者願書ニ區面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受
 ケヘシ
 第二條 劇場ノ構造ハ新築改造ケ間ハ左ノ制限
 ニ從フヘシ
 一 構造ハ堅牢ニシテ空氣ノ流通ヲ充分ナラシ
 ムヘシ
 一 木戸ハ扉外開ニナスヘシ
 一 客席ニ接シ二箇以上ノ非常口ヲ設ケヘシ
 一 高樓數アルモノハ幅五尺以上ノ階子二箇以
 上ヲ設ケヘシ
 一 點火ノ場所ハ不燃質物ヲ以テ設置スヘシ
 一 煙數ノ節路ハ三尺以上タルヘシ
 一 周圍ハ各五間以上ノ火除地ヲ設ケヘシ

一 便所ハ客室ニ離隔シテ之ヲ設ケ石版キ若クハ漆喰等ヲ以テ構造シ尿管ノ滲透及臭氣ノ漏泄ヲ防クヘシ

第三條 劇場ハ新築改造トモ落成ノ上警察署ノ検査ヲ受ケルニアラサレハ演劇興行ヲ許サス

第四條 演劇ヲ興行セントスルトキハ仕組書ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五條 取締ノ爲メ劇場スル警察官ノ席場ハ豫テ警察署ノ指定スル所ニ設クヘシ

第六條 演劇觀覽ニ涉リ又ハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條 觀客ヲ樂屋ニ入レ若クハ俳優ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第八條 興業時間ハ午後十二時ヲ過クヘカラス

第九條 劇場及演劇ニ關スル一切ノ事項ハ座主其責ニ任スルモノトス

第十條 高樓敷ハ觀客ノ員數ヲ定メ警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 高樓敷ニハ定員外ノ觀客ヲ入ルヘカラス

第十二條 廢場又ハ座主變換シタルトキハ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 第四條ヨリ第九條マテノ規則ハ劇場外ノ演劇興行ニモ又之ヲ適用ス

第十四條 本則第一條第三條第四條第七條第十條第十一條ニ違背シ若クハ第六條ニ依リ停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

第十五條 従前許可シタル劇場ニシテ本則第二條ノ制限ニ抵触スルモノハ向後改築若クハ修繕ノ時ヲ期シ其制限ニ從ハシム

○明治二十二年一月二十六日廳令第四號

寄席取締規則左ノ通定ム

但明治十七年(六月)函館縣甲第十九號布達ハ廢止ス

寄席取締規則

第一條 寄席營業ヲナサントスルトキハ座主タルヘキ者其願書ニ寄席ノ構造圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 寄席ニ於テハ特ニ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケルニアラサレハ左ノ演藝ノ外興行スルヲ許サス

一 講談 一 落語 一 淨瑠璃 一 手踊

一 唄 一 音曲 一 寫繪 一 操人形

一 手品

第三條 世安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ演藝ヲナサシムヘカラス

第四條 寄席ヲ暗黒ニシ又ハ客ヲ樂屋ニ入ラシムヘカラス

第五條 興業毎ニ演藝者ノ族籍氏名及藝名技藝トモ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第六條 無禮札ノ者ニハ演藝セシムルヘカラス

第七條 高樓敷アルモノハ客ノ員數ヲ定メ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ定員外ノ客ヲ入ルヘカラス

第八條 座主ハ座主清潔ニシ便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル様構造スヘシ

第九條 夜間ハ十二時限リ閉席スヘシ

第十條 廢業又ハ座主變換シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十一條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

○明治二十三年二月二日廳令第十五號

本年(二月)北海道廳令第四號寄席取締規則第六條ハ當分ノ内之ヲ施行セス

○明治二十二年一月二十六日廳令第五號

諸興行取締規則左ノ通定ム

但明治十七年(六月)函館縣甲第十八號布達ハ廢止ス

諸興行取締規則

第一條 諸興行トハ相撲輕靈觀世物曲馬力持ノ類ヲ云フ

第二條 前條ノ興行ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 世安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ所爲ヲナサシムヘカラス

第四條 觀客ヲ醉人ノ休息所ニ入ラシムヘカラス

第五條 興行場ニハ警察官ノ席場ヲ設クヘシ

第六條 興行時間ハ午後十二時限リトス

第七條 本則第二條第三條第四條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

○明治二十三年十一月二十九日廳令第六號(警察署宛)

近來觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噉嚼シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノ有之由右ハ風俗上最モ可厭モノニ付向後同様ノ技ヲ演セントスル者アラハ最モ之ヲ制禁スヘシ

○明治二十八年三月十九日廳令第二十六號

遊技取締規則左ノ通定ム

但明治十五年(六月)札幌縣甲第五十五號布達ハ廢止ス

遊技取締規則

第一條 本則ニ於テ遊技場ト稱スルハ其方法ノ何タルヲ問ハス衆人ヲシテ遊技ヲ爲サシムル公開

ノ場所ヲ云フ
 第二條 遊技場ヲ開設セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其改造變更ヲ要スルトキ亦同シ
 一 場 所
 二 遊技ノ方法
 三 大弓場半弓場及室内射的場ハ其構造ノ仕様書及圖面
 第三條 大弓場半弓場及室内射的場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 大弓場及半弓場ノ射標ハ高さ八尺以上ニシテ幅一丈以上ノ石垣又ハ厚壁土俵ヲ以テ構造シ射道ノ上部及兩側ハ危險ヲ防クニ足ルヘキ構造ヲ爲スヘシ
 二 室内射的場ノ射標ハ高さ五尺以上幅九尺以上ニシテ土壁厚板若クハ鐵板ヲ以テシ兩側ハ危險ヲ防クニ足ルヘキ構造ヲ爲スヘシ
 第四條 大弓場半弓場及室内射的場ハ新築或改造更トモ落成ノ上所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
 検査ヲ經タルモノト雖モ破損其他ノ事情ニ依リ危險ト認ムルトキハ警察官署ニ於テ修繕或改造ヲ命ジ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ
 第五條 遊技場ニ於テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
 一 白癡瘋癲者及酷酒者ニ遊技ヲ爲サシムヘカラス
 二 開場時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
 三 賭博ニ類スル所業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
 四 通行人ニ遊技ヲ勤メ又ハ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

五 客ヲ宿泊セシムヘカラス若シ止テ得ズ宿泊セシムルトキハ即時警察官署ニ届出ヘシ
 六 猥褻ノ所業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
 第六條 馬又ハ弓銃ヲ使用スル遊技場ニ於テハ狂暴ナル馬匹若クハ破損シタル銃器弓矢等ヲ使用セシムヘカラス
 御衛又ハ射法ニ慣レサル者ニハ其方法ヲ教ホシ危害ヲ爲ササル様注意スヘシ
 第七條 遊技場ハ場内見易キ場所ニ掲示スヘシ
 第八條 遊技場ニ於テ婦女ヲ引入レ又ハ同居セシメタルトキハ其族籍氏名年齢及年月日等ヲ記シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其轉居又ハ解雇シタルトキ亦同シ
 第九條 場主轉居改氏名死亡(死亡ノトキハ相續人ロリ)若クハ廢場シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 第十條 本則第二條第四條第一項第五條第六條第七條第八條第九條ニ違背シ又ハ第四條第二項ノ命ヲ受ケ之ニ從ハサル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第十一條 從來ノ遊技場ニシテ其構造ノ制限アルモノハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内其他ハ一箇月以内ニ本則第二條ニ依リ出願許可ヲ受クヘシ
 ○明治二十一年三月三十一日總令第二十一號
 警察取締規則左ノ通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

第一條 遊技營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ族籍住所氏名年齢姓名等詳細ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ
 第二條 族籍住所氏名年齢姓名等詳細ヲ及ヒ他種ノ遺失毀損シタル時ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ
 第三條 免許證ハ營業時間當ニ携帯スヘシ
 第四條 免許證ハ貸借又ハ讓與スルヲ得ス
 第五條 廢業スル者ハ免許證ヲ返納スヘシ
 第六條 警察ハ便宜組合ヲ設ケ同業中ヨリ世話人一名ヲ撰舉シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ
 第七條 警察ハ遊技營業ノ者ニアラサレハ貸座敷ニ寄留若クハ宿泊スルヲ得ス
 第八條 此規則第一條第三條第四條第七條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
 本則第二條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス(二十八年十月總令第八十號以下ノ科料改正)
 ○明治三十三年十一月十三日總令第九十九號
 貸座敷取締規則左ノ通り定ム(三十四年五月總令第九十六號ヲ以テ本則中改正アリ今一條下ニ詳記スルヲ略シ茲ニ改正シタル條ヲ掲ケ)
 貸座敷取締規則
 第一章 貸座敷
 第一條 貸座敷營業ハ北海道廳ニ於テ指定シタル地域内ニ限ルモノトス
 第二條 貸座敷營業ヲサントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
 一 本籍住所族籍身分氏名生年月

二 營業ノ場所

三 營業用家屋構造ノ設計「新築又ハ構造變更ノトキニ限ル」圖面

四 屋 號

第二號第三號ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 營業用ノ家屋ニシテ新築又ハ構造ノ變更ニ係ルトキハ落成ノ上所轄警察署ニ届出認可ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第四條 貸座敷營業者ハ免許地域内ニ於テ宿屋營業ヲ兼マシコトヲ得ス

第五條 貸座敷營業者許可ヲ得タル後六箇月以内ニ開業セス又ハ一箇年以上休業シタルトキハ許可ノ效力失フモノトス

第六條 貸座敷營業者本籍住所族稱身分氏名屋號等ニ異動ヲ生シ又ハ死亡廢業休業就業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ但死亡ノトキハ相繼人又ハ家族ヨリ届出ヘシ

第七條 貸座敷營業用建物ニシテ二階ノ客室二十坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設備スヘシ階子ハ内矩幅四尺以上ニシテ裏板及手摺ヲ設クヘシ

營業用建物ハ其構造ニ依リ所轄警察署ニ於テ非常口ヲ設備セシムルコトアルヘシ

第八條 貸座敷營業用建物ニ三階以上ノ家屋ヲ建設シ其他日ヲ惹クカ如キ構造及設置ヲ爲スヘカラス

第九條 貸座敷營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 客ノ需メサル飲食物ヲ供シ又之ヲ強フルコトアルヘカラス

二 店頭若ハ往來ニ於テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ廣告其他方法ノ何タルヲ間ハス遊興ヲ勸誘スルコトアルヘカラス

三 學校ノ徽章ヲ著ケタル學生生徒並ニ未成年者ニ遊興セシムヘカラス

四 遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ之ヲ拒ミ又ハ隠蔽スル等ノ所爲アルヘカラス

五 遊興費ノ抵償トシテ客ノ所持品ヲ領受シ又ハ買取り若ハ賣却實入ノ周旋ヲ爲サントスルトキハ警察署長ノ認可ヲ受クヘシ

六 娼妓ニ對シ賄賂ヲ支出セシムルノ所爲アルヘカラス

七 警察署ヨリ特ニ命令アリタル事項

第十條 貸座敷營業者婦女ヲ宿泊セシメントスルトキハ所轄警察署又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第十一條 貸座敷營業者ハ帳簿ヲ製シ所轄警察署ノ指定ニ從ヒ遊客ノ住所氏名年齢職業其他必要ノ事項ヲ詳記スヘシ

帳簿ハ新調毎ニ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ使用後一箇年間ニ保存スヘシ

帳簿ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 警察署ハ貸座敷營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

第二章 娼 妓

第十三條 娼妓名簿ノ登錄申請書ニハ明治三十三年內務省令第四十四號娼妓取締規則第三號各號ノ外尚ホ左ノ事項ヲ具シ提出登錄證書ヲ受クヘシ

一 稟業上ニ付貸座敷營業者又ハ其他ノ者ト契約アルハ其原本

二 揚代金額

三 姓名アル者ハ其名稱

第十四條 娼妓ハ必ス貸座敷免許地域内ニ居住スヘシ

第十五條 娼妓名簿登錄申請ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ登錄證書ヲ亡失毀損シタルトキハ三日以内ニ自リ所轄警察署ニ届出シ登錄名簿ノ訂正又ハ再下付ノ申請スヘシ

第十六條 娼妓ニシテ警察署長ノ男ナル者ニ於テ稟業セントスルトキハ一具名簿削除ヲ申請シ更ニ新稟業地ノ警察署長ニ名簿登錄ヲ申請スヘシ

第十七條 娼妓休業又ハ就業ノトキハ所轄警察署ニ届出ヘシ

休業中ハ登錄證書ヲ所轄警察署長ニ假納シ置キ就業セントスルトキハ之カ返付ヲ受クヘシ

第十八條 娼妓客席ニ陪スルトキハ登錄證書ヲ携帯スヘシ

第十九條 娼妓ハ道路ヨリ見送スヘキ場所ニ店張ヲ爲スヘカラス

第二十條 娼妓ハ貸座敷免許地域内ニ於テ外出スルコトヲ得但演劇場寄席其他興行場ニハ所轄警察署長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ出入スルコトヲ得ス

第二十一條 娼妓ニシテ所在不明トナリタルトキハ居住所ノ尸主又ハ家族同居者ヨリ三日以内ニ所轄警察署長ニ届出ヘシ復歸シタルトキモ亦同シ

所在不明ノ娼妓ハ所在不明トナリタル日ヨリ滿一年ヲ經過シタルトキハ名簿登錄ノ效力失フモノトス

第二十二條 娼妓ノ健康診斷ハ所轄警察署長ノ指定シタル健康診斷所ニ於テ之ヲ行フ

第十類 保安 風俗

第二十三條 健康診断ハ定日及臨時ノ二種トス
 第二十四條 定日健康診断ハ毎週一回之ヲ行フ
 疾病ノ爲メ定日健康診断ニ出頭シ能ハサルトキハ寓所ニ於テ健康診断ヲ行フコトアルヘシ
 第二十五條 臨時健康診断ハ左ニ記載シタル場合ニ於テ之ヲ行フ
 一 娼妓名簿登録ヲ申請シタルトキ
 二 休業ノ爲メ定日健康診断ヲ受ケサル者ニシテ就業セントスルトキ
 三 傳染性疾患ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ
 四 前各號ノ外所轄警察官署ニ於テ必要ト認めタルトキ
 第二十六條 娼妓ハ休業中ト雖モ所轄警察官署ニ於テ必要ト認めタル場合ハ本則ニ從ヒ健康診断ヲ受ケヘシ
 第二十七條 疾病ノ爲メ定日健康診断ニ出頭シ能ハサルトキハ其旨健康診断所ヘ届出ヘシ
 第二十八條 健康診断上傳染性疾患アリト認めラル者ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケタル場所ニ於テ治療スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ治療所外ニ出ツルコトヲ得ス
 第二十九條 娼妓ノ外出願ニハ其山行先地及外出時限ヲ具スヘシ
 事由行先地ヲ詳リ又ハ故ナク外出時限ヲ遅延スヘカラス
 第三十條 娼妓ハ本則第九條ノ規定ヲ遵守スヘシ
 第三章 雇人及家族同居者
 第三十一條 貸座敷又ハ娼妓ニシテ業務上雇人ヲ雇入レントスルトキハ其本籍住所氏名生年月日具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケヘシ
 第三十二條 雇人ノ本籍住所氏名ニ異動シ生シ又ハ解雇死亡等ノトキハ三日以内ニ雇主ヨリ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 第三十三條 雇人ニシテ本則ニ違犯シ其他素行不良ナリト認めタルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ
 第三十四條 貸座敷業者又ハ娼妓ノ家族同居者及雇人ハ本則第九條ノ規定ヲ遵守スヘシ
 第四章 組合
 第三十五條 貸座敷業者及娼妓ハ一免許地域毎ニ組合ヲ設ケヘシ
 組合ノ規約ヲ定メ正副取締ヲ選舉シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケヘシ其改正變更ヲ要スルトキ亦同シ但土地ノ状況ニ依リ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ取締ヲ一名ニ減シ又ハ當業者以外ノモノヲ取締ニ選舉スルコトヲ得
 第三十六條 前條ノ規約又ハ取締ニシテ所轄警察官署ニ於テ不適當ト認めタルトキハ認可ヲ取消シ又ハ再選ヲ命スルコトアルヘシ
 第三十七條 取締ハ貸座敷業者又ハ娼妓業者ニ關スル規程其他命令等ヲ組合員ニ告知スヘシ
 第三十八條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項ハ前條規定ノ外臨時所轄警察官署ニ於テ命令スルコトアルヘシ
 第五章 罰則
 第三十九條 左ノ事項ニ該當スルモノハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 一 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業シタルモノ
 二 第三條第四條第六條第七條第一項第二項第八條第九條第十條第十一條第十五條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條ニ違犯シタル者
 三 第七條第三項ノ命ニ從ハサル者
 第四十條 法人ニシテ本則ニ違犯シタルトキハ其違反事項ハ業務擔當人ノ行爲ト看做ス
 附則
 第四十一條 從來ノ貸座敷業者及娼妓ノ雇人ニシテ營業又ハ稼業上ニ使用セル者ハ本則發布ノ日ヨリ一箇月以内ニ於テ本則第三十一條ノ手續ヲ爲スヘシ
 第四十二條 從來貸座敷ニ使用ノ帳簿ハ更ニ檢印ヲ要セス明治三十三年十二月三十一日迄之ヲ使用スルコトヲ得
 第四十三條 從來ノ貸座敷營業用ノ建物ニシテ本則第八條第一項及第九條「設置ヲ除ク」ノ制限ニ抵觸スルモノハ大修繕又ハ改築ノ場合ニ於テ本則ニ據リ構造スヘシ
 第四十四條 明治二十七年(二月)北海道廳令第七號貸座敷取締規則及同年(同月)北海道廳令第八號檢査取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 ○明治三十三年十一月十三日訓第六百七十一號(警察署同分署宛)
 明治三十三年(十一月)北海道廳令第九十九號貸座敷取締規則取扱手續左ノ通之ヲ定ム(三十四年五月訓第四百四十二號ヲ以テ本令中改正アリ今一一條下ニ註記スルヲ略シ改正シタル條ヲ掲ク)

貸座敷娼妓取締規則取扱手續

第一條 貸座敷娼妓及雇人名簿並娼妓名簿登錄簿
證書ハ別紙第一號乃至第四號様式ニ據ルヘシ

第二條 貸座敷娼妓ノ出願ヲ受理シタルトキハ左
記各號ノ一ニ該當スルモノニハ許可スヘカラス
許可ノ後ト雖トモ之レヲ取消スヘシ

一 強姦強姦取財強姦略取誘拐又ハ賍物ニ關
スル罪ヲ犯シ改悛ノ情ナシト認ムル者

二 業務上ニ關シ犯罪數次ニシテ法令ヲ遵守ス
ルノ意思ナシト認ムル者

三 前各號ノ外素行不貞ト認ムル者

第三條 規則第七條第三項ノ規定ハ營業用建物ノ
實況ニ依リ非常ノ場合出入ノ便宜ナキモノニ限
リ特ニ設備ヲ命スヘシ

第四條 規則第十一條第二項ノ檢印ヲ請フトキハ
帳簿ノ初葉ニ別紙第五號様式ニ依リ檢印シ尙ホ
帳簿ノ側面ニ檢印スヘシ

第五條 娼妓名簿ノ登錄簿證書ヲ交付スルトキハ
名簿ト契印スヘシ

第六條 規則第十五條ニ依リ證書ノ再下付ヲナシ
タルトキハ直チニ名簿備考欄ニ其旨ヲ附記スヘ
シ

第七條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ娼妓名簿
ノ登錄ヲ拒ムヘシ

一 登錄ノ申請力他ノ教唆ニ出テ自己ノ意思ニ
非サルモノト認メタルトキ

二 略取誘拐セラレタル結果登錄ヲ申請シタル
モノト認メタルトキ

三 有夫ノ婦

第八條 貸座敷娼妓ノ取締規則ニ該當スル者
ハ別紙第六號ノ健康診斷證書ヲ下付
シ置クヘシ

第九條 娼妓ニハ別紙第六號ノ健康診斷證書ヲ下付
シ置クヘシ

第十條 健康診斷ヲ施行シタルトキハ健康診斷證
ニ左ノ記號ヲ付シ主任醫師ヲシテ認印セシメ下
付スヘシ

一 健康(發熱セシメ差支ナシト診斷シタルト
キ)

二 不健康(傳染性疾患アル者又ハ疾病ニ罹リ
發熱ニ堪ヘサルモノト診斷シタルトキ)

第十一條 健康診斷所ニハ別紙第七號様式ノ健康
診斷簿ヲ備ヘ主任醫師ヲシテ整理セシムヘシ

第十二條 左記各號ノ場合ハ速カニ等部長ニ報告
スヘシ

一 健康診斷所ヲ設ケタルトキ

二 健康診斷所ノ氏名及免狀ノ種類

三 傳染性疾患治療所ヲ認可シタルトキ
但シ共同ノ出願ニ對シ認可シタル場合ニ
限ル

第十三條 規則第三十五條ノ認可ヲ與ヘタルトキ
但シ規約ノ附本ヲ添附スルヲ要ス

第十四條 規則第三十一條ニ依リ同書ヲ受理シタ
ルトキハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニハ認可スヘ
カラス認可ノ後ト雖トモ之レヲ取消スヘシ

一 強姦強姦取財強姦略取誘拐又ハ賍物
ニ關スル罪ヲ犯シ改悛ノ情ナキ者

二 業務上ニ關シ犯罪數次ニシテ法令ヲ遵守ス
ルノ意思ナシト認ムル者

三 素行不貞ト認ムル者

第十五條 娼妓名簿登錄申請ノ事項ニ異動ヲ生ス
ルモ發業場所ヲ變更セサルモノハ登錄簿訂正ノ
申請ヲ爲シシムルヲ以テ足レトス

第十六條 娼妓發業場所ヲ變更スル場合ニ於テハ
前發業場所ノ警察官署ハ登錄簿ヲ削除スルト同時
ニ移轉地警察官署ニ名簿ノ謄本ヲ送付シ登錄處
分ノ參考ニ供スヘシ

第十七條 本手續第二條第三號第十三號第三號ニ
依リ許可又ハ認可ヲ取消サントスルトキ規則第
三十六條ノ規定ニ依リ認可ヲ取消シ又ハ再許可
命スル場合ハ等部長ニ寫眞シ指示ヲ受クヘ
シ

第十八條 明治二十八年(十二月)頒布第三百五十四
號貸座敷娼妓取締規則ニ關スル取扱手續
續ハ之レヲ廢止ス

第一號樣式

(用紙美濃全紙)

| 考 備 | | 第 號 | | 本籍 | 住 所 | 營業場所 | 許 可 年 月 日 | 廢 業 年 月 日 | 營 業 家 | 屋 間 數 及 坪 | 數 | |
|-----|--|-----|--|----|-----|------|--------------|--------------|-------|--------------|---|-----------------------|
| 考 備 | | 第 號 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 氏 名 |
| | | | | | | | | | | | | 生 年 月 日 |
| | | | | | | | | | | | | 屋 號 |
| | | | | | | | | | | | | 父 母 後 見 又 人 若 住 所 氏 名 |
| | | | | | | | | | | | | 營 業 上 |
| | | | | | | | | | | | | 處 別 |
| | | | | | | | | | | | | 年 月 日 |
| | | | | | | | | | | | | 項 及 其 餘 |

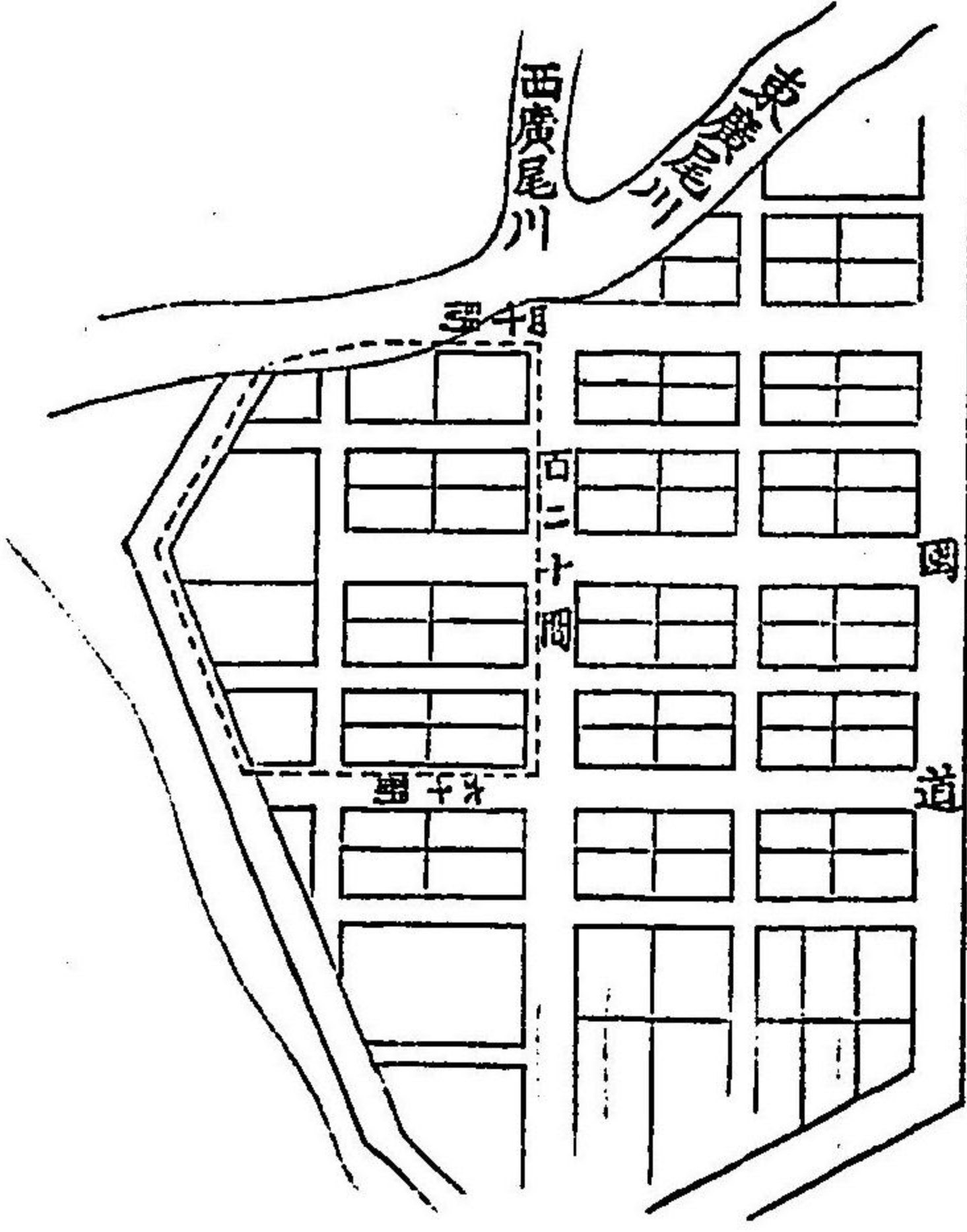
(裏面も表面二枚)

(裏面も表面二枚)

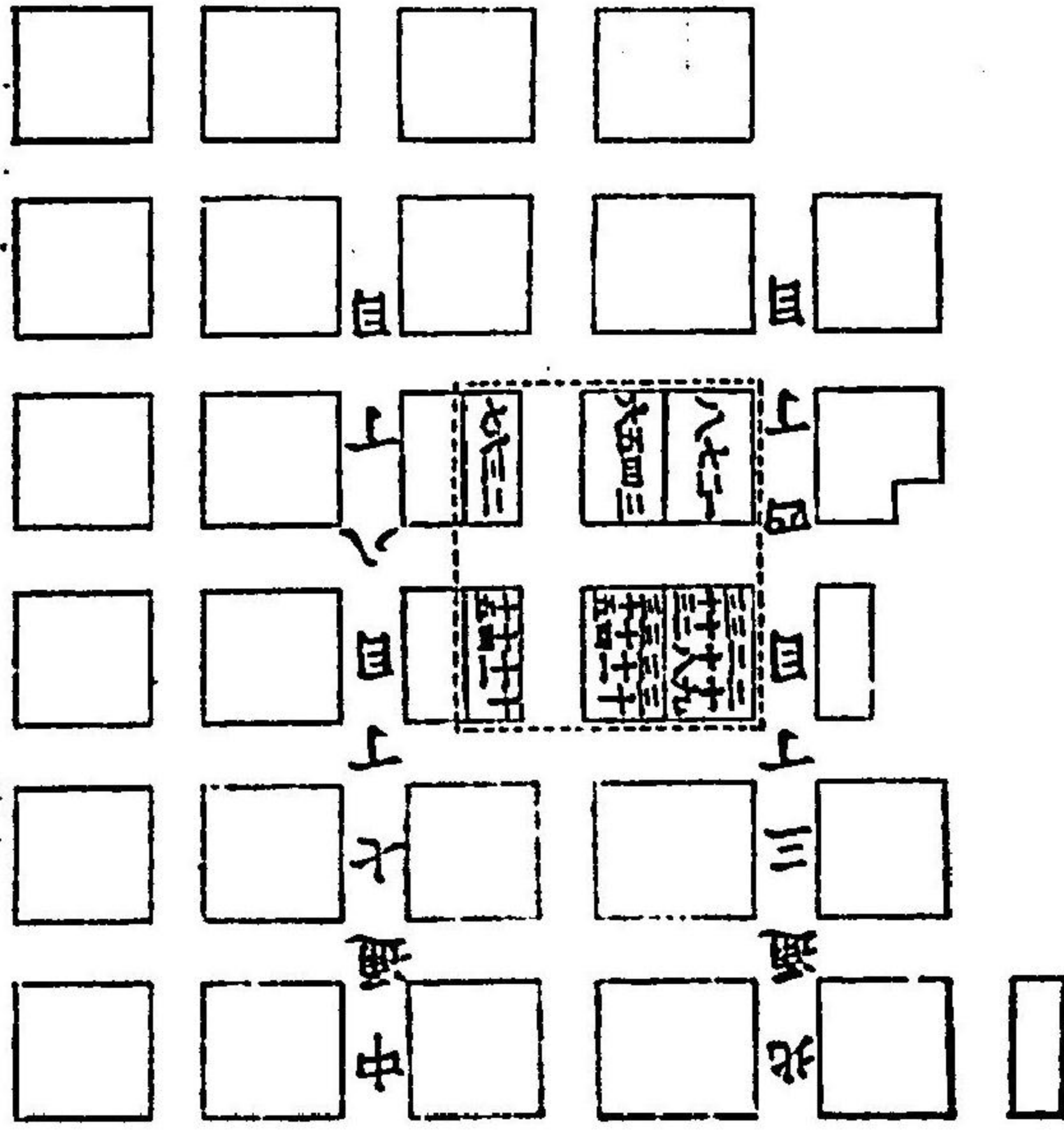
| 考 備 | | 第 號 | | 本籍 | 住 所 | 稼 業 所 | 最 近 親 族 親 及 | 實 父 母 祖 父 母 | 登 録 前 ノ 生 業 及 姐 妹 下 爲 ノ 事 由 | 年 登 月 日 録 | 年 登 月 日 除 | |
|-----|--|-----|--|----|-----|-------|-------------|-------------|-----------------------------|-----------|-----------|-------------------|
| 考 備 | | 第 號 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 氏 名 生 |
| | | | | | | | | | | | | 年 月 日 |
| | | | | | | | | | | | | 攝 代 金 |
| | | | | | | | | | | | | 寄 寓 所 及 寄 寓 主 氏 名 |
| | | | | | | | | | | | | 稼 業 上 |
| | | | | | | | | | | | | 處 別 |
| | | | | | | | | | | | | 年 月 日 |
| | | | | | | | | | | | | 項 及 其 餘 |

(用紙美濃全紙)

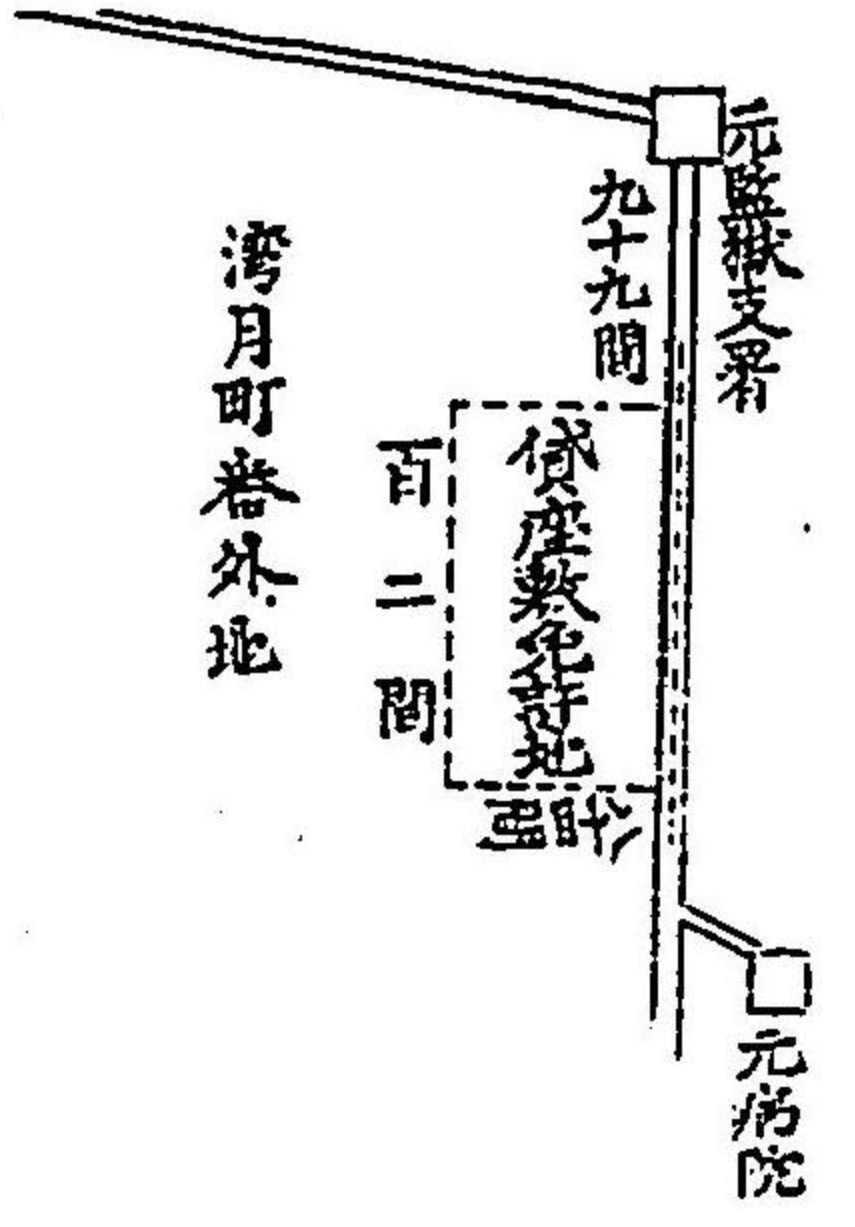
○明治二十七年九月二十八日告示第七十七號
十勝國威尾郡茂寄村貸座敷免許地區左記圖面ノ通り定ム
線ノ内ハ貸座敷免許地區ナリ



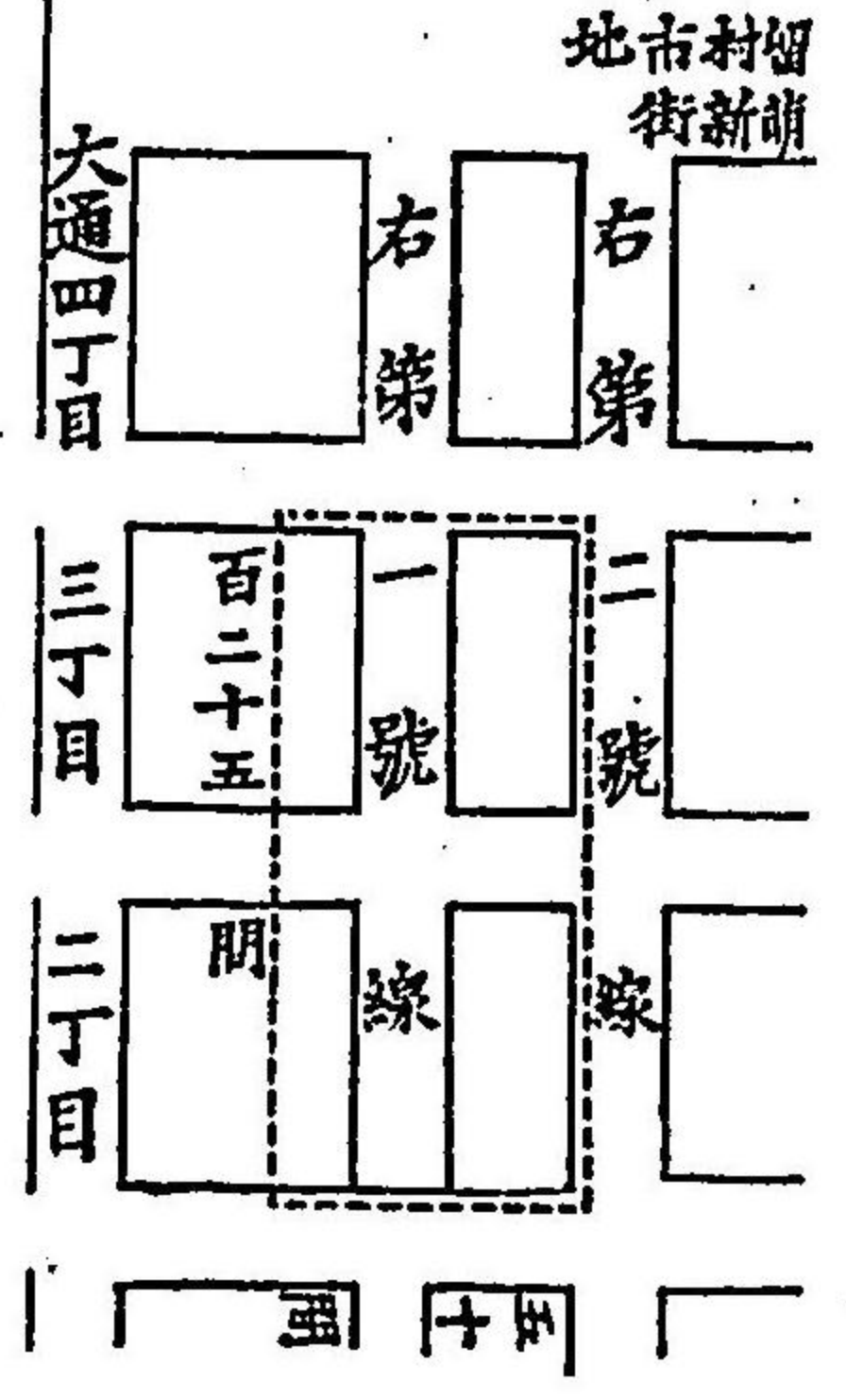
○明治二十七年十月十二日告示第八十二號
北見國網走郡北見町貸座敷免許地區左記圖面ノ通り定ム
線ノ内ハ貸座敷免許地區ニシテ數字ハ番地ナリ



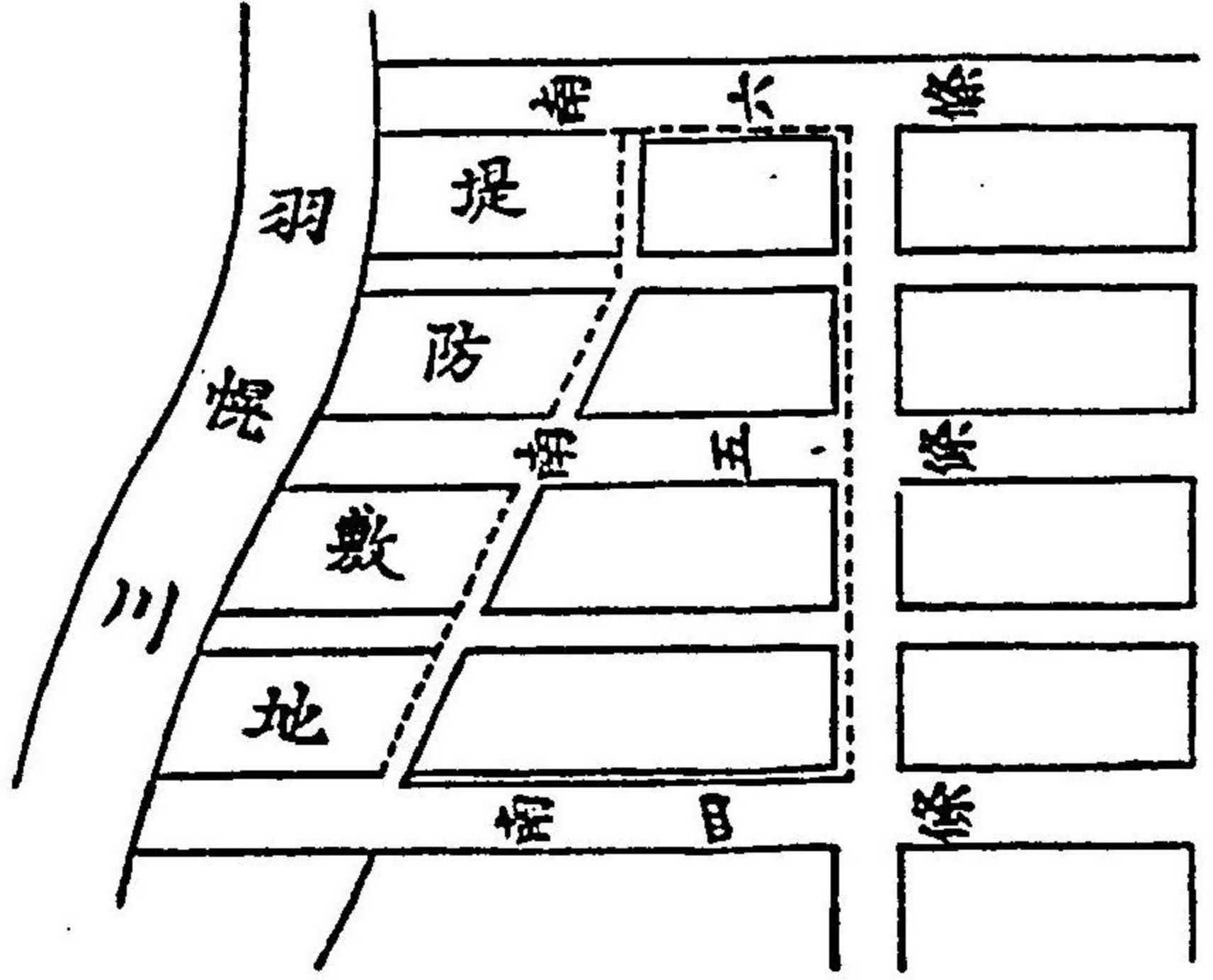
○明治二十七年十一月六日告示第八十五號
釧路國厚岸郡厚岸貸座敷免許地區左記圖面ノ通り定ム
線ハ貸座敷免許地區トス



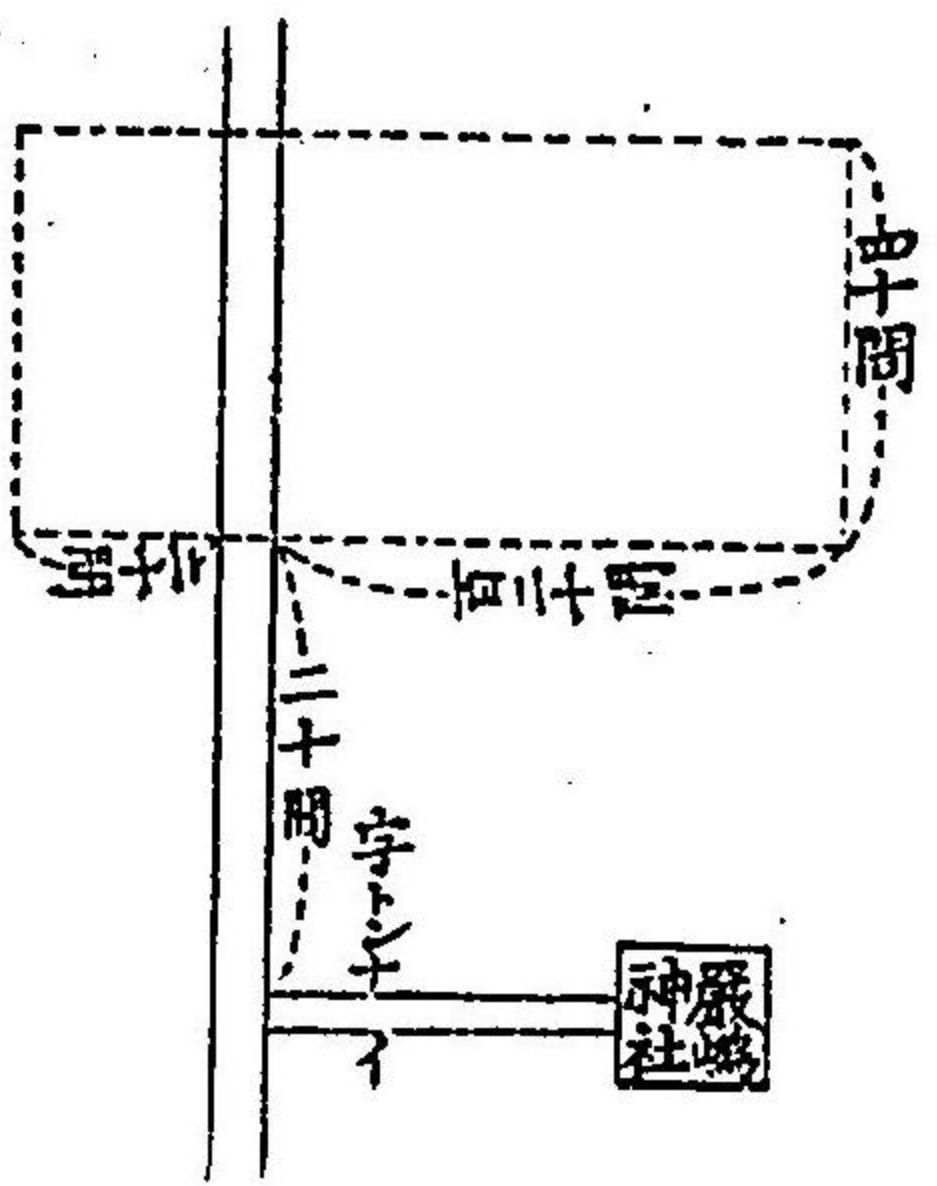
○明治二十七年十一月二十七日告示第九十一號
後志國古宇郡赤井村貸座敷免許地區左記圖面ノ通り定ム
線ノ内ハ貸座敷免許地區ナリ



○明治二十七年十二月四日告示第九十四號
天國昔前郡羽幌村貸座敷免許地區左記圖面ノ通り定ム
線ハ貸座敷免許地區ナリ

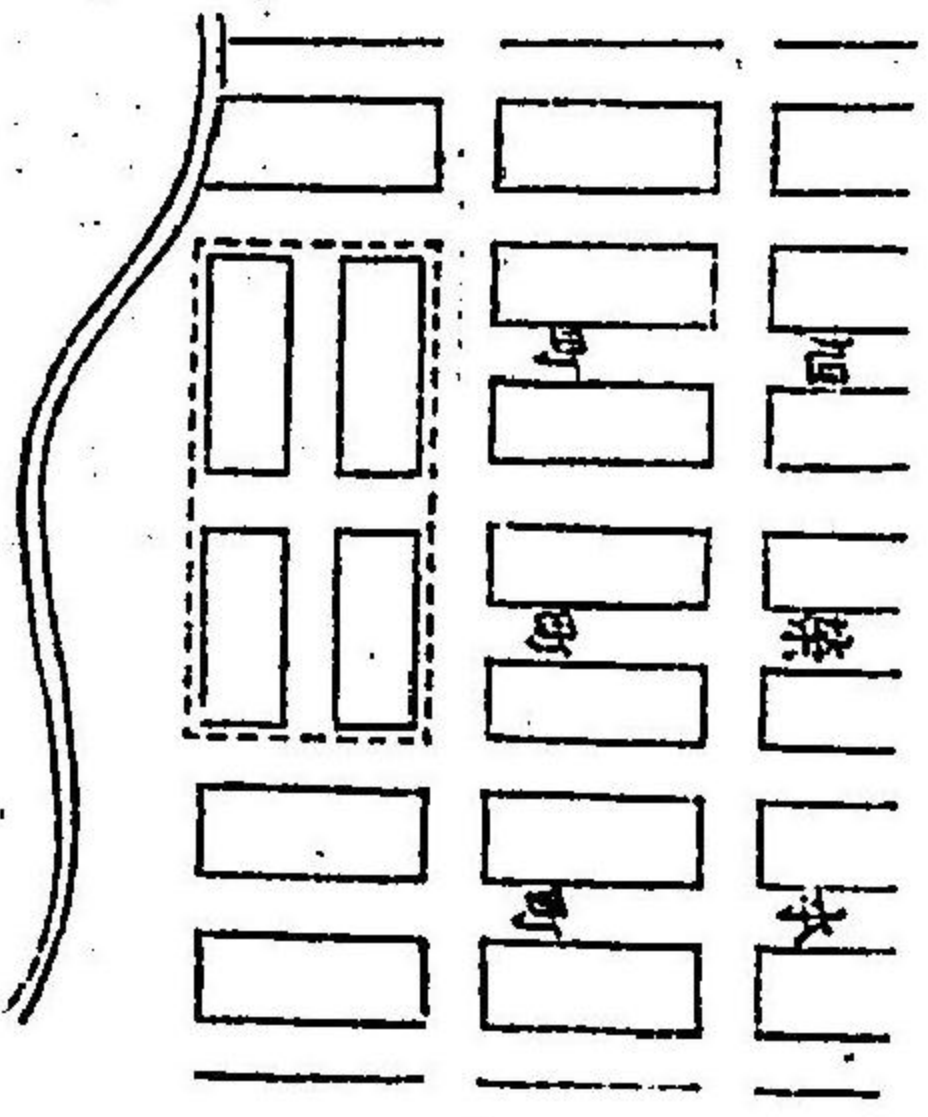


○明治二十八年九月七日告示第九十八號
北見國禮文郡香深村貸座敷免許地左ノ通り變更ス
線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

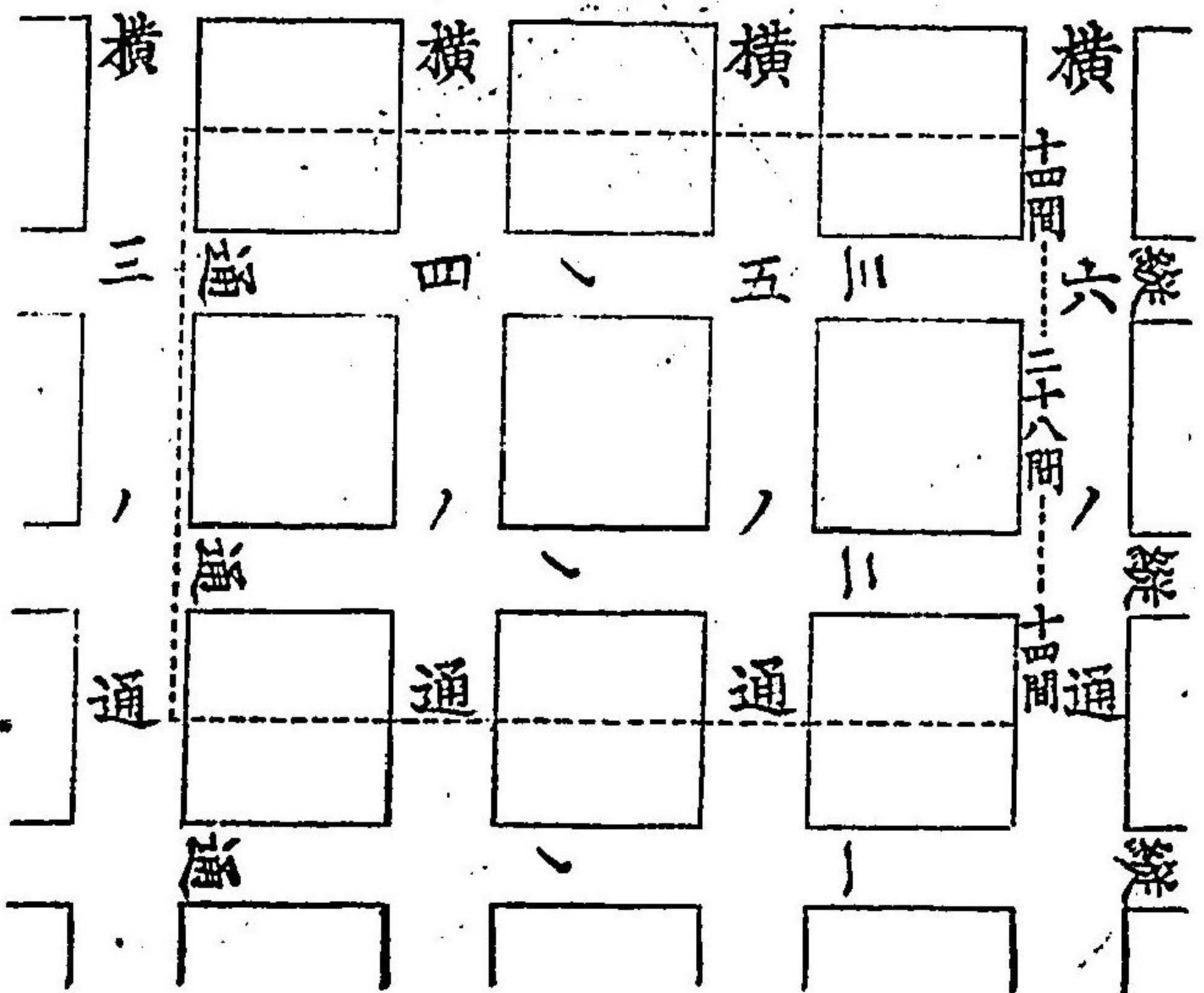


○明治二十九年四月十六日告示第六十七號
北見國枝幸郡枝幸村貸座敷免許地左ノ通り定ム

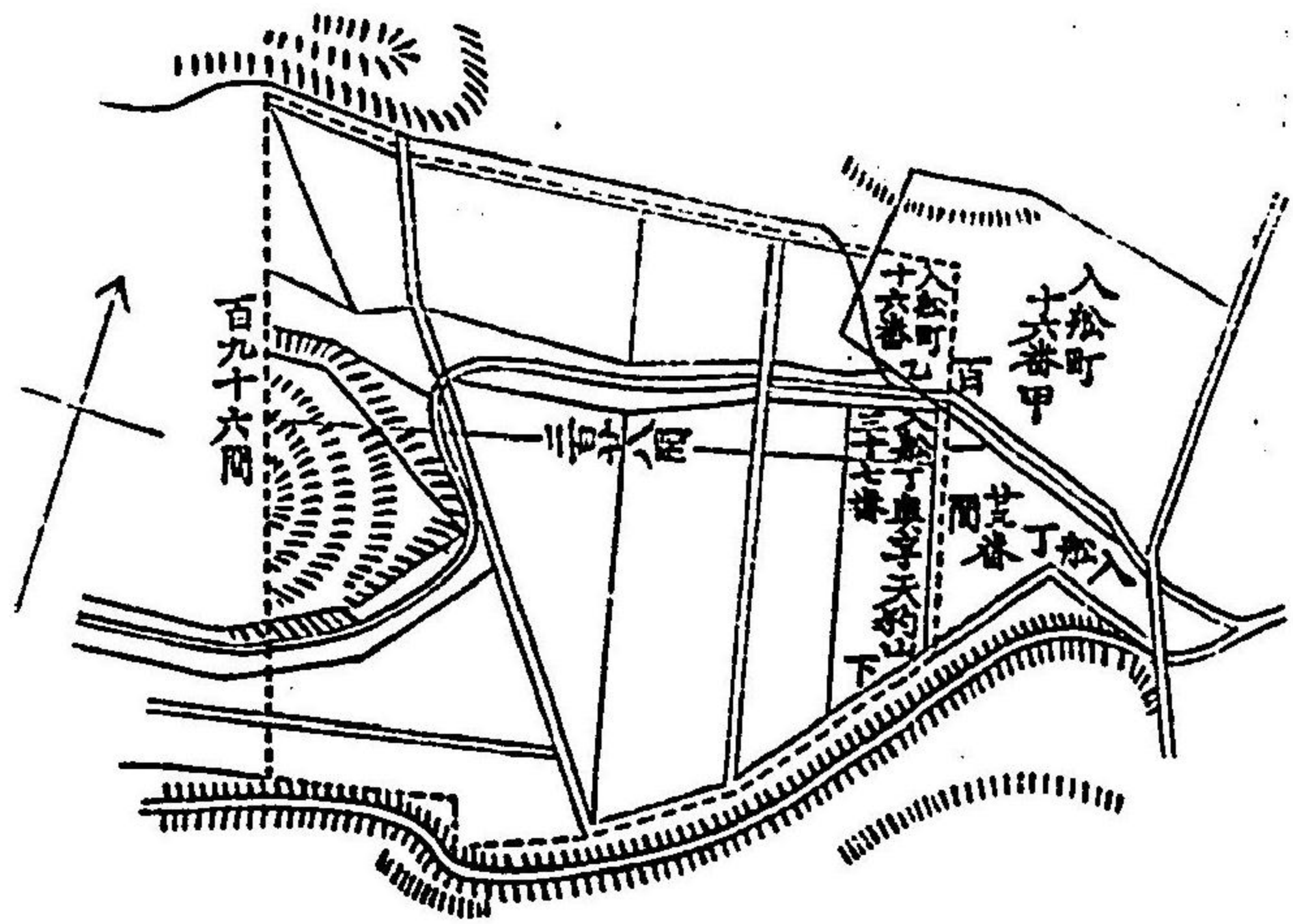
線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ



○明治二十九年九月二十日告示第七十四號
釧路國厚岸郡多布村貸座敷免許地左ノ通り變更ス但シ區域外ニ係ル現在
貸座敷營業者ハ明治二十九年十二月三十一日迄其營業ヲ存続スルコトヲ得
線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

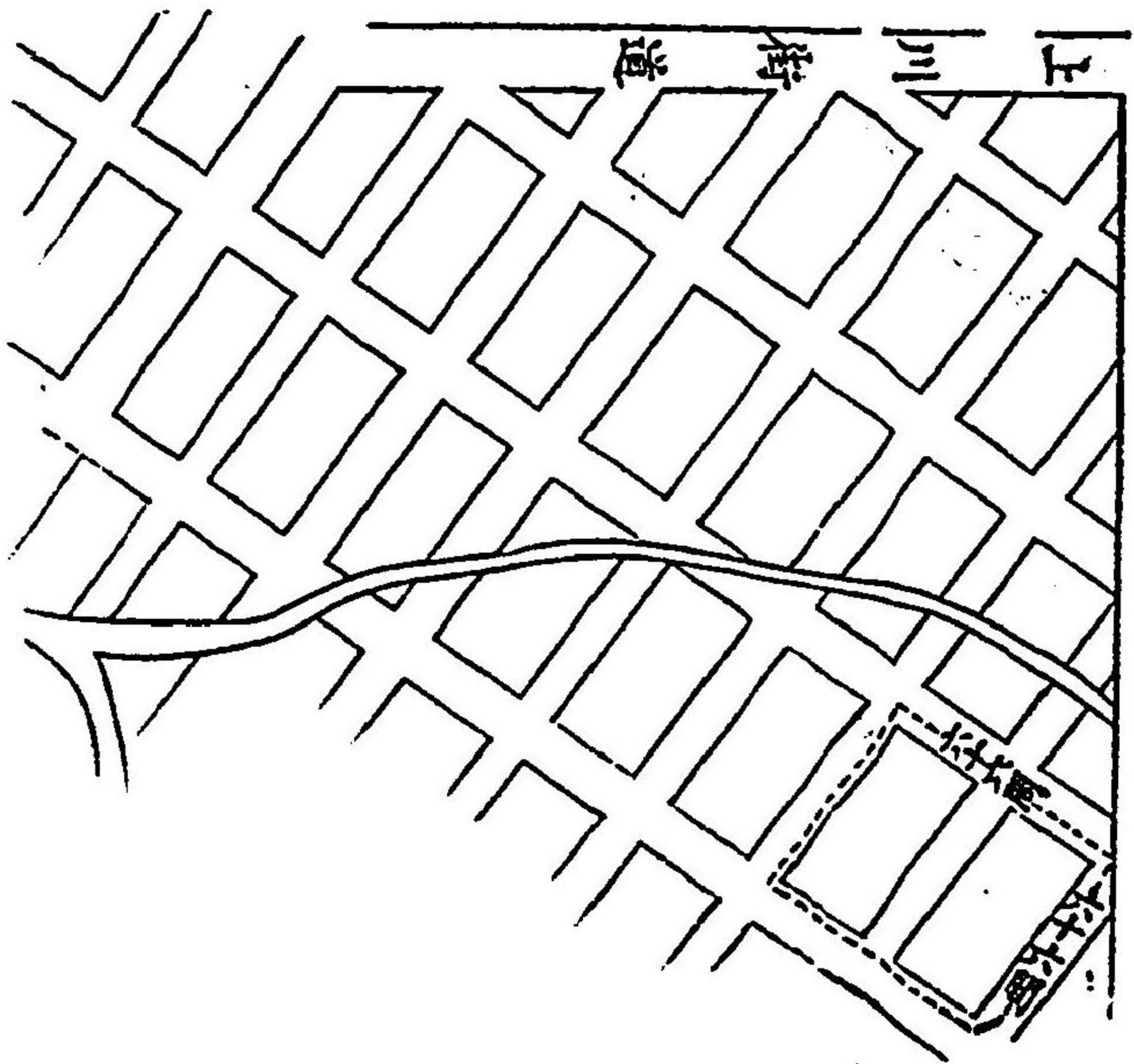


○明治二十九年五月二十八日告示第九十七號
後志國小樽郡住ノ江町貸座敷免許地ヲ廢止シ更ニ入船町奥左記圖面ノ箇所
ヲ以テ貸座敷免許地ト定ム但シ現在ノ貸座敷營業者ニ限リ住ノ江町舊貸座
敷免許地内ニ於テハ明治三十年十二月三十一日迄其營業ヲ存続スルコトヲ
得
線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

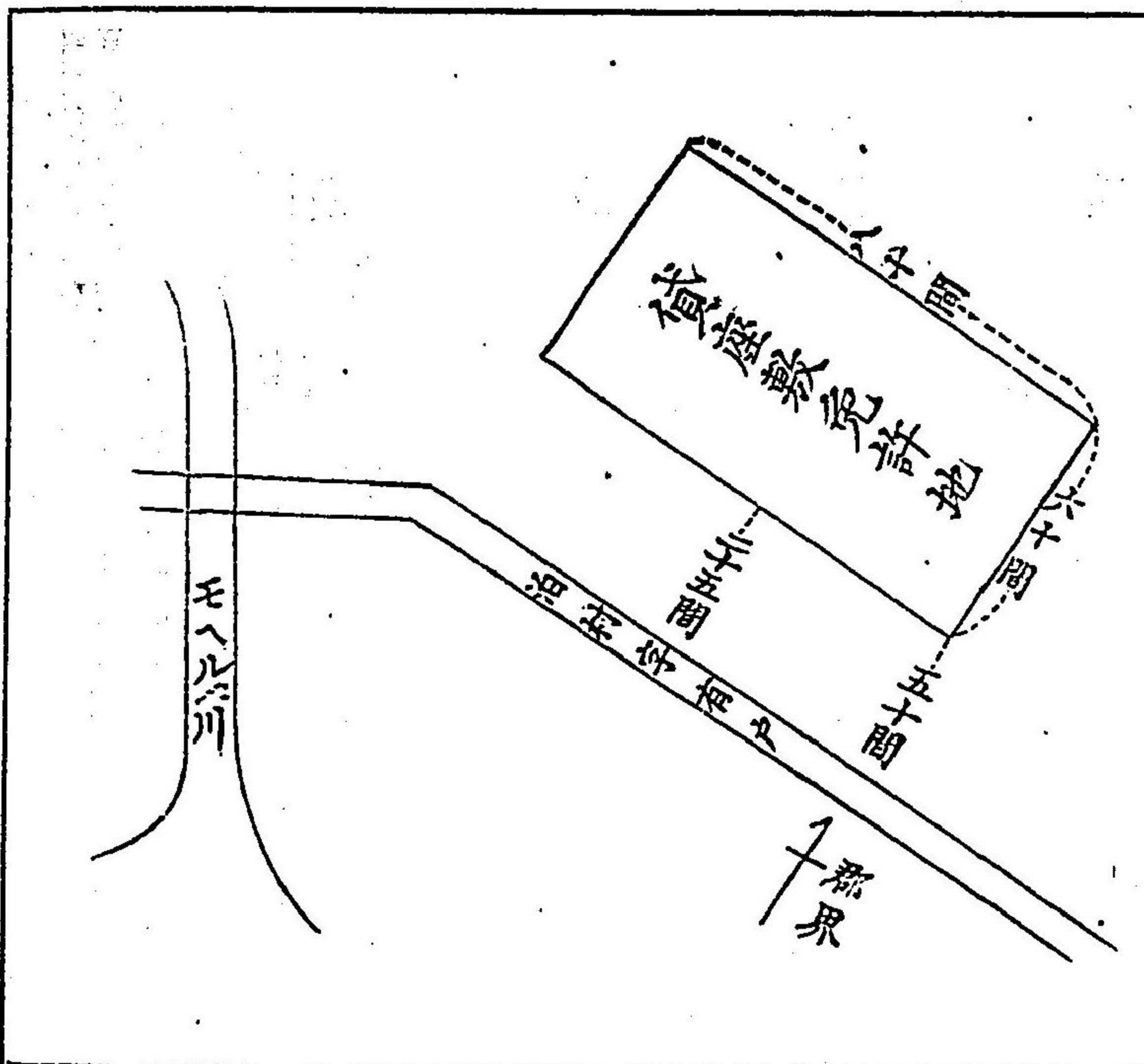


○明治二十九年十月十五日告示第八十六號
石狩國空知郡瀧川村貸座敷免許地左ノ通り定ム

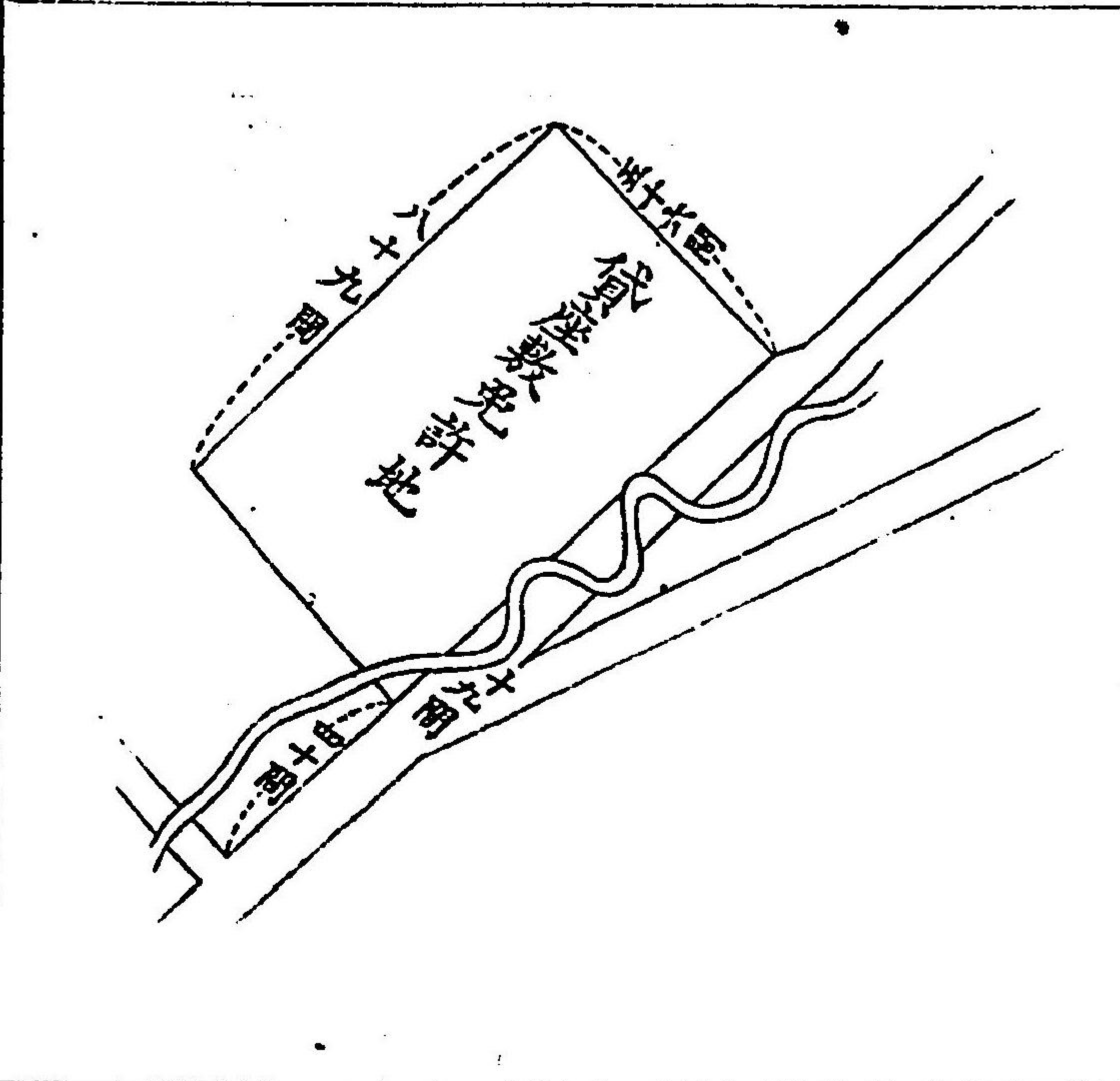
線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ



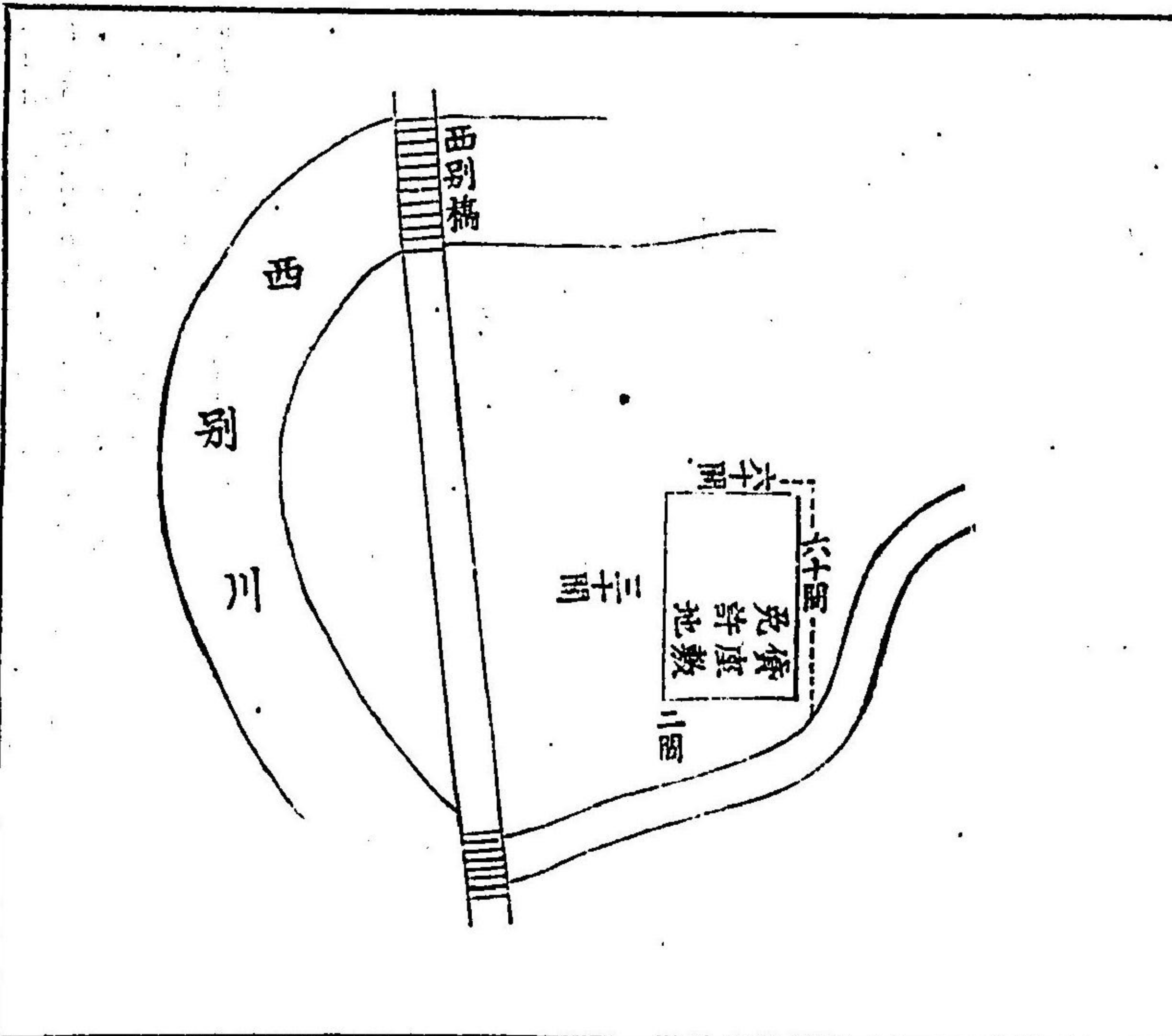
○明治三十年一月九日告示第四號
後志國古宇郡泊村貸座敷免許地區左ノ通り定ム但シ現在ノ區域外營業者
ハ明治三十年十二月三十一日迄其營業ヲ存続スルコトヲ得



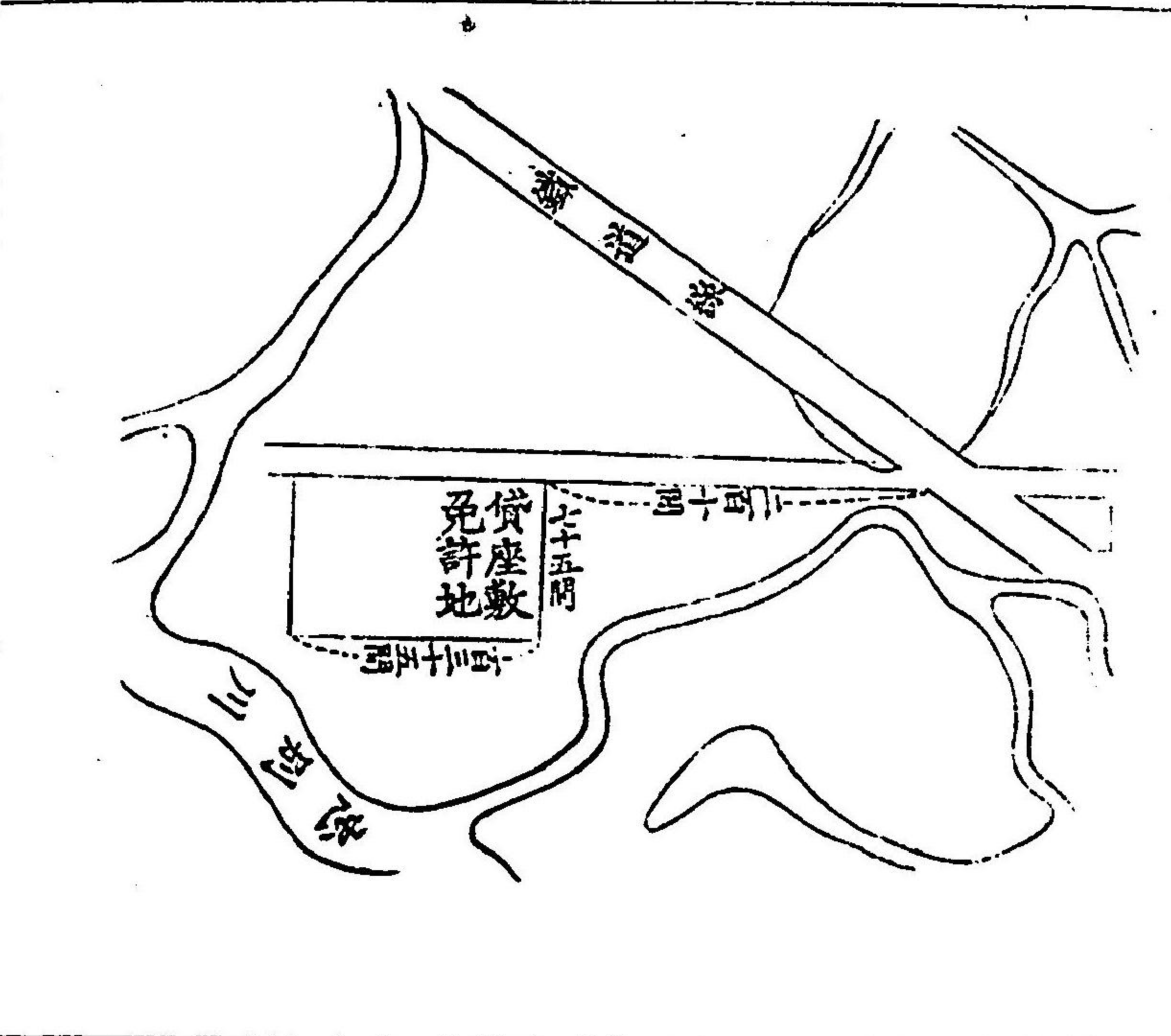
○明治三十年三月十六日告示第五十四號
日高國浦河郡浦河村貸座敷免許地區左ノ通り定ム但シ區域外ニ係ル現在
貸座敷營業者ハ明治三十年十二月三十一日迄其營業ヲ存続スルコトヲ得



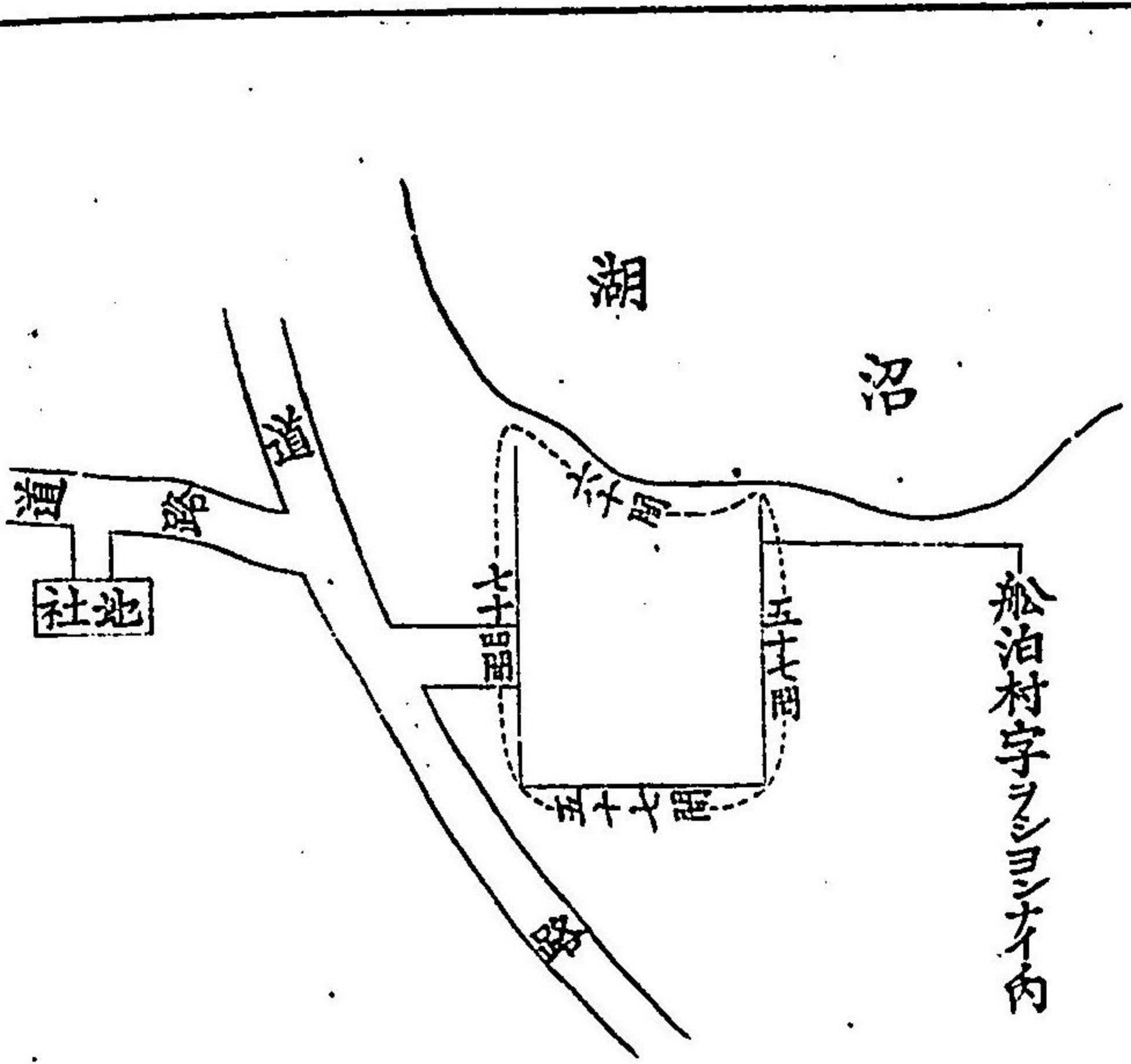
○明治三十年五月二十一日告示第百十一號
根室國野付郡別海村貸座敷免許地區左ノ通り定ム



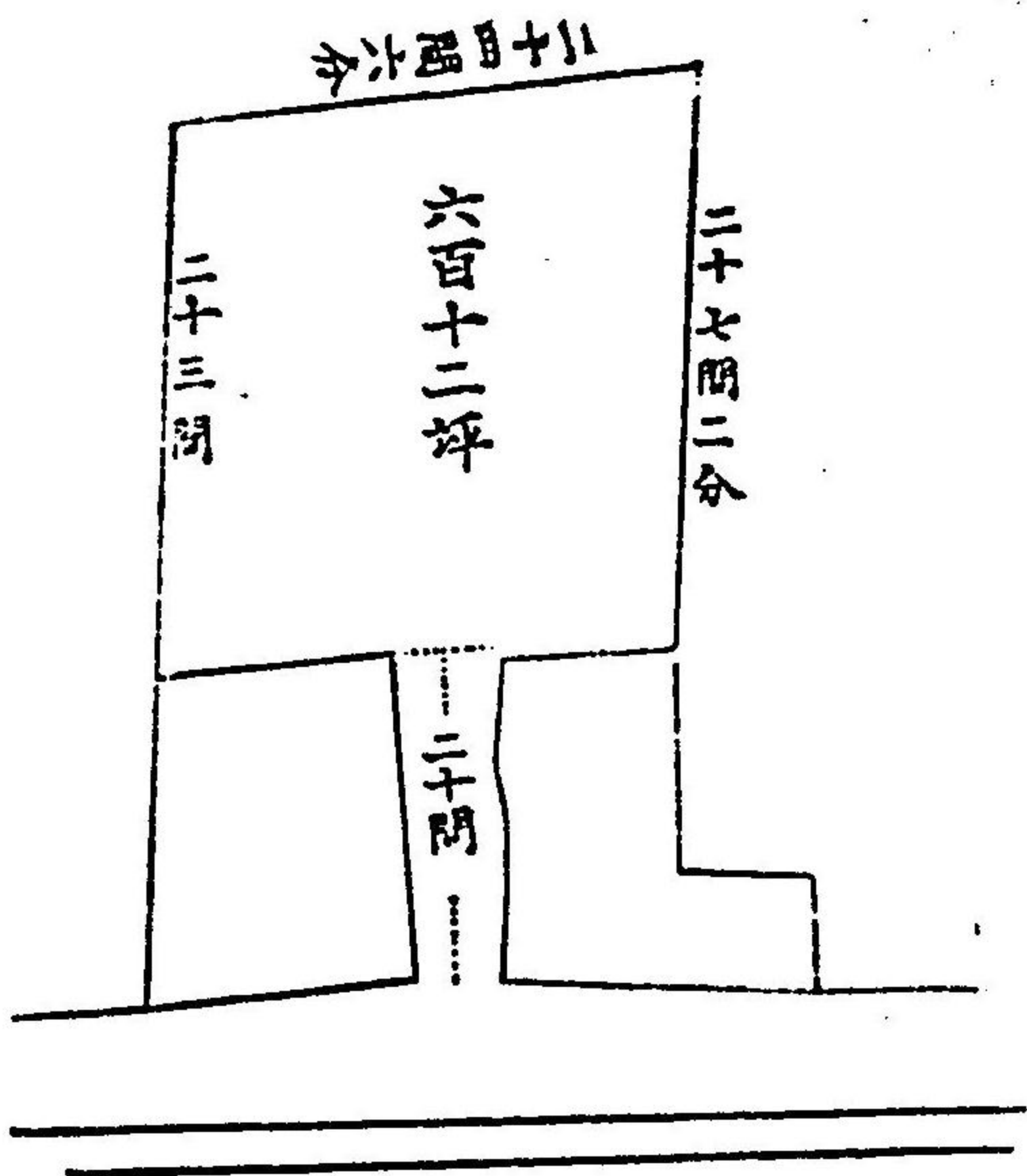
○明治三十年八月十日告示第百七十三號
石狩國上川郡旭川村貸座敷免許地區左ノ通り定ム



○明治三十年九月一日告示第九十三號
千島國藥取郡榮取村字ニクツル四十七番地四十八番地四十九番地五十番地
五十一番地五十二番地五十三番地五十四番地五十五番地五十六番地五十七
番地五十八番地ヲ以テ貸座敷免許地トス
○明治三十一年十一月十七日告示第二百三十六號
北見國禮文郡船泊村貸座敷免許地左ノ通り相定ム

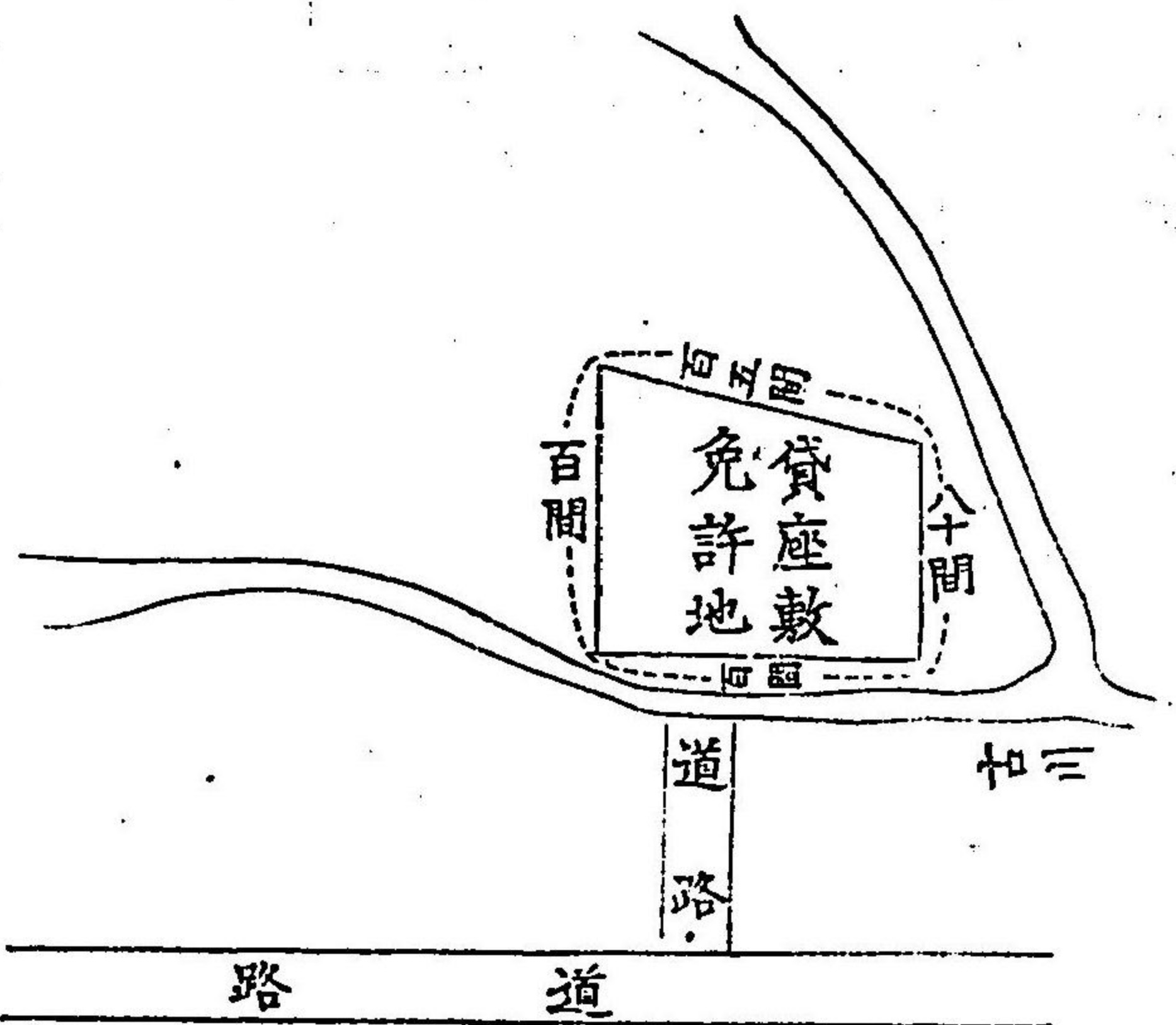


○明治三十二年三月九日告示第五十五號
天鹽國昔前郡昔前村貸座敷免許地區域左ノ通り定ム
但シ明治二十八年三月十五日北海道告示第三十四號昔前村貸座敷免許
地ハ廢止ス
昔前村百八十七番地全部
同四十六番地ノ内三百三十一坪二分



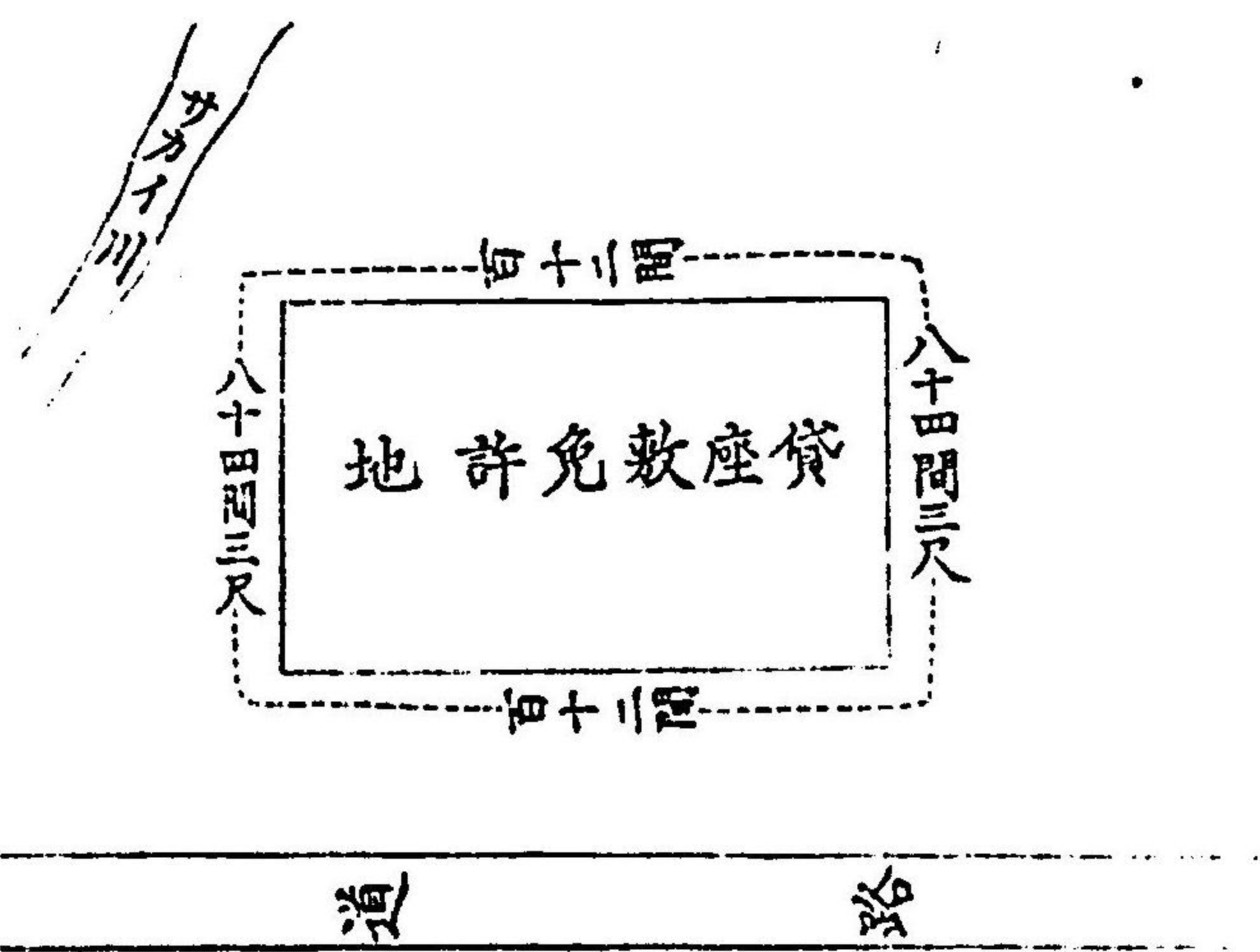
○明治三十二年四月十八日告示第九十一號
日高國靜内郡下方村字中ノ島ヲ以テ貸座敷免許地トシ其區域左ノ通り定
ム

下方村字中ノ島

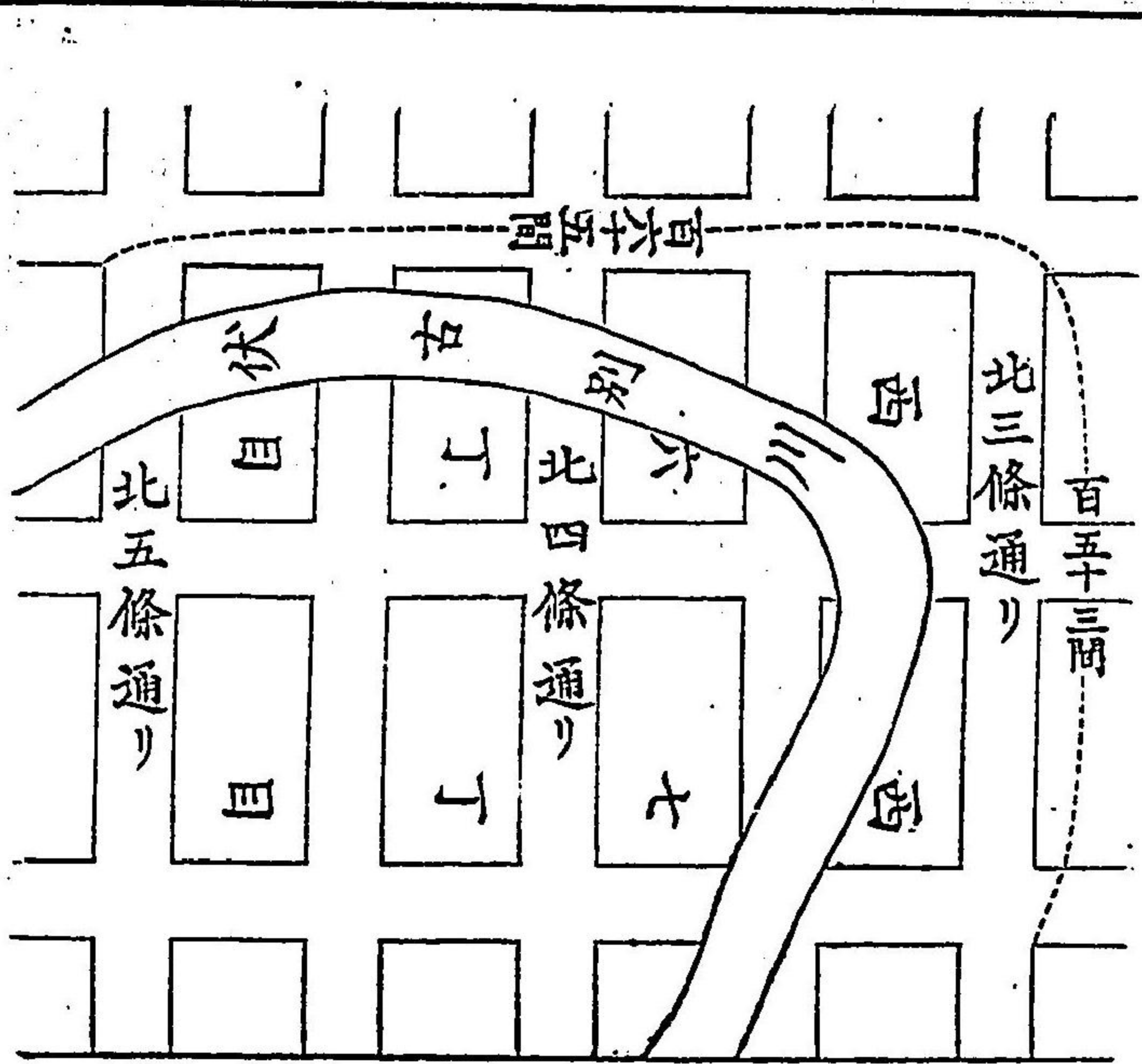


○明治三十二年四月十八日告示第九十二號
北見國利尻郡鬼島村字「ナン子ヲキ」ヲ以テ貸座敷免許地トシ其區域左ノ
通り定ム

鬼島村字ナン子ヲキ

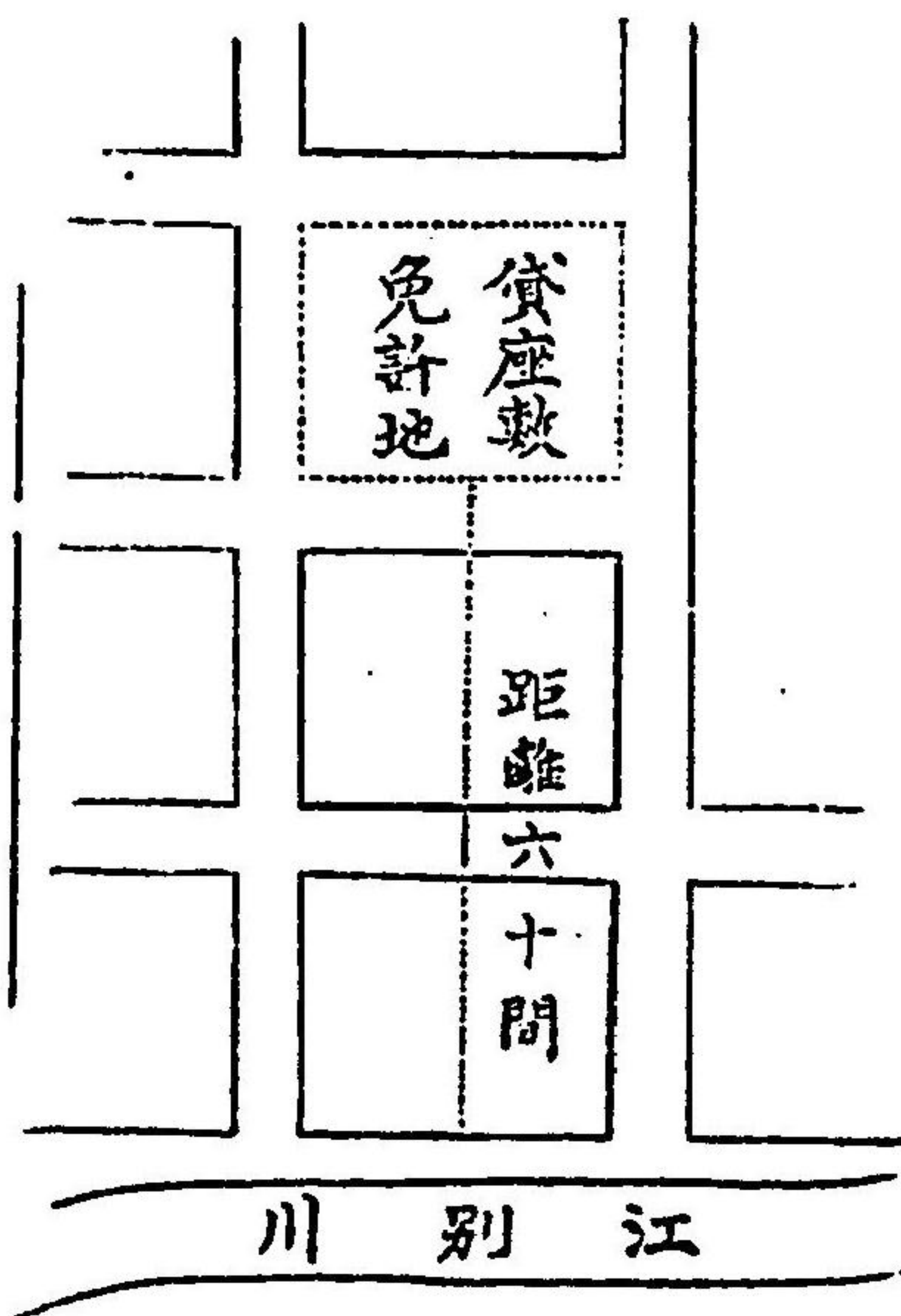


○明治三十二年八月十日告示第二百號
十勝國河田郡下野原村貸座敷免許地左ノ通り定ム
字北三條北四條北五條四六丁目ヨリ同七丁目東四百五十三間南北百六十五間

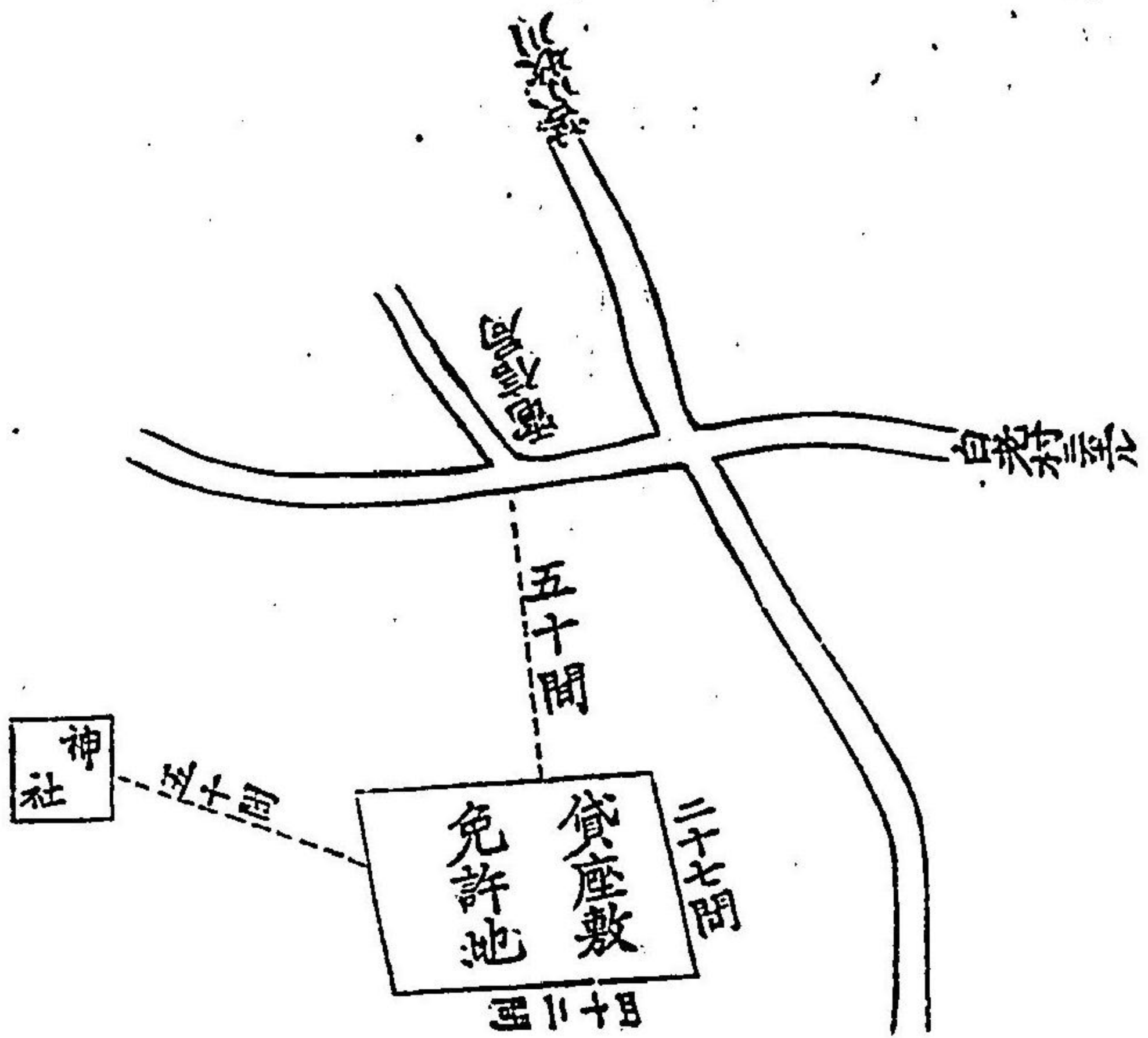


○明治三十二年九月十三日告示第二百二十一號
石狩國札幌郡江別貸座敷免許地左ノ通り定ム

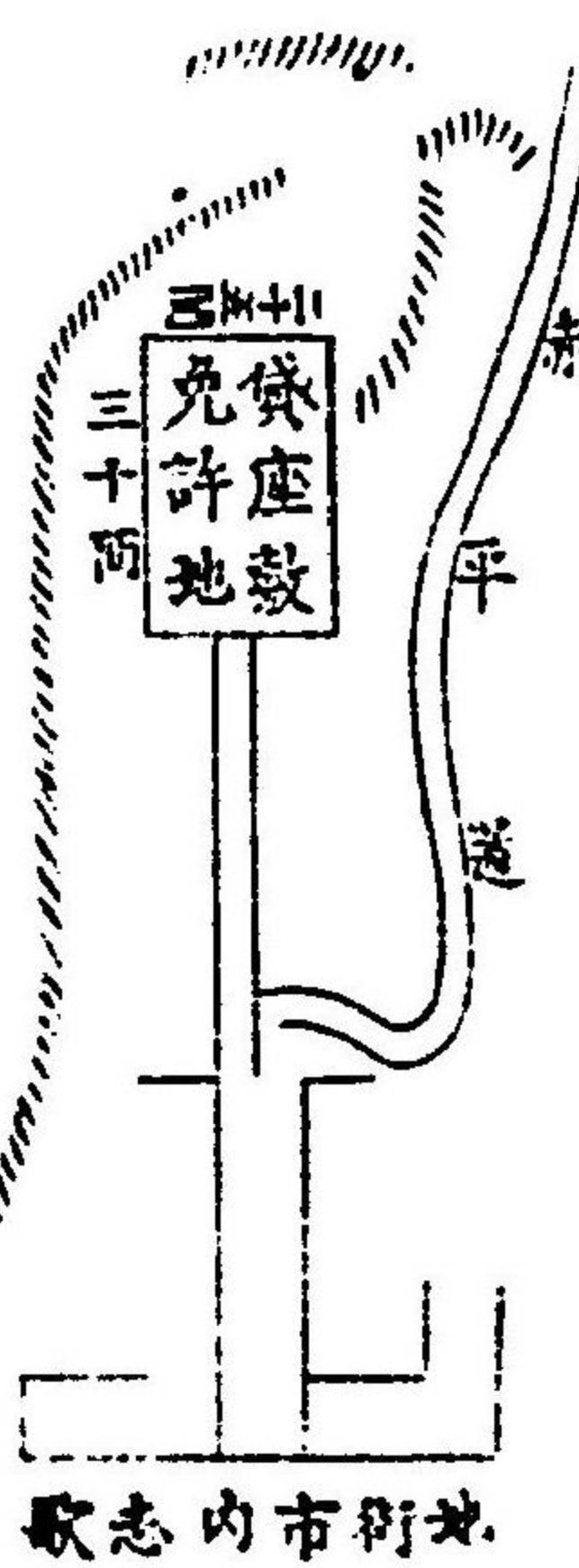
白百八十八番地
五百九十五番地



○明治三十三年四月七日告示第九號
勝振國東通郡小牧村貸座敷免許地區域左ノ通り定ム但シ木文區域外ノ現在營業者ハ明治三十五年三月三十一日迄其營業ヲ存続スルコトヲ得

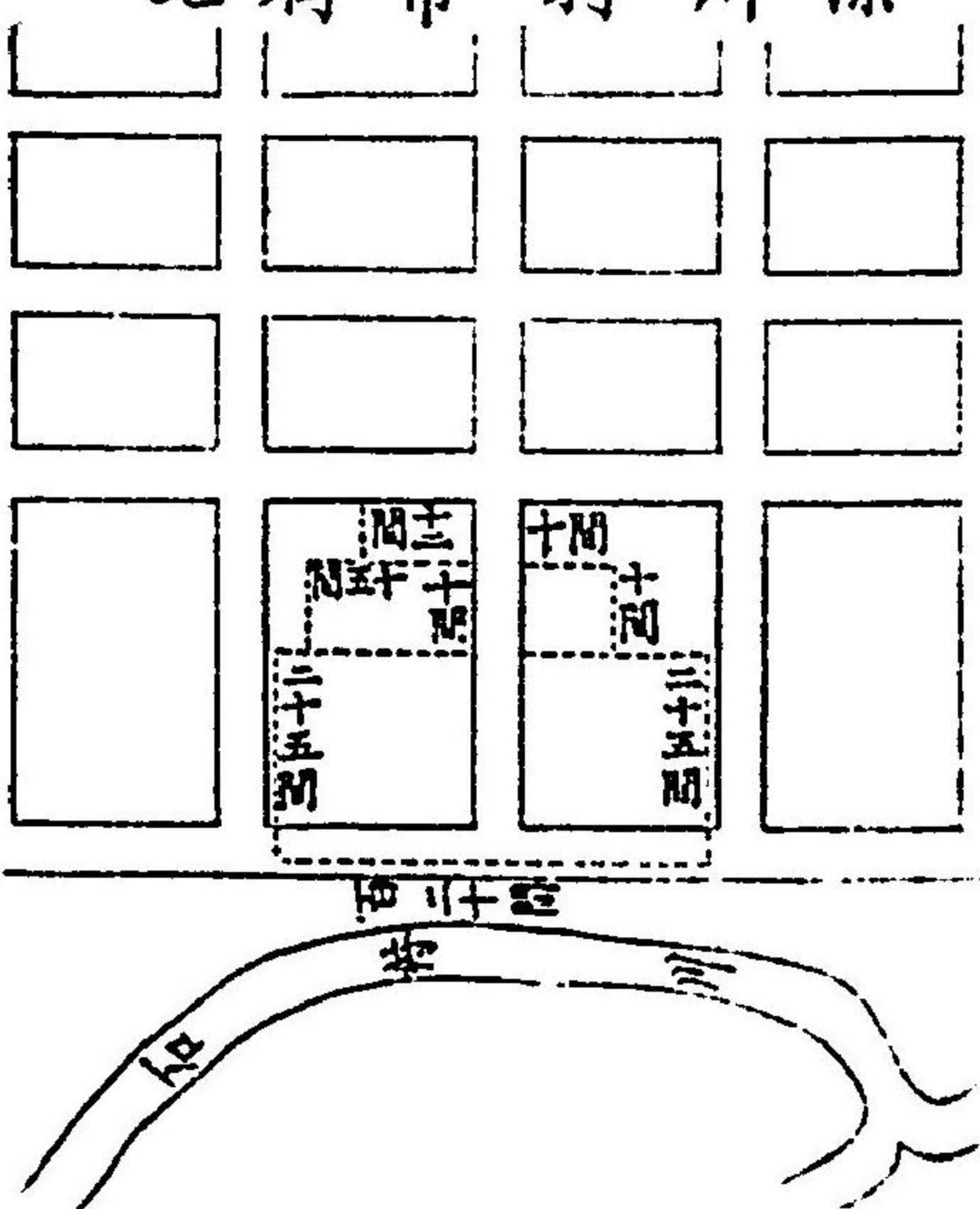


○明治三十三年六月十五日告示第二百一十一號
石狩國空知郡歌志内村同雨龍郡深川村北見國利尻郡木泊村勝振國虻田郡虻田村貸座敷免許地左ノ通り定ム
石狩國空知郡歌志内村免許地

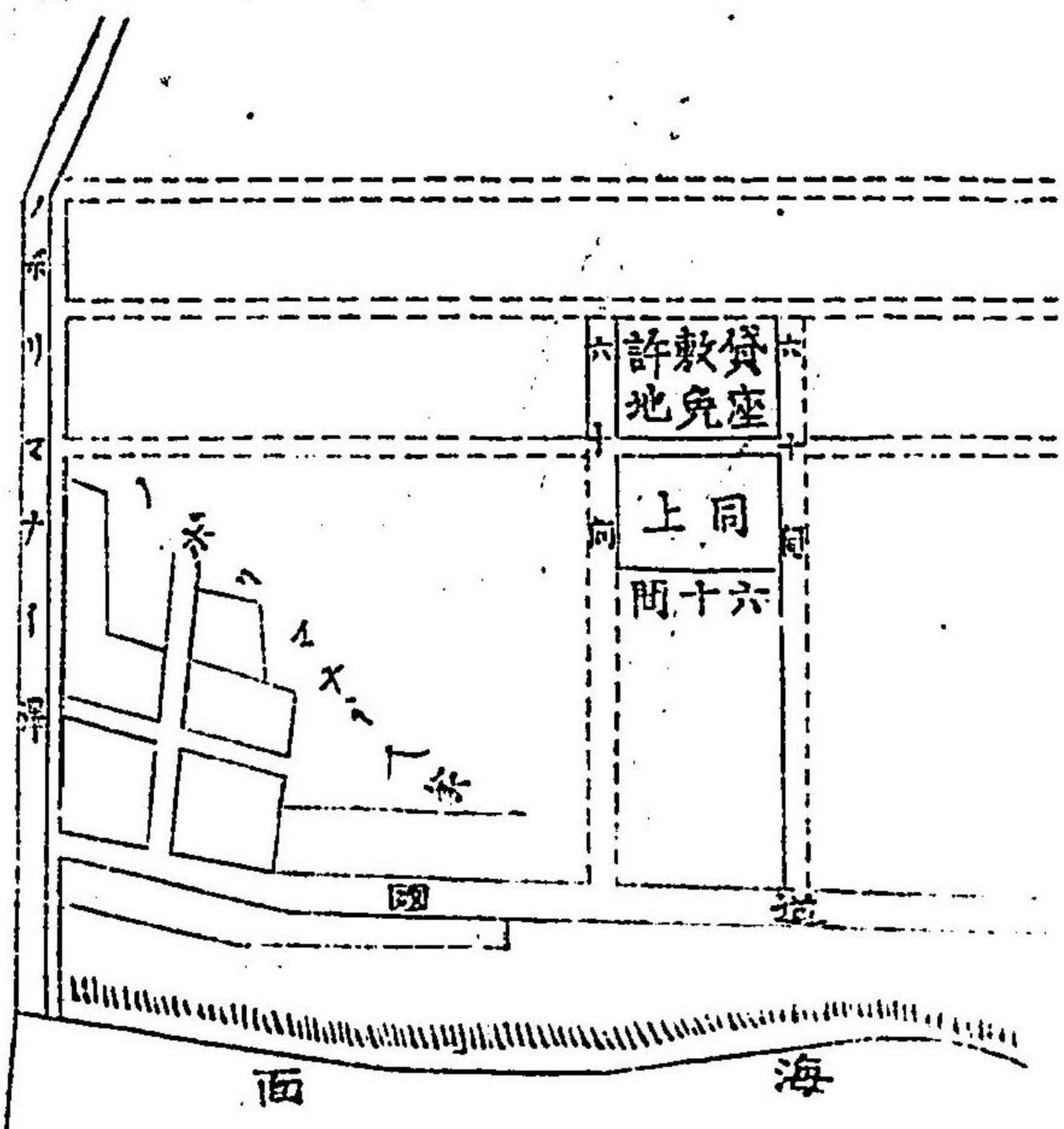


石狩國雨龍郡深川村免許地

深川村市街地

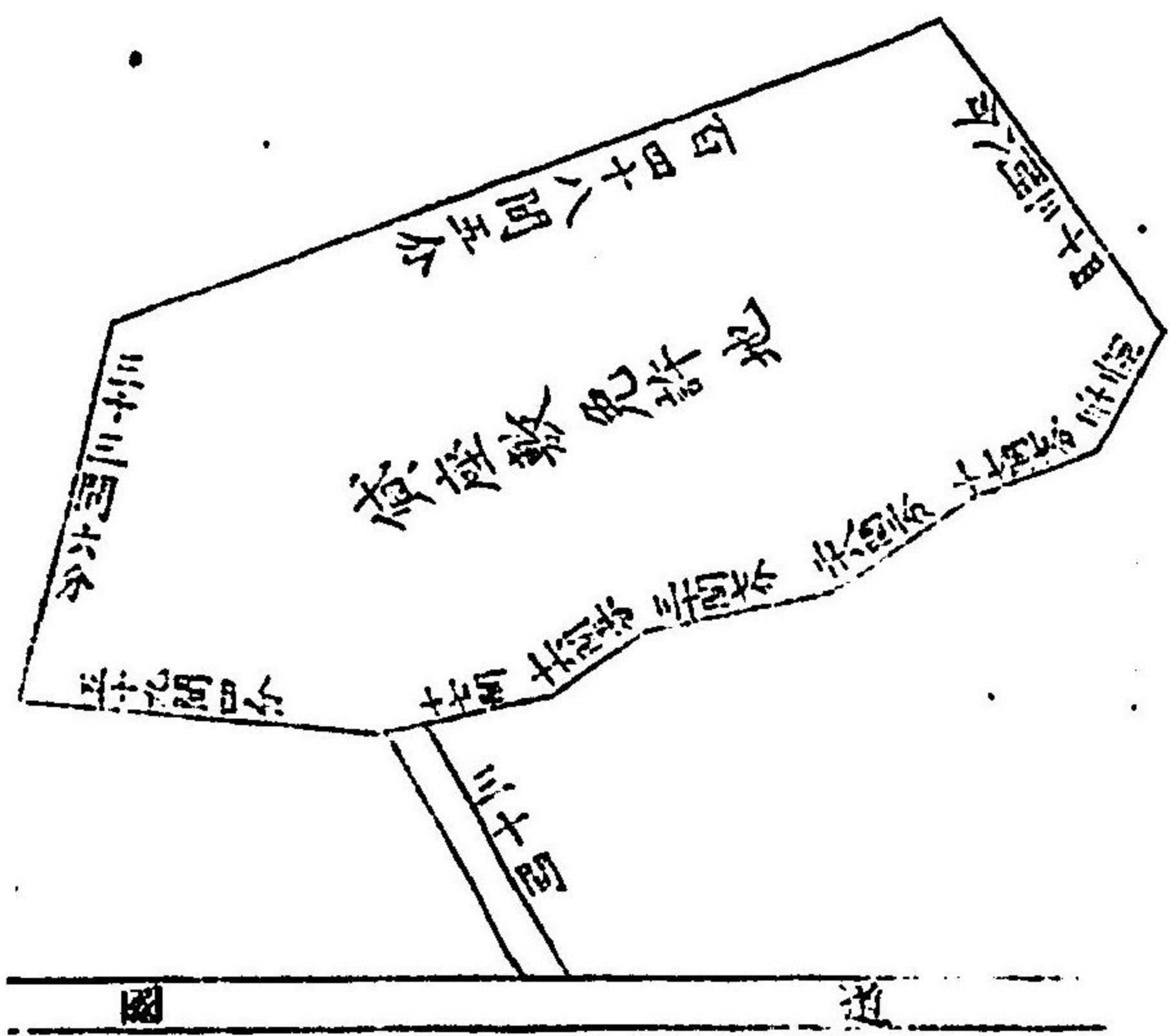


北見國利尻郡水泊村免許地



○明治三十三年四月六日訓令第九十七號(警察署同分署宛)
貸座敷營業者客ニ對シ酒肴ヲ供與スルハ新業ニ作圖スルノ業タルヲ以テ別
ニ料理店業ノ免許ヲ受ケシムヘキモノニ非ス依テ從來之ニ從屬スル規程ハ
取消ス

樺根國虻田郡虻田村免許地



○明治三十年四月十日訓令第十八號
料理店業取締規則左ノ通り定ム

但シ明治二十二年(一月)北海道廳令第六號料理
店及飲食店取締規則ハ廢止ス

料理店業取締規則

- 第一條 本則ニ於テ料理店業ト稱スルハ客室ヲ設
ケテ飲食物ヲ販賣スルモノヲ云フ
- 第二條 料理店業ヲ爲サントスル者ハ營業ニ供ス
ル家宅内部ノ構造ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警
察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其位置及構造ヲ變
更セントスルトキモ亦同シ
- 第三條 左ニ掲グル各號ノ一ニ當ルモノハ料理店
業ヲ許可セサルコトアルヘシ
一 許可ノ後ト雖モ本條ニ載ルシタル者ハ所轄警察
官署ニ於テ其失致ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 學校病院ニ接近シ又ハ公安上必要ト認メタ
ル場所
- 二 未成年者又ハ白痴瘋癲者ニシテ營業上ノ責
任ヲ負擔スル父母又ハ後見人ヲ有セサル者
- 三 略取誘拐又ハ猥褻姦淫ノ罪ニ依リ處刑セウ
ル刑罰滿限後三箇年ヲ經過セサル者
- 四 密賣淫並其姦合容止ノ罪ニ依リ處刑セラレ
後二箇年ヲ經過セサル者
- 五 本則ニ依リ三回以上處罰セラレ後二箇年ヲ
經過セサル者
- 六 他人ニ名義ヲ假シテ營業ヲ爲スノ事實アリ
ト認メタル者
- 七 第三號第四號第五號ニ觸ルル者ヲ雇人トシ
テ使用シ又ハ同居セシメ若クハ後見人ト爲
ス者
- 八 同一家屋ニ於テ旅人宿業ヲ爲ス者
- 九 業行不其ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞

アト認ムル者(三十五年十一月廳令第百
四十三號ヲ以テ追加)

- 第四條 雇人ヲ使用シ若クハ婦女ヲ同居セシメン
トスルトキハ其屬籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警
察官署ニ届出ヘシ
- 第五條 廢業死亡又ハ改氏名ノトキハ五日以内ニ
所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ死亡ノトキハ相續
人ヨリ届出ヘシ
- 第六條 雇人ノ解雇死亡改氏名又ハ同居婦女ノ死亡改氏
名轉居ノトキモ亦前項ニ同シ
- 第七條 街路ニ於テ言語騷動ヲ以テ客ヲ誘引シ又
ハ家族同居人若クハ雇人ヲシテ之ヲ爲サシムヘ
カラス
- 第八條 客ノ需ナキ飲食物ヲ出シ又ハ廢棄物等
ヲ強ニ出カラス
- 第九條 同居シテアツタル廢妓又ハ來客ヲ宿泊セシ
ムルコトヲ得ズ但シ止テ得サル事情アリテ宿泊
ヲ要スルトキハ其事由ヲ記シ即時所轄警察官署
又ハ駐在巡査ニ届出ヘシ
- 第十條 本則第二條第四條第五條第六條第七條第
八條第九條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下
ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下
ノ科料ニ處ス
- 第十一條 業務ニ關スル家屬同居人又ハ雇人ノ所
爲ハ營業者其責ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第十二條 従前ノ營業者ハ本則施行ノ日ヨリ三十
日以内ニ家宅内部ノ構造ヲ記シ所轄警察官署ニ
届出ヘシ

○明治三十年四月十日訓令第五十七號(警察署同分
署宛)
左ノ掲合ニ於テハ其事實及理由ヲ詳具シ警察長ノ
認可ヲ受ケヘシ
一 料理店業ヲ許可セズ又ハ失致ヲ命セントスル
トキ
一 (三十五年五月訓令第四百七十四號ヲ以テ第二
項刪除)
○明治三十二年三月七日廳令第十八號
花台ト稱スルモノ及之ニ類スル方法ヲ以テ金錢物
品ヲ隠集セントスル者ハ其名義ノ如何ヲ問ハズ限
メ其目的方法場所年月日及收支帳簿ヲ詳記シ所轄
警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其届出ノ事項ヲ變
更セントスルトキモ亦同シ
水合ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ
處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
○明治三十三年三月二十四日訓令第五十八號(警
察署同分署宛)
未成年者喫煙禁止法ノ施行ニ就テハ風俗ノ改良ヲ
主旨トシ漸次法律ノ目的ヲ達スル權注意スヘキモ
此際急激ニ之ヲ取締リテ執行スルハ罰則ニ過タルノ
嫌ナキニアラサルヲ以テ實際其度ヲ斟酌シ執行上
ノ宜キヲ得ルコトヲ期セラルヘシ例ハ一見シテ未
成年者タルト成年者タルヲ區別シ難キ場合ノ如キ
ハ強テ法律ヲ適用スルノ必要之ナカルヘク又犯罪
者アルノ推定ニ基キ直ニ居室其他ノ場所ニ立入ル
カ如キモ亦適當ノ處置ニアラス及煙草及器具ハ再
ヒ之ヲ使用スルノ機ナキ者ニ對シテハ必シモ沒收
處分ヲ爲スル要セサルヘシ而シテ沒收ハ警察長
警察分署長若ハ其ノ代理者ノ命令書ヲ交付シテ之
ヲ爲スヘシ若シ巡査ニシテ犯罪者ヲ認メ沒收ヤウ
ルヘキ物件ヲ取上ケタルトキハ速ニ上官ニ申報シ
テ其處分ヲ待タシムヘシ又犯罪者ニ對シ視權ヲ行

第六條 取締法第十三條ニ依リ物品ノ差押ヲ爲シタルトキ領置證書ハ第二號様式ニ據ルヘシ

第七條 營業ノ禁止又ハ停止ヲ必要トスル者アルトキハ其犯狀性行及相當ト認ムル停止期間等ヲ詳記シ警部長ニ開申スヘシ

營業ノ禁止ヲ解クヲ必要トスル者ハ其後ノ行爲等ヲ詳記シ警部長ニ開申スヘシ

第八條 取締法第十七條ニ依リ物品ノ徵收ヲ爲サントスルトキハ警察署長又ハ分署長ニ於テ第三號様式ノ命令書ヲ發スヘシ

被害者又ハ遺失主ニ物品ヲ下付シタルトキハ領收證書發スヘシ

第九條 行商鑑札ハ第四號様式露店鑑札ハ第五號様式ニ據ルヘシ

第十條 檢印ヲ要スルカ爲メ帳簿ヲ差出シタルトキハ帳簿ノ紙首ニ年月日ヲ記シ署印ヲ捺捺スヘシ

第十一條 傳染病毒ノ汚染シタル物品アルコトヲ届出タルトキハ直チニ警部又ハ巡查ヲ派シ消毒法ヲ施サシムヘシ

第十二條 古物商營業禁止人名簿ハ第六號様式古物商營業停止人名簿ハ第七號様式ニ據リ調製スヘシ

第十三條 營業所外ニ店舗ヲ有スル者ハ營業臺帳事故欄内ニ其場所ヲ記載スヘシ

他警察官署管轄内ニ營業所又ハ本店アル者モ前項同様記載スヘシ

第一號様式 物品官沒命令書 (用紙半紙罫紙)

何郡(區)町(村)番地
古物商 氏名

一 何何(品名)品質記號何何
何何 何何

一同 上同 上同

右傳染病毒ニ汚染シタル物品ニシテ未ダ消毒セサルモノト認ムルニ付消毒法ヲ命シタルモノニ從ハサルヲ以テ古物商取締法第八條ニ依リ官沒スルモノ也

明治 年 月 日

警察(分)署長
官印 氏名

第二號様式 物品領置證書 (用紙半紙罫紙)

何郡(區)町(村)番地
古物商 氏名

一 何何(品名)品質記號何何
何何 何何

一同 上同 上同

右ハ犯罪ノ嫌疑アル物品(遺失物)ト認ムルニ付古物商取締法第十三條ニ依リ差押ヘ取調ノ間領置ス

明治 年 月 日

警察(分)署長
官印 氏名

第三號様式 物品徵收命令書 (用紙半紙罫紙)

何郡(區)町(村)番地
古物商 氏名

一 何何(品名)品質記號何何
何何 何何

一同 上同 上同

右ハ遺失物(贖物)ナルニ付古物商取締法第十七條ニ依リ徵收スルモノ也

明治 年 月 日

警察(分)署長
官印 氏名

第四號様式 行商鑑札 (用紙半紙罫紙)

何郡(區)町(村)番地何營業
氏名

家族雇人ニ在リテハ何營業ノ下氏名家族又ハ雇人ト記スヘシ

氏名

第五號様式 木札(縦三寸幅二寸二分)

明治 年 月 日 下付

何 警 署
印 察 署
(分) 署

面 表

何何 何何 店 鑑 札

何郡(區)町(村)番地何營業
氏名

家族雇人ニ在リテハ何營業ノ下氏名家族又ハ雇人ト記スヘシ

第六號様式 古物商營業禁止人名簿 (用紙半紙罫紙)

禁止年月日 禁止官廳名 警察年月日 場所 住所 氏名

第七號様式 古物商營業停止人名簿 (用紙半紙罫紙)

停止年月日 停止官廳名 停止期間 場所 住所 氏名

○明治二十八年八月二十七日廳令第五十七號
實取取締法施行規則左ノ通り定メ本年九月一日ヨリ施行ス

但シ明治十七年(五月)根室縣甲第三十二號布達同年(同月)札幌縣甲第二十四號布達同年(同月)函館縣甲第十四號布達實取取締法例細則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

明治 年 月 日 下付

何 警 署
印 察 署
(分) 署

○明治二十八年八月二十七日訓令第二百四十六號(警察署同分署宛)
 質屋取締法ニ關スル取扱手續左ノ通り定メ本年九月一日ヨリ施行ス
 但シ明治十七年(五月)根室縣丁第二十三號違質屋取締條例取扱手續同年
 (同月九日)函館縣番外違質屋取締條例取扱手續同年(同月)札幌縣丙第四
 十八號違質屋取締手續ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス
 質屋取締法ニ關スル取扱手續

第一條 質屋營業ノ出願アリタルトキハ左ノ各項ニ據リ取扱フヘシ

- 一 左ニ記載シタル者ハ營業ヲ許可スヘカラス
 - イ 營業禁止又ハ停止中ノ者
 - ロ 營業停止ノ處分ヲ受ケ未タ解除セザルニ廢業シ其期限内新ニ營業免許ヲ願出タル者
 - ハ 幼者又ハ白痴瘋癲者等ニシテ營業上ノ責任ヲ負擔スル父母戸主又ハ後見人ヲ有セザル者
 - ニ 強盜竊盜欺取財受寄物費消罪其他贓物ニ關スル罪ヲ犯シ處刑後三箇年ヲ經過セザル者
- ホ 口項以下各項ニ該當スル者ニ名簿ヲ貸ス者
- 二 前項ニ該當スル者ニシテ處刑後三箇年ヲ經過シタル者及其他ノ者ト雖モ前科ノ種類及性行又ハ平素ノ舉動等ヨリ許可スルコトナ危険ト認メタルトキハ其事情ヲ詳具シ警部長ニ申請認可ヲ受ケヘシ

第二條 支店開設ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ營業者他警察官署管轄内ニ本店ヲ有スル者ナルトキハ其管轄警察官署ニ通報スヘシ

第三條 質屋取締法(以下單ニ取締法ト稱ス)第七條ニ依リ官沒ヲ爲サントスルトキハ警察署長又ハ分署長ニ於テ第一號様式ノ命令書ヲ發スヘシ

第四條 品質價記號何何
 第五條 取締法第十五條ニ依リ物品ノ差押ヲ爲シタルトキ領置證書ハ第二號様式ニ據ルヘシ
 第六條 取締法第十五條ニ依リ物品ノ徵收ヲ爲サントスルトキハ警察署長又ハ分署長ニ於テ第三號様式ノ命令書ヲ發スヘシ
 第七條 取締法第十七條ニ依リ帳簿ノ廢棄ヲ出願シタルトキハ品質價記號物品ナキトキ否チ査問シ犯罪捜査特別ノ必要アラサルモノニシテ電報物品

ノ處分終了後三年以上經過シタルモノニ限り之ヲ許可スヘシ
 第八條 營業ノ禁止又ハ停止ヲ必要トスル者アルトキハ其犯行及相當ト認ムル停止期間等ヲ詳記シ警部長ニ開申スヘシ
 營業ノ禁止ヲ解除クハ必要トスル者ハ其後ノ行為等ヲ詳記シ警部長ニ開申スヘシ
 第九條 檢印ヲ要スルカ爲メ帳簿ヲ差出シタルトキハ帳簿ノ紙首ニ年月日ヲ記シ捺印ヲ捺捺スヘシ
 第十條 傳染病毒ノ汚染シタル物品アルコトヲ届出タルトキハ直チニ警部又ハ巡查ヲ派シ消毒法ヲ施サシムヘシ
 第十一條 質屋營業禁止人名簿ハ第四號様式質屋營業禁止人名簿ハ第五號様式ニ依リ調製スヘシ
 第十二條 支店アル者ハ營業廢事故欄内ニ其場所ヲ記載スヘシ
 他警察官署管轄内ニ本店ヲ有スル者モ前項同様其場所ヲ記載スヘシ
 第一號様式
 物品官沒命令書

(用紙半紙同紙)
 何部(區)町(村)番地
 質屋營業人 氏 名
 何部 何敷
 同上

第二號様式
 物品領置證書
 (用紙半紙同紙)
 何部(區)町(村)番地
 質屋營業人 氏 名
 何部 何敷
 同上

第三號様式
 物品徵收命令書
 (用紙半紙同紙)
 何部(區)町(村)番地
 質屋營業人 氏 名
 何部 何敷
 同上

右ノ犯罪ノ嫌疑アル物品(遺失物)ト認ムルニ付質屋取締法第五條ニ依リ差押ヘ取調ノ間領置ス
 明治 年 月 日
 何警察(分)署長
 官氏 名印

第三號様式
 物品徵收命令書
 (用紙半紙同紙)
 何部(區)町(村)番地
 質屋營業人 氏 名
 何部 何敷
 同上

一 何部(區)町(村)番地
 質屋營業人 氏 名
 何部 何敷
 同上

右ノ遺失物(贓物)ナルニ付質屋取締法第十六條ニ依リ徵收スルモノ也
 明治 年 月 日
 何警察(分)署長
 官氏 名印

第四號様式
 ○明治三十二年八月十八日廳令第六十七號
 宿屋取締規則左ノ通り定ム
 但明治二十二年(十一月)北海道廳令第六十七號
 同年(同月)同廳令第六十八號明治二十四年(十
 二月)同廳令第五十一號ハ廢止ス
 宿屋取締規則

第一章 通 則
 第一條 宿屋營業ヲ分チテ旅人宿下宿木賃宿ノ三種トス
 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業場所營業用ニ供スル建物及開取坪數等ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受ケヘシ其變更ヲ要スルトキ亦同シ但未成年者ニアリテハ父母又ハ後見人妻ニアリテハ夫ノ連署ヲ要ス

第三條 左ニ掲ケル各號ノ一ニ該當スル者ハ宿屋營業ヲ許可セズ許可ノ後ト雖モ第一號乃至第八號ニ該當スルトキハ所轄警察官署ニ於テ其失効ヲ命スルコトアルヘシ(三十六年一月廳令第九號ヲ以テ本條改正)
 一 禁治產者及準禁治產者
 二 強盜竊盜欺取財略取賄賂又ハ贓物ニ關スル罪ニ據リ處罰セラレ尙改後ノ情ナシト認ムル者
 三 密賣淫又ハ其姦合容止ノ罪ニ據リ處罰セラレ尙改後ノ情ナシト認ムル者
 四 同一家庭ニ於テ貸座敷料理店雇人日入業ヲ營ム者
 五 他人ニ名義ヲ假シテ營業ヲ爲サシムルノ事實アリト認ムル者

第五號様式
 質屋營業禁止人名簿
 禁止年月日 禁止官廳名
 停止年月日 停止官廳名
 (川紙半紙同紙)
 氏名 住所 氏名

第六 素行不貞ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムル者
 七 本條第二號第三號第六號ノ一ニ該當スル同居ノ家族アル者
 八 本則ニ依リ三回以上處罰セラレ改後ノ情ナシト認ムル者
 九 本則ニ依リ許可ノ失効ヲ命セラレ後二箇年ヲ經過セザル者
 第四條 (三十六年一月廳令第九號ヲ以テ本條削除)
 第五條 本籍住所氏名ニ異動ヲ生シ又ハ死亡廢業休業(七日以上ニ限ル)若ハ第二條但書連署人ニ變更ヲ生シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヲヘシ但死亡ノトキハ相續人又ハ家族ヨリ届出ツヘシ

手續料及

解雇年月日及手
數料ノ返付高

○明治三十五年五月二日訓第四百七十四號(警察署同分署宛)
明治三十五年(五月)北海道廳令第六十二號雇入口入營業取締規則取扱手續
左ノ通定ム

但シ明治三十年(四月)訓第五十七號訓令中第二號ヲ削除ス

雇入口入營業取締規則取扱手續

第一條 規則第三條第三號ニ據リ許可ヲ取消サントスルトキハ其事由ヲ具シ警察部長ニ稟請スヘシ

第二條 規則第四條ニ規定セル雇人名簿ハ別紙第一號様式ニ據ルヘシ

第三條 規則第十六條ニ據リ規約ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其原本ヲ添附シテ警察部長ニ報告スヘシ

第四條 規則第十八條ニ據リ檢印ヲ請フトキハ其帳簿ノ初葉ニ別紙第二號様式ニ據リ檢印シ尙帳簿ノ側面ニ契印スヘシ

第一號様式 (用紙美濃紙)

| 第 一 號 | | 第 二 號 | | 第 三 號 | |
|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| 年 月 日 | 氏 名 | 年 月 日 | 氏 名 | 年 月 日 | 氏 名 |
| 解雇 年月日 | 解雇 氏名 | 解雇 年月日 | 解雇 氏名 | 解雇 年月日 | 解雇 氏名 |
| 生年 月 日 | 住 所 | 生年 月 日 | 住 所 | 生年 月 日 | 住 所 |
| 年 月 日 | 名 所 籍 | 年 月 日 | 名 所 籍 | 年 月 日 | 名 所 籍 |

○明治十八年二月二十六日函館縣甲第十二號布達外國船乘組雇入口入營業取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

外國船乘組雇入口入營業取締規則

第一條 外國船乘組雇入口入營業ヲ爲サント欲スル者ハ二名以上ノ保證人ヲ以テ區長ノ奥書ヲ受ケ當廳へ願出許可ヲ受ケヘシ

第二條 營業者及保證人ハ函館縣内ニ住居ヲ定メ五百圓以上ノ不動產若クハ之ニ該當スル公債證書或ハ銀行等ノ株券ヲ有スル者ニアラザレバ許可セズ

但シ該營業者ノ人員ハ適宜制限スルコトアルヘシ

第三條 第一第二條ノ手續ヲ經テ許可ヲ得タル者ハ左ノ罪狀ニ依リ罰金(英和對照)ヲ製シ當廳ノ檢印ヲ受ケ其店頭ニ掲出スヘシ

紙 數 何 枚

明 治 年 月 日

警 察 官 署 名 印

英 何國何處何町何番地 長凡ソ 三尺

對 許 免外國船乘組雇入口入營業 一尺凡ソ

照 氏 名

第四條 該營業者轉居若クハ廢業シタルトキハ區長ノ奥書ヲ受ケ其旨當廳へ届出ヘシ

但シ營業興廢ノ都度所轄警察署ニ届出ヘシ

第五條 該營業者ニ於テ水火夫雇人ノ紹介ヲ爲ストキハ當廳ヨリ示シ置ク所ノ約定書様式ニ依リ訂約セシムヘシ

但シ約定書式ハ營業ノ許可ヲ與フル際ニ之ヲ付與スヘシ

第六條 該營業者ハ豫テ簿册ヲ製シ置キ被雇者ノ族籍氏名年齡住所及ヒ雇主ノ國籍氏名船號又ハ航行ノ地方其他雙方間ニ成立タル約定ノ要旨ヲ登記シ毎半年分テ取纏メ當廳へ申報スヘシ

但シ日出後日没前又ハ營業公開時間内警察官ニ於テ營業者ノ店鋪ニ臨ミ帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ(三十三年九月廳令第八十六號ヲ以テ修正)

第七條 該營業者ハ雇主及被雇者ノ雙方ヨリ相當ノ手数料ヲ受取ルコトヲ得ルト雖モ其額ハ豫メ當廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第八條 第一第三第四第五第六第七條ノ規則ニ背クモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルルノ外尙ホ其情狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○明治三十二年一月十八日廳令第三號
沖商業取締規則左ノ通定ム

第一條 本則ニ於テ沖商業ト稱スルハ港灣内ニ繫

泊スル内外國船ニ就キ物品ヲ販賣スル者及空堀空堀買入洗濯靴直シ其他船員乗客ノ需メニ應スル營業ヲ爲ス者ヲ云フ(三十六年二月廳令第十九號ヲ以テ改正)

第二條 沖商業ヲ爲サントスル者ハ營業物品ノ種類及本籍住所身分氏名年齡ヲ記シ警察官署ニ願出免許證ヲ受ケヘシ營業物品ノ種類ヲ變更セんとスルトキモ亦同シ

雇人ヲ使用スル者ハ其本籍住所身分氏名年齡ヲ記シ警察官署ニ届出一人毎ニ免許證ヲ受ケヘシ

第三條 左ニ掲グル各號ノ一ニ該當スル者ハ營業者又ハ雇人タルコトヲ得ズ但シ改後ノ狀アリト認ムル者ハ特ニ免許證ヲ受ケタルヘシ

一 強竊盜賊物放買寄藏牙保賭博及幼者略取誘拐ノ罪ヲ犯シ處罰ヲ受ケタル者

二 密輸出入ノ處分ヲ受ケタル者

三 密賣淫ニ關スル罪ヲ犯シ處罰ヲ受ケタル者

四 一年以内三回以上本則ノ規定ヲ犯シ處罰ヲ受ケタル者

免許ノ後ト雖モ前項各號ノ一ニ該當スル者及組合ノ規約ニ依リ處分ヲ受ケタル者ハ警察官署ニ於テ營業ヲ停止シ又ハ免許ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ(三十六年二月廳令第十九號ヲ以テ本項追加)

第四條 營業者ハ別記難形ノ標旗ヲ製シ警察官署へ差出檢印ヲ受ケヘシ

第五條 免許證及標旗ハ毎年四月警察官署ノ檢査ヲ受ケヘシ

檢査期日及場所ハ警察官署ノ定ムル所ニ從フヘシ

第六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ五日以内ニ警察官署ニ届出免許證ノ再渡書換又ハ標旗ノ給

印ヲ受ケヘシ

一 轉居改氏名ヲ爲シタルトキ

二 免許證又ハ標旗ヲ亡失毀損シ若クハ其文字不分明ニ至リタルトキ

第七條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ五日以内ニ警察官署ニ届出免許證ヲ返納シ標旗ハ消印ヲ受ケヘシ但シ死亡ノトキハ相繼人ヨリ届出ヘシ

一 廢業死亡シタルトキ

二 雇人ヲ解雇シ又ハ雇人ノ失踪逃亡若クハ死亡シタルトキ

三 許可ノ失效ヲ命セラレタルトキ

第八條 就業中ハ標旗ヲ船體部ニ掲出スヘシ

第九條 日出前日没後ハ營業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ特ニ警察官署機關監視部又ハ稅關支署ノ許可ヲ受ケタル者ハ此限ニアラス

第十條 營業船ハ警察官署ニ於テ指定シタル場所外ニ繫留スヘカラス

第十一條 免許證及標旗ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ズ

第十二條 就業中ハ免許證ヲ携帶シ警察官署又ハ稅關官吏ニ於テ見シコトヲ求メタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十三條 就業中ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 營業以外ノ物品又ハ客人ヲ乗載スヘカラス

二 密輸出入ノ貨物ヲ運送シ若クハ買受授受又ハ其媒介其他補助ヲ爲スヘカラス

三 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ携帶スヘカラス

四 船員又ハ船客ニ對テ侮慢粗暴ノ言行ヲ爲スヘカラス

五 短艇餘船其他見苦シキ體裁ヲ爲スヘカラス

六 營業船ハ常に清潔ニ掃除シ給食食物ニハ

テ乗客ヲ送迎スルコトヲ得但外國船又ハ外國通航船ノ貨物運送若ハ乗客送迎ヲ爲ス解船ハ貨物ト乗客手荷物ト同載スルコトヲ得ス

一 乗川及附通船ニ於テ乗客手荷物制限ニ超ヘサル貨物ヲ運送スルトキ

一 運送解船ニ於テ吃水線ヲ超ヘサル限り一時多人數ヲ送迎シ又ハ風浪ノ爲メ乗用解船ノ送迎ニ堪ヘサルトキ

第十九條 船夫ハ左ノ各款ヲ遵守スヘシ

一 解船ハ所轄警察官署ノ指定シタル場所外ニ於テ派リニ貨物ノ積卸ヲ爲シ又ハ乗船上陸及手荷物ノ積卸ヲ爲スヘカラス但外國船又ハ外國通航船ニ往來スルモノハ稅關若ハ稅關支署ノ指定シタル場所ニ於テスヘシ

二 解船ハ貨物ヲ積卸又ハ乗客ヲ送迎スル場合ノ外艦船ヲ距ル十五間以內ニ碇留スヘカラス

三 解船ハ貨物ノ積卸又ハ乗客ノ送迎終リタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ於テ指定シタル場所ニ碇泊スヘシ

四 検査證船夫標札及號旗標燈ハ他人ニ貸與スヘカラス

五 密輸出入ノ貨物ヲ運送シ又ハ賣買授受若ハ其媒介ヲ爲スヘカラス

六 正當ノ理由ナクシテ出船ヲ拒ムヘカラス

七 貨物ハ如何ナル名義ニ拘ラス定額外ヲ請求スヘカラス

八 筒類及股引ノ類ヲ著用スヘシ

九 見苦シキ體裁ヲ爲スヘカラス

十 船夫標札ヲ携帶スヘシ

十一 艦船運轉停止前ニ近接シ又ハ碇泊艦船ノ錨索ニ繫留スヘカラス

十二 作遣又ハ就留スヘカラス

十三 船員ノ許諾ナクシテ昇降揚外ヨリ昇降シ又ハ派リニ船内ニ出入スヘカラス

十四 強テ客ヲ誘引シ又ハ船客若ハ船員ノ承諾ヲ得シテ手荷物其他ノ貨物ニ觸接スヘカラス

十五 艦船ニ繫留中ハ少クモ船夫一名ハ其解船ヲ離ルヘカラス

十六 乗客又ハ荷主ノ承諾ヲ得ス途申ニ於テ他船ニ移シ若ハ故ナク停船スヘカラス

十七 乗客其他ニ對シ侮慢粗暴ノ言行ヲ爲スヘカラス

十八 碇留シテ就業スヘカラス

十九 郵便用ニ供スル船船ニ對シテハ其通行又ハ郵便物ノ積卸若ハ配達ニ障礙ヲ爲ササル様停船又ハ碇留スヘシ

二十 傳染病豫防法ニ據ル患者及屍體ハ警察官署ノ認可ヲ得ルニアツテノハ乗載スヘカラス

二十一 解船ハ其種別ニ從ヒ實間ハ第一號乃至第三號ノ號旗ヲ船尾ニ於テ高サ三尺以上ニ掲ケ夜間ハ第四號標燈ノ標燈ヲ船尾見易キ場所ニ掲ケ點火スヘシ

二十二 制限外ノ貨物又ハ乗客ヲ乗載スヘカラス

第二十三條 前條第四號乃至第七號ノ解船營業者亦之ヲ遵守スヘシ

第二十一條 解船營業者ハ一港灣毎ニ解船ノ種別ニ從ヒ組合ヲ設ケヘシ但土地ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ異種營業者合同組合ヲ設ケ又ハ組合ヲ設ケス若ハ數組ニ分離スルコトヲ得

第二十二條 所轄警察官署ノ認可ヲ受ケシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

組合ノ營業者ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス(三十六年二月廳令第十八號ヲ以テ本項中改正)

第二十三條 組合ニハ正副取締ヲ選キ同業者中ヨリ選舉スヘシ

第二十四條 組合取締ハ其住所氏名就職又ハ退職ノ年月日ヲ所轄警察官署及稅關アル地ハ稅關監視部又ハ稅關支署ニ届出スヘシ

第二十五條 組合ハ規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ其規約スヘキ事項左ノ如シ

一 組合ノ名稱及事務所ノ位置

二 組合取締選舉ノ手續

三 組合取締ノ任期

四 組合取締ノ事務

五 貨物ノ定額

六 組合加入者及退去者手續

七 組合費用ノ收入支出ノ手續

八 營業順番取扱手續

九 組合規約違背者處分手續

十 前各款ノ外必要ノ事項

第二十六條 組合ヲ設ケサルトキハ貨物ハ同業者申合セ之ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケヘシ

其之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

申合セニ入ラスシテ營業スルコトヲ得ス

第二十七條 左ノ事項ニ該當スル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

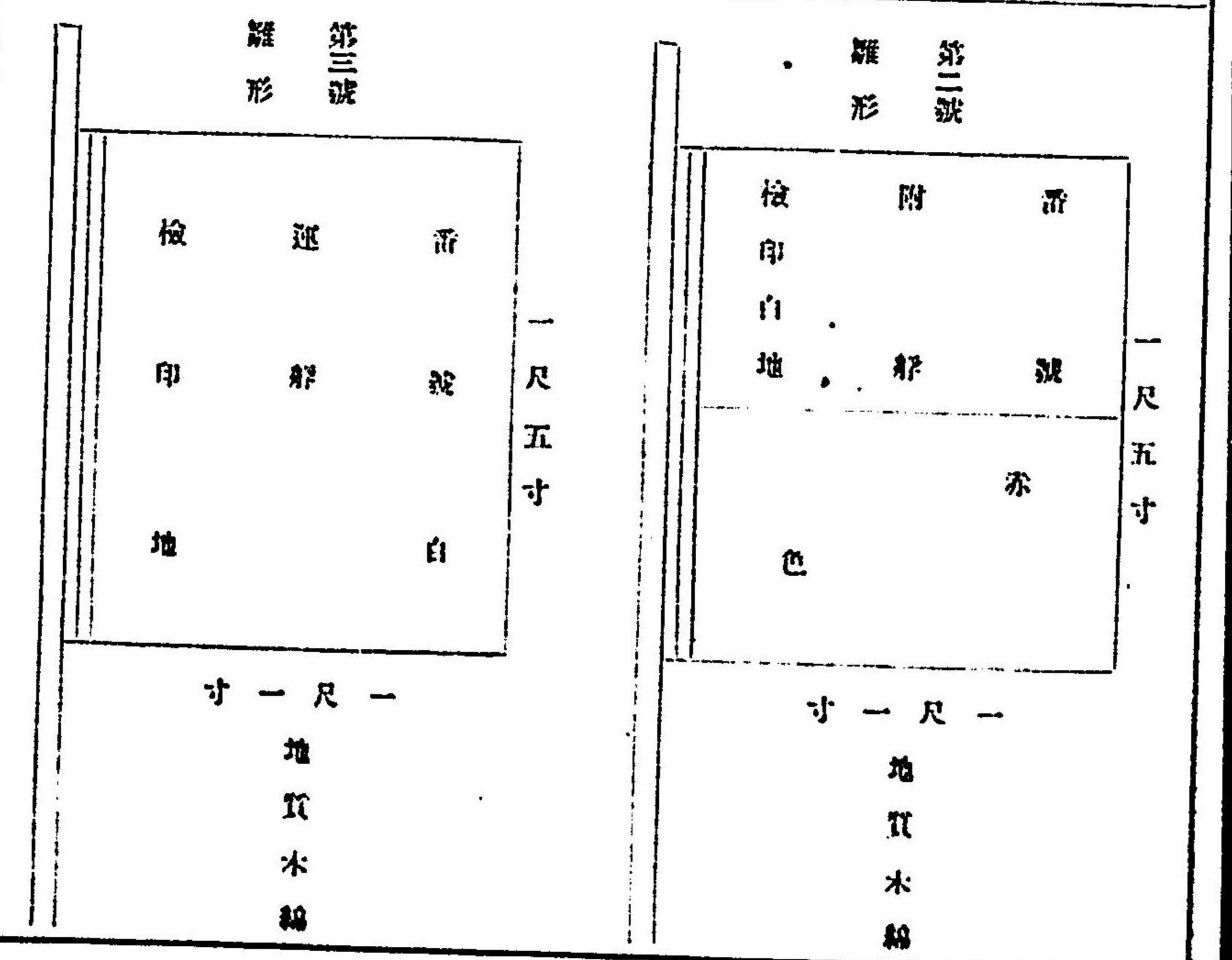
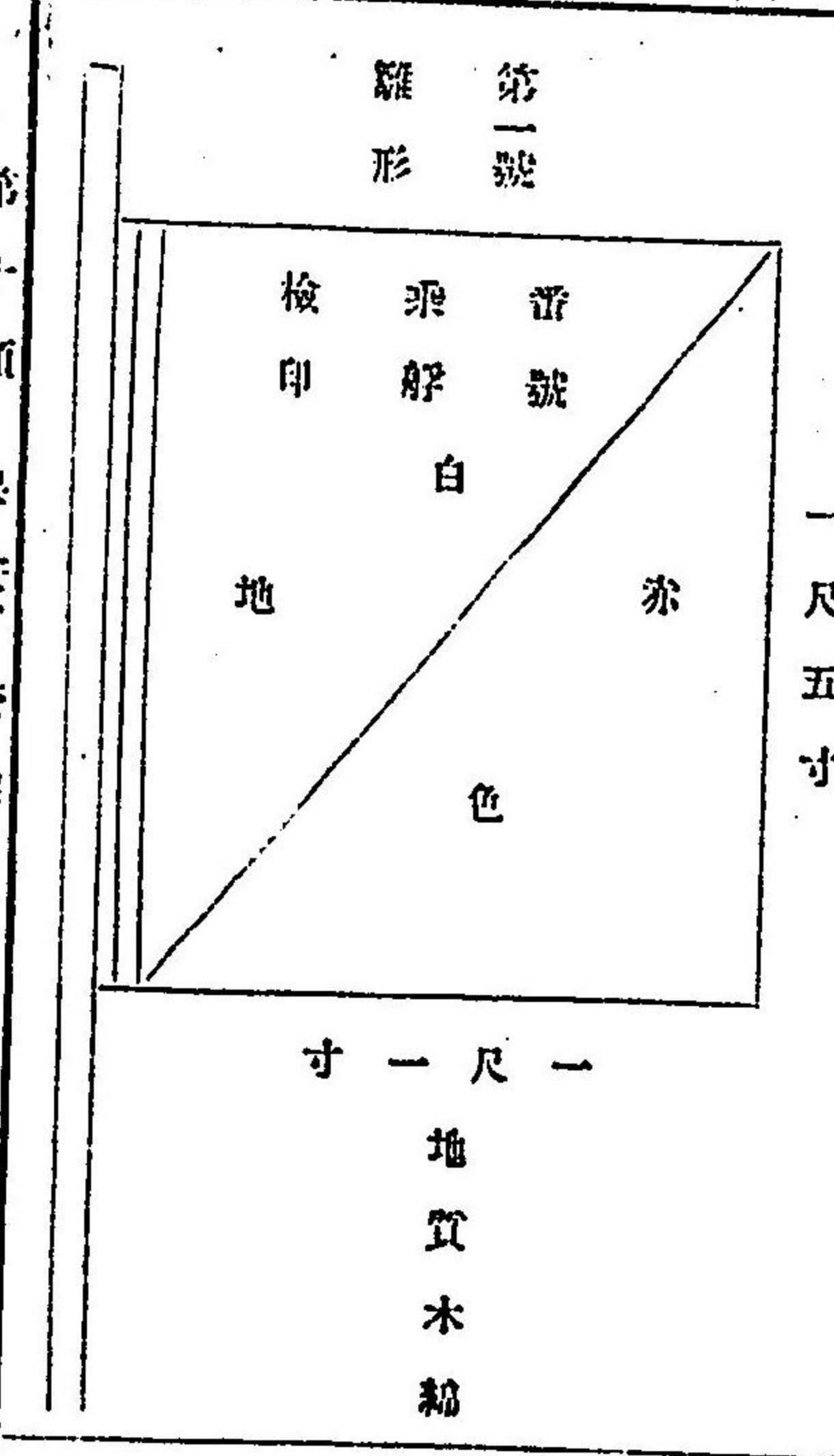
一 第二條第四條第二項第六條第十條第十一條第一項第三項第十二條第十五條第一項第十六條第十七條第十八條俱備者第十九條第二十條第二十二條第一項第二十四條第二十六條ニ該當シタル者

二 第三條ノ許可ヲ受ケシテ營業シタル者及第四條ノ標札ヲ受ケシテ船夫ニ使用シタル者第七條第十一條第十二條ノ命ニ從ハサル者

第二十八條 法人ニシテ本則ニ違犯シタルトキハ其違犯事項ハ業務擔當人ノ行為ト見做ス

第二十九條 本則第十六條第十九條第六號第七號第十四號第十五號第十六號及第二十一條乃至第二十六條ハ附通船ニハ之ヲ適用セス

第三十條 從前許可ヲ受ケタル浮船營業者及船夫ハ本則施行ノ爲メ其效ヲ妨ケス



- 船務營業章程記載例
- 一 業名欄内ニハ乗用船船務營業運送船務營業ノ別ヲ記入スヘシ
 - 一 番號ハ第一號ヨリ起リ順次押番號トス
 - 一 出願者アル毎ニ之ヲ補填スヘシ
 - 一 本様式ハ船數及標旗ニ就テハ九箇ヲ限リアルヲ以テ若シ九箇以上ニ及ビタルトキハ便宜其ニ其三トシ本紙ヲ用フヘシ
 - 一 船體検査証及標旗番號ハ一營業者毎ニ第一號ヨリ更始スヘシ但シ營業者ノ番號ヲ冠スルモノトシ假令ハ第一號營業者ノモノナルトキハ第一號トスルカ如シ
 - 一 船名トハ其船固有ノ名ヲ云フ假令ハボート又ハ何何船ト云フカ如シ

- 一 検査年月日及検査官ノ認印ノ欄ニハ其年月日ヲ書シ其上ニ認印ヲ捺スヘキモノトス
- 一 各船夫船主船務欄内ニハ其營業者ニ屬スル各船夫船主ノ番號ヲ記載シ附クモノトス
- 一 事故欄内ニハ凡テノ事故ヲ記載スルモノトス
- 一 船夫名簿記載例
- 一 番號ハ第一號ヨリ起リ順次押番號トス
- 一 登記ノ方法ハ先ツ一號一名ヲ限リシ他日廢業シタルトキハ順次後ニ登記シタルモノヲ空欄ニ記入シ缺號ナキ標旗補填スヘシ
- 一 缺號簿ハ諸營業者ノ例ニ從フヘシ
- 一 缺號簿失毀損等ノ事故ニ依リ再度下付シタルトキハ其事由ヲ檢印ノ欄内ヘ記入スヘキモノトス

○明治二十四年十二月一日訓第百八十號(警察部内一般)

警察ノ取締ニ屬スル諸營業章程別紙様式ノ通定

記載例

一 警察署分署ニ於テハ別紙様式ニヨリ諸營業章程一冊ヲ調製シ各業毎ニ見出ナ付シ置クヘシ

二 但營業者數多ナルトキハ其種類(假令ハ風俗ノ取締ニ屬スルモノト衛生取締ニ屬スルモノト純粹ノ營業取締ト區分スルカ如シ)ニ種メ分冊スルモ妨クナシ

三 警察署分署ニ於テハ自ラ許可シ又ハ指令通知等ニヨリ許可アリタルコトヲ知リタルトキハ速ニ蓋印ニ登記スヘシ

三 業名目中華業アルモノハ凡ヘテ記入ナ要ス

- 四 姓名又ハ機名等別稱アルモノハ適宜氏名欄内ニ記入スヘシ
- 五 事故欄内ニハ必要ノ事故ヲ網羅シ遺漏ナキヲ要ス殊ニ左ニ掲クル事故ハ必ずス該欄内ニ記入スヘシ(二十八年十二月十三日訓第三百五十號ヲ以テ本項追加第五項以下順次繰下)
- 一 營業者ノ住所外ニ在ル營業所ノ地名番地
 - 二 營業所ノ新設改造變更ノ検査及検査ノ下付
 - 三 轉居改氏名死亡相續廢業休業逃亡
 - 四 營業所ノ改造變更修繕命令及營業ノ禁閉止
 - 五 行商標札下付
 - 六 標札書換及再渡
 - 七 雇人雇入及解雇

六 登記ノ方法ハ先ツ一號一名ヲ限リトシ他日廢業シタル順次後ニ許可シタル者ヲ空欄ニ記入シ缺號ナキ標旗補填スルモノトス

七 警察署分署ニ於テハ左ノ體形ノ如キ缺號簿ヲ調製シ補填及現在數照覽ノ便ニ供スルモノトス

缺號簿 (用紙美濃紙)

| | | | |
|-----|------------|------|-----|
| 業名 | 番號 | 補填 | 年月日 |
| 第一號 | 明治二十五年一月一日 | ○主任印 | |

八 缺號簿ハ一冊ヲ調製シ各見出ナ付シ置クヘシ

(用紙美濃紙)

| 第 一 業 | | 第 二 業 | | 第 三 業 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 業名 | 許可年月日 | 業名 | 許可年月日 | 業名 | 許可年月日 |
| 住 所 | 身 分 | 住 所 | 身 分 | 住 所 | 身 分 |
| 年 氏 | 年 氏 | 年 氏 | 年 氏 | 年 氏 | 年 氏 |
| 故 事 | 故 事 | 故 事 | 故 事 | 故 事 | 故 事 |

○明治三十四年一月十五日訓令第二號(警察署同分署宛)

師範學校中學校及高等女學校ニ接近スル土地ニ於テハ明治三十二年文部省訓令第四號第一項ノ旨趣ヲ貫徹セシムル爲メ教育上故障アリト認ムヘキ營業ヲ許可シ又ハ建物ヲ築造セシメサル標旗取計フヘシ

○明治三十四年十一月九日訓令第二百二十一號(警察署同分署宛)

小學校幼稚園等學校其他小學校ニ類スル各種學校ニ接近スル土地ニ於テハ明治三十四年(三月)北海道廳令第三十七號第二條ノ趣旨ヲ貫徹セシムル爲メ教育上故障アリト認ムヘキ營業ヲ許可シ又ハ

- 建物ヲ建築セシメサル標旗取計フヘシ
- 明治三十六年三月十三日訓令第三十五號
- 案内業者取締規則ノ通定
- 案内業者取締規則
- 第一條 本則ニ於テ案内業者ト稱スルハ通譯ニ依リ諸般ノ案内ヲ業トスル者ヲ指ス
 - 第二條 案内業者ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ送附シ免許ヲ受クヘシ
 - 一 履歷書
 - 二 修業證書若クハ卒業證書ヲ所持スルモノハ其ノ寫
 - 第三條 案内業ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ依リ當廳ニ於テ外國語ノ試験ヲ爲シタル上ニテ免許ス
 - 但シ中學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業ノ者ハ試験ヲ爲サスニテ免許スルコトアルヘシ
 - 第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ免許モス
 - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後三箇年ヲ経過セサル者
 - 二 精神病又ハ人ノ嫌厭スヘキ疾病アル者
 - 三 素行不其ナル者
 - 第五條 案内業者族籍住所氏名ニ異動ヲ生シ若クハ免許證ヲ失失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ免許證ノ書換再渡ヲ請フヘシ
 - 廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ免許證ヲ返納スヘシ
 - 第六條 案内業者ハ豫メ該案内者ヨリ受クヘキ報酬其ノ他諸費用ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ更定セントスルトキ亦同シ

- 第七條 案内業者ハ就業中免許證ヲ携帶スヘシ若シ警察官又ハ該案内者ヨリ免許證ノ提示ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第八條 案内業者ハ左記各號ニ該當スヘキ行為ヲ爲スヘカラス
- 一 名義ノ如何ヲ問ハス認可以外ノ報酬其ノ他諸費用ヲ請求シ若クハ請求セシムルコト
 - 二 物品ノ購買其ノ他諸般ノ周旋ヲ爲スニ際シ當事者ノ一方若クハ雙方ニ對シ不當ノ利益ヲ請求シ若クハ請求セシメ又ハ之ヲ受ケルコト
 - 三 強ク案内センコトヲ勸誘シ若クハ勸誘セシメ又ハ故ナク案内ノ依頼ヲ拒絶シ若クハ拒絶セシメ又ハ其ノ依頼ノ趣旨ニ反シタル案内ヲ爲スコト
 - 四 汚染セル服裝ヲ爲スコト
 - 五 他人ニ免許證ヲ貸與又ハ使用セシムルコト
 - 第九條 案内ノ報酬其ノ他諸費用ハ邦語及外國語ヲ以テ記載シ該案内者ニ交付スヘシ
 - 第十條 案内業者本則ニ違背シ又ハ第四條各號ノ一ニ該當スヘキ事實ノ生シタルトキハ其業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
 - 第十一條 第二條及第五條乃至第八條ニ違背シ又ハ前條ノ業務停止中案内者シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附 則
- 第十二條 他府縣ニ於テ案内業ノ免許ヲ受ケタル者ハ第二條ノ手續ヲ要セスシテ案内業ヲ爲スコトヲ得但シ該案内者ヨリ受クヘキ報酬其ノ他諸費用ニ就テハ其ノ免許ヲ爲シタル府縣ノ認可額ニ依ル
- 第十三條 三箇年以上案内業ニ従事シ現ニ營業中

第十類 保安 漁獵

1800

- 記載例
- 一 原簿ハ狩獵期間ノ年度ニ改調スヘシ
 - 一 原簿ハ一冊トシ種類ヲ分チ免狀ノ種類及等級別ニ口取ヲ付スヘシ
 - 一 免狀概算受高ハ米配スヘシ
 - 一 概算免狀ヲ受ケタルトキハ直ニ追番號ニ登記シ置キ下付毎ニ所定ニ登記スヘシ

(用紙半紙)

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

| 種 | 目 | 一 | 二 | 三 | 等 | 計 | 警察(分)署名 |
|------------|---|---|---|---|---|---|---------|
| 免狀受取 | 高 | | | | | | |
| 免狀下付 | 高 | | | | | | |
| 免許 | 稅 | | | | | | |
| 免狀再渡及書換高 | | | | | | | |
| 免狀再渡及書換手数料 | | | | | | | |
| 免狀剩餘返納高 | | | | | | | |
| 附銃獵禁止地名 | | | | | | | |
| 新設地名何何 | | | | | | | |
| 解除地名何何 | | | | | | | |

第三號樣式

(用紙半紙)

| 備考 | 鳥獸(卵雜)名 | 員數 | 捕獲(採取)ノ理由 | 捕獲(採取)地 | 許可ヲ受ケタル住所 | 警察(分)署名 |
|----|----------------------------------|----|-----------------|---------|-----------|---------|
| | 自明治 年(七)月(三十一)日 至明治 年(十二)月(三十一)日 | | 口 有 害 鳥 獸 捕 獲 表 | | | |

第四號樣式

(用紙半紙)

| 備考 | 鳥 獸 名 | 員 數 | 被害ノ狀況 | 捕 獲 地 | 許可ヲ受ケタル住所 | 氏 名 |
|----|-------|-----|-------|-------|-----------|-----|
| | | | | | | |

第五號雜形

徑 八 分
輪 幅 八 厘



黒肉ヲ用フヘシ

第六號樣式

(用紙半紙)

| 備考 | 第 號 | | | | 許可年月日 | 職 業 | 住 所 | 氏 名 | 年 齡 | 驅除届出年月日 | 驅除セシ | 有害鳥獸 | 數ノ種類員 |
|----|-------|------|-----|-----------|-------|-----|-----|-----|-----|---------|------|------|-------|
| | 驅除ノ方法 | 驅除期間 | 區 域 | 害驅除スヘキ種類有 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

記載例
一 番號ハ毎年一月新番號ヲ起シ押番號トス

(半葉ヲ示シタルモノナリ)

第十類 保安 漁獵

1801

第七號樣式

(用紙鳥ノ子)

二 本簿中許可證ヲ與フル者ト通知ヲ受ケタル者(各官衙吏員)トハ口取ヲ付シ區別スヘシ

表

| | | |
|----------|-----------|------|
| 第 號 | 出願人 | 住所職業 |
| | 氏 | 氏 |
| | 年 | 年 |
| | 年 | 年 |
| 期限 | 自明治 年 月 日 | |
| | 至明治 年 月 日 | |
| 區域 | 北海 道 廳 | |
| 明治 年 月 日 | | |

有害鳥獸驅除許可證

表

| |
|---|
| 驅除スヘキ鳥獸ノ種類及員數 |
| 鳥獸驅除ノ許可ヲ受ケタルモノ期限ノ終了ニ際シ其驅除シタル鳥獸ノ名稱及員數ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ數月ニ亙ルモノハ毎月末及終期ニ届出ヘシ |
| 許可期限ヲ終リタルトキハ十日以内ニ許可書ヲ返納スヘシ |
| 許可證ヲ亡失シタルトキハ其地警察官署及當初下付シタル警察官署ニ届出ヘシ |

第八號樣式

(用紙半紙)

保護鳥獸飼養名簿

| 鳥獸名稱 | 數 | 届出年月日 | 事 | 山 | 身 | 分 | 住 | 所 | 氏 | 名 |
|------|---|----------|---------------------|---------------------|---|---|---|---|---|---|
| 鳩 | 何 | 明治何年何月何日 | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | | | | | | |
| 鴉 | 何 | 、、、、、、、、 | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | | | | | | |
| 長 | 何 | 、、、、、、、、 | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | 何年何月何日何國何郡何村何誰(寶讓渡) | | | | | | |

● 犯罪

○明治十八年八月十一日根室縣丁第六十二號送(警察本署宛)

郵便送込人郵便物送込集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ帶テ犯罪ノ罪アリ司法警察官又ハ巡査ニ於テ直ニ之ヲ逮捕若クハ引致スル場合ニ於テハ同官又ハ巡査ニ於テ代人ヲ使用シ其送込人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局ヘ其集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局ヘ送込セシメ其費用ハ罪ヲ騷擾局ヘ請求スヘシ

右相違候事

○明治十八年十二月五日札幌縣第五十三號送(警察本署宛)

郵便送込人郵便物送込集配ノ途中罪ヲ犯シ又ハ帶テ犯罪ノ罪アリ直ニ之ヲ逮捕シ若クハ引致候場合アルトキハ代人ヲ以テ其送込人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局ヘ集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局ヘ送込スヘシ尤モ代人使用ニ係ル費用ハ騷擾局ヨリ戻入ノ答ニ付其都度關係書類相添ヘ申出ヘシ右相違候事

○明治二十年一月二十五日訓令號外(各警察署長宛)

神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ速ニ事實ヲ具申スヘシ

右訓令ス

○明治二十二年三月十九日訓令號外(警察署宛)

警察署ニ於テ國事犯罪ノ犯罪ヲ發見シタルトキ所轄警察署長列所上席檢事ニ密報之儀ニ付左ノ通り司法大臣ヨリ訓令有之候條自今右ニ依リ取扱フヘシ(別紙)

第十類 保安 犯罪

警察官ニ於テ左ニ記載シタル事件ヲ發見シタル時ハ直ニ其所轄始審裁判所ノ上席檢事ニ其旨ヲ密報セシムヘシ

- 一 國事犯罪ニ關スル陰謀若クハ其模倣アルトキ
- 二 兇徒聚衆若クハ其模倣アルトキ
- 三 議員其他ノ權者ニ關シ不穩ノ模倣アルトキ
- 四 政黨政社ヲ創立シ又ハ陰謀結盟シ或ハ解散シタルトキ
- 五 親親又ハ諸親等ニ託シ異常ノ結合ヲ爲シ若クハ其模倣アルトキ
- 六 政黨政社等ニ關スル景況
- 七 政黨政社等ニ異狀アルトキ
- 八 演說集會場ニ於テ監臨官ニ抗拒暴行シタルトキ
- 九 國事ニ關スル事件ニシテ秘密ニ文書ヲ出版又ハ頒布セシ者アルトキ
- 十 外國人ノ内國人ニ對シ又ハ内國人ノ外國人ニ對シ暴行シタルトキ

以上各事項ノ外國事又ハ治安上ニ關シ緊要ト認ムヘキ事アルトキ

右訓令ス

明治二十二年三月七日
司法大臣 伯野 山田顯義

○明治二十二年十一月二十一日訓令號外(警察署宛)

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時及海軍諸官ノ囑託ニヨリ逮捕シタル犯罪者送致方之義ニ關シ別紙ノ通り司法大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ(別紙)

司法省刑甲第四三二號

裁判所
警視廳
北海廳
(府縣東京府ヲ除ク)
海軍司令部

○明治二十五年十月十八日訓令第二百四十五號(監獄署長宛)

監獄集治監警察署宛

刑事被告人口リ上訴ノ取下ヲ爲シタルトキハ上訴ノ管轄裁判所ニ於テ其取下ヲ受理シタル日ヨリ刑期ヲ起算ス可シ但右ニ抵觸スル從前ノ訓令ハ之ヲ取消ス旨司法大臣訓令アリ

○明治二十六年十月十日訓令第二百八十三號(警察署長宛)

部集治監區役所警察署分署長長役場宛

司法警察官執務心得別紙之通訓令有之候條此旨心得ヘシ(別紙)

司法省民刑甲第一七四號

裁判所
警視廳
檢事局

北海 道 廳
府 憲 兵 司 令 部

司法警察官職務心得別冊ノ通相定ム
右訓令ス

明治二十六年九月二十六日

司法大臣 芳川 顯 正

(別冊)
司法警察官職務心得目録

| | |
|----------------|------------|
| 第一編 總則 | 自第一至第二十五條 |
| 第二編 捜査 | 第二十六至第四十二條 |
| 第一章 捜査着手 | 自第二十七條 |
| 第二章 捜査處分 | 自第四十三條 |
| 第一節 證憑及犯人ノ捜査 | 自第四十四條 |
| 第二節 被告事件送致 | 自第五十一條 |
| 第三編 假豫審 | 自第五十二條 |
| 第一章 檢證、捜索及物件差押 | 自第六十四條 |
| 第二章 證人訊問 | 自第六十五條 |
| 第三章 鑑定 | 自第八十五條 |
| 第四章 被告人逮捕 | 自第九十四條 |
| 第五章 被告人訊問 | 自第九十九條 |
| 司法警察官職務心得 | 自第一百九條 |

第一編 總則

第一條 司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フコトヲ其職務トス

第二條 左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察官ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモノトス

一 警視、警部長、警部

二 憲兵將校、下士

三 島司

四 郡長

五 市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員

六 林務官

七 北海道集治監典獄

八 海船ノ船長

第六條 以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察官ノ職務ヲ行フ

第三條 凡ソ第五ニ記載シタル者ハ急遽ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ讓ルヘシ

第三條 警視總監、府縣知事(東京府知事ヲ除ク)ハ各其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ

第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ時機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ秘密ニシテ細大ノ事ヲ注目スルコトヲ要ス

第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシ

メ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大率ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス

第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制力用フルコトヲ得ス

第十條 司法警察官ハ職務時間外ト雖モ急遽ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲ササル可カラス

第十一條 司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ捕獲シ公害ヲ除クコトヲ著眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢擧スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官、被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故實ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ讓ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ著用セサルトキハ司法警察官タルノ證憑ヲ携帶スヘシ若シ請求スル者アルトキハ之ヲ示スヘシ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署、憲兵屯營ニ照會シテ檢査、憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フ例トス但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域内ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官捜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付テハ犯罪ノトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ジ可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告スヘシ

刑罰法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪

一 高等官、華族、有位、勳章者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪

二 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪

三 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十一條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其處罰例ニ從ヒ處分スヘシ但隨隊兵及豫備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在リサル者及ヒ在官、現役又ハ召集中犯罪シ免官、免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

(參照)

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司

令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

海軍治罪法

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違背罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違背罪ハ違背罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲スヘシ

海軍軍人軍屬違背罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違背罪ハ違背罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號通ニ從ヒ處分ス可シ

(參照)

明治七年太政官第百二十八號通

司法警察規則附錄

第一條 外國公使及公使館職員ノ事

外國公使ハ我國憲法ヲ以テ禮遇スヘカ

ラサル通徒ナレハ是ヲ捕獲スル時ハ其家族並ニ公使館職員(書記官職員公使ト僑領書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僑領等)ニ對シテ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ)及ヒ其家屬馬車等モ同様ナリト思料スヘシ

第二條 內閣公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ區域ト看做シ若シ事故アリテ逮捕セサルコト得ルカ或ハ呼出シテ執問セサルコト得サルトキハ外務省ヲ經テ公使館(報知シ其確證ヲ待テ後引出スヘシ)尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內閣各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省(送達シ置クヘシ)警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置クヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在所ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スルトキ其簿記ト校照シ檢査シテハ一旦公使館同道シ照會ヲ送ケタル後其處分ヲ爲スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其人決シテ相違ナキ旨ヲ達フル時ハ公使館(同道シ若クハ如ク處置ス可シ)但シ重刑ニテ捕獲セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スルトキハ外決シテ立入ルヘカラス若シ重刑ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逸シテ門内ヘ侵入セシ等若シ等製ノ間モ檢査スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外
 人員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ
 スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シ
 テ其處分ヲ爲スヘシ

外國公使館員罪ヲ犯シ或ハ内國人
 公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ人員ナル外國人殺傷或
 ハ暴行火災強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公
 使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見
 スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ
 猶豫ナシ難キ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻
 公使館ヘ報知シ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ
 報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ
 決シテ手續捕縛等ノ事アルヘカラス或ハ屬
 員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報告シ改
 メテ彼レヨリ引渡チ受ケルノ手續ヲ施シ又
 コレヲ外務省ヘ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ自狀ヨ
 リ明ラニ其罪科ノ知ラレタル内國人現ニ公使
 館ニ歸ラレテ公使館ニ居住スルトキハ其館
 外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ
 同館ヘ照會チ乞フ館主ニ引渡チ要求シ其人ヲ
 受取リテ後チ之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之
 ヲ拒ムトキハ其旨ヲ外務省ヘ報知シテ其
 處分ヲ定ムヘシ

第二十三條 木邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身
 體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適
 用ス可カラズ

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬
 官署ノ印ヲ用ヒ年月日、場所ヲ記載シテ署名捺
 印シ毎葉ニ契印スヘシ若シ官署、公署ノ印ヲ用
 フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス
 可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿
 入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ヲ認印
 シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得可
 キ爲メ其字體ヲ存ス可シ

凡テ書類ハ文書ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ
 尖ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印ヲ
 要スル書類ハ之ヲ本人ニ證明カセ署名捺印セシ
 ム可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ
 又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲ捺印若クハ捺印セ
 シメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢舉シ
 公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的ト
 ス

第一章 捜査着手

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、
 新聞、風説其他ハ見聞シタル事柄ニ因リ犯罪アル
 コトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ
 於テ着手スヘキモノトス

第二十八條 告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告
 訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何種何等
 ノ名稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シク實ニ從テ處
 分スヘシ

第二十九條 告訴、告發ハ却下スヘキモノニ非ラ
 ス其捜査ニ着手スヘキ事件ナルト否トニ拘ハラ
 ス之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合
 ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適
 合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調
 査ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルト
 キハ隨意ニ其事柄ヲ陳述セシメ調査ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立ア
 リタルトキハ本人ヲ申立書面ヲ添出サシム又ハ
 其調査ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受ケタルトキハ成ル可ク
 犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人
 ノ住所、氏名其他證據及ヒ事實要考ト爲ルヘキ
 コトヲ申立書面ニ調査ヲ作ルヘシ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シ
 タルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其
 罪因ニ出タルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ
 如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコト
 ナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ
 注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シ
 タルカ爲メ後藤ヲ長ルル標榜アルトキハ其氏名
 ナ調査スルコトニ注意スヘシ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任
 狀ヲ添出サシムヘシ但法律上代理人告訴ヲ爲ス
 トキハ此限ニテアラス

第三十七條 告訴、告發ヲ取テ下アルモ其書面ハ還
 附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印
 シタル取テ下申立書ヲ添出サシム可シ

口述ヲ以テ取テ下爲ストキハ其申立ニ付調査ヲ
 作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲
 ス可キモノナリト雖モ急遽ヲ要スル事件ニ付キ
 一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ同
 司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ調査ニ着手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其
 陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ滅利ノ希望ニ出ツルモ
 ノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免シムル爲メ自
 ヲ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避ケルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ
 首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡
 不盡ニ注意ス可シ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪
 アリタルノ風説アルトキハ其出所、原因等ヲ取
 調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隱匿
 埋藏物等ヲ發見シタルトキハ犯罪ニ原因シタル
 十否ニ注意ス可シ

第二章 捜査處分

第四十三條 捜査處分ハ犯罪ノ原因、性質、方
 法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被
 害人ノ氏名、年齢、職業、出生ノ地、住所、本
 籍、身分、品行、前科ノ有無及證人ノ誰ナルコ
 ト其他證據ト爲ル可キ一切ノ事柄ヲ取調フルニ
 在リ

又被告人ノ利益ト爲ルヘキ標榜ニ注意ス可シ

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ證據物件所在ノ場所
 ニ就キ捜査ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ
 爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルト
 キハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取スヘシ

第四十五條 犯罪ノ事項ヲ證明ス可キ物件ハ所有
 者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全
 セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目録ヲ作リ
 所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第十類 保安 犯罪

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ
 其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ許諾ヲ得ルヲ
 要ス

第四十七條 捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實
 ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若
 クハ其所ニ就キ陳述ヲ聽クコトヲ得但呼出チ
 爲スニ濟面又ハ口頭ヲ以テ報知スヘシ

又其承諾ヲ得テ犯罪其他ノ場所ニ同行スルコト
 ナ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ
 陳述ハ之ヲ錄取スヘシ

事實取調ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面
 ナ添出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ
 爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之
 ヲ添出サシムヘシ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ
 爲スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム
 可カラズ但腐敗其他ノ原因ニ因リ其物件ヲ保存
 ス可カラサルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスル
 トキハ檢事ノ許可ヲ受ケヘシ其解剖ハ必要ナル
 部分ノ外之ヲ爲サシム可カラズ

(遵照)

明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察
 官更檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致
 命ノ原因ヲ確知シ難キ旨醫師申立ツル時ハ檢
 事(檢事派出ナキ地方ハ其地方長官)ノ許可
 ナ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致

合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調
 査ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルト
 キハ隨意ニ其事柄ヲ陳述セシメ調査ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立ア
 リタルトキハ本人ヲ申立書面ヲ添出サシム又ハ
 其調査ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受ケタルトキハ成ル可ク
 犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人
 ノ住所、氏名其他證據及ヒ事實要考ト爲ルヘキ
 コトヲ申立書面ニ調査ヲ作ルヘシ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シ
 タルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其
 罪因ニ出タルナキヤ否ニ注意ス可シ又告訴人ノ
 如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコト
 ナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ
 注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シ
 タルカ爲メ後藤ヲ長ルル標榜アルトキハ其氏名
 ナ調査スルコトニ注意スヘシ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任
 狀ヲ添出サシムヘシ但法律上代理人告訴ヲ爲ス
 トキハ此限ニテアラス

第三十七條 告訴、告發ヲ取テ下アルモ其書面ハ還
 附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印
 シタル取テ下申立書ヲ添出サシム可シ

口述ヲ以テ取テ下爲ストキハ其申立ニ付調査ヲ
 作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲
 ス可キモノナリト雖モ急遽ヲ要スル事件ニ付キ
 一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ同
 司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ調査ニ着手ス可シ

ノ手續ヲ爲ス可シ但送致後ト雖モ必要ナルトキ
 ハ仍ホ捜査ヲ爲スヘシ

被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及意見書ヲ
 添ヘ且書考トナル可キ事項ヲ報告ス可シ

第五十三條 重罪、輕罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ
 速ニ其事柄ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ送致
 ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ送致ス可シ

第五十四條 木邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯
 罪ニ付テハ捜査ヲ爲シタル者ヨリ其事柄ヲ其地
 ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致ス可シ但急遽ヲ要
 スルトキハ直ニ管轄領事署所在地ノ地方裁判所
 ノ檢事局ニ送致スルコトヲ得此場合ニ於テハ速
 ニ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ其旨ヲ報告ス可
 シ

第三編 假贖濟

第五十五條 司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、準
 現行犯ニ付キ刑罰訴訟法第四百七條ノ處分ヲ
 爲スル假贖濟トス

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタル
 ト否トナ同ハス假贖濟處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 準現行犯ニ付テハ成ル可ク被告人ヲ
 逮捕シタル後假贖濟處分ヲ爲スコト得但數人共犯
 ノ場合ニ於テハ他ノ正犯、從犯未ダ捕ニ就カス
 ト雖モ假贖濟處分ヲ爲スコトヲ得

家宅内ノ犯罪ニ付テハ戸主又ハ戸主ニ代ハル可キ者
 ノ請求ニ因リ檢査處分ヲ爲シタルトキハ被告人
 ナ逮捕セスト雖モ其他ノ假贖濟處分ヲ爲スコト
 ナ得

第五十八條 假贖濟ニ着手シタル事件ト雖モ一タ
 ヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假贖濟處分ヲ爲
 スコトヲ得

第五十九條 假贖濟ニ着手シタル場合ニ於テ檢査

刑事又ハ檢事其處分ヲ爲サントスルトキハ速ニ之ヲ讓ル可シ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證據ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ル可キ模範ニ付テモ亦其取調ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ル可シ但時宜ニ因リ巡查、憲兵上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第六十三條 假豫審ニ着手シタル後其取調ヲ繼續スヘキモノニ非ストモ思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ放免シ其旨ヲ檢察局ニ通知シ得

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除外現行犯ノ場合ト雖モ捜査處分ニ止ム可シ

第一章 檢證、捜索及物件差押

第六十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其地ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ捜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ捜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲ爲スニハ戸主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ル可ク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトヲキテ要ス

第六十八條 事實ヲ證明ス可キ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ル可ク住居、身體又ハ物件ニ就キ捜索ヲ爲サス木人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシム可シ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居、身體又ハ物件ヲ捜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ル可シ

第七十條 住居内ノ檢證、捜索、物件差押ニ付テハ戸主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ自願、強迫、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシム可シ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢證、捜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハル可キ者ノ立會アルコトヲ要ス

第七十二條 檢證、捜索ノ場合ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模範ヲ知ルニ足ル可シト思料スルトキハ之ヲ差押フ可シ

第七十三條 官吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 檢證、捜索、物件差押ノ場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ被告人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十五條 住居内ノ檢證、捜索、物件差押ハ日没後ノ時爲スコトヲ得但急遽ヲ要スル場合ニ於テハ日主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證、捜索ヲ爲スコトヲ得

第七十六條 旅館、料亭其他夜間ト雖モ被告人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ檢證、捜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪者アリテ急遽ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限リ檢證、捜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 住居内ノ檢證、捜索、物件差押ヲ爲スニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ且二門戸、鑰、器具等ヲ損壞スルコトヲキテ要ス

第七十九條 檢證、捜索ノ場合ニ於テ發見シタル毀損ヲ防ク爲メ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第八十條 檢證、捜索、物件差押中雜沓、喧嘩其他妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止ス可シ又何人ニ限リス免許ヲ得シテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルル得若シ其禁ル犯罪者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルルマテ留置スルコトヲ得

第八十一條 檢證、捜索、物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セサルヲ要ス若シ止ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ證據滅失ヲ預防スル爲メ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十二條 檢證、捜索、物件差押ヲ爲シタル場所ニ限ル可シ

第八十三條 檢證、捜索、物件差押ヲ爲シタル時ニ於テ被告人ノ身體、衣服、所持スル物件ニ就キ檢證、捜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 檢證、捜索ノ場合ニ於テ被告人ノ身體、衣服、所持スル物件ニ就キ檢證、捜索、物件差押ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ被告人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 被告人ニハ先ツ其姓名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラズ

第八十七條 被告人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解釋シ易キ言語ヲ用ヒ且法律ノ成語等ヲ用フ可カラズ

第八十八條 被告人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコトヲ得若シ其陳述ニ對シ二目録ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抄書又ハ原本ヲ渡スコトヲ得

第八十九條 差押ヘタル物件ハ毀損、毀損ヲ防ク爲メ封印ヲ爲シ且其封印ヘテシタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添附スヘシ又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第九十條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サルハ開披ス可カラズ

第九十一條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第九十二條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第九十三條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定書必要トスルトキハ醫師、釋藥、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉ス可カラズト雖モ成ルヘク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定

他該ニ涉ルトキハ之ヲ止メ離離アルトキハ之ヲ實ス可シ

第九十八條 被告人ニハ先ツ其姓名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラズ

第九十九條 被告人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解釋シ易キ言語ヲ用ヒ且法律ノ成語等ヲ用フ可カラズ

第一百條 被告人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコトヲ得若シ其陳述ニ對シ二目録ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抄書又ハ原本ヲ渡スコトヲ得

第一百零一條 差押ヘタル物件ハ毀損、毀損ヲ防ク爲メ封印ヲ爲シ且其封印ヘテシタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添附スヘシ又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第一百零二條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サルハ開披ス可カラズ

第一百零三條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第一百零四條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第一百零五條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定書必要トスルトキハ醫師、釋藥、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百零六條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第一百零七條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉ス可カラズト雖モ成ルヘク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第一百零八條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定

第一百零九條 被告人ニハ先ツ其姓名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラズ

第一百一十條 被告人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解釋シ易キ言語ヲ用ヒ且法律ノ成語等ヲ用フ可カラズ

第一百一十一條 被告人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁、討論ヲ爲スコトヲ得若シ其陳述ニ對シ二目録ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其抄書又ハ原本ヲ渡スコトヲ得

第一百一十二條 差押ヘタル物件ハ毀損、毀損ヲ防ク爲メ封印ヲ爲シ且其封印ヘテシタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添附スヘシ又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ附スル等便宜ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第一百一十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サルハ開披ス可カラズ

第一百一十四條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第一百一十五條 差押ヘタル物件トキハ其證書ヲ渡スコトヲ得

第一百一十六條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定書必要トスルトキハ醫師、釋藥、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百一十七條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第一百一十八條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉ス可カラズト雖モ成ルヘク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第一百一十九條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定

第三百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ應ニ途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ拘留場ニ入レ置クコトヲ得

第三百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合テ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲ爲スヘシ

勾引狀ヲクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三百五條 常人ニ於テ現行犯、準現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第三百六條 現行犯、準現行犯ニ付キ巡査、憲兵上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調査ヲ作ルヘシ逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ添出シタルトキハ其相違ヲ示シテ取調ヘ之ヲ調査ニ添置ク可シ

第三百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名、職業、住所及ヒ年月日時ヲ記載ス可シ其氏名分明ナラザルトキハ容貌、體格等ヲ明示スヘシ

第三百八條 勾引狀ハ巡査、憲兵上等兵ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第五章 被告人訊問

第三百九條 假豫審ニ於テハ取調ノ機ヲ失ス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢査、搜索、物件ヲ押及ヒ證人ヲ訊問ニ付キ急遽ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラズ

第四百條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問ス可シ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
- 二 有位又ハ帶勳者ナルキ否
- 三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑

名、裁判官渡ヲ爲シタル姓名及ヒ其ノ年月日

第四百一條 被告人ヲ訊問スルニハ櫻和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一様ノ訊問ヲ爲スヘカラス

第四百二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス又簡明ヲ旨トシ難メテ疑似ニ涉ルコトヲ避クヘシ

第四百三條 被告人ニハ自由ニ發言セシムヘシト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意スヘシ

第四百四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問ス可カラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ル可ク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フヘシ

第四百五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ルヘク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防クヘシ且數ク事實ヲ得可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲スヘシ

第四百六條 證物物件ノ時價計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシムヘシ

第四百七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラザレバ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可カラス

第四百八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

第四百九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其ノ言語、氣色等ニ注意スヘシ

第五百條 被告人ノ自狀アリト雖モ一概ニ眞實ト爲ス可カラス其自狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトヲ注意スヘシ

第五百一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調査ヲ作リ

同合ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人ヲ訊問調査ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

明治三十二年七月十三日訓第三百九十五號(警察部支廳警察署分署長發給宛)

司法警察官外國人ニ關スル職務心得別冊ノ通リ定メラレ候條右ニ據リ取扱フヘシ

(別冊)

司法警察官外國人ニ關スル職務心得

第一條 司法警察官外國人ニ關シテ其職務ヲ行フニハ此職務心得ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外明治二十六年民刑甲第一七四號司法警察官職務心得ニ從フヘシ

第二條 司法警察官外國公使館員其他外國人ニ關係アル犯罪事件ヲ認知シタルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告ス可シ

第三條 司法警察官外國公使館員其他外國人ニ關シテ其職務ヲ行フニハ左ノ規定ニ從フ可シ

- 一 公使館ノ名簿ニ在ル外國人ニ對シテ逮捕若クハ取調ヲ要スルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

二 犯罪者タル内國人現ニ公使館ニ備レテ館内ニ住居シ逃亡ノ恐アルトキハ警戒其他必要ノ處分ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲ス可シ

三 公使館内ニハ其館主ノ請求アルトキノ外立入ル可カラス若シ重大ノ犯罪シタル者逃走シテ館内ニ入り猶豫ス可カラザルトキハ門衛ニ告ケ館主ノ許可ヲ受ケタル後館内又ハ邸内ヲ搜索ス可シ

四 公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外職員ニ對シテ職務ヲ行フノ必要アルトキハ第一號ノ手續ニ從フ可シ其車馬、家畜等ニ付テモ亦同シ

五 公使館ノ職員タル内國人館外ニ於テ現ニ重大ナル犯罪ヲ犯シ猶豫アリテ猶豫シ難キトキハ其場ニ引留置(手錠捕縛等)ノ事ヲ許サス(第一號ノ手續ヲ爲ス可シ)

六 公使館外ニ於テ内國人ヲ取調ヘ若クハ逮捕セントスルニ當リ公使館ノ雇人ナリト主張スルトキハ第一號ノ手續ヲ爲ス可シ但重大ノ犯罪ヲ犯シ逮捕ヲ必要トスルトキハ前條ノ手續ニ從フ

第五條 司法警察官ハ外國軍艦(ボート)ヲ包含ス以下同シ)内ニ於テハ其職務ヲ行フコトヲ得ス内外人ヲ問ハス重要ナル犯罪シタル者逃亡シテ帝國ノ港内ニ在ル外國軍艦内ニ入りタル場合ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ其艦長ニ對シ任意引渡ヲ請求スルコトヲ得

第六條 司法警察官ハ帝國港内ニ碇泊スル外國軍艦ニ屬スル軍人軍屬ニ對シテハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

其軍人軍屬ニシテ軍艦ヲ離レテ犯罪シタル者

二 對シテハ逮捕處分ヲ爲スノ外所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第七條 司法警察官ハ任命國ノ臣民ナル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、代辦領事及ヒ代理領事ノ犯罪ニ付テハ之ヲ逮捕シ若クハ留置スルコトヲ得ス但帝國ノ法律ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ此限ニ在ラズ

第八條 司法警察官ハ帝國駐在ノ外國領事館ノ事務所及ヒ居住内ニ於テハ其職務ヲ行フコトヲ得但記録簿類ハ公取間ハ之ヲ檢閱シ若クハ差押フルコトヲ得ス其公用ノ記録簿類館外ニ在ルトキ亦同シ

領事官力其任命國ノ臣民ニアラザルトキ又ハ其任命國ノ臣民ナル商業工業其他ノ營業ニ從事スルトキハ其私用簿類ニ付テハ前項規定ノ規定ヲ適用セス

第九條 前二條ニ掲ケタル場合ニ於テハ急遽處分ヲ要スルモノノ外所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第十條 司法警察官ハ帝國ノ領海若クハ港内ニ在ル外國商船内ニ於テハ其職務ヲ行フコトヲ得但乘組員船内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニアラザレバ其職務ヲ行フコトヲ得ス

- 一 帝國ノ陸上若クハ港内ノ安寧、秩序ヲ害シタルトキ
- 二 帝國ノ臣民又ハ乘組員以外ノ者ニ關係アルトキ

第十一條 司法警察官其職務ヲ行フニ當リ領海又ハ港内ニ在ル外國商船ノ出港若クハ通行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ速ニ所轄檢事ニ報告シ其指揮ヲ待ツ可シ

第十二條 外國人口頭ヲ以テ告訴、告發又ハ自白ヲ爲サントスル場合ニ於テ官署通シタルトキハ便宜通事ヲ用ヒ其陳述ヲ録取ス可シ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官ノ作製シタル調査ノ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ通事及本人ヲシテ署名若クハ署名捺印セシム其旨ヲ附記ス可シ

第十三條 外國人外國語ヲ以テ口頭ノ告訴、告發又ハ自白ヲ爲シタル場合ニ於テ司法警察官、通事ニ依リ之ヲ調査シ作製シタルトキハ自白之ヲ通譯シテ本人ニ讀聞カセ署名若クハ署名捺印セシム其旨ヲ附記ス可シ

第十四條 外國人法律上代理人ノ資格ヲ以テ告訴ヲ爲スニ付キ其資格ニ關スル領事ノ證明書ヲ提出スルトキハ成ルヘク其ノ譯文ヲ添附セシム可シ

第十五條 犯罪事件ニ關シテ外國人ヨリ提出スル告訴狀、告發狀、自白狀、鑑定書、委任狀其他ノ書類ハ外國語ナルトキト雖モ受理ス可シ但提出者ヲシテ成ルヘク譯文ヲ附セシム可シ

前項ノ譯文ニハ譯者ヲシテ其住所職業ヲ記入シ署名若クハ署名捺印セシム可シ

第十六條 外國人ヨリ提出スル外國文ノ委任狀ニハ相當ノ印紙ヲ貼用シ其署名又ハ印章ヲ以テ之ヲ捺印セシム可シ

第十七條 告訴書、取及ヒ變更ニ付テハ第十條、第十三條及ヒ第十五條ノ規定ヲ適用ス

第十八條 外國人ノ爲スヘキ署名ハ外國文字ナルモ妨ナシ

第十九條 司法警察官外國人ノ現行犯アルコトヲ認知シ假豫審ヲ必要ナリト思料スルトキハ速ニ

其處分ニ着手シ一面之レヲ所轄檢事ニ報告ス可シ
 其他ノ場合ニ於テハ急遽ヲ要スルモノノ外檢事
 ノ指揮ヲ待テ着手ス可シ
 第二十條 司法警察官假探審ノ爲メ調査ヲ作製ス
 ルニ當リ日本語ニ通セザル外國人立會ヒタルト
 キハ便宜通事ニ依リ之ヲ讀ミ聞カセ通事ト共ニ
 署名若クハ署名捺印セシム可シ
 第二十一條 外國人ナル被告ニ對シテハ左ノ事項
 ニ付テモ訊問ヲ爲ス可シ
 一 國籍
 二 帝國ニ於ケル住所又ハ居所
 三 外國ニ於テ受刑ノ有無
 四 帝國ニ來リタル時期及ヒ目的
 五 本國ヲ去リタル時期
 六 家族ノ有無及ヒ其住所又ハ居所
 七 帝國ノ勳章又ハ年金ヲ受領シ居ルヤ否ヤ
 被告ノ陳述ヲ聽クニ付テモ亦前項ニ列記シタ
 ル事項ニ注意ス可シ
 第二十二條 被告人、證人、鑑定人、外國人ニシ
 テ日本語ニ通セザルトキハ通事ヲ用ヒ訊問ヲ爲
 シ其調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀ミ聞カセ通事及
 本人ヲシテ署名若クハ署名捺印セシム可シ
 第二十三條 外國ノ官吏、公吏ノ職務ニ關スル事
 項其他身分職業ニ關リ知り得タル事項ニシテ默
 秘スヘキ義務アルモノニ付テハ本人ノ承諾アル
 ニ非レハ口述ヲ爲サシムルヲ得ス
 第二十四條 帝國駐在ノ外國領事館ニ於テ檢證、
 捜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テハ領事官又ハ

其代理者ノ立會アルコトヲ要ス
 第二十五條 司法警察官、外國領事官ノ駐在スル
 帝國港内ニ在ル外國商船ニ赴キ檢證、捜索、物
 件差押、逮捕、訊問其他強制の處分ヲ爲サント
 スルトキハ該領事官ヲ立會フコトヲ得セシ
 ムル爲メ豫メ相當ノ日時ヲ定メ其旨ヲ通知ス可
 シ官署ニ於テ其乘組員ヲシテ證言又ハ陳述ヲ爲
 サシムルトキ亦同シ
 領事官又ハ代理者ニシテ指定ノ日時ニ出頭セザ
 ルトキハ其國席ニ拘ハラフス前項ノ處分ヲ爲スコ
 トヲ得
 第一項ノ場合ニ於テ作製シタル調書ニハ領事官
 ニ立會ヲ通知シタルコト及ヒ其立會ノ有無ヲ記
 載ス可シ
 領事官ノ駐在セザル港ニ於テハ本條ノ規定ヲ適
 用セズ
 第二十六條 外國人ニ對シテ發スル呼出狀、召喚狀、
 勾引狀ニハ便宜譯文ヲ付ス可シ
 第二十七條 外國人ニ對シテ令狀ヲ執行スルトキハ
 成ルヘク外國語ニ通スル巡查、憲兵上等兵ヲ使
 用ス可シ
 第二十八條 非現行犯ノ場合ニ於テモ被疑者タル
 外國人ノ國籍分明ナラヌ又ハ帝國内ニ住所若ク
 ハ居所ヲ有セザルトキハ其旨ヲ證明ナルトキ
 ハ其承諾ヲ得テ之ヲ官署其他ノ場所ニ同行スル
 コトヲ得
 第二十九條 外國人ニ對シテ任意出願ヲ求ムル爲メ
 ノ通知ハ口頭タルト書面タルトナ間ハス便宜外
 國語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十條 日本語ニ通セザル外國人ノ陳述ヲ聽ク
 爲メ通事ヲ用ヒタルトキハ聽取書中ニ其通事ノ
 職業住所氏名ヲ記載スヘシ
 第三十一條 外國人ヨリ差押ヘタル物件又ハ其承
 諾ヲ得テ領證シタル物件ニ關シ交付ス可キ口録
 ニハ便宜譯文ヲ添附ス可シ
 第三十二條 外國人ニ就キ假探審又ハ捜索處分ヲ
 爲ストキハ成ル可ク外國語ヲ以テ官職氏名ヲ記
 シタル名刺ヲ交付ス可シ巡查、憲兵上等兵第二
 十八條ノ職務ヲ行フトキ亦同シ
 第三十三條 外國人ノ國籍、身分、職業、氏名又
 ハ船舶、器具ノ名稱等ハ眞假名ヲ以テ之ヲ記シ
 成ルヘク其榜ヲニ原字ヲ附記ス可シ
 第三十四條 外國人ノ國籍、氏名、年齢、職業其
 他犯罪事件ニ關シ取調ノ必要アルトキハ帝國駐
 在ノ外國領事官ニ照會スルコトヲ得
 領事官所在地以外ノ司法警察官ハ其所在地ノ司
 法警察官ニ電話シテ前項ノ照會ヲ爲スコトヲ得
 第三十五條 外國官署、公署、帝國駐在ノ外國公
 使館及ヒ帝國港内碇泊ノ外國軍艦艦長ニ照會ヲ
 要スル事項アルトキハ其旨ヲ所轄檢事ニ申立ツ
 可シ
 第三十六條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發
 シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人
 ノ攜帶スル物件ハ之ヲ差押ヘ其旨ヲ傳フヤ本人
 ト共ニ檢事ニ引渡ス可シ
 ○明治二十七年五月二十六日訓第四百九十二號(警
 察署同分署宛)
 證憑物件原簿様式左ノ通り定ム

證憑物件原簿様式

(用紙半紙)

| 受理番號 | 第 | 年 | 月 | 日 | 號 | 主任官 | 警部 | 氏 | 名 | 印 | | | |
|----------|---|---|---|---|---|-----|----|---|---|---|---|---|---|
| 重輕罪件銘簿番號 | 第 | | | | | 人 | 告 | 被 | 氏 | 名 | | | |
| 品目 | 送 | 致 | 年 | 月 | 日 | 假 | 下 | 渡 | 年 | 月 | 日 | 備 | 考 |

記載例

- 一 受理番號ハ一號ヨリ起スルモノトス
- 一 物件ハ一種類毎ニ分割(組綿入、木綿袴、フランネル單衣ト區別スルノ類)シ品目ノ欄ヘ記載スルモノトス
- 一 物件中檢事ヘ送致ノモノト假下渡ナラスモノトアルトキハ其旨備考ヘ記載スルモノトス
- 一 物件ノ運搬シ難キモノニシテ看守者ヲ附シ若クハ保管ヲ命シタルトキハ其旨備考ヘ記載スルモノトス
- 一 前各項ノ外後日參考トナルヘキ事項ハ總テ備考ヘ記載スルヲ要ス

○明治二十八年十月九日訓第二百七十八號(警察署同分署宛)
 叙功者犯罪取扱方ハ勳六等以上ノ者ト同一ニスヘキ旨司法大臣ヨリ訓令アリ此旨心得ヘシ

○明治三十二年七月十八日訓第四百號(警察署同分署宛)
 證憑物件原簿様式別紙ノ通り定ム

(別紙)

第十類 保安 犯罪

場所及被
告者氏名

巡査不足ニシテ前項ニ據リ難キ場合ハ輪駐ハ一定ノ場所ニ保管シ留置場ハ時時巡視スヘシ

第二條 留置人ノ出入ハ署長又ハ犯罪取調主任ノ指揮アルニテラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

水火風震ノ被災ニ遭ハスルトキハ臨時避難ノ處置ヲ爲スヘシ

第三條 留置場ノ位置事務所休館所又ハ小使部屋ト隔離スル場所ニ於テハ通信器ヲ設ケ置クヘシ

第四條 留置人ノ内、男女、共犯、既決未決ハ各別室ヲ區別スヘシ

第五條 留置場ノ各房前ニハ名札ヲ掲ケ置キ在場者ノ罪名(拘留換刑因ハ入監出監ノ月日トモ)氏名ヲ記スヘシ

第六條 留置場ハ毎朝掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

但シ房内ハ適宜留置人ヲシテ掃除シシムルコトヲ得

第七條 臥具ハ時時房外ニ出シ日光ニ晒ラシテ不潔ナラサル様注意スヘシ

便器ハ毎朝掃除シ時時大氣ニ晒シ臭氣ヲ去ルヘシ

第八條 臥具ハ房内一隅ニ置カシメ疾病其他ノ事故アルニテラサレハ書問之ヲ使用セシムヘカラス

第九條 留置人ノ使用ハ夜夜ニ拘ハラシ便器ヲ房内ニ入レ止ムナキ事故アルニテラサレハ房外ニ出スヘカラス

但シ犯罪輕微ニシテ逃走ノ虞アリキ者ハ此限ニテラサス

第十條 留置人ノ飲食物ハ喫飯前署長(不在ノトキハ警部又ハ巡査)ニ於テ検査スヘシ(シテ器ハ本

製ノ碗類ヲ用ヒ陶器ヲ使用スヘカラス

第十一條 未決留置人ニ對シテ書類書籍用紙衣服臥具等ノ差入ヲ請フモノアルトキハ新聞紙其他時事ノ論說ヲ記シタル書類及通譯破紙ノ廢アルモノ等ヲ除キ之ヲ許可スヘシ

但シ臥具ハ可成毛布ニ限ルヲ要ス

第十二條 差入飲食物ハ一日三回一人一食ノ料ニ限リ酒煙草及衛生ニ害アルモノヲ除キ之ヲ許可シ喫飯ノ際配與スヘシ

第十三條 留置人現行ノ法律命令書ヲ看ト請フトキハ之ヲ許スヘキモノトス

既決囚ニハ現行ノ法律命令書、書籍、用紙、印紙、郵便切手、貨紙幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許ササルモノトス但シ書籍ハ感化又ハ紀律ニ妨ケナキモノニ限ルヘシ(三十二年八月訓第四百五十五號ヲ以テ本條改正)

第十四條 差入品ハ危險物毒物等包藏ナキヤ否又飲食物ハ尙ホ健康ヲ害スルモノニテラサレバ否ヲ検査スヘシ(三十二年八月訓第四百五十五號ヲ以テ本條改正)

第十五條 留置人ニ接見セント請フ者アルトキハ其氏名身分住所職業及事由ヲ詳悉シタル上之レヲ許スモノトス接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ容貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ニハ署長又ハ犯罪取調主任立會フヘシ接見ノ時間ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス但シ事情止ムヲ得サル者ハ特ニ許可スルコトヲ得(三十二年八月訓第四百五十五號ヲ以テ本條改正)

第十六條 留置人コトヲ發見ノ信齊又ハ視察放逐等コトヲ來著シタル信齊ハ署長又ハ犯罪取調主任檢閱ノ上差支ナキモノニ限リ發遣若クハ交付スヘシ

第十七條 以上各條ニ於テ差入接見及信齊ノ取扱ヲ規定スト雖モ列檢事ノ發シタル令狀ニ據リ逮捕セシ刑事被告人又ハ裁判所へ交付後ノ刑事被告人ニ係リ監獄則ニ於テ裁判官ノ檢閱若クハ允許ヲ受クヘキ明文アルモノハ同則ニ準據スヘシ

第十八條 四十八時間以上留置スル者ハ毎日二十分以上場外ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ但シ逃走ノ虞アル者ハ此限ニアラス(三十二年八月訓第四百五十五號ヲ以テ本條追加第十八條以下順次修正)

第十九條 巡査留置人ヲ取扱フニハ左ノ項目ニ據ルヘシ

一 新ニ入場セシムル者ハ身體衣服ヲ嚴密ニ點檢シ衣服ノ袴袂其他ニ包藏品ナキヤ否ヤニ注意シ股引足袋等ハ之ヲ脱去セシメ輸入ナラシメ其箱内ヲ手檢査スルヲ要ス

二 留置場ニハ著衣手拭或ハ一重襪ニシテ衣服類ヲ纏ムルニ足ルヘキ品ノ外ハ攜帶セシムヘカラス

但シ水人ノ請求ニヨリ署長又ハ犯罪取調主任ノ特許アルモノハ此限ニアラス

三 所持金品ハ立會人ト共ニ留置人ノ面前ニ於テ點檢スヘシ

四 點檢シタル金品物件ハ入頭ト共ニ留置人名簿又ハ拘留換刑執行簿ニ登記シテ署長ノ檢印ヲ受クヘシ

五 重罪犯其他逃走ノ虞アリト認ムルモノハ留置人名簿ノ備考欄内ニ其人相ヲ描記シ置ク

但シ他ノ簿册ニ人相ノ描記アルモノハ此限ニアラス

六 留置人ヨリ疾病其他ノ事故ヲ申立ツルトキハ署長又ハ犯罪取調主任ニ開申シ指揮ヲ受クヘシ

七 留置人ヲ房外ニ出ストキハ後ヨリ保護スヘシ

但シ重罪犯等逃走ノ虞アル者ハ相當ノ戒具ヲ施スヘシ

八 房内ハ談話ヲ禁シ時時其動靜ヲ觀察シ書問濫リニ臥床セシムル等ノコトアルヘカラス

九 總テ差入品ハ署長(不在ノトキハ警部又ハ巡査)ニ於テ許可シタルモノノ外入ルルコトヲ得ス

第二十條 當番巡査交代ノ節ハ留置人名簿ニ照合シテ留置人ヲ點檢シ受授ヲ爲スヘシ

但シ學動注意ヲ要スルモノハ其旨傳告スヘシ

第二十一條 引繼ノ節留置人ノ員數ニ不足チ生スルカ其他異狀アルコトヲ發見シタルトキハ引繼ヲ中止シ署長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十二條 留置人ノ所持品ハ金員ハ收入處出外現金出納官更物件ハ物品會計官更チンテ保管セシムヘシ保管スヘキ金員ハ封印シ物件ハ封東シ

本人ノ氏名ヲ記シタル小札(金員ニハ氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ)ヲ付シ相當ノ器物ニ藏置スヘキモノトス

第二十三條 前條保管セシメタル金品物件ハ放免ノ時簿册ニ照ラシ調査ノ上還付領收證ヲ發シ還送スル場合ハ日録ニ照ラシ還送スヘシ

第二十四條 監獄支署ノ設ケナキ區裁判所所在地外ノ警察官署ニ於テハ第二號様式ノ拘留換刑執行簿ヲ製シ名簿原簿(明治二十六年十二月內務省訓令第二十九號)ニ代用スヘシ

第一號様式 留置人名簿

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|----|----|----|---|-----|-----|-----|---|---|---|---|---|
| 考 | 備 | 月出 | 月入 | 區房 | 罪 | 第何 | 署長 | 檢印 | 取 | 任 | 官 | 氏 | 名 |
| | | | | | | 何 | 何 | 何 | | | | | |
| 人 | 相 | 何 | 何 | 何 | 何 | 第一房 | 第二房 | 第三房 | 被 | 告 | 人 | 年 | 月 |
| | | | | | | 何 | 何 | 何 | | | | | |
| 記載ノ項目ハ拘留換刑執行簿ノ規定ニ準スヘシ | | | | | | | | | | | | | |

一 本簿ニハ名籍原簿ヘ登記シタルモノヲモテ登記スヘシ
一 拘留換刑執行簿ニ登記シタルモノハ本簿ニ登記ヲ要セス

第二號様式 拘留換刑執行簿

| | | | | |
|-------|-----------------------|--------|--------|--|
| 第何號 | 第何署 | 第何長 | 第何印 | 取扱主任官氏名 |
| 命月日 | 何年何月何日 | 何年何月何日 | 何年何月何日 | 北海道府 釧路郡 市町村 番地士族平民戸主又ハ何何 何 某 年 齡 |
| 罪名 | 何何 | 何何 | 何何 | |
| 刑罰 | 禁錮何月何日 拘留何日(科料何換刑) | 何年何月何日 | 何年何月何日 | |
| 宣告月日 | 何年何月何日 | 何年何月何日 | 何年何月何日 | |
| 執行日數 | 至何年何月何日 | 何日 | 何日 | |
| 犯數 | 再(三四)犯 | 人 | 四 | |
| 身 體 格 | 體 格 | 體 格 | 體 格 | |
| 髮 髻 | 髮 髻 | 髮 髻 | 髮 髻 | |
| 額 髻 | 額 髻 | 額 髻 | 額 髻 | |
| 齒 齦 | 齒 齦 | 齒 齦 | 齒 齦 | |
| 鼻 口 | 鼻 口 | 鼻 口 | 鼻 口 | |
| 耳 色 | 耳 色 | 耳 色 | 耳 色 | |
| 容 貌 | 痘 痕 | 痘 痕 | 痘 痕 | |
| 文 身 | 異 徵 | 異 徵 | 異 徵 | |

備 考

○明治二十四年五月二十三日訓第四十四號(警察署宛)
本道内國人護送ノ際汽車汽船ノ便アル地ヲ經過スルトキハ便宜ノ警察署又ハ警察分署ヘ直チニ護送スルコトヲ得

○明治三十一年二月三日訓第三十一號(警察署同分署宛)
囚人及刑事被告人押送手續左ノ通定ム
但シ明治二十七年(二月)訓第六十五號囚人護送心得ハ廢止ス

囚人及刑事被告人押送手續
第一條 汽車汽船ノ便アル地ノ押送ハ成ヘク之ヲ利用シ直ニ押送先又ハ便宜ノ官署ニ押送スヘシ
第二條 押送巡査ノ人員ハ被押送者二名以下ハ一名トシ以上三名毎ニ一名ヲ増スヘシ其端數ヲ生スルトキモ亦同シ
第三條 電報犯ナルカ若クハ逃走奉行又ハ劫奪セラルルノ虞アルモノハ適宜増員スルコトヲ得犯情輕微ナルモノハ適宜減員スルコトヲ得
第四條 押送先接近ナルカ若クハ汽車汽船等ニテ戒護ノ便利アル場合モ亦前項ニ同シ
第五條 押送巡査二名以上ヲ要スル場合ニ於テ定員不足ナルトキハ其端數ヲ總取人夫トスルコトヲ得
第六條 選傳ニ依リ押送スヘキ囚人及刑事被告人ノ員數ハ一時ニ凡ソ十名以内ヲ度トスヘシ
第七條 押送ヲ受ケタル警察官署ニ於テ押送巡査ヲキトキハ引續キ前押送者ヲ使用スルコトヲ得
第八條 此場合ニ於テハ其所屬署ニ通報スヘシ
第九條 押送巡査警署ノ際其署ヘ押送スヘキ者アルトキハ其巡査ヲシテ押送セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ假リニ同巡査ヨリ受領證ヲ發シ置クヘシ
第十條 選傳押送ノ場合ニ於テハ押送官署ハ成ヘク前以テ大ニ交付ヲ受ケヘキ官署ニ其人員及押送日時等ヲ通報スヘシ若シ被押送者ニシテ逃走奉行其他注意ヲ要スヘキ廉アルトキハ其旨ヲモ通報スヘシ
第十一條 押送ハ成ヘク速ニ之ヲ爲シ一時ニ數人ヲ拘留シテ押送ニ附スヘカラス
第十二條 共犯ノ刑事被告人ハ各別ニ押送スヘシ若シ止ムヲ得ス同時ニ押送スルトキハ戒護ヲ嚴ニシ通報等ノ弊ナカラシムヘシ
第十三條 押送ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ特ニ選致金品ニ注意シ目録ニ照合シタル上受授ノ手續ヲ了シ別紙様式ノ受領證ヲ發スヘシ
第十四條 押送途中休憩ヲ要スル地ハ豫メ其場所ヲ定メ其以外ノ地ニ於テハ成ヘク休憩又ハ飲食用便等ヲ爲サシムヘカラス
第十五條 押送スルトキハ發程前身體著裝等ヲ檢シ密帶品ナキヤ否ヤ且ツ著裝ノ解弛等ニ注意スヘシ
第十六條 貨物ヲ押送巡査ニ託スル場合ニ於テハ其包裝ニ封緘ヲ施スヘカラス
第十七條 被押送者ノ所持金品ハ發送前押送巡査ニ於テ照合點檢シ押送先ニ著シタル上更ニ目録ト照合點檢シテ引渡スヘシ
第十八條 左記ノ場合ニ於テハ成ヘク馬車ヲ用ユヘシ
一 老人衰弱者其他少行ニ堪ヘサル者ナルトキ
二 逃走奉行又ハ劫奪セラルルノ虞アルトキ
三 至急押送ヲ要スルトキ
四 土地ノ狀況其他事情ニ依リ止ムヲ得サルトキ
第十九條 被押送者ニハ手錠及戒繩ヲ施スヘシ但シ犯情輕微ナルモノハ戒具ノ端數ヲ略スルコトヲ得
第二十條 總テ戒具ハ日立サレ注意スヘシ但シ犯人ノ暴動ニ依リ特ニ發戒ヲ要スルモノハ此限ニアラス
第二十一條 押送途中ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ
一 被押送者ハ一歩前ニ立シメ捕繩ノ一端ハ緊シク把持スヘシ
二 被押送者ト同車スルトキハ囚人ノ右ニ乘セ押送者ハ左ニ在ルヘシ

○明治二十四年五月二十三日訓第四十四號(警察署宛)
本道内國人護送ノ際汽車汽船ノ便アル地ヲ經過スルトキハ便宜ノ警察署又ハ警察分署ヘ直チニ護送スルコトヲ得

○明治三十一年二月三日訓第三十一號(警察署同分署宛)
囚人及刑事被告人押送手續左ノ通定ム
但シ明治二十七年(二月)訓第六十五號囚人護送心得ハ廢止ス

囚人及刑事被告人押送手續
第一條 汽車汽船ノ便アル地ノ押送ハ成ヘク之ヲ利用シ直ニ押送先又ハ便宜ノ官署ニ押送スヘシ
第二條 押送巡査ノ人員ハ被押送者二名以下ハ一名トシ以上三名毎ニ一名ヲ増スヘシ其端數ヲ生スルトキモ亦同シ
第三條 電報犯ナルカ若クハ逃走奉行又ハ劫奪セラルルノ虞アルモノハ適宜増員スルコトヲ得犯情輕微ナルモノハ適宜減員スルコトヲ得
第四條 押送先接近ナルカ若クハ汽車汽船等ニテ戒護ノ便利アル場合モ亦前項ニ同シ
第五條 押送巡査二名以上ヲ要スル場合ニ於テ定員不足ナルトキハ其端數ヲ總取人夫トスルコトヲ得
第六條 選傳ニ依リ押送スヘキ囚人及刑事被告人ノ員數ハ一時ニ凡ソ十名以内ヲ度トスヘシ
第七條 押送ヲ受ケタル警察官署ニ於テ押送巡査ヲキトキハ引續キ前押送者ヲ使用スルコトヲ得
第八條 此場合ニ於テハ其所屬署ニ通報スヘシ
第九條 押送巡査警署ノ際其署ヘ押送スヘキ者アルトキハ其巡査ヲシテ押送セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ假リニ同巡査ヨリ受領證ヲ發シ置クヘシ
第十條 選傳押送ノ場合ニ於テハ押送官署ハ成ヘク前以テ大ニ交付ヲ受ケヘキ官署ニ其人員及押送日時等ヲ通報スヘシ若シ被押送者ニシテ逃走奉行其他注意ヲ要スヘキ廉アルトキハ其旨ヲモ通報スヘシ
第十一條 押送ハ成ヘク速ニ之ヲ爲シ一時ニ數人ヲ拘留シテ押送ニ附スヘカラス
第十二條 共犯ノ刑事被告人ハ各別ニ押送スヘシ若シ止ムヲ得ス同時ニ押送スルトキハ戒護ヲ嚴ニシ通報等ノ弊ナカラシムヘシ
第十三條 押送ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ特ニ選致金品ニ注意シ目録ニ照合シタル上受授ノ手續ヲ了シ別紙様式ノ受領證ヲ發スヘシ
第十四條 押送途中休憩ヲ要スル地ハ豫メ其場所ヲ定メ其以外ノ地ニ於テハ成ヘク休憩又ハ飲食用便等ヲ爲サシムヘカラス
第十五條 押送スルトキハ發程前身體著裝等ヲ檢シ密帶品ナキヤ否ヤ且ツ著裝ノ解弛等ニ注意スヘシ
第十六條 貨物ヲ押送巡査ニ託スル場合ニ於テハ其包裝ニ封緘ヲ施スヘカラス
第十七條 被押送者ノ所持金品ハ發送前押送巡査ニ於テ照合點檢シ押送先ニ著シタル上更ニ目録ト照合點檢シテ引渡スヘシ
第十八條 左記ノ場合ニ於テハ成ヘク馬車ヲ用ユヘシ
一 老人衰弱者其他少行ニ堪ヘサル者ナルトキ
二 逃走奉行又ハ劫奪セラルルノ虞アルトキ
三 至急押送ヲ要スルトキ
四 土地ノ狀況其他事情ニ依リ止ムヲ得サルトキ
第十九條 被押送者ニハ手錠及戒繩ヲ施スヘシ但シ犯情輕微ナルモノハ戒具ノ端數ヲ略スルコトヲ得
第二十條 總テ戒具ハ日立サレ注意スヘシ但シ犯人ノ暴動ニ依リ特ニ發戒ヲ要スルモノハ此限ニアラス
第二十一條 押送途中ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ
一 被押送者ハ一歩前ニ立シメ捕繩ノ一端ハ緊シク把持スヘシ
二 被押送者ト同車スルトキハ囚人ノ右ニ乘セ押送者ハ左ニ在ルヘシ

第二號様式

喚出狀
何國郡區町村番地主族平民
何業

被告人ナルトキ
ハ年齢ノ記載ヲ
要ス
右(何某)被告人ナルトキハ何某(二字ヲ削ル)違
警罪被告事件ニ付(被告人トシテ)(被告人ナルトキ
ハ被告人トシテノ五字ヲ削ル)尋ル義有之候條年月
日時當署へ出頭スヘシ

何警察官署 署印

第三號様式

訊問調査
氏名年齢身分職業住所ハ如何

答 何何
(被告人ニ付テハ前科ノ有無証人ニ付テハ被告
人ト親族雇人等關係ノ有無ヲ問フヘシ)何何事
件ニ付取調ルニ依リ承知セロ(被告人ナルトキハ
何何事件ニ付証人トシテ取調ル旨ヲ記載スヘシ
問 何何
答 何何
問 何何
答 何何
右陳述ヲ録取シ讀聞セタル處相違ナキ旨申立ルニ
依リ共ニ署名捺印ス

年 月 日
何何ニ於テ

第四號様式

被告人 官氏 名印
氏 名印
實印ナキトキハ
花押又ハ捺印代
書シタルトキハ
其旨此處ニ記附
スヘシ

即決旨渡
何國郡區町村番地主族平民
何業
代人出頭スルモ被告人ノ何
名義ヲ以テ旨渡スヘシ 何年月月生

明治何年月日時何所ニ於テ何何(事實)
ハ刑法第何條何項何規則第何條ニ該當(違犯)スル
ヲ以テ同條又ハ同則第何條ニ依リ拘留何日科料金
何錢ニ處ス
但シ此旨渡ニ對シテハ三日(旨渡書ノ送達アリ
タル日ヨリ五日)以内ニ正式裁判ヲ請求スルコ
トヲ得

何警察署(分署)長(代理)
年 月 日 官氏 名印

第五號様式

即決旨渡

何國郡區町村番地主族平民
何業
代人出頭シタル場
合ハ前號様式同シ 何年月月生
明治何年月日時何所ニ於テ何何(事實)ハ
犯時十二歳未満又ハ證據充分ナラサルヲ(時效)ハ

年 月 日 官氏 名印

第六號様式

科料金假納
保證金上納命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業
何年月月生

明治何年月日當署ニ於テ旨渡シタル科料金何程連
ニ當署ニ假納(拘留何日ノ保證金何程連ニ當署ニ
差出)スヘシ

何警察署(分署)長
年 月 日 官氏 名印

第七號様式

拘留命令書

何國郡區町村番地主族平民
何業
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付旨渡
シタル科料金何程假納セサルヲ以テ(拘留何日ノ
保證金差出ササルヲ以テ)何日間當署ニ留置スル
モノナリ

年 月 日 官氏 名印

第八號様式

留置解放命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付旨渡
シタル科料金何程假納セサルヲ以テ(拘留何日ノ
保證金差出ササルヲ以テ)何日間留置中ノ處其期
限内納金シタルヲ以テ留置ヲ解ク

年 月 日

第九號様式

保證金没入命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付拘留
何日ニ處セラル出延セサルヲ以テ當署へ差出シタ
ル保證金何程没入シテ本刑ニ換フ

年 月 日

第十號様式

留置解放命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付旨渡
シタル科料金何程假納セサルヲ以テ(拘留何日ノ
保證金何程差出ササルヲ以テ)何日間留置中ノ處
正式裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタルヲ以
テ留置ヲ解ク

年 月 日

第十一號様式

換刑命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付科料
金何程ノ旨渡ヲ受ケ限内完納セサルヲ以テ刑法第
二十七條第三十條ニ依リ何日ノ拘留ニ換フ

年 月 日

第十二號様式

拘留放免命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付科料
金何程ノ旨渡ヲ受ケ限内完納セサルヲ以テ拘留何
日ニ換刑中ノ處其期限内納金シタルヲ以テ拘留ヲ
免ス

年 月 日

第十三號様式

引致命令書
何國郡區町村番地主族平民
何業

何警察署(分署)長
官氏 名印
何年月月生
明治何年月日當署ニ於テ違警罪被告事件ニ付拘留
何日ニ處セラル(拘留何日ニ換刑セラル)其執行ヲ
遅レタルニ付當署ニ引致スヘキモノナリ

年 月 日

第十四號様式

| | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|---------------------------------|--------------|-------------|-----------------------------------|--------|------------|------------|
| 送 達 証 | | 受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 山 | 送達シタル月 日時 | 送達シタル場 所 | 親族ノ人若ク ハ月長ヘ書類 ナシタル時 ハ其事山 | 右送達致候也 | 明治 年 月 日 時 | 何警察官署 印 |
| 一 送即決言渡書様本 何通 | | | | | | | | |
| 右ノ何國郡區町村番地士族平民 何業何業ヘ送達スルモノ也 | | | | | | | | |
| 明治 年 月 日 時 | | | | | | | | |
| 何警察官署 | | | | | | | | |

何警察署(分署)長 官氏 名印

衛生 防疫

○明治三十一年十月十九日廳令第七十三號
傳染病預防法施行細則左ノ通り定ム

第一條 支廳長警察署長及分署長ハ傳染病流行ノ
兆アリト認ムルトキ及傳染病預防法第一條ニ揭
クル八病ノ外同法ニ依リ預防方法ノ施行ヲ必要
ト認ムル傳染病又ハ傳染病ノ疑似症發生シタル
トキハ速ニ其性狀ヲ記シテ北海道廳長官ニ報告
スヘシ

支廳長警察署長及分署長ハ前項ノ場合ニ於テ必
要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコト
ヲ得

第二條 傳染病預防法第三條醫師ノ届出ハ別記様
式ニ據ルヘシ

警察官吏戸長検査委員又ハ豫防委員ハ前項ノ届
出ヲ受ケ傳染病預防法施行規則第二條第三條及
此細則第三條ニ依リ豫防委員ヨリ月長ニ戸長ヨ
リ支廳長ニ報告シ又ハ警察官吏検査委員ヨリ警
察署長分署長ニ報告シ又ハ支廳長警察署長分署長
ヨリ北海道廳長官ニ報告スルトキハ其届書ニ受
領ノ年月日時及官職氏名ヲ記シテ送致スヘシ

前項ノ外傳染病預防法施行規則第三條及此細則
第四條ノ報告若ハ通報モ亦別記様式ニ據ルヘシ

第十五號様式

何國郡區町村番地士族平民
何業 何業 何業
右ノ者當署ニ於テ言渡シタル邊警署即決ニ對シ正
式ノ裁判ヲ請求シタルニ付別紙目錄ノ通關係書類
及御送致候也
年 月 日
何警察官署印
何區裁判所檢事局御中
(命令書ヲ發シタルトキハ其様本ヲ添附スヘシ)
日 錄 書
一 何 何 一箇

一 何 何 何通
二 何 何 何業
三 何 何 何業
四 何 何 何業
五 何 何 何業
六 何 何 何業
七 何 何 何業
八 何 何 何業
九 何 何 何業
十 何 何 何業
十一 何 何 何業
十二 何 何 何業
十三 何 何 何業
十四 何 何 何業
十五 何 何 何業
十六 何 何 何業
十七 何 何 何業
十八 何 何 何業
十九 何 何 何業
二十 何 何 何業

第三條 警察官吏戸長検査委員又ハ豫防委員ハ傳
染病預防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ即時
ニ同法施行規則第二條又ハ第三條ノ手續ヲ爲ス
ヘシ

但シ警察官吏又ハ検査委員ハ即時ニ警察署長
又ハ分署長ニ報告スヘシ

第四條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病預防法施
行規則第二條ノ通報ヲ受ケタルトキハ即時五ニ
通報シ且警察署長分署長ニ報告スヘシ

戸長又ハ豫防委員同規則第三條ノ通報ヲ受ケタ
ルトキハ互ニ通報シ即時ニ月長ヨリ支廳長ニ報
告スヘシ

第五條 警察官吏検査委員ハ傳染病預防法第四條
ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルト
キハ醫師ヲシテ診斷若ハ検査セシメ傳染病ナル
トキハ即時ニ同法施行規則第三條及此細則第三
條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病預防法施
行規則第三條ニ依リ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アル
コトヲ知リタルトキハ同規則第三條及第六條ニ據
リ直ニ交通ヲ遮斷シ月長又ハ豫防委員ヲ指示シ
テ清潔方法ヲ施行スヘシ

第七條 月長又ハ豫防委員ハ左ノ事項ニ該當スル
者アルトキ傳染病預防法第七條及同法施行規則第
五條ニ據リ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘ
シ

但第一第五ニ該當スルモノニシテ健康者ヲ隔
離所ニ入ラシムルトキ又ハ患者危險ニシテ途
中危險ノ虞アルモノハ此限ニアラス

一 家族ノ居間ト隔離シ治療スヘキ症ナキモノ
二 專ラ看護ニ從事スヘキ人ナキモノ
三 主治醫ナキモノ

第十類 衛生 防疫

一 何 何 何通
二 何 何 何業
三 何 何 何業
四 何 何 何業
五 何 何 何業
六 何 何 何業
七 何 何 何業
八 何 何 何業
九 何 何 何業
十 何 何 何業
十一 何 何 何業
十二 何 何 何業
十三 何 何 何業
十四 何 何 何業
十五 何 何 何業
十六 何 何 何業
十七 何 何 何業
十八 何 何 何業
十九 何 何 何業
二十 何 何 何業

第十條 傳染病預防法施行規則第七條ノ通報ヲ受
ケタル警察官吏検査委員戸長又ハ豫防委員ハ五
ニ通報スヘシ

第十一條 前二條ノ場合ニ於テ其認可シ又ハ通報
ヲ受ケタル警察官吏検査委員ハ警察署長又ハ分
署長ニ報告シ豫防委員ハ戸長ニ月長又ハ支廳長ニ
報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタル支廳長警察署長又ハ分署
長ハ患者又ハ死體移轉ノ場合ニ限リ北海道廳長
官ニ報告スヘシ

第十二條 傳染病預防法第十三條ノ場合ニ於テハ
左ノ規定ニ據ルヘシ

一 死體ヲ既ニ埋葬シタルトキハ月長又ハ豫防
委員ハ傳染病預防法第五條ニ據リ清潔方法
及消毒方法ヲ施行シ且ツ其地ノ周圍一尺以
上掃ノ深ニ遺スル迄生石灰ヲ填ムヘシ

二 前項ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ検査委員
ハ傳染病預防法施行規則第六條ニ據リ交通
ヲ遮斷スヘシ

三 死體ヲ未ダ埋葬セザルトキハ傳染病預防法
施行規則第二條第二項第三條及此細則第五
條ノ規定ヲ準用ス

本條第一ニ關シテハ傳染病預防法施行規則
第四條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 支廳長警察署長又ハ分署長ハ豫防上必
要ト認ムルトキハ區町村ノ醫師ヲシテ傳染病預
防法第十九條第一ノ檢驗ヲ行ハシムルコトヲ得
前項ニ依リ檢驗ヲ行フトキハ警察官吏戸長検査
委員又ハ豫防委員ハ醫師ト共ニ其事務ニ從事ス
ヘシ

第十四條 區町村ハ毎年二回當該委員ノ指示ニ從
ヒ區長村内ノ清潔方法ヲ施行スヘシ

警察官吏ハ傳染病患者發生シタル區町村ニ對シ
清潔方法施行ノ際必要ノ場所ヲ限リ消毒藥ヲ使
用セシムルコトヲ得(三十三年四月廳令第二十
七號ヲ以テ本條改正)

第十五條 區町村ハ消毒器具藥品其他駕籠釣籠等
ヲ設備スヘシ

傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ醫師看護
人消毒夫運搬夫ヲ雇入レ消毒藥ヲ充備シ豫防上
必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第十六條 傳染病豫防法第十七條ノ傳染病院、隔
離病舎、隔離所及消毒所ノ設備及管理規定ハ別
ニ之ヲ定ム

第十七條 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所
ヲ設置スヘキ區町村ハ別ニ之ヲ指定ス

第十八條 支廳長警察署長又ハ分署長ハ傳染病豫
防法第十九條ニ號乃至八號ノ全部又ハ一部ノ施
行ヲ必要ト認ムルトキハ其狀況ヲ具シ北海道廳
長官ニ申報スヘシ(三十三年四月廳令第二十七
號ヲ以テ本條改正)

第十九條 此類則ニ據リ當該吏員ノ指示シタル事
項ヲ履行セザル者ハ傳染病豫防法第二十九條ニ

據リ處罰セザルモノトス

第二十條 屯田兵村(後備屯田兵村ヲ除ク以下同
シ)並ニ其隣接町村ニ在リテハ此類則ニ定メタ
ルモノノ外特ニ左ノ各條ニ依ルヘシ(三十二年
八月廳令第七十二號ヲ以テ本項追加)

第二十一條 屯田兵村ニ於テハ兵員ヲ除クノ外家
族寄留者等ニ傳染病又ハ其疑アル患者若クハ死
者アリタルトキ當該吏員ハ該隊長並ニ該隊豫防
委員等ニ協議シ總テ此類則ニ據リ取扱フヘシ
(三十二年八月廳令第七十二號ヲ以テ本條追加)

第二十二條 同一兵屋ニ於テ兵員並ニ家族等同時
若クハ相前後シテ傳染病ニ罹リタルトキハ當該
吏員ハ該隊長並ニ該隊豫防委員等ニ協議シ適宜
分擔シテ豫防消毒ニ從事スルコトヲ得但該隊ノ
土地又ハ時ノ狀況ニ依リ至急ヲ要スル場合ニ在
リテハ該隊長並ニ該隊豫防委員ノ意見ニヨリ豫
防消毒法ヲ施行シタル後之カ通知ヲ受クルモ妨
クナシ(三十二年八月廳令第七十二號ヲ以テ本
條追加)

第二十三條 屯田兵村ノ附近ニ於テ傳染病ノ届出

又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタル
トキ該二近傍町村ノ一部若クハ全部ニ交通遮斷
ヲ行ヒタルトキハ當該吏員ハ直ニ最寄屯田兵各
隊長ニ通知スヘシ(三十二年八月廳令七十二
號ヲ以テ本條追加)

第二十四條 豫防上必要ト認ムル事項アリタルト
キハ當該吏員ハ最寄屯田兵各隊長ニ直接照會シ
テ其通報ヲ受クルコトヲ得(三十二年八月廳令
第七十二號ヲ以テ本條追加)

第二十五條 屯田兵村ニ於ケル患者及死者ニシテ
陸軍軍醫ノ診斷又ハ檢案ニ係ルモノハ此類則第
一條第二項ヲ適用セス(三十二年八月廳令第七
十二號ヲ以テ本條追加)

第二十六條 屯田兵村ニハ此類則第十三條ヲ適用
セス(三十二年八月廳令第七十二號ヲ以テ本條
追加)

第二十七條 明治三十年(六月)北海道廳令第四十
一號同第四十二號ハ廢止ス(三十二年八月廳令
第七十二號ヲ以テ第七十條第七十七條ニ改
ム)

(別記)

| 傳染病患者(發生、轉歸、死體檢案)届報告、通報) | | 職 業 | | 男 女 | | 別 | |
|--------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 病 名 | 發 病 | 轉 歸 | 發 病 | 發 病 | 發 病 | 發 病 | 發 病 |
| 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 |
| 傳染病ト診斷 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 |
| 轉 歸 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 |
| 死 體 檢 案 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 |
| 火 葬 土 葬 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 | 月 日 時 |
| 區 別 | 考 備 | 考 備 | 考 備 | 考 備 | 考 備 | 考 備 | 考 備 |
| 國 郡 區 町 村 字 番 地 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 | 官 官 官 官 官 官 官 官 |
| 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 | 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 |
| 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 | 名 名 名 名 名 名 名 名 |
| 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 | 印 印 印 印 印 印 印 印 |

○明治三十一年十月十九日副第四百十七號(支廳
警察署同分署長役場宛)

傳染病豫防法施行心得左ノ通り定ム

第一條 支廳、警察署、分署、戶長役場及巡査駐
在所ニ於テハ別紙様式ノ傳染病患者名簿ヲ調製
シ傳染病豫防法第三條同法施行規則第二條第三
條及傳染病豫防法施行細則第三條第四條ノ届
出通報若ハ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ記載スヘ
シ

第二條 傳染病豫防法第十四條ノ證書ハ同法施行
規則第九條ノ様式(厚紙ヲ用フ)ニ據リ支廳、
警察署、分署又ハ戶長役場ニ於テ之ヲ調製スヘ
シ

第三條 警察官吏傳染病豫防法第八條ニ據リ同法

一 患者ノ住所ハ寄居者止宿人旅行旅人等ハ其原籍ヲモ記スルヲ要ス但非戶主ナルトキハ其戶主ノ續柄ヲモ記スヘシ

二 患者ノ職業ハ本人現在ノ職業ヲ記ス若シ老幼婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ者ハ戶主何業ニ就キテ記スヘシ

三 備考欄ニハ發病ノ原因系統再感其他參考トナルヘキ事項ヲ記ス但痘疹患者ナルトキハ未種痘若ハ初種痘三種ノ別並ニ感否又ハ復發
諸等ノ事項ヲ記シ實布痘里亞患者ノ轉歸ニ係ルトキハ血清治療ノ有無ヲ記スヘシ(三十五年十二月廳令第六十一號ヲ以テ本條中
改正)

四 轉歸ノトキハ前醫師ノ住所氏名ヲ備考欄内ニ記載スヘシ

五 醫師ノ届出ニ依ラス警察官吏ノ通報ニ依リ報告スル場合ニ於テモ様式ノ如ク醫師ノ住所氏名ヲ記スヘシ但シ捺印スルノ限リニア
ス

施行規則第六條ノ日時間交通ヲ遮斷セントスル
トキハ警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ

第四條 警察官吏戶長檢査委員又ハ豫防委員傳染
病豫防法施行規則第七條第一第二ノ事項ヲ認可
セントスルトキハ互ニ協議ヲ爲スコトヲ要ス

但警察官吏ハ警察署長又ハ分署長ノ指揮ヲ受
クヘシ

第五條 警察署長又ハ分署長ハ傳染病豫防法施行
規則第六條ニ掲グル傳染病患者ノ死體ハ土葬ヲ
許可スヘカラス

前項ノ外傳染病患者ノ死體ハ左ノ事項ヲ履行ス
ルモノニ限リ土葬ヲ許スコトヲ得

一 瘞穴ノ深サ十尺以上ナルコト

二 棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ填ムルコト

第六條 支廳長警察署長分署長又ハ檢査委員傳染

病豫防法第二十六條ノ處分ヲ爲サントスルトキ
ハ狀ヲ具シテ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第七條 傳染病豫防法施行規則第四條ニ依リ當該
吏員患者ニ臨ミタルトキハ主トシテ左ノ事項ニ
注意スヘシ

一 治療場所ヲ定ムルコト

二 虎列刺赤痢腸炎扶蘇ニアリテハ最初ヨリ嘔
吐又ハ吐瀉シタル場所ヲ調査スルコト

三 ハスト、痘瘡、實扶的利亞(梅毒布シ合ム)
ニ在リテハ喉嚨鼻汁其他血液汗等ヲ拭ヒ
タル紙片又ハ布片ノ處置ヲ調査スルコト

四 届出前病室又ハ之ニ汚染シタル衣類手巾其
他ノ物件ヲ投棄者ハ洗濯シタル場所ヲ調査
スルコト

五 届出前及當時患者ニ接シタル者又ハ汚物ヲ

取扱ヒタル者若ハ他家ニ出入シタル者ノ人名ヲ調査スルコト
六 發病ノ誘因傳染ノ系統ヲ調査スルコト
七 以上各項調査後必要ト認ムル部分ニ對シ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコト

傳染病患者名簿様式

(用紙美濃紙)

| 病名 | 郡名 | 區名 | 町村名 | 初診日 | 發日 | 全日 | 治日 | 死日 | 氏名 | 年齢 | 性別 | 備考 | 署名 |
|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| | | | | | | | | | | | | | 年月日 |
| | | | | | | | | | | | | | |

第八條 患者河川ニ投身シ又ハ病室ニ汚染シタル物品ヲ投棄若ハ洗濯シタル者アリシ爲メ豫防上必要ト認メタルトキハ當該吏員ハ速ニ下流關係ノ當該吏員ニ急報シ三日以内左ノ各號ヲ停止スヘシ但此場合ニ於テハ其旨河川近傍便宜ノ場所

- ニ指示シ當該三報告スヘシ
- 一 漁撈及游泳
- 二 河川ノ汲取及其飲用
- 三 衣類又ハ物品ノ洗濯

○明治三十一年十一月五日廳令第八十二號
傳染病豫防委員及檢疫委員設置規定施行細則左之通定ム

傳染病豫防委員及檢疫委員設置規定施行細則

第一條 豫防委員及檢疫委員ノ設置ヲ必要トスルトキハ之ヲ告示ス其廢止スルトキ亦同シ

第二條 豫防委員ノ數ハ區ニ於テハ五名以上町村ニ於テハ三名以上トス

豫防委員ヲ任命シタルトキハ任命月日職名氏名(公職アルモノハ公職名トモ)ヲ三日以内ニ當廳ニ報告シ同時ニ所轄警察官署ニ通報スヘシ其變更アリタルトキモ亦同シ

前項ノ報告ハ町村ニ在リテハ所轄支廳ヲ經由ス

改正)

第三條 檢疫委員ハ委員長一人副長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ハ警察部長副長ハ委員中ニ就キ之ヲ命ス必要ノ場合ニ於テハ檢疫委員事務所又ハ檢疫委員出張所ヲ設ケ委員事務所ニハ所長一人副長一人委員若干人委員出張所ニハ所長一人委員若干人ヲ置ケ

事務所長副所長及出張所長ハ委員中ニ就キ之ヲ命ス

第四條 委員長ハ長官ノ命ヲ受ケ委員ヲ指揮監督シ傳染病豫防事務ノ監督船舶汽車ノ檢疫其他傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ掌理ス

第五條 委員事務所長及出張所長ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ部下ノ委員ヲ指揮監督シ前條ノ事務ノ一部又ハ全部ヲ掌理ス

第六條 委員長委員事務所長及出張所長ハ委員ノ事務分擔ヲ定ムルコトヲ得

第七條 委員副長及委員事務所副長ハ委員長又ハ副長事務所長ノ事務ヲ補助シ委員長又ハ副長事務所長事務故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第八條 委員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ檢疫豫防ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 檢疫委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒタル者ニ給スヘキ手当及旅費ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○明治三十三年八月二十四日廳令第六十二號(支廳警察署同分署區役所町村役場宛)

赤痢病ハ數年來本道各地ニ散發シ昨年ノ如キハ三百有餘名ノ患者ヲ出スニ至レリ凡防疫ノ事務ハ平時ニ於テ各般ノ準備ヲ整ヘ注意ヲ密ニシ以テ其發生ニ際シ周章狼狽ノ動作ナカラシムルコトヲ要ス其始テ發生スルヤ全力ヲ盡シテ之ヲ局部ニ制限スルノ策ヲ施シ既ニ流行蔓延スルニ至リテハ各般ノ豫防法ヲ勵行スルト同時ニ專ラ急テ救治ニ注キ其漸ク終熄ニ傾キシ後ハ更ニ善後ノ策ヲ講セサルヘカラス斯ノ如ク豫防ノ策ヲ其流行ノ時期ニ應ジテ白ラ異ラサルヲ得ス即チ

第一期準備ニ關スル處置

一 病院病舎ヲ掃除シ修理シ何時之ヲ開クモ差支ナキ機準備ヲ爲ス事

二 病院病舎ナキ區町村ニ於テハ速ニ之ヲ建設スル方法ヲ講シ其建設迄ハ假ニ病院病舎ニ充用スヘキ家屋ヲ豫定シ置ケ事

三 器具藥品等ヲ整備シ事ニ當リテ差支ヘサル機注意スル事

四 豫防委員設置ノ告示アルニ當リ直ニ之ヲ任命シ得ル機醫師ニ豫約シ置ケ事

五 支廳吏員警察官支廳町村吏員等ニシテ衛生事務ヲ執ルモノヲ適宜ノ場所ニ召集シ左ノ事項ヲ協議講習及實地演習スル事

イ 消毒藥ノ溶解法使用法並應用

ロ 消毒器具ノ使用法並應用

ハ 一般消毒方法清潔方法施行手續

ニ 患者死者ノ取扱手續

ホ 病院病舎ノ取扱方法

ヘ 隱蔽患者發見ノ手段

ト 其他必要ノ事項

衛生組合ノ注意ヲ喚起スル事

衛生組合ノ設置ナキ區町村ハ速ニ之ヲ設置セ

シムル事

八 看護婦及夫人等ノ雇入ヲ豫約シ置ケ事

九 看護婦ヲ得易カラサル區町村ハ速成看護婦ヲ養成スル方法ヲ講シ置ケ事

十 清潔方法ノ持續ヲ計ル事

十一 支廳吏員警察官吏ハ其部内ニ巡回シ區町村ニ於ケル各般設備ノ整齊ヲ監督シ完備ヲ期スル事

十二 礦山製造所其他ノ工業場ニ注意ヲ興ヘ必要ノ設備ヲ促ス事

十三 衛生講習會幻燈會等ノ手段ヲ以テ個人ノ注意ヲ喚起スル事

第二期初發ニ際スル處置

一 患者ハ自宅療治ノ始息手段ヲ執ラス入院入舎セシムル事

二 發病地ニハ支廳吏員警察官吏等ヲ派シ區町村吏員ヲ指示シ各般ノ處置ニ疎漏ナカラシムル事

三 病院病舎ニハ相當ノ醫師看護婦其他要員ナル人員ヲ雇入ルル事

四 病院病舎ニハ區町村吏員ヲ詰切ラシメ嚴重ニ其取締ヲ爲サシムル事

五 病院病舎ニハ患者名簿ヲ備ヘ尙醫師ノ處方録ヲ備ヘ置ケ事

六 發病部落ニハ嚴重ニ各戸檢診法ヲ行ヒ隱蔽ヲ防止スル事

七 衛生組合ニ規約ノ勵行ヲ促ス事

八 河川ノ使用ニ注意スル事

九 旅人ノ往來乞食ノ徘徊等ニ注意スル事

十 祭禮興行不其飲食物ノ販賣等ニ注意スル事

十一 第三期流行時ノ處置

一 貧民患者救済ノ周到ヲ計ル事

二 當ニ病院病舎ヲ透視シ治療上取扱上等ニ注意スル事

三 河川ノ使用旅人ノ往來ニ於ケル注意及乞食ノ徘徊等ニ關スル注意ヲ一層嚴密ナラシムル事

四 衛生組合ノ獎勵個人ノ警戒ヲ忘ラサル事

第四期善後ノ處置

一 消毒藥其他各般設備ノ徹底疎漏ニ流ルル弊ヲカラシムル事

二 流行中ニ施行セル各般處置ノ當否器具ノ便否等ヲ案シ善後ノ處置ヲ講スル事

三 等便宜ニ適應スル方法手段ヲ以テ防疫事務ノ完整ヲ期スヘシ

○明治三十五年十月十九日廳令第三百三十三號

ハスト病豫防上必要ニ付鼠疫ヲ發見シタルトキハ其旨迅速警察官吏ニ書面若クハ口頭ヲ以テ届出ヘシ

明治三十三年(六月)北海道廳令第四十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○明治三十五年十月十九日廳令第三百三十三號(支廳警察署同分署區役所町村役場戸長役場宛)

ハスト病ハ明治三十三年ニ於テ兵庫縣大阪府及其他ノ地方ニ發生流行ヲ極メ一時中絶ノ狀態ナリシカ道般神奈川縣下ニ該病侵入シ九月二十九日ヨリ十月七日迄ノ間ニ於テ横浜市ニ四名及橋本郡ニ一名ノ患者ヲ出シ益々蔓延流行ノ兆アリ本道ハ該地ト船舶ノ交通頻繁少レハ何時病源ノ侵入ヲ見ルニ至ルヤ推計ナリ以テ該病豫防ノ爲メ左ノ各項ヲ施行スヘシ

明治三十三年(六月)廳令第三百三十七號ヲ廢止ス

一 鼠疫ノ驅除ヲ獎勵シ、貨物陸上揚附近、停車場附近、貨物運送店倉庫、船舶等ニ就テハ特ニ鼠疫ノ搜索ヲ勵行セシムル事

臨時清潔方法ヲ施行セシメ有病地ニ於テハ應
 芥ハ必ス之ヲ焼却セシムル事
 三 鼠ノ糞見シタルトキハ細菌検査ヲ行ヒタル
 後之ヲ焼却スル事
 四 前項ノ場合ニ於テ「ベスト」商標ノハ之ニ疑ハ
 シキ菌ヲ抽出シタルトキハ必要ト認ムル部分
 ニ消毒方法ヲ施行シ當分ノ内其附近居住者ノ
 健康ニ注意セシムル事
 五 急性病死者ノ届出ニ注意シ必要ト認ムルトキ
 當該吏員ヲシテ臨檢セシメ又ハ醫師ヲシテ死
 體検査ヲ行ハシムル事
 六 貧民部落、木賃宿、貨物集散場附近其他必要
 ト認ムル部分ニハ時時検病ノ戸口調査ヲ行ヒ
 疑ハシキ患アルトキハ醫師ヲシテ検診セシム
 ル事
 七 有病地ヨリ來リ又ハ該地ヲ經過セル船舶内ノ
 塵芥ハ勿論同地ヨリ發送スル貨物ヲ積載セシ
 船舶ノ塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ之ヲ焼却セシ
 ムル事
 八 船舶倉庫貨物集散場等ニ於テ一時ニ多數ノ鼠
 鼠ヲ發見スル等特ニ注意ヲ要スル事貨アリタ
 ルトキ及細菌検査ノ上「ベスト」商標ヲ發見シタ
 ルトキハ電信ニテ通報スヘシ
 ○明治二十二年一月十六日總令第二號
 種痘規則施行細則左ノ通り定ム
 但明治十九年(一月)札幌縣第五號布達函館縣
 甲第一號布達根室縣甲第六號布達及同年(六月)
 北海道廳甲第六號布達ハ廢止ス
 種痘規則施行細則
 第一條 種痘ハ春秋二季之ヲ施行ス可シ
 第二條 種痘ハ廳立又ハ町村立病院醫員ヲシテ之
 ナ行ハシム可シ

但廳立又ハ町村立病院無之地方ニ於テハ私立
 病院町村醫又ハ開業醫ヲシテ之ヲ行ハシムル
 コトヲ得
 第三條 戶長ハ種痘規則第一條第二條ニ該當スル
 受痘者ノ名簿ヲ作り春季ハ三月十日限秋季ハ八
 月十日限リ病院又ハ醫師ニ交付シ受痘者ニ對シ
 テハ本季種痘ヲ受クヘキノ告知ヲ爲ス可シ
 第四條 種痘ノ日割及北場所ハ戶長之ヲ定メ豫メ
 部内ニ廣告シ同時ニ之ヲ病院又ハ醫師ニ通知ス
 可シ
 第五條 醫師種痘ヲ行ヒタルトキハ種痘規則第八
 條ノ證書ヲ作り三日以内ニ之ヲ受痘者ニ交付ス
 可シ
 第六條 前條ノ證書ヲ受ケタル者ハ即時之ヲ戶長
 役場ニ届出可シ
 第七條 種痘規則第四條ノ届出シタル者病氣全
 快又ハ事故相解ケタル時ハ直ニ種痘ヲ受ク可シ
 第八條 府縣ハ轉籍スル者年齢十六年未滿ナルト
 キハ原籍戶長ハ其送籍地同時ニ種痘(初種再
 三種ノ別)ノ濟否ヲ通報スヘシ但府縣ハ寄留ス
 ル者ハ種痘證書ヲ携帶スヘキモノトス
 ○明治二十二年一月十六日總令第二號及副令號外
 (郵區役所戶長役場廳立病院宛)
 本月北海道廳令第二號第五條ノ種痘證書ハ左ノ書
 式ニ準據セシムヘシ

左邊類 何度種痘済(春迄)
 右邊類 何度種痘済(春迄)
 年 月 日 醫師 姓名 印
 ○明治三十一年四月十一日訓第四百二十四號(支廳
 戶長役場宛)
 區町村ニ於テ東京痘苗製造所ニ對スル痘苗請求手
 續左ノ通り定ム
 一 支廳長又ハ戶長ハ豫メ定期(春季秋季)種痘
 期日ヲ定メ種痘規則施行細則三條ニ其種痘者
 簿ニ就キ當期接種人員ヲ點檢シ其所要痘苗ノ
 具數ヲ概算シ春季ハ前年十二月中秋季ハ其年
 六月中痘苗賣下規則(明治二十九年十一月内
 務省令第八號)第二條ノ區域ニヨリ所管痘苗
 製造所ニ對シ第一號ノ書式ニ準シ直接報告ヲ
 ナスヘシ
 二 支廳長又ハ戶長ハ前項定期種痘施行期日凡ソ
 一箇月前ニ於テ其所要ノ痘苗具數ヲ測定シ所
 管痘苗製造所ニ對シ第二號書式ニ準シ直接請
 求スヘシ
 三 臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ第一項ノ概
 算報告ヲ要セス何時タリトモ便宜痘苗ノ請求
 ヲ爲スコトヲ得
 但シ其具數五百以上ニ達ルトキハ成可前以
 テ其手續ニ及フヘシ
 四 定期臨時ノ別ナク多數ノ痘苗ヲ要スルモノハ
 其發送期日數回ニ分割シ請求スヘシ
 (第一號) 痘苗具數概算報告書式
 明治何年(春秋)季所要痘苗概數

痘苗具數 所要期日 請求所名
 何 具 白何月何日 北海道廳何支廳又ハ何
 至何月何日 郡何町村戶長役場
 右及報告候也
 年 月 日 右
 何支廳又ハ何郡何町村戶長役場
 (第二號) 痘苗具數請求書式
 痘苗具數 發送期日何月何日
 數回ニ分送ヲ要スルモノハ左ノ如ク内譯スヘシ
 何 具 何月何日
 何 具 何月何日
 右請求候也
 登記印紙
 年 月 日 北海道
 何支廳又ハ何郡何町村戶長役場
 ○明治三十四年十二月十六日訓第五百五號(支
 廳區役所町村役場戶長役場宛)
 明治三十一年(四月)訓第四百二十四號ヲ以テ痘苗請
 求手續ヲ定メ其第一項ニハ痘苗製造所ニ對シ痘苗
 ノ所要概數ヲ報告スヘキ旨規定アリタルニモ拘ハ
 ラス區町村ニ於テハ概算報告ノ如キハ殆ント之ヲ
 爲サス所要ニ臨ミ突然請求ヲ爲シ甚キニ至リテ
 ハ僅ニ郵便ノ往復ヲ爲スヘキ期日ニ發送ヲ請求ス

ルモノアルモ痘苗製造所ニ於テハ可成差違リ之ニ
 應シ來リタル趣ナルモ元來痘苗ノ者タル製造後多
 數ノ日子ヲ經過スルトキハ其效力ヲ失フヲ以テ所
 要ノ日ノナキニ拘ラス一時ニ多數ヲ製造シ置ク能
 ハス從テ所要概數ノ報告ナクシテ突然多數ノ痘苗
 ヲ請求スルトキハ製造所ニ於テ之ヲ力配付上困難
 ナ感スルノモノナラス爲メニ種痘施行期日ニ行送テ
 生スルカ如キコトアルヘキヲ以テ爾今痘苗請求手
 續ヲ嚴守シ概算報告ヲ急ラサル様注意スヘキ旨通
 知スル等及一手段トシテ痘苗賣下規則改正シ
 區町村ニ於テ施行スル種痘ニ要スル痘苗ハ從來ノ
 價格ヲ半減シ一具ニ錢五厘トセラレタルヲ以テ一
 層種痘ノ普及ヲ獎勵シ且シ痘苗代價抵減セラレタ
 ルノ故ヲ以テ溢費ノ弊ナキ様注意シ定期種痘ニ要
 スル概算報告及施行時ニ請求スル具數並ニ臨時種
 痘ニ於ケル請求具數等ハ確實ナル基礎ニ依リ算出
 スル様深ク注意スヘシ
 ○明治三十五年一月十一日總令第一號
 公立私立病院又ハ醫師麻痺及流行性感冒患者ヲ診
 斷シ若ハ其死體ヲ檢案シタルトキハ毎月左記様式
 ニ依リ統計シ翌月五日迄ニ所轄警察官署ヲ經由シ
 當廳ニ届出ヘシ
 私立病院管理者又ハ醫師本令ニ違背シタル者ハ十
 日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 本令ハ發付ノ日ヨリ施行ス
 届出様式 (三十二年三月總令第四十四號ヲ以テ
 本様式改正)
 明治 年 月 麻痺患者表

明治 年 月 流行性感冒患者表
 區町村 初發日 全治日 死亡日 氏名 年齢
 區町村 初發日 全治日 死亡日 氏名 年齢
 記載例
 本表中全治死亡ハ其月中ノ發生患者タルト前月
 コリ繰越患者タルトナ間ハス其月中ニ全治又ハ
 死亡シタルモノヲ掲グ
 患者中前月ヨリ繰越治療中ノモノニハ氏名ノ頭
 ニ△印ヲ付ス可シ
 ○明治三十五年一月十一日訓令第二號(警察署同
 分署宛)
 歐類ニシテ狂犬病ニ罹リタルモノアルトキハ第一
 號様式ニ依リ又ハ狂犬病患者發生ノ場合ハ第二號樣
 式ニ依リ其都度報告スヘシ
 第一號様式
 一 歐類狂犬病發生報告
 二 發生地名
 三 歐ノ種類及持主
 四 被咬傷者ノ住所氏名
 五 被咬傷者ノ處置(創部ノ治療ニ豫防注射ヲ行
 ヒタルトキハ其旨附記スヘシ)
 六 備考(患獸ノ處置及狂犬病ト確定シタル理由
 等ヲ詳記シ尙發病後ニ於ケル狀態咬傷ノ狀態
 等ヲ附記スヘシ)
 右報告候也
 年 月 日 官 氏 名
 長官宛

第二號樣式

- 一 狂犬病者發生報告
- 二 患者ノ住所職業氏名年齢
- 三 被咬傷ノ年月日
- 四 被咬傷ノ部位局部ノ症候及當時ノ處置
- 五 發病月日
- 右及報告依也

長官宛 官氏 名

○明治三十二年四月十四日總令第三十號
 明治三十年(三月)法律第三十六號傳染病預防第十
 七條ニ據リ傳染病院及隔離病舎設備並ニ管理規程
 左ノ通定ム

傳染病院隔離病舎設備並ニ管理規程

- 第一章 設備
- 第一條 區町村ハ傳染病院若ハ隔離病舎ヲ設置ス
ヘシ但シ隔離病舎ハ土地ノ狀況ニ依リ傳染病院
ヲ設置シ能ハサル場合ニ限リ之ヲ設置スルモノト
ス
- 第二條 傳染病院隔離病舎ハ土地ノ狀況ニ依リ數町村聯
合シテ設置スルコトヲ得
- 第三條 傳染病院又ハ隔離病舎ヲ建設スルニハ左
ノ事項ヲ具シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ改
築又ハ増築ヲ要スルトキハ亦同シ
- 一 建設地ノ位置及其周圍接近地ノ見取書(地
名地目段別等ヲ記入スヘシ)
- 二 敷地及建物流渠等ノ平面圖(建物ノ坪數各
別ニ記入スヘシ)
- 三 建物及流渠等ノ設計構造方法書
- 四 建築費豫算仕譯書

五 竣功豫定期日

- 第三條 前條ノ工事落成シタルトキハ本廳ニ届出
檢査ヲ受クヘシ
- 第四條 傳染病院ノ建物ノ左ノ設備ヲ爲スヘシ
- 一 重症患者室
- 二 輕症患者室
- 三 快復期患者室
- 以上ノ建物ハ各別ニ隔テ快復期患者室ニハ
浴室ヲ備ヘ適當ノ位置ニ看護人室ヲ設クヘシ
消毒所(未消毒品置場既消毒品置場ヲ區別
スヘシ)
- 五 居室
- 六 人夫附所
- 七 汚物置場及焼却所
- 八 醫務事務員ノ請所使夫附所炊事場及附屬浴
場並ニ厠
- 九 洗濯所
- 十 物置
- 第五條 傳染病院ノ位置及構造ハ左ノ事項ニ從フ
ヘシ
- 一 土地高燥ニシテ患者ヲ運搬スルニ便利ナル
場所ヲ擇ムヘシ
- 二 周圍ニハ高サ六尺以上ノ欄柵又ハ塙敷ヲ設
ク門戸ニハ相當ノ締ヲ施スヘシ
- 三 快復期患者室ニ沿フテ適當ノ運動場ヲ設ク
ヘシ
- 四 病室
- (イ) 平屋造ニシテ可成南面セシムヘシ
- (ロ) 室ノ内外側壁トモ熱ヲ板張トナシ中隔
ニハ板戸ヲ建附ケ消毒洗滌及患者ノ收
容ニ便スヘシ
- (ハ) 南面ハ明障子トナシ前二幅四尺以上ノ

- 接テ附シ其外端ニ沿フテ兩戸ヲ設クヘ
シ
- (三) 北面ニハ床上高サ一尺五寸ノ所ニ於テ
相當ノ窓ヲ設ク明障子ヲ附シ外部ニ兩
戸又ハ掛兩戸ヲ設クヘシ
- (ホ) 床ノ高サハ二尺以上トシ厚サ八分以上
ノ板ヲ用ヒ間隙ナキ様之ヲ張詰メ天井
ハ床上七尺以上タルヘシ
- (ハ) 床下ノ地盤ハ石又ハ煉化若ハ「セメン
ト」ヲ以テ造リ適當ノ勾配ヲ附シ汚水
流下ニ便ニシ別ニ汚水ヲ汚水溜ヲ
設ク之ヲ導クノ施設ヲ爲スヘシ
- (ト) 病室ハ患者一人ニ付少クモ一坪半以上
タルヘシ
- (チ) 北方ノ窓下ニ長一尺五寸高サ窓ニ連ス
ル口ヲ設ク引戸ヲ附シ其外部ニ長サ一尺
五寸以上幅一尺二寸以上ノ掛出テ附シ
便器又ハ汚物容器ノ置場ト爲スヘシ
- 五 居室
- 適當ノ位置ニ設ク其内外トモ板張トシ窓ハ
硝子張リ土間ハ石又ハ煉瓦敷若ハ「セメン
ト」ヲ以テ造リ相當ノ勾配ヲ附シ汚水ノ流
下ニ便ニスヘシ
- 六 厠
- (イ) 周圍ヲ設クル地ハ地盤ヨリ三寸以上高
クシ雨水流入ヲ防クヘシ
- (ロ) 周圍踏板下ノ周圍ハ石煉瓦又ハ厚板ニ
「セメント」又ハ「コールタール」ヲ塗リ
モルノヲ以テ構造スヘシ
- (ハ) 尿尿溜ハ内外ニ輪蓋ヲ施シタル壺ヲ用
ユルカ又ハ壓固ナル桶ヲ埋メテ其外部
ノ底及周圍ニ厚サ三寸以上「コンクリ

(二) 尿尿溜

- 「ト」ヲ貯メ込ムヘシ
- 「コンクリート」又ハ厚板ニ「コールタ
ール」ヲ塗リタルモノヲ以テ構造シ尿
尿ノ溜内ニ流入スヘキ勾配ヲ附スヘシ
- 七 汚水溜及排水溝
- 石又ハ煉瓦ハ「セメント」ヲ以テ透透セサ
ル様構造スヘシ
- 第六條 隔離病舎ヲ建設スルニハ第四條第五條ノ
項目ヲ參照シ適當設計ヲ立ツルコトヲ得
- 第七條 傳染病院ニハ左ノ職員ヲ置クヘシ
- 一 醫長 一人
- 二 醫師 十五人乃至二十人ニ付一名ノ制ヲ以
テ置クヘシ
- 三 調劑員 若干
- 四 看護人 但患者五人ニ付一名ノ制ヲ以テ置クヘシ
- 五 事務員 若干
- 區町村ノ狀況ニ依リ醫長調劑員ヲ置カス醫
員ヲシテ之ヲ兼掌セシムルコトヲ得
- 第八條 戶長(戶長アラサル地ハ支廳長)ハ醫長
以下ノ職員ヲ選定シ其人員及給額ハ支廳長ヲ經
テ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 傳染病院ニハ左ノ物品ヲ備フヘシ
- 一 治療及調劑並消毒上必要ナル器具
- 二 職員其他外人ノ用ニ供スル病室用衣患者
及附添人著換ヲ要スル衣服並ニ臥具
- 三 患者及附添人ニ供スル飲食物
- 四 患者及附添看護人用飲食器具及火鉢燈器等
- 五 治療並ニ消毒用藥品
- 右ノ外必要ノ器具物品

第十條 隔離病舎

- 第七條第八條第九條ニ準シ適
宜ノ方法ヲ設ケ支廳長ヲ經テ北海道廳長官ノ認
下ヲ受クヘシ
- 第二章 管理
- 第十一條 醫長ハ院內一切ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ
指揮監督スヘシ但シ醫長ハ毎日一回以上入院患者
ヲ診察シ治療看護ノ方針ヲ醫員看護人ニ指示ス
ヘシ
- 第十二條 醫長ハ消毒ニ從事セシムル爲メ院內諸
員ニ就キ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ
- 第十三條 醫長ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ治療其他患者
ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ
- 第十四條 調劑員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ藥品ノ保管
及調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ
- 第十五條 看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切
ニ患者ノ看護ニ從事スヘシ
- 第十六條 事務員ハ醫長ノ指揮ヲ受ケ建物及物品
ノ管理金錢ノ出納其他庶務ヲ掌理シ小使附夫人
夫ヲ監督スヘシ
- 第十七條 醫員調劑員事務員ハ各交替ヲ以テ當直
スヘシ
- 看護人ハ院內ニ宿泊シ願書ヲ以テ通符看護ニ從
事スヘシ
- 看護人ニシテ調劑所又ハ附所等ヘ往復スルモノ
ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ
- 第十八條 何人タリトモ病室ニ入リントスルトキ
ハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出タルトキハ之ヲ脱シ
手足ハ消毒ヲ爲スヘシ但シ病室ニ於ケル物品ハ
消毒シタル後ニアラサレハ他ニ出スヘカラス
- 病室用衣ハ時時氣熱消毒ニ附シ且ツ一週二回以
上洗濯シ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其
都度消毒スヘシ

第十九條 入院患者

- 親戚縁故ノ者附添看護ヲ願
出又ハ患者ニ物品ヲ附ラントスル者アルトキハ
妨ナキ限リ之ヲ許可スヘシ但院內ノ規定及醫長
以下ノ指揮ヲ遵守スヘシ
- 患者ノ親戚縁故ノ者患者ニ面會ノ爲メ來院シタ
ルトキハ妨ナキ限リ之ヲ許可ストモ事務員附
添看護傳播ノ虞ナキ様取締ヲ爲スヘシ
- 第二十條 患者ノ飲食物ハ醫員ノ檢査ヲ受ケタル
後ニアラサレハ供スヘカラス患者ニ供シタル飲
食物ノ殘餘ハ一定ノ容器ニ移シ消毒シタルヘシ
- 第二十一條 飲料水及飲食物ハ煮沸シタルモノヲ
用ユヘシ
- 第二十二條 院內ハ常に清潔ニ掃除シ其塵芥ハ直
ニ焼却スヘシ
- 第二十三條 看護人附添人消毒夫等ノ衣服ハ時時
消毒スヘシ
- 第二十四條 患者搬送ノ人夫及運搬器具ハ充分消
毒ヲナスヘシ
- 第二十五條 患者ノ排泄物及汚染物並ニ之ヲ拭キ
タル紙片等ハ一定ノ容器ニ受ケ消毒スヘシ
- 第二十六條 病室內ノ汚水溜埃等ハ消毒シタル後
ニアラサレハ他ニ搬出スヘカラス
- 第二十七條 患者ヲ快復期患者室ニ移ストキハ豫
メ相當ノ消毒ヲ行フヘシ
- 第二十八條 患者全治退院並ニ附添看護人退院ノ
際ハ相當ノ措置ヲ了リタル後ニアラサレハ退院
セシムヘカラス
- 患者ノ被服又ハ敷具器物其他携帶品等ハ適當ノ
消毒ヲ爲シタル後ニアラサレハ院外ニ持出スコ
トヲ得ス
- 第二十九條 患者危篤ノ症候アルトキハ速ニ其旨
ヲ患者ニ通知スヘシ

第三十條 患者死亡シタルトキハ直ニ其旨ヲ患家ニ通知シ死體ハ相當ノ處置ヲ爲シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ

第三十一條 病歿ニハ遺紙油紙等汚物汚染ノ虞ナキモノヲ用ユヘシ

第三十二條 病院内ニハ病狀日誌處方録ヲ備ヘ病狀並ニ處方等ヲ詳記シ置クヘシ

第三十三條 總テ患者轉歸ノ場合ハ即時警察官吏検査委員及戸長若クハ豫防委員ニ通報スヘシ

第三十四條 醫長ハ患者統計表ヲ調製スヘシ

第三十五條 隔離病舎ノ管理モ亦本規程ヲ準用スヘシ

附則

第三十六條 従前設置ノ避病院ハ此規程ニ據リ更ニ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 傳染病院又ハ隔離病舎ノナキ區町村ハ將來之ヲ建設スルマテ假リニ民衆其他適當ノ建物ヲ以テ隔離病舎ニ充テ患者ヲ容ルルノ設備ヲナスヘシ

○明治三十三年四月十三日訓令第二十號(支廳警察署同分署區役所戸長役務規程)

傳染病豫防法施行細則第十四條ニ據リ清潔方法施行順序左ノ通定ム

第一條 清潔方法ノ施行ハ毎年春秋二季トシ支廳警察官署區役所戸長役務等協議ノ上其期日ヲ定ムヘシ

第二條 清潔方法施行ノ標準ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一 溝渠下水等ハ洩瀉シテ疏通セシメ塵芥溜ハ

二 前號ノ汚泥及塵芥ハ適當ノ運搬器ニ入レ汚泥ハ健康上有害ナラサル場所ニ棄テ塵芥ハ之ヲ燒却セシムルコト

三 汚泥ノ棄揚及塵芥ノ燒却ハ豫メ一定ノ場所ニ井戸ハ可成洩瀉セシムルコト

四 溝渠下水塵芥溜井戸等ニシテ破損ノ箇所ハ修繕セシムルコト

五 家庭ノ内外ハ清潔ニ掃除セシメ塵芥ハ可成日光ニ曝シテ乾燥セシムルコト

六 床下不潔ナル家屋ハ床板ヲ取外シテ掃除セシメ濕氣アル場所ハ地上ヲ覆フテ度トシ石灰又ハ乾砂ヲ撒布セシメ若クハ土地ヲ乾燥スル方法ヲ執ラシムルコト

七 家屋ノ内外ニ於ケル塵芥汚物ハ第二號ニ據リ處置セシムルコト

八 第三條 清潔方法施行ノ際消毒藥ヲ使用セシムルトキハ明治三十年五月内務省令第十三號清潔方法及消毒方法ノ各條ヲ參照シテ適宜施行セシムヘシ

第四條 清潔方法ノ施行ヲ了リタルトキハ警察署長警察分署長ヨリ左ノ書式ニ據リ報告スヘシ

○明治三十一年十一月五日訓令第八十一號 傳染病豫防法第二十三條ニ依リ衛生組合設置規定左ノ通定ム

衛生組合設置規程

第一條 清潔方法消毒法其他傳染病豫防救治ニ關シ區町村住民協同施行スル爲メ衛生組合ヲ設クヘシ

衛生組合ノ區域ハ戸長(戸長アラサル地ハ支廳長)之ヲ指定ス

第二條 衛生組合ニ組長副組長各一名ヲ置クヘシ組長及副組長ノ任期ハ二年トシ組合ニ於テ之ヲ選舉ス

組合ニ於テハ伍長若干名ヲ置クコトヲ得其任期及選舉ハ前項ニ準ス

第三條 衛生組合ノ負擔スル事項左ノ如シ

一 組合費用

二 交通遮斷等ノ場合ニ於テ食料其他備用品ノ供給

三 傳染病患者ノ收容運搬及埋葬ニ要スル人夫

事 故

(本規ニハ清潔方法施行上ニ關シ表中ニ盡ササル細大ノ事故ヲ詳記スルヲ要ス)

年 月 日

警察署長(又ハ分署長)

長 官 宛

明治(秋)年清潔方法施行表

| 種別 | 同 上 | |
|-------|-----|----|
| | 戸數 | 戸數 |
| 清潔方法 | 戸數 | 戸數 |
| 消毒藥 | 戸數 | 戸數 |
| 溝渠下水 | 戸數 | 戸數 |
| 汚物受容器 | 戸數 | 戸數 |
| 便器 | 戸數 | 戸數 |
| 消毒藥品 | 戸數 | 戸數 |
| 掃帚 | 戸數 | 戸數 |
| 手桶 | 戸數 | 戸數 |
| 如 座 | 戸數 | 戸數 |
| 桶 杓 | 戸數 | 戸數 |
| 金 盥 | 戸數 | 戸數 |
| 石炭酸 | 戸數 | 戸數 |
| 鹽 酸 | 戸數 | 戸數 |
| 生石灰 | 戸數 | 戸數 |
| 石炭酸 | 戸數 | 戸數 |
| 便器 | 戸數 | 戸數 |
| 掃帚 | 戸數 | 戸數 |
| 手桶 | 戸數 | 戸數 |
| 如 座 | 戸數 | 戸數 |
| 桶 杓 | 戸數 | 戸數 |
| 金 盥 | 戸數 | 戸數 |
| 石炭酸 | 戸數 | 戸數 |
| 鹽 酸 | 戸數 | 戸數 |
| 生石灰 | 戸數 | 戸數 |

其他物品ノ設備

四 行旅人ニシテ傳染病ニ罹リタルトキ區町村ニ於テ救養看護スルニ至ルマテ一時間一時ノ救護

五 前各項ノ外清潔方法消毒法其他豫防救治ニ關スル急務ノ事件ニシテ區町村ノ實施ヲ缺クシテアラサル場合ニ於テ當該吏員ヨリ指示セラレタル一時ノ施行

第四條 衛生組合ノ擔任スル事務左ノ如シ

一 組合ヲ代表シ組合ノ擔任スル事務ヲ掌理シ及規約履行ノ責任ヲ任スルコト

二 組合共有財産ヲ管理スルコト

三 組合費用ノ收支ニ關スルコト

四 警察官吏衛生官吏戸長又ハ検査委員豫防委員ノ指示ニ從ヒ清潔方法消毒法其他豫防施行ニ從事スルコト

五 清潔方法消毒法其他豫防ニ關スル令達訓諭ヲ組合内ニ告知スルコト

第五條 副組長ハ組長ノ事務ヲ補助シ組長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 組長ハ組長ノ職務ヲ受ケ清潔方法消毒法其他豫防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第六條 衛生組合ハ規約ヲ制定シ其規約ニハ相當ノ違約處分法ヲ設クヘシ(三十三年十一月訓令第九十八號ヲ以テ本項改正)

組合規約ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

一 組合費用ノ負擔及支出方法

二 組合共有財産ノ管理方法

三 組長以下選舉方法

四 清潔方法消毒法其他豫防上ニ關スル令達訓諭ヲ組合内ニ傳達シ遵之カ實施方法

五 第三條第二乃至第五ノ場合ニ於テ實施上必要ナル事項

要ナル事項

六 種痘普及ニ關スル事項

七 組長以下報酬ノ給否但之ヲ給スルトキハ給額及支給方法

八 前各項ノ外必要ト認ムル事項

第七條 衛生組合ニ於テハ左ノ器具藥品ヲ備フヘシ

一 汚物受容器

二 便器

三 消毒藥品溶解用樽

四 掃帚 掃帚杓付

五 手桶

六 如 座

七 桶 杓

八 金盥

九 石炭酸

十 鹽酸

十一 生石灰

十二 生石灰

但本品ヲ得難キ地方ニ在リテハ之ニ代フルニ石炭酸ヲ以テスルコトヲ得

第八條 衛生組合組長及伍長ヲ選舉シタルトキハ戸長(戸長ナキ地ハ支廳長)ニ届出ヘシ

戸長ハ支廳長ニ報告シ警察署長又ハ分署長ニ通報スヘシ

第九條 衛生組合ノ規約ハ支廳長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

支廳長ニ於テ組合規約ヲ認可シタルトキハ其區域及戸數入口ヲ記シ規約ノ寫一部ヲ添ヘ當廳ニ報告スヘシ

第十條 警察官吏衛生官吏戸長(戸長ナキ地ハ支廳長)又ハ検査委員豫防委員ハ組合ニ於テ豫備

モル器具藥品等ヲ監査スヘシ

附 則

第十一條 明治二十三年(七月)北海道訓令第五十七號ハ廢止ス

第十二條 第三條第一項ノ組合費用ハ當分ノ内區町村費ヲ以テ其一部又ハ全部ヲ補助スルコトヲ得(三十二年二月訓令第十號ヲ以テ本條追加)

第十三條 衛生組合ヲ組織シ及組長等ノ選舉ニ關スル事務ハ戸長(戸長アラサル地ハ支廳長)ニ於テ管掌スヘシ(三十二年二月訓令第十號ヲ以テ本條追加)

○明治三十五年九月十一日訓令第五號(支廳警察署同分署)

船舶検査施行手續左ノ通定ム

船舶検査施行手續

第一條 検査ヲ施行スヘキ船舶入港シタルトキハ検査委員ハ即時出張シ之カ検査ヲ施行スヘシ

第二條 検査ヲ施行スルコトキハ船舶長又ハ代理者ニ就キ左ノ事項ヲ尋問スヘシ但航海日誌其ノ他記録アルモノハ之ニ對照スヘシ

一 船舶種類船名

二 登簿噸數

三 發航地及其ノ年月日

四 寄港地及其ノ年月日

五 乗組員及船客ノ人員

六 検査ヲ受ケタル港名及其ノ年月日若シ消毒ヲ受ケ又ハ隔離停船ヲ命セラレタルトキハ其事實ノ概要

七 航海中患者死者ノ有無若シ患者死者アルトキハ其病狀概略等

第三條 乗組員及船客ハ其室又ハ便宜ノ場所ニ於テ發熱ヲ爲シ疑ハシキ者アルトキハ之ヲ隔離シ

尙必要ヲ認メタルトキハ撰拔シテ最後ニ精査檢診スヘシ但乘組員及船客ハ其人員ヲ名簿ニ對照スヘシ

- 第四條 檢疫施行ノ際ハ一面船内各室ヲ巡檢シ異狀トキヤ若クハ注意スヘシ
第五條 檢疫ヲ施行シタル船舶ヨリ檢疫終了ノ證明ヲ請フモノアルトキハ第一號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ
第六條 消毒ヲ施行シタル船舶ヨリ消毒終了ノ證明ヲ請フモノアルトキハ第二號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ
第七條 檢疫ヲ施行シタル船舶ハ第三號様式ニ依リ週報トシテ報告シ其他報告ノ必要アリト認ムル事項ハ隨時報告スヘシ
第八條 船舶檢疫施行ノ際虎列刺病患者死亡若クハ疑似患者死亡者ヲ發見シタルトキハ直ニ電信又ハ電話ヲ以テ報告シ一面詳細ナル調査報告書ヲ提出スヘシ
第九條 檢疫委員事務所ニハ左ノ帳簿ヲ備ヘ整理スヘシ但事務所ヲ設置セサルトキハ警察署ニ於テ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 船籍種類名簿 (登録噸數)
二 檢疫日誌
三 檢疫書類編冊
四 備品簿
五 消耗品受拂簿
六 郵便切手受拂簿

船籍種類名簿 (登録噸數)
右船舶ニ對シ檢疫ヲ施行シタルニ異狀ナキコトヲ證明ス
明治 年 月 日
何檢疫委員事務所長 官 氏 名 印
(事務所ヲ開設セサルトキハ「於何港」ト肩書シ官吏ヨリ出タル檢疫委員中ノ上席者署名スヘシ)
(第二號様式)
船舶消毒施行済之證

一 船籍種類名簿 (登録噸數)
右船舶ニ對シ消毒ノ施行ヲ終了シタルコトヲ證明ス
明治 年 月 日
何檢疫委員事務所長 官 氏 名 印
(事務所ヲ開設セサルトキハ「於何港」ト肩書シ官吏ヨリ出タル檢疫委員中ノ上席者署名スヘシ)
(第三號様式)

Table with columns for ship name, departure/arrival date, crew, passengers, and other details. Includes a sub-table for '船種' (Ship Type) with categories like 船名, 月日, 港名, etc.

記載例
一 檢疫委員事務所ヲ置カサルトキハ何港署ト記入スヘシ
○明治三十五年四月六日訓第三百四十九號(函館臨時海港檢疫所小樽警察署)
健全證書交付心得左ノ通定ム
第一條 健全證書交付手續第一條ニ依リ健全證書ノ交付ヲ申請スルモノアルトキハ左ノ狀況ヲ調査シ之ヲ下付スヘシ
一 船舶中ニ傳染病患者又ハ其死者アルトキハ下付スルコトヲ得ス
二 船中ニ傳染病流行ノトキ又ハ傳染病流行ノ疑

アルトキハ下付スルコトヲ得ス
第二條 前條一號及二號ノ理由ニ依リ健全證書ノ下付ヲ拒絕シタルトキハ其國名船名船長名ヲ即報スヘシ
第三條 健全證書用紙ハ當廳ヨリ回送ス其ノ受拂ハ別紙様式ノ稟報ニ記入整理スヘシ
第四條 健全證書用紙ノ受拂ハ毎月五日前月分ノ稟報ニ書損用紙ヲ添ヘ當廳ニ報告スヘシ
健全證書受拂稟報様式

Table with columns: 年月日, 摘要, 受, 拂, 殘, 備, 考

記載例
證書下付シタルトキハ其國名船名船長名ヲ摘要欄ニ記入ス
○明治三十五年四月九日訓第三百七十一號(函館支廳小樽支廳室蘭支廳)
路支廳函館臨時海港檢疫所小樽警察署室蘭警察署函館警察署宛)
明治三十年六月北海道廳告示第三百三十五號ニ依リ證明書ノ下付ヲ申請スルモノアルトキハ從來支廳ニ於テ下付シ來リタル所自今函館ニ在テハ臨時海港檢疫所小樽室蘭函館ニ在テハ所轄警察署ニ於テ下付方取附シヘシ
但下付ノ際ハ過去二箇月間ハスト病流行地方ニ寄港セザリシ事實ヲ精査スヘシ
○明治三十五年四月六日廳令第五十二號
明治三十五年三月内務省令第九號第一條健全證書交付ノ申請ハ小樽室蘭函館ニ於テハ其ノ地ノ警察官署ニ提出スヘシ
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
○明治三十年六月二十七日告示第三百三十五號
露領浦潮斯德港近傍ニ「ベスト」病檢疫所ヲ設ケタルニ付同港及太平洋沿岸諸港ニ航行スル船舶ハ總テ同所ニ於テ檢疫ヲ受ケヘシ但北海道各港ヨリ薩摩島ニ直航スル日本船舶ニ限リ帝國當該官廳ヨリ交付スル健康證書及過去二箇月間「ベスト」病流行地方ニ寄航セザリシ事實ノ證明書ヲ攜帶シ得ル

薩摩ニ於テ其向ノ檢査ヲ受クルトキハ本文ノ檢疫ヲ受クルヲ要セザル旨其筋ヨリ送セラル
○明治三十年八月三日告示第六十七號
本年(六月)北海道廳告示第三百三十五號ヲ以テ露領太平洋沿岸諸港ニ航行スル船舶ハ浦潮斯德港近傍ニ設ケアル「ベスト」病檢疫所ニ於テ檢疫ヲ受ケヘキ旨告示及置候處自露領沿海洲へ航行スル日本漁船ニシテ荷物ヲ積載セサルモノニ限リ帝國當該官廳ヨリ交付スル健康證書及過去二箇月間「ベスト」病流行地方ニ寄航セザリシ事實ノ證明書ヲ攜帶シ得ル薩摩港又ハ「ニコライスク」港ニ於テ其向ノ檢査ヲ受クルトキハ浦潮斯德港ノ檢疫ヲ受クルヲ要セザル旨其筋ヨリ通知アリ
但シ露領薩摩島ニ航行スル船舶薩摩港ニ於テ檢査ヲ受クルコトハ從前ノ通りタルヘシ
○明治二十九年九月三日告示第六十九號
露國哥爾薩港口ニ於テ檢疫ヲ施行スルニ付キ同港へ渡航スル船舶ハ健康證書ヲ攜帶スヘキ旨其筋ヨリ通知アリ
○明治三十二年九月二十八日告示第二百三十三號
自今函館港ヨリ露領「ニコライスク」ニ航行スル船舶ハ浦潮斯德港ニ寄港セシテ「ニコライスク」ニ直航スルヲ得ルニ付是等船舶ハ必ス健康證書ヲ攜帶スヘキ旨該健康證書ハ函館港ニ入ル前不健康地ニ寄港セザル船舶ニ限リ函館駐劄露國領事ヨリ交付スヘキ旨同領事ヨリ通知アリ
○明治三十三年五月十八日告示第七十號
大阪ニ於テ「ベスト」再發ニ付日本船舶ヲ露國アリモルスク洲北比利亞諸港及薩摩島ニ航行スル日本船舶ハ檢疫ヲ受クル旨最前浦潮斯德港ニ寄港シ健康證書ヲ受ケタル後其目的地ニ航行スヘキコトニ定メラル函館ヨリ薩摩島ニ航行スル日本船舶ニ限リ北海道内ニ「ベスト」發生セザル間ハ以上ノ手續ヲ履行スルニ及ハサル旨函館在露國領事ヨリ通知アリ
○明治三十五年七月二十三日告示第三百三十一號
本邦ヨリ露國ニ赴ク船舶ハ健全證書ヲ得ル旨露領浦潮斯德港へ寄港スヘシトノ規程ハ自今本邦ノ南方諸港ヨリ來ル船舶ニミ適用シ北方諸港ヨリ來ル船舶ニシテ露國領事ヨリ交付シ且發航地ニ病毒アリサルコトノ保證書ヲ有スルモノハ自由航行ヲ爲シ得ル旨其筋ヨリ通知アリ
○明治三十一年七月一日廳令第四十八號

區町村傳染病防疫補助規程ノ通定ム

區町村傳染病防疫補助規程

第一條 區町村ニ於テ支出スル傳染病防疫法第二十一條及第二十三條第二項ノ費用ハ本規定ニ據リ國庫ヨリ補助ス但シ支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其收入ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

第二條 傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ建築ニ關スル費用ハ其支出精算額二分ノ一トス但シ一時假設ノモノ及認可ナラズルモノハ此限ニテラス

第三條 左ノ諸費ニ對シテハ其支出精算額三分ノ一トス

一 預防委員ニ關スル諸費

二 區町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三 預防救治ノ爲メ雇入タル醫師其他ノ人員其預防上必要ナル器具藥品其他ノ物件ニ關スル諸費

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ニ關スル諸費(第二條ニ據レテ建築ニ關スル費用ヲ除ク)

五 預防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療料及其遺族ニ給スヘキ救助料、吊祭料

六 傳染病防疫法第八條ニ據レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲メ又ハ一時營業ヲ失ヒ自活スル能ハサル者ノ生活費

七 區町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者遺死者ニ關スル諸費

八 區町村ノ衛生組合ニ對シテ補助費

九 其他區町村ニ於テ施行スル預防事務ニ關スル諸費

第四條 傳染病流行ノ狀況ニヨリ又ハ特別ノ事情アリト認ル區町村ニハ第二條第三條ノ規定ニ拘ハラズ支出精算額ノ全部迄補助スルコトアルヘシ

第五條 補助ハ時宜ニ據リ物品(消毒器具器械藥品痘苗等)ヲ以テスルコトアルヘシ但此場合ニ在リテハ補助金額中ニ物品ノ代價ヲ通算シ補助金額ヲ定ムルモノトス

○明治三十二年六月二十三日訓令第三十八號(支廳長役場宛)

明治三十一年(七月)北海道廳令第四十八號區町村傳染病防疫補助規程ニ據リ補助請求手續ヲ通定ム

區町村傳染病防疫補助請求書

第一條 區町村傳染病防疫補助規程第二條第三條ノ補助費ヲ要スルトキハ

ハ支出ニ對スル諸費額ヲ添ヘ第一號第二號式ノ區別ニ據リ請求スヘシ

將證書ニハ逐次番號ヲ附記スヘシ

第二條 補助規程第四條ノ補助ヲ受ムルトキハ前條ノ手續ニ準シ山ヲ詳細記述スヘシ

第三條 補助金ニ關シテ長ヨリ差出スヘキ書面ハ支廳ノ經由シ支廳長ハ第一條ノ規定ニ對シテハ意見ヲ附シテ之ヲ通達スヘシ

第一號書式

區町村傳染病防疫補助請求書

一 金

但別紙仕譯書ノ通

右何病種防疫トシテ支出シタル區(町)村費ハ國庫ヨリ補助金御交付相成度證憑書何葉相添ヘ此段請求候也

年 月 日

何郡區町村長(戶長)リサル地ハ支廳長以下同シ(氏名印)

長 官 宛

(別紙)

| 種 目 | 仕 譯 書 | | 仕 譯 書 | |
|--------|--------|-------|-------|-------|
| | 區(町)村費 | 支出入高 | 支出入高 | 國庫補助高 |
| 衛生組合費 | 20000 | | 20000 | 10000 |
| 區(町)村費 | | 20000 | | |
| 支出入高 | | | 20000 | |
| 支出入高 | | | | 10000 |
| 合計 | 20000 | | 20000 | 10000 |

一 補助規程第四條ノ補助ヲ受ントスルトキハ歩合ノ額ニ制限外ト記入スヘシ

第二號書式

區町村傳染病防疫補助請求書

一 金

但別紙仕譯書ノ通

右ハ當區(町)村)内何衛生組合ニ於テ清潔方法施行ノ爲(又ハ何病種防疫救治ノ爲)要シタル區(町)村)費ノ補助額ノ國庫ヨリ補助金御交付相成度證憑書何葉相添ヘ此段請求候也

年 月 日

長 官 宛

何郡區町村長(戶長) 氏 名印

(別紙)

○明治三十三年三月二十日廳令第十號

區町村ハ明治三十三年法律第三十號ノ規定ニ準シ傳染病ノ防疫救治ニ從事シ公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタル者ニ手當金ヲ給スル規定ヲ設ケ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

○明治二十二年十一月二十二日廳令第六十九號

函館新水道取給規則左ノ通り定ム

函館新水道取給規則

第一條 函館新水道取水入口及其上流二百間以内ニ於テ鳥魚ヲ捕リ又ハ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フカラス

第二條 前條ノ場所及沈澱地配水池ニ瓦礫其他ノ物品ヲ投棄シ又ハ凡テ水質ヲ汚濁スルノ所爲ヲナス可カラズ

第三條 鐵管其他水道橋具ヲ發掘シ又ハ凡テ之ヲ

傷害スルノ所業ヲ爲ス可カラズ

第四條 公道ニアラサル水道敷地内ニ踏車馬等ヲ牽入又ハ土塊ニ上リ又ハ掘ニ其竹木下草ヲ伐採ス可カラズ

第五條 供水檢防火檢其他水道ニ屬スル一切ノ用具ヲ濫ニ使用シ又ハ玩弄ス可カラズ

第六條 供水檢近傍ニ於テ鳥魚又ハ諸物品ヲ洗フ可カラズ

第七條 本則各條ニ違犯シタル者ハ二日以上五口以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス(二十八年十月廳令第七十六號ヲ以テ本條改正)

○明治三十四年七月二十四日廳令第三百三十一號

汚物掃除法施行細則左ノ通り定ム

第一條 公共溝渠又ハ私人ニ於テ築造修繕スル溝渠ノ構造ハ石材煉化其他不浸透質ノ材料ヲ用ヒ

其接際ハ「セメント」又ハ漆喰ヲ以テ包圍スヘシ但流水ヲ引入レ疏通ニ障害ナク且土地ヲ汚染スル虞ナキ溝渠ハ此ノ限リニアリ

土地ノ狀況ニ依リ前項ノ構造制限ニ據ルコト能ハサルトキハ區町村ニ在リテハ當區私人ニ在リテハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ一寸以上ノ厚板ヲ以テ構造シ内外ニ「コールター」ヲ塗リ不浸透質ノ材料ニ代用スルコトヲ得

溝渠ノ傾斜及深淺ハ受クル所ノ水質ニ應ジ且適當ノ勾配ヲ附スヘシ

第二條 土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ警察官署ノ許可ヲ得テ汚水溜ヲ設ケルコトヲ得

第三條 汚水溜ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 汚水溜ハ石材煉化其他不浸透質ノ材料ヲ用ヒ其ノ接際ハ「セメント」又ハ漆喰ヲ以テ包圍スヘシ但一寸以上ノ厚板ヲ以テ構造シ

| 種 目 | 仕 譯 書 | | 仕 譯 書 | |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| | 衛生組合費 | 區(町)村費 | 支出入高 | 國庫補助高 |
| 衛生組合費 | | | | |
| 區(町)村費 | | | | |
| 支出入高 | | | | |
| 支出入高 | | | | |
| 合計 | | | | |

内外三「コールド」ヲ除リ不潔遺棄ノ材
料ニ代用スルコトヲ得
二 汚水溜ノ上部ハ地盤ヨリ三寸以上トシ適當
ナル覆蓋ヲ設クヘシ
第四條 左ニ掲ケル汚水ハ公共溝渠ニ排洩スヘカ
ラス
一 其シキ臭氣ヲ發スルモノニシテ防臭劑ヲ施
ササルモノ
二 多量ノ沈澱物ヲ混スルモノニシテ濾過セザ
ルモノ
三 死體解剖及外科手術ニ因リ生シタルモノニ
シテ消毒セサルモノ
四 前各號ノ外警察官吏ニ於テ特ニ指シタル
モノ
前項ノ汚水ハ警察官吏ノ指定シタル方法ニ
依リ處置スヘシ
第四條ノ二 塵芥容器ハ數戸共同使用スルコトヲ
得
長屋居住者ノ掃除シタル塵芥ヲ蒐集スル容器ハ
建物所有者ニ於テ之ヲ設備スヘシ(三十五年七
月廳令第百二號ヲ以テ本條追加)
第五條 區町村ハ塵芥置場又ハ焼却場及汚泥置場
ノ位置ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
第六條 區町村ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ
區ニ在テハ三日町村ニ在テハ五日以内ニ各戸ヨ
リ搬出スヘシ
第六條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル掃除義務者
ハ其汚物ヲ公設塵芥置場又ハ汚泥置場ニ搬出ス
ヘシ但所轄警察官署ノ認可ヲ受ケタル方法ニ依
リ處置スル場合ハ此限ニアラス
一 面積三千坪以上ノ地域ヲ有スル者
一 汚物蒐集費日平均十員以上ノ者(三十五

五年七月廳令第百二十號ヲ以テ本條追加)
第七條 區町村ニ於テ新ニ公共便所ヲ設ク又ハ改
造セントスルトキハ其ノ位置ヲ記シ所轄警察官
署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ變更ノ場合亦同シ
第八條 私人ニ於テ新ニ便所ヲ設ク又ハ改造セン
トスルトキハ著手前及竣工後所轄警察官署ニ届
出検査ヲ受クヘシ其ノ竣工検査ヲ受ケルニアラ
ラレハ使用スルコトヲ得ス
第九條 便所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一 便所ノ位置ハ飲料水ヨリ二間以上ノ距離ヲ
有タシムヘシ但警察官署ノ認可ヲ受ケタル
場合ハ此限ニアラス
二 便所敷地ハ地盤ヨリ三寸以上ノ高サトシ雨
水ノ流入ヲ防クヘシ
三 屎尿盛ハ内外ニ桶蓋ヲ施シタル蓋其ノ他不
潔透氣ノ材料ヲ用ヒ其ノ接合ハ「セメント」
又ハ漆喰ヲ以テ包裏スヘシ但一寸以上ノ厚
板ヲ以テ構造シ内外ニ「コールド」ヲ
施リ不潔透氣ノ材料ニ代用スルコトヲ得
四 屎尿盛ノ上部周邊ハ石材煉化其ノ他不潔透
氣ノ材料ヲ用ヒ其接合ハ「セメント」又ハ漆
喰ヲ以テ包裏スヘシ但一寸以上ノ厚板ヲ以
テ構造シ「コールド」ヲ施シ不潔透氣ノ
材料ニ代用スルコトヲ得特殊ノ装置ニシテ
周圍ノ土地ヲ積ス成サキモノハ此限ニアラ
ス
第十條 私人ニ於テ第一條第二項ノ許可ヲ受ケス
シテ構造シタル者第四條ノ二第二項ノ塵芥容器
ヲ掃除監視員ノ指定シタル期間ニ設備セサル
者及第二條第四條第六條ノ二第八條ニ違背シタ
ル者ハ一四九十五錢以下ノ料科ニ處ス(三十五
年七月廳令第百二十號ヲ以テ本條中改正)

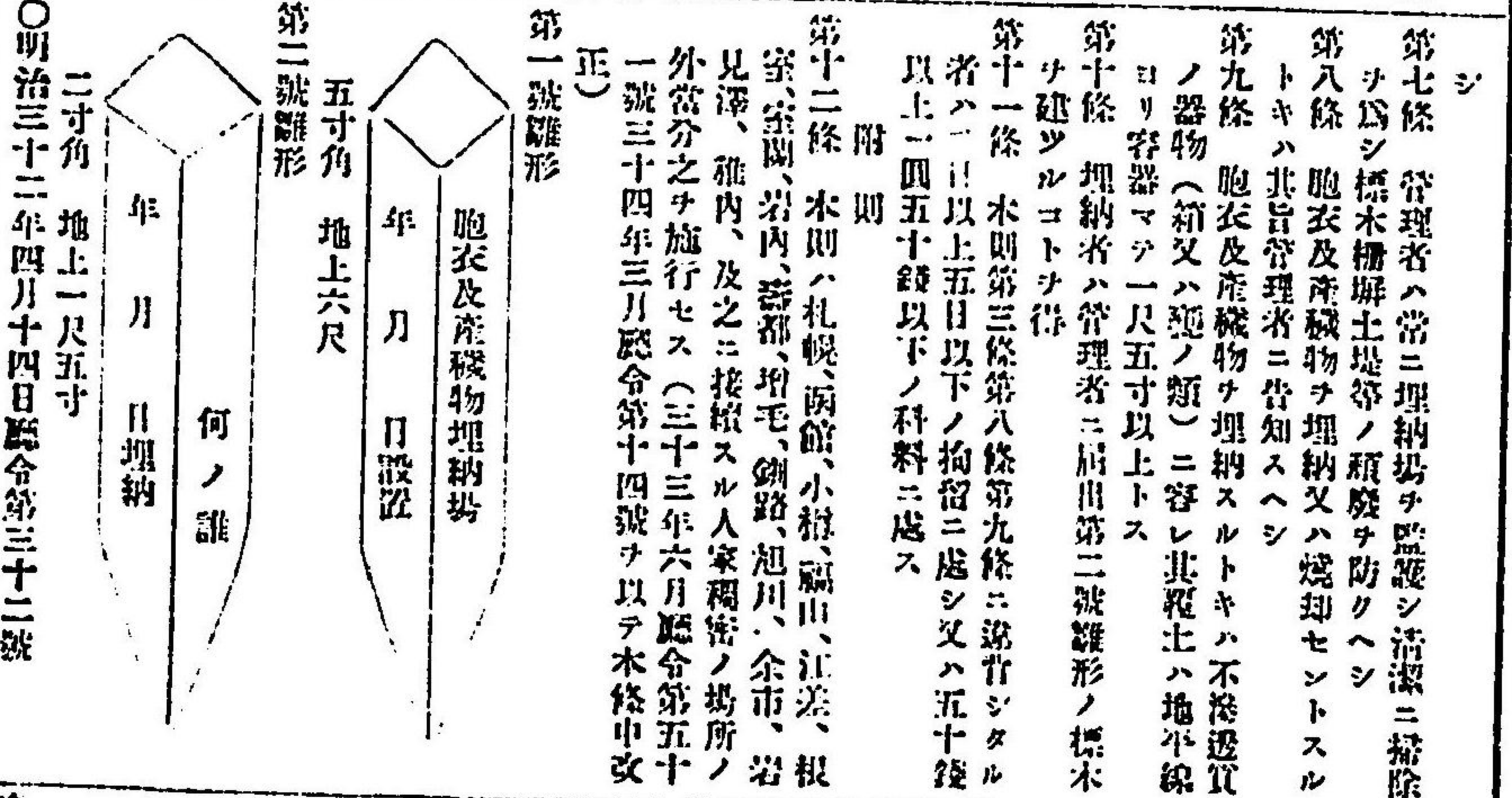
第十一條 本則ハ明治三十四年九月一日ヨリ施行
ス
第十二條 公共溝渠又ハ私人ニ於テ設備スヘキ溝
渠ノ設備ナク若ハ此ノ規定ニ適合セザルモノ及
從前設置ノ汚水溜ニシテ此規定ニ適合セザルモノ
ノ施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ築造又ハ修繕ス
ヘシ(三十五年七月廳令第百二十號ヲ以テ本條
中改正)
前項期間内ニ築造又ハ修繕スルコト能ハサル場
合ハ區町村ニ在テハ當廳私人ニ在テハ所轄警察
官署ノ認可ヲ受ケ其ノ期間ヲ延期スルコトヲ得
第十三條 從前設置ノ便所ニシテ此規定ニ適合セ
ザルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ築造
又ハ修繕スヘシ三十五年七月廳令第百二十號ヲ
以テ本條中改正)
第十三條ノ二 私人ニ於テ設備スヘキ汚泥汚水溜
及便所ニシテ衛生上改造又ハ修繕ノ必要アリト
認ムルトキハ第十二條及第十三條ノ期限内トシ
トモ所轄警察官署ニ於テ改造又ハ修繕ノ命スルコ
トアルヘシ(三十五年七月廳令第百二十號ヲ以
テ本條追加)
第十四條 溝渠汚水溜及便所ノ構造ニシテ特別ノ
規定アルモノハ本則ヲ適用セス
○明治三十四年七月二十四日廳令第百三十三號
明治三十三年(三月)法律第三十一號汚物掃除法第
十一條ニ依リ該法ヲ準用スヘキ區町村左ノ通稱定
ス但札幌區函館區小樽區以外ノ各町ニ於テハ當廳
ノ認可ヲ受ケ明治三十四年七月北海道廳令第百三
十一號汚物掃除法施行規則第六條ノ施行ヲ延期
スルコトヲ得(三十五年七月廳令第百一號ヲ以テ
但書追加)
札幌區市街地

函館區市街地
小樽區市街地
松前郡福山町市街地
松山郡江差町市街地
岩内郡岩内町市街地
余市郡余市町市街地
室蘭郡室蘭町市街地
上川郡旭川町市街地
釧路郡釧路町市街地
根室郡根室町市街地
○明治三十四年七月二十四日廳令第百三十二號
掃除監視員ノ定員俸給及證書左ノ通定ム
第一條 汚物掃除法ヲ準用施行スル區町村ニ在テ
ハ左ノ掃除監視員ヲ置クヘシ
一 掃除監督長 一人
二 掃除監督 一人乃至二人
三 掃除監視 一人乃至十人
但町村ニ於テハ土地ノ状況ニ依リ減シテ
一人トナスコトヲ得
第二條 掃除監視員ノ俸給ヲ定ムル左ノ如シ但
公吏又ハ戸長役場吏員ニ於テ兼掌スル場合ハ此
ノ限ニアラス
一 掃除監督長 月俸六十圓以下
二 掃除監督 月俸三十四圓以下
三 掃除監視 月俸二十四圓以下(三十五年七
月廳令第百號ヲ以テ本項改
正)

第三條 掃除監視員ノ攜帶スヘキ證書ハ左ノ如
シ
第四條 本則ハ明治三十四年七月北海道廳令第百
三十三號但書ニ依リ一部ノ施行ヲ延期シタル町
ニ適用セス(三十五年七月廳令第百號ヲ以テ本
條追加)
三寸
三寸
何區役所又ハ何町戸長役場
掃除監督長
掃除監視員
氏名

一 曾テ判任官以上ノ職ヲ奉シ若クハ其ノ資格
ヲ有スル者
二 陸海軍現役滿期トナリ下士適任證書ヲ有ス
ル者
三 一箇年以上巡查ノ職ヲ奉シタル者若クハ一
箇年以上官公署ニ於テ衛生事務ニ從事シタ
ル者
第二條 掃除監視員志願者ハ身體強健年齢二十一年
以上五十年未満ニシテ且左ノ各號ニ低額セザル
者タルヘシ
一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラル者若クハ
同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ罪ニ處シテ
二 附セラルタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラル
滿期後五年ヲ経過セザル者但舊法ニ依リ施
刑ノ刑ニ處セラルタル者ハ此ノ限ニ適用ス
三 身分不相應ノ負債アル者
三 酒精アル者又ハ素行修ラサル者
第三條 掃除監視員ノ試験ハ左ノ各號ニ適合ス
ル者ヲ以テ合格トス
一 衛生法規及地方制度ノ大要ニ通スル者
二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者
三 假名交リ文及普通往復文ヲ作リ得ル者
四 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者
五 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書シ得ル者
第四條 區町村長又ハ戸長ハ本則ニ基キ當廳ノ認
可ヲ得テ掃除監視員手續ヲ設ケタルコトヲ得
○明治三十四年八月二十七日廳令第百八十七號
(支廳區役所町村役場戸長役場宛)
掃除監視員服務規程左ノ通定ム
第一條 掃除監視員ハ上司ノ命令ニ服從シ忠實勤勉

○明治三十二年四月十四日廳令第三十一號
 第一條 區町村ハ胞衣及産穢物埋納場ヲ設置スヘシ
 第二條 胞衣及産穢物埋納場ヲ設置セントスルトキハ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ届出許可ヲ受クヘシ
 第三條 胞衣及産穢物埋納場ハ埋納場外ニ於テ埋納スルニ付テハ
 第一 埋納場ノ衛生上ノ障礙トナラサル場所ヲ擇ム
 第二 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ



○明治三十二年四月十四日廳令第三十二號
 第一條 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ
 一 埋納場ノ構造ハ

者ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ料科ニ處ス
 ○明治二十年六月二十四日廳令第七十四號
 第一條 本則ニ於テ市場ト稱スルハ鳥獸及畜物類ノ市場ヲ開設シ賣買スル場所ヲ云フ
 第二條 市場ヲ開設セントスル者ハ左ノ各款ヲ具備シ豫定地及其ノ附近ノ略圖並ニ隣接地主ノ承諾書ヲ添ヘ當廳ニ届出許可ヲ受クヘシ但隣接地主ノ承諾書ヲ得ル能ハサルトキハ其理由書ヲ添フヘシ
 第三條 市場開設ノ場所
 一 賣買スヘキ物品ノ種類
 二 市場開設ノ許可アリタルトキハ開設前左ノ各款ヲ取調ヘ當廳ニ届出一號乃至三號ハ認可ヲ受クヘシ
 一 市場構造ノ設計
 二 市場ノ他種除ニ關スル方法
 三 市場ノ持主管理役員等ノ住所氏名
 四 市場開設ノ定日時
 第五條 第二條及第三條ノ各款ヲ變更セントスルトキ又ハ異動アリタルトキハ各本條ニ據リ更ニ届出又ハ届出ヘシ

第七條 管理者ハ常ニ埋納場ヲ監視シ清潔ニ掃除スルヲ爲シ橋木欄土堤等ノ崩壊ヲ防クヘシ
 第八條 胞衣及産穢物埋納場外ニ於テ埋納スルトキハ其旨管理役員ニ告知スヘシ
 第九條 胞衣及産穢物埋納場外ニ於テ埋納スルトキハ不潔遺棄ノ器物(箱又ハ瓶ノ類)ニ容レ其覆土ハ地中線ヨリ容器マテ一尺五寸以上トス
 第十條 埋納場ハ管理者ニ届出第二號形ノ橋木ヲ建ツルコトヲ得
 第十一條 本則第三條第八條第九條ニ違背シタル者ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ料科ニ處ス
 第十二條 本則ハ札幌、函館、小樽、釧路、江差、根室、室蘭、岩内、釧路、旭川、余市、岩見澤、稚内、及之ニ接続スル人家稠密ノ場所ノ外當分ニ施行セス(三十三年六月廳令第五十一號三十四年三月廳令第十四號ヲ以テ本條中改正)

第五條 市場開設ノ定日時及市場ニ於テ徵收スル手数料口錢等ノ金額ハ場内ニ掲記シ置クヘシ
 第六條 市場ハ汚水ヲ疎通セシメ常ニ清潔ニ掃除スルコトヲ得
 第七條 市場ヲ廢止シタルトキハ三日以内ニ持主又ハ管理者ヨリ當廳ニ届出ヘシ
 第八條 市場ニ於テ賣買スル物品ニシテ有害ト認ムルモノアルトキハ臨場ノ警察官更ニ於テ其ノ賣買ヲ禁止スルコトアルヘシ
 第九條 市場ニ於テ賣買スル物品ニシテ有害ト認ムルモノアルトキハ臨場ノ警察官更ニ於テ其ノ賣買ヲ禁止スルコトアルヘシ
 第十條 警察官署ト經テ當廳ニ差出スヘキ願願ハ所轄警察官署ト經テ市街地ニ一箇所トス但土地ノ狀況ニ依リ增加スルコトアルヘシ
 第十一條 市場ヲ許可シタルトキハ其都度之ヲ告示ス
 第十二條 左ノ場合ニ於テハ市場設置ノ許可ヲ取消シ又ハ市場ノ開設ヲ停止スルコトアルヘシ
 一 第二條ノ許可ヲ受ケタル後一箇年以内ニ市場ノ開設ヲ爲ササルトキ
 二 衛生上危害ノ虞アリト認ムルトキ(三十四年三月廳令第十九號ヲ以テ本條改正)
 第十三條 從來開設ノ市場ニシテ糞糞營業セントスル者ハ本年六月三十日迄ニ本則ニ據リ届出許可ヲ受クヘシ
 第十四條 左ノ各款ニ該當スル者ハ二日以上五目以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ料科ニ處ス
 一 第二條ノ許可又ハ第三條ノ認可ヲ受ケスニテ市場ヲ開設シタル者
 二 第四條ノ手續ヲ履マサル者

第八條 製造者又ハ請買者ニ於テ自ノ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商シテサシメント欲スルトキハ免許證札ヲ寫行商者ノ族居住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ願出免許證札ヲ受ケ行商ノトキハ之ヲ携帯スヘシ

第九條 製造者廢業又ハ販賣ヲ禁止セラレタルトキハ即日死亡ノトキハ家主又ハ家族ヨリ五日以内ニ其旨ヲ請買者及自己ニ屬スル賣子ニ通知シ尙未販賣ヲ禁止セラレタルトキハ請買者ノ住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 請買者賣子等ニシテ販賣禁止ノ通知ヲ受ケタルトキハ即日販賣ヲ止ムヘシ

第十一條 營業者販賣禁止廢業又ハ他府縣ニ轉居シ若クハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

一 販賣禁止セラレタルトキハ製造免許證札ハ即日請買證札ハ十日以内行商證札ハ一箇月以内ニ返納スヘシ

二 請買者行商者第九條ノ通知ヲ受ケ其販賣ヲ止メタルトキハ五日以内ニ請買行商證札ヲ返納スヘシ

三 廢業又ハ他府縣ニ轉居シタルトキハ製造請買證札ハ五日以内ニ行商證札ハ一箇月以内ニ返納スヘシ

四 營業者死亡ノトキハ家主又ハ家族ヨリ製造請買證札ハ五日以内ニ行商證札ハ一箇月以内ニ返納スヘシ

第五 營業者轉居改氏名等免許證札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ書換ヲ願出ヘシ

第六 賣子死亡解雇轉居改氏名等行商證札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ營業者ヨリ證札返納又ハ書換ノ手續ヲナスヘシ

第七 營業者轉居改氏名等ノ爲メ賣子行商免許證札面ニ異動ヲ生シタルトキハ一箇月以内ニ書換ヲ願出ヘシ

第十二條 免許證札ヲ毀損亡失シタルトキハ五日以内ニ其事ヲ記シ更ニ下渡ヲ願出ヘシ

第十三條 免許證札ハ貸借スルコトヲ得ス

第十四條 當廳長官ハ臨時主務官吏ヲ派遣シ製劑ヲ検査セシムルコトアルヘシ

但シ検査ノ爲メ消費シタル製劑ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第十五條 本則ニ依リ當廳ニ差出ヘキ願出書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十六條 第二條第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十四條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五箇月以上一箇年以下ノ科料ニ處ス仍ホ無免許ノ製劑ニシテ有害ト認ムルモノハ製劑ヲ廢棄セシムルコトアルヘシ

附則
第十七條 本令ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス

第十八條 從來ノ製造者及請買者或他府縣下及外國ノ製造ニ係ル製劑販賣者ニシテ引續製造販賣セント欲スル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ本則第二條第三條第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一號書式ノ一 賣藥部外品製造販賣願

一 劑名
原料分量
製法
用法
效能

右製造販賣仕度候間御検査ノ上免許證札御下渡相成度製劑原料相添ヘ此段奉願候也

何郡何町何番地住(寄附)
何郡何町何番地住(平民)
何年何月何日生

北海道廳長官氏名殿

第一號書式ノ二

一 劑名
原料分量
製法
用法
效能

右何年何月何日御検査済證札御下渡營業仕候處今般何何ノ廉左ノ通り改正仕度候間證札御書換被下度此段奉願候也

一 改正ノ廉ヲ詳記スヘシ
何郡何町何番地住(寄附)

何郡何町何番地住(平民)
何年何月何日生

北海道廳長官氏名殿

備考
原料分量製法ヲ變更セントスルトキハ其製劑並原料ヲ添フヘキモノトス

第二號書式 賣藥部外品請買願

一 劑名
製造者何郡何町何番地住
右製劑今般請買仕度別紙製造者所持ノ免許證札寫留契約書相添ヘ此段奉願候也

何郡何町何番地住(寄附)
何郡何町何番地住(平民)
何年何月何日生 請買者 氏名

何警察(分)署長官氏名殿

○明治三十年六月十日訓第百十五號(警察署同分署宛)

賣藥部外品營業規則取扱手續左ノ通り定ム

賣藥部外品營業規則取扱手續

第一條 警察官署ニ於テ本則第四條ノ事實ヲ發見シタルトキハ其製劑ヲ添ヘ等部長ニ報告スヘシ

第二條 本則第九條ノ届出アルトキハ其請買者ニシテ所轄外ノ警察官署ニ屬スルモノハ速ニ該署ニ通報スヘシ但シ其請買者ニシテ管外ニ係ルモノハ等部長ニ報告スヘシ

第三條 本則第七條ノ免許證札ハ附錄第一號書式ニ第八條ノ免許證札ハ同第二號書式ニ據リ付與スヘシ

第一號書式ノ一

第一號書式ノ二

第三號書式ノ一

第三號書式ノ二

第三號書式ノ三

第三號書式ノ四

第三號書式ノ五

第三號書式ノ六

第三號書式ノ七

第三號書式ノ八

第三號書式ノ九

第三號書式ノ十

第三號書式ノ十一

第三號書式ノ十二

第三號書式ノ十三

第三號書式ノ十四

第三號書式ノ十五

第三號書式ノ十六

第三號書式ノ十七

第三號書式ノ十八

第三號書式ノ十九

第三號書式ノ二十

第三號書式ノ二十一

第三號書式ノ二十二

第三號書式ノ二十三

第三號書式ノ二十四

第三號書式ノ二十五

第三號書式ノ二十六

第三號書式ノ二十七

第三號書式ノ二十八

第三號書式ノ二十九

第三號書式ノ三十

第三號書式ノ三十一

第三號書式ノ三十二

第三號書式ノ三十三

第三號書式ノ三十四

第三號書式ノ三十五

第三號書式ノ三十六

第三號書式ノ三十七

第三號書式ノ三十八

第三號書式ノ三十九

第三號書式ノ四十

第三號書式ノ四十一

第三號書式ノ四十二

第三號書式ノ四十三

第三號書式ノ四十四

第三號書式ノ四十五

第三號書式ノ四十六

第三號書式ノ四十七

第三號書式ノ四十八

第三號書式ノ四十九

第三號書式ノ五十

第三號書式ノ五十一

第三號書式ノ五十二

第三號書式ノ五十三

第三號書式ノ五十四

第三號書式ノ五十五

第三號書式ノ五十六

第三號書式ノ五十七

第三號書式ノ五十八

第三號書式ノ五十九

第三號書式ノ六十

第三號書式ノ六十一

第三號書式ノ六十二

第三號書式ノ六十三

第三號書式ノ六十四

第三號書式ノ六十五

第三號書式ノ六十六

第三號書式ノ六十七

第三號書式ノ六十八

第三號書式ノ六十九

第三號書式ノ七十

第三號書式ノ七十一

第三號書式ノ七十二

第三號書式ノ七十三

第三號書式ノ七十四

第三號書式ノ七十五

第三號書式ノ七十六

第三號書式ノ七十七

第三號書式ノ七十八

第三號書式ノ七十九

第三號書式ノ八十

第三號書式ノ八十一

第三號書式ノ八十二

第三號書式ノ八十三

第三號書式ノ八十四

第三號書式ノ八十五

第三號書式ノ八十六

第三號書式ノ八十七

第三號書式ノ八十八

第三號書式ノ八十九

第三號書式ノ九十

第三號書式ノ九十一

第三號書式ノ九十二

第三號書式ノ九十三

第三號書式ノ九十四

第三號書式ノ九十五

第三號書式ノ九十六

第三號書式ノ九十七

第三號書式ノ九十八

第三號書式ノ九十九

第三號書式ノ百

○明治二十五年七月二十四日廳令第百五號
明治三十年(四月)北海道廳令第二十三號藥種商製藥者取締規則左ノ通り改正ス

●藥種

第一號書式ノ一

第一號書式ノ二

第一號書式ノ三

第一號書式ノ四

第一號書式ノ五

第一號書式ノ六

第一號書式ノ七

第一號書式ノ八

第一號書式ノ九

第一號書式ノ十

第一號書式ノ十一

第一號書式ノ十二

第一號書式ノ十三

第一號書式ノ十四

第一號書式ノ十五

第一號書式ノ十六

第一號書式ノ十七

第一號書式ノ十八

第一號書式ノ十九

第一號書式ノ二十

第一號書式ノ二十一

第一號書式ノ二十二

第一號書式ノ二十三

第一號書式ノ二十四

第一號書式ノ二十五

第一號書式ノ二十六

第一號書式ノ二十七

第一號書式ノ二十八

第一號書式ノ二十九

第一號書式ノ三十

第一號書式ノ三十一

第一號書式ノ三十二

第一號書式ノ三十三

第一號書式ノ三十四

第一號書式ノ三十五

第一號書式ノ三十六

第一號書式ノ三十七

第一號書式ノ三十八

第一號書式ノ三十九

第一號書式ノ四十

第一號書式ノ四十一

第一號書式ノ四十二

第一號書式ノ四十三

第一號書式ノ四十四

第一號書式ノ四十五

第一號書式ノ四十六

第一號書式ノ四十七

第一號書式ノ四十八

第一號書式ノ四十九

第一號書式ノ五十

第一號書式ノ五十一

第一號書式ノ五十二

第一號書式ノ五十三

第一號書式ノ五十四

第一號書式ノ五十五

第一號書式ノ五十六

第一號書式ノ五十七

第一號書式ノ五十八

第一號書式ノ五十九

第一號書式ノ六十

第一號書式ノ六十一

第一號書式ノ六十二

第一號書式ノ六十三

第一號書式ノ六十四

第一號書式ノ六十五

第一號書式ノ六十六

第一號書式ノ六十七

第一號書式ノ六十八

第一號書式ノ六十九

第一號書式ノ七十

第一號書式ノ七十一

第一號書式ノ七十二

第一號書式ノ七十三

第一號書式ノ七十四

第一號書式ノ七十五

第一號書式ノ七十六

第一號書式ノ七十七

第一號書式ノ七十八

第一號書式ノ七十九

第一號書式ノ八十

第一號書式ノ八十一

第一號書式ノ八十二

第一號書式ノ八十三

第一號書式ノ八十四

第一號書式ノ八十五

第一號書式ノ八十六

第一號書式ノ八十七

第一號書式ノ八十八

第一號書式ノ八十九

第一號書式ノ九十

第一號書式ノ九十一

第一號書式ノ九十二

第一號書式ノ九十三

第一號書式ノ九十四

第一號書式ノ九十五

第一號書式ノ九十六

第一號書式ノ九十七

第一號書式ノ九十八

第一號書式ノ九十九

第一號書式ノ百

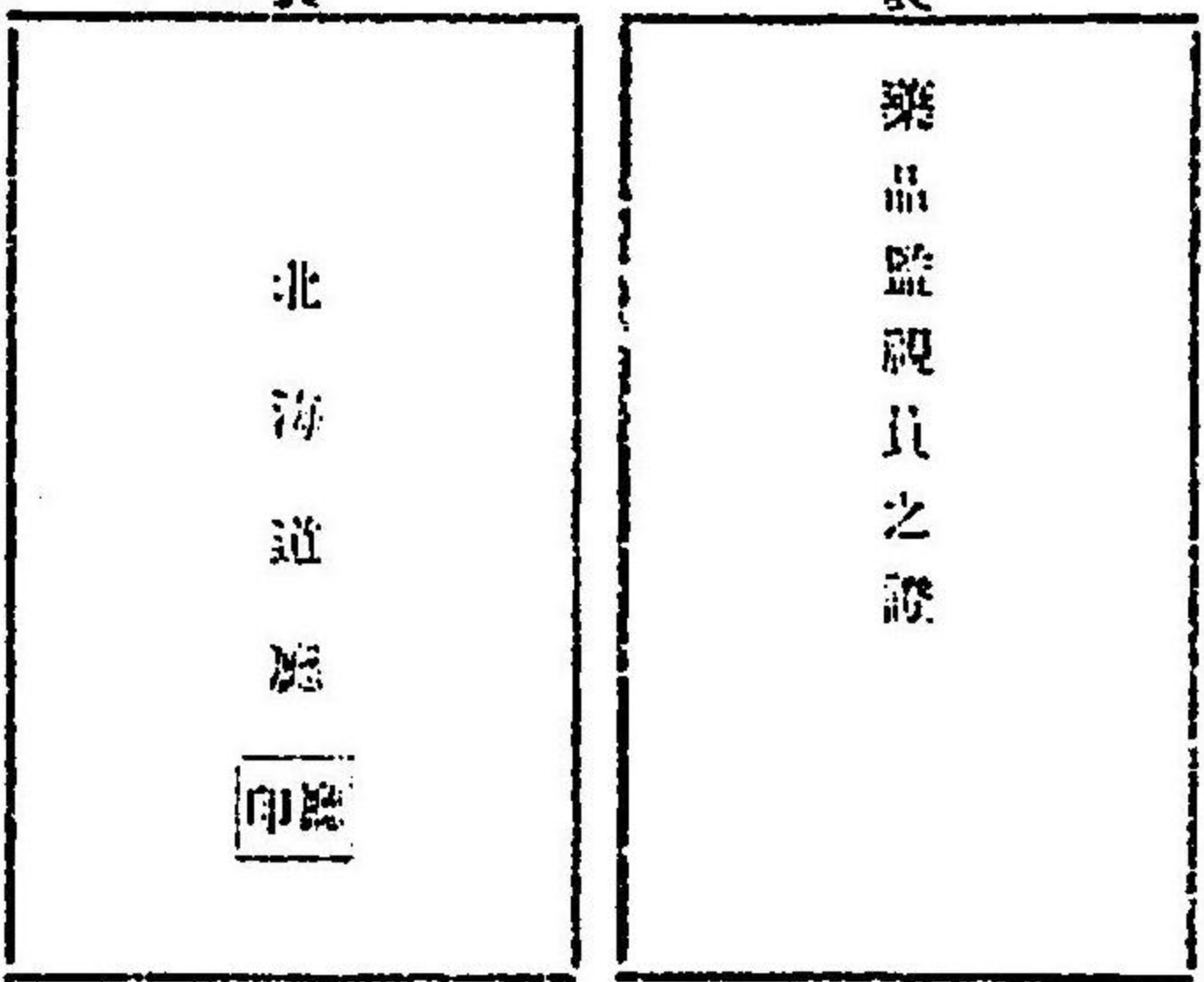
第一條 藥種商製造者取締規則
 各號其シタル願書ヲ當廳ニ提出スヘシ
 其ノ支店ヲ開設セントスルトキ亦同シ
 一 本籍族稱住所氏名及生年月
 二 營業所ノ位置
 三 藥品取扱ニ關スル履歷ノ大要
 四 他人ヲシテ藥品取扱ヲ爲サシムル者ハ取扱
 人支店ヲ設クル者ハ管理人ヲ定メ其ノ本籍
 族稱住所氏名生年月及藥品取扱ニ關スル履
 歷ノ大要但共ノ取扱人又ハ管理人ニシテ藥
 劑師ナルトキハ免狀ヲ添ヘシ
 五 三號四號ノ履歷ニ付テノ其ノ師又ハ藥劑師
 藥種商ノ運轉者クハ證明ヲ添ヘシ
 第二條 藥種商ハ毒藥劇藥ヲ輸入及賣渡領テ備ヘ
 毒藥劇藥ヲ買入シタルトキハ買入年月日藥品名
 數量及買入先賣渡シタルトキハ賣渡年月日藥品
 名數量及買受人ノ氏名ヲ明記シ置クヘシ
 第三條 藥種商ハ毒藥劇藥ノ容器破損シ又ハ破封
 ノモノアリタルトキハ速ニ衛生試驗所藥劑師又
 ハ其藥品製造者ノ詰換又ハ封緘ヲ受クヘシ
 第四條 製造者免許證札ヲ受ケントスル者ハ左ノ
 各號其シタル願書ヲ當廳ニ提出スヘシ其ノ二
 號三號ヲ變更セントスルトキ亦同シ
 一 本籍族稱住所氏名及生年月
 二 製造スヘキ藥品名及製造方法
 三 製造場ノ位置及構造模範書
 四 販賣所ノ位置及販賣ノ方法
 五 二箇所以上ノ箇所ニ於テ藥品ヲ製造セント
 スル者ニシテ自ラ製藥ニ從事セザル箇所ア
 ルトキハ每個所ニ管理人ヲ定メ其ノ本籍族
 稱住所氏名及生年月

第五條 毒藥劇藥ヲ製造スル製造者ハ其ノ製造帳
 及賣渡帳ヲ備ヘ製造シタルトキハ賣渡年月日藥
 品名及數量賣渡シタルトキハ賣渡年月日藥品名
 數量及買受人ノ氏名ヲ明記シ置クヘシ
 第六條 製造者ハ一年間ニ製造シタル藥品ノ名稱
 及其ノ藥品別ノ數量ヲ統計シ翌年一月三十一日
 限リ當廳ニ届出ヘシ
 第七條 第一條ノ藥品取扱人支店管理人又ハ第四
 條ノ製造所管理人ヲ變更セントスルトキハ當廳
 ノ認可ヲ受クヘシ但取扱人又ハ管理人ニシテ藥
 劑師ナルトキハ免狀ヲ添ヘ當廳ニ届出ヘシ
 第八條 藥種商及製造者ハ藥品ヲ行商シ又ハ行商
 セシムヘカラス
 第九條 藥種及製造者ハ常ニ醫藥用藥品ト醫藥用
 以外ノ藥品トヲ區別シ置クヘシ
 第十條 藥種商及製造者ニ於テ藥劑師ヲ雇入レ又
 ハ解雇シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ
 但雇入ノトキハ免狀ヲ添付スヘシ
 第十一條 第二條及第五條ノ帳簿ハ滿十年間之
 チ保存スヘシ
 第十二條 藥品營業藥種取扱規則及本則ニ規定
 セル證書及帳簿ヲ保存年限内ニ亡失シタルトキ
 ハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ其ノ發見シタルト
 キ亦同シ
 第十三條 免許證札ヲ毀損亡失シ又ハ隠蔽面ニ異
 動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ再渡又ハ
 書換ヲ請フヘシ
 第十四條 左ノ各號ニ該當スルトキハ十日以内ニ
 當廳ニ届出ヘシ但廢業死亡ニアリテハ免許證札
 チ返納スヘシ

一 第一條一號二號及第四條一號四號ニ變更テ
 來シタルトキ
 二 營業者ノ廢業又ハ死亡但死亡ニ在リテハ相
 續人ハ相續人未定ノ場合ハ遺族又ハ親族
 ヲヨリ届出ヘシ
 三 藥品取扱人ノ廢止又ハ死亡及支店又ハ製造
 場管理人ノ死亡
 第十五條 藥劑師ニシテ藥品製造又ハ藥品販賣ヲ
 爲サントスル者ハ第一條第四條ニ準シ當廳ニ届
 出尚第二條第五條乃至第十二條及第十四條ヲ遵
 守スヘシ
 第十六條 本則ニ依リ當廳ニ提出スヘキ願書ハ所
 轄區役所町村役場又ハ戶長役場ヲ經由スヘシ
 第十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ一四九五條
 以下ノ科料ニ處ス
 一 第十五條ノ届出ヲ爲サスシテ業務ノ開始シ
 タル者
 二 第二條第五條ノ帳簿ヲ備ヘス又ハ其記入ヲ
 怠リ若クハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者
 三 第三條及第六條乃至第十四條(第十四條中
 死亡届出ノ場合ヲ除ク)ニ違背シタル者
 第十八條 藥品取扱人支店管理人又ハ製造場管理
 人ニシテ違犯ノ行爲アルトキハ前條ヲ適用ス
 前項以外ノ雇入者若クハ家族ニシテ違犯ノ行爲ア
 ルトキハ營業者其ノ責ニ任ス
 (明治二十三年二月八日告示第三號)
 明治二十二年(三月)法律第十號監視員ノ選任(同
 年(同月)外務省令第四號ニ依リ當廳ニ於テ施行ス
 但シ監視員ノ携帶スヘキ證書ハ左ノ體形ノ通り
 トス

曲尺二寸七分

表 藥品監視員之證



裏

北海道

印

○明治三十三年八月七日訓令第五十九號(警察署
 同分署宛
 近來毒劇藥ヲ服用シ自殺又ハ中毒ニ罹ル者尠ナカ
 ラス就テハ今後若等ノ變死者又ハ中毒者有之節ハ
 毒藥劇藥買入ノ方法及其買入ノ事等詳細取調ノ上
 其都度報告スヘシ

醫務

○明治三十五年七月二十五日總令第七號
 醫師藥劑師取締規則左ノ通定ム
 但明治二十八年(八月)北海道總令第五十八號明
 治二十九年(七月)北海道總令第三十七號醫師開
 業規則及明治三十四年(八月)北海道總令第四百
 十一號ハ廢止ス

醫師藥劑師取締規則

第一條 新ニ醫師又ハ藥劑師ノ免狀ヲ受ケ若クハ
 他府縣ヨリ轉居シタル醫師又ハ藥劑師ハ左ノ各
 號其シタル願書ヲ添ヘ十日以内ニ當廳ニ届出ヘ
 シ
 一 本籍族稱住所氏名及生年月日
 二 醫師、齒科醫師、口中科、整骨科、藥劑師
 等ノ種別
 三 試驗及第、若試驗及第、府縣立學校卒業、
 大學卒業、高等學校卒業、外國醫學學校卒業
 奉職履歷、從來開業、從來開業醫子弟、限
 地許可等免狀ヲ得タル事由
 四 開業、開業セズ、何病院院長、何病院醫員、
 何病院藥劑師、醫師某方藥劑師、何町村醫
 何何奉職等現在ノ狀況
 第二條 醫師藥劑師ニシテ前條一號乃至四號ノ事
 項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動年月日及異
 動ノ事實ヲ具シ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ但失
 踪ノ宣告失踪宣告ノ取消又ハ死亡ニ付テハ戶籍
 法第百二十三條第百二十四條及第百二十六條ノ
 届出義務者ヨリ本條ノ届出ヲ爲スヘシ(三十五
 年十二月總令第五十七號ヲ以テ本項改正)
 廢業又ハ死亡ノ届出ニハ免狀ヲ添付スヘシ
 住所ニ異動ヲ生シタル爲メ所轄區役所町村役場
 又ハ戶長役場ヲ異ニスルトキハ前居住地所轄ノ
 區役所町村役場戶長役場ニモ亦其旨届出ヘシ
 第三條 醫師出張所ヲ設ケタルトキハ其ノ位置及
 出張日時ヲ記シ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ其ノ
 變更又ハ廢止シタルトキ亦同シ
 第四條 他府縣居住ノ醫師ニシテ本道内ニ出張醫
 療ニ從事セントスル者ハ左ノ各號其シタル免狀寫
 チ添ヘ當廳ニ届出ヘシ

本籍族稱住所氏名及生年月日

一 本籍族稱住所氏名及生年月日
 二 出張醫療ニ從事スル場所及其月日
 第五條 醫師ハ身體検査ヲ爲サスシテ検査證
 テスシテ診斷書處方書若クハ藥劑ヲ授與シ又ハ
 檢案ヲ爲サスシテ死體檢案書死産證書死胎檢案
 書ヲ授與スヘカラス
 第六條 醫師ハ死體又ハ死胎ノ檢案ヲ求ムルモノ
 アルトキハ速ニ之ニ應ズヘシ
 第七條 醫師施治ノ患者ニ藥劑ヲ授與スル場合ハ
 其容器又ハ包紙ニ患者ノ氏名及内外用ノ區別用
 法用量等ヲ記載スヘシ
 醫師ハ處方録ヲ備ヘ患者ノ住所職業氏名年齢病
 名處方ノ年月日藥名分量内外用ノ區別用方用量
 ナ記シ滿十年間之ヲ保存スヘシ(三十五年十
 二月總令第五十七號ヲ以テ本條改正)
 第八條 醫師ハ中毒又ハ藥物ノ誤用等ニ依ル患者
 ナ診察シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ左ノ
 各號其シタル願書ヲ成列明セザルモノハ現品
 ナ添ヘ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ但患者ニシテ
 全治又ハ死亡シタルトキハ其ノ旨更ニ届出ヘシ
 一 患者死者ノ本籍族稱住所氏名生年月日
 二 發病又ハ死亡ノ年月日及場所
 三 初診又ハ死體檢案ノ年月日
 四 中毒品又ハ藥物ノ種類名稱及用量
 五 症候及經過又ハ死體ノ模範(解剖シタルト
 キハ剖見ノ概要)
 六 療法
 七 自體ヲ謀リタルモノト認メタルトキハ其ノ
 理由
 第九條 本條ニ依リ當廳ニ提出スヘキ願書ハ所轄
 區役所町村役場又ハ戶長役場ヲ經由スヘシ但第
 四條第八條ノ願書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十條 本則第一條第二條(第一項但書)場合ナ
除ク)及第三條第四條第八條ノ届出ヲ爲サス又
ハ第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ一四九
十五條以下ノ科料ニ處ス
(明治二十八年一月十一日告示第一號)
醫師ハ協同一致シ醫會ヲ設ケ規約ヲ定メ以テ其業
務ヲ保護シ醫風ヲ高尚ニシ醫事衛生ノ進歩ヲ圖ル
ハ獨リ醫師各自ノ益タルノミナラス公衆一般ニ裨
益ヲ與フル所以ニシテ其緊要ノ事ニ候處本道ニ於
テハ二三地方ノ外概ネ未タ其舉アルニ至ラサルハ
誠ニ衛生上ノ缺點ト爲スヘシ依リテ別紙醫會設置
標準ヲ定ム管内在住ノ醫師ハ各自此旨ヲ體シ右標
準ニ據リ各地方ニ於テ醫會ヲ組織シ規約ヲ設定シ
送ニ全道聯合氣脈ヲ通シ一ハ以テ各自ノ業務ヲ伸
張シ一ハ以テ公衆衛生ノ途ヲ發達スル様可致此旨
告諭ス
(別紙)

醫會設置標準
第一條 醫師ハ左ノ目的ヲ達センカ爲メ郡區長ノ
指示ヲ受ケ區劃ヲ定メ地方醫會ヲ組織スル事
但醫會規則ノ編成及規則ノ變更ハ其郡區長ノ
道廳ニ届出ツヘキ事
一 醫風ヲ高尚ニシ五ニ融和補翼シ業務ヲ保護
スル事
一 醫術ヲ研究スル事
一 公衆衛生ヲ保護シ地方傳染等ノ原因ヲ探
究シ之ヲ防撲撲滅シ圖ル事
第二條 醫會ハ正副會長(又ハ正副レハ副會長カ
ス)幹事會計(幹事兼務)書記(又ハ幹事之ヲ
兼ス)置ク事
但正副會長幹事ノ選定及其變更ハ其郡區長ノ
道廳ニ届出ツヘキ事

第三條 地方醫會ハ一箇年少クモ六回以上開會ス
ル事
第四條 各地方醫會ハ代表者一名乃至二名ヲ撰出
シ一箇年一回乃至二回全道聯合醫會ヲ開ケコト
ヲ豫定シ置キ各地方醫會成立ノ上其順序ヲ施行
スル事
第五條 全道聯合醫會ハ初回札帳ニ開會シ次回函
簡小樽等場所ヲ異ニシテ開會スル事
但シ初回聯合會ハ次回ノ場所ヲ議定シ其期日
ハ會日前二箇會地ノ醫會之ヲ定メ廣告シ且北
海道廳ニ届出ツル事
第六條 醫會及聯合醫會ハ監督官廳ヨリ審詢ノ事
件アルトキハ臨時開會スル事
第七條 他府縣ヨリ轉居又ハ新ニ醫術ヲ開業スル
者ハ其住地醫會ニ加入スル事
○明治三十四年三月十三日總令第二十四號
公立私立病院規則
公立私立病院規則
第一條 公立病院又ハ私立病院ヲ設立セントスル
トキハ左ノ事項ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受ケヘシ其
ノ變更セントスルトキ亦同シ
一 病院設立ノ位置
二 病院ノ名稱
三 入院セシムル患者ノ種類但內科外科眼科齒
科皮膚病傳染病(八種傳染病)云フ以下之
ニ限リ等ノ類
四 敷地及建物ノ總坪數
五 普通傳染病室等ノ數及之ニ收容スヘキ
各患者ノ員數
六 二階以上ノ建物ニアリテハ梯子ノ數及其ノ
構造
七 非常時ニ於ケル患者救護ノ方法及準備

第八條 病院職員ノ名稱(醫師藥劑師調劑員事務員
等)及人員
九 常設看護人ノ數但普通傳染病室傳染病室ニ其
ノ人員ヲ區別スヘシ
十 患者入院ノ手續入院料藥價診察料等ノ規定
十一 傳染病患者ニ關スル消毒殺菌及消毒ノ方
法
十二 傳染病室取捨ノ要領
十三 敷地建物ノ圍面及構造ノ設計但圍面ニハ
各室ノ名稱及坪數ヲ附記シ其ノ他非常口井
戸溝渠等ノ位置ヲ詳記スヘシ
第二條 病院落成シタルトキハ當廳ニ届出檢査ヲ
受ケヘシ其ノ構造ニ變更アリタル場合亦同シ
第三條 病院職員ノ出張所少體セントスルトキハ
其ノ母所及出張日時ヲ記シ當廳ニ届出ヘシ
第四條 左ノ事項ハ五日以内ニ當廳ニ届出ヘシ
一 病院及出張所ノ開始休業及廢止
二 職員ノ氏名及其ノ異動但醫師藥劑師採用ノ
トキハ免狀附木ヲ添附スヘシ
三 私立病院ニアリテハ所有者ノ轉居改氏名及
死亡シタルトキ但死亡ノ場合ハ相繼人又ハ
家族ヨリ届出ヘシ
第五條 私立病院ヲ譲受又ハ相繼ニ依リ承継シタ
ルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ヘシ但譲受ノ場
合ニ於テハ讓渡人ノ連署ヲ要ス
第六條 第一條ノ認可ヲ受ケタル者一箇年ヲ經過
スルモ建築ニ著手セザルトキ又ハ休業六箇月以
上ニ及フトキハ認可ノ數ヲ失フモノトス
第七條 各病室トモ患者一名ニ付一坪半下ルヲ
得ス
第八條 病院ニハ非常時ニ於ケル患者救護ノ爲メ
擔架及人夫等ヲ用意シ置クヘシ

第九條 傳染病室ハ他ノ病室ト隔離シ專用ノ廁所
浴室圍面器具其ノ他必要器具ヲ設備シ且消毒施
行ニ要スル諸般ノ設備ヲ爲スヘシ
第十條 患者ヲ收容シテ治療スル者ハ何等ノ名稱
ヲ用フルモノト雖トモ本則ヲ適用ス
第十一條 第一條ノ認可ヲ受ケタルモノニアラサ
レハ病院ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ス
第十二條 病院ニ於テハ處方録ヲ備ヘ患者ノ住所
職業氏名年齢病名等分數用法處方ノ年月日等
ヲ記シ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ
第十三條 本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ所
轄支廳又ハ區役所ヲ經由スヘシ
第十四條 病院ニ於テ設備又ハ取捨ヲ爲スヘキ事
項ニシテ當該吏員ノ注意ヲ受ケルモノ尙肯セサル
トキハ認可ヲ取消スヘシ
第十五條 私立病院所有者ニシテ左ノ各號ニ該當
スル者ハ一四九五條以下ノ科料ニ處ス
一 第一條ノ認可ヲ受ケシテ病院ヲ設立シ若
ハ變更シタル者及第二條ノ檢査ヲ受ケサル
者
二 第三條第四條第五條ノ届出ヲ爲ササル者
三 第七條第十一條第十二條ニ違背シタル者
附則
第十六條 本則ハ明治三十四年五月一日ヨリ施行
ス
第十七條 明治二十七年(二月)北海道廳令第四號
區町村立私立病院設置廢止規程ハ本則施行ノ日
ヨリ發止ス
第十八條 從前設立セル病院ハ本則施行ノ日ヨリ
六箇月以内ニ更ニ本則ニ依リ認可ヲ受ケヘシ
○明治三十四年三月十三日總令第二十六號
町村立病院職員及町村醫務補助規則左ノ通定ム

町村立病院職員及町村醫務補助規則
第一條 町村立病院職員及町村醫務補助規則ノ町
ノ員數ニ關シハスト認ムルトキハ全部若ハ幾分ヲ
補助スルコトアルヘシ
第二條 町村ニ於テ町村立病院職員及町村醫務補
助員ヲ申請スルトキハ左ノ事項ヲ具シ前年度
二月末日迄ニ當廳ニ差出スヘシ
一 町村立病院又ハ町村醫務補助員ノ區域
二 設置區域内ニ於ケル戸數人口
三 町村成立ノ年月
四 町村立病院ニ關スル收支豫算明細書
五 町村醫務補助員員額
六 前年度以前三箇年度ニ於ケル町村費一戸
平均員額
七 補助申請ノ年度ニ於ケル町村費一戸平均員
額豫算
八 町村會ノ決議書又ハ代理人ノ意見書原本
第三條 補助員受ケタル町村ニ在テハ町村立病院
職員及町村醫務補助員俸給額ヲ調整シ翌年度
四月三十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ
第四條 町村立病院職員及町村醫務補助員ニ關ス
ル書類ハ所轄支廳ヲ經由スヘシ
附則
第五條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
第六條 明治二十八年(四月)北海道廳令第三十一
號區町村立病院及區町村醫務補助規則ハ本令
施行ノ日ヨリ廢止ス
○明治二十一年四月七日總令第二十五號
町村醫務規則
第一條 町村醫務土地ノ狀況ニ從ヒ其必要アル町
村ニ之ヲ設ケ

第二條 (三十四年三月總令第四十號ヲ以テ削除)
第三條 町村醫務長ノ監督ヲ受ケ一定ノ場所ニ
於テ業務ニ服ス可キモノトス
第四條 町村醫務長俸給額受ケタル者其業務上ニ
付テハ開業醫ニ同シ
第五條 (二十三年十一月總令第七十一號ヲ以テ
削除)
第六條 町村醫務長俸給ハ地方費ヨリ補助スルコト
アルコト(二十三年總令第十四號ヲ以テ本條改
正)
○明治二十四年五月十六日總令第十八號
町村立病院職員俸給支給規則左ノ通定ム
町村立病院職員俸給支給規則
第一條 俸給ハ毎月下旬ニ於テ之レヲ支給スヘシ
(三十二年六月總令第五十七號ヲ以テ本條改正)
但轉任解職死亡ノ爲メ臨時支給シタルモノ
ハ本條ノ限リニアラス
第二條 新任命ハ職務ニ就キタル當日ヨリ俸給
俸ハ發令ノ翌日ヨリ解職ハ發令ヲ受ケタル當日
マテ日割ヲ以テ計算ス
第三條 轉任ノモノハ前任任病院ノ事務ヲ終リタル
翌日ヨリ後任任病院ニ於テ支給ス可シ
第四條 歸省養病其他私事ノ故廢止依リ出勤ヒサ
ル日數ハ月俸ノ五分ノ一ヲ支給ス可シ
但引續六十日以上出勤セサル者ハ月俸ヲ給セ
サル者トス
第五條 忌引申ハ全額ヲ給シ病氣不動十五日以内
ハ全額ヲ給シ十六日以上ハ半額ヲ給シ六十日以
上ハ第四條ノ但書ニ依リ給ス可シ
但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ルモ
ノハ此限ニアラス
第六條 在職中死亡シタルモノハ當月分ノ俸給ヲ

支給シ目割ヲ以テ計算セシ
 第七條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但計
 算上風位未滿ノ端數ハ切捨トス
 第八條 勤続滿五年以上ニシテ轉任若クハ解職シ
 タルトキハ現停三箇月分以内ノ金額ヲ與フ可シ
 但懲戒ニヨリ免職シタル者ハ本文ノ限リニア
 ラズ
 第九條 勤続滿五年以上ノ者死亡シタルトキハ現
 停三箇月分以内ノ金額ヲ其遺族ニ與フヘシ
 附則
 第十條 一級町村制ニ依リ施行シタル町村
 ニハ本則ヲ適用セス(三十三年十二月廳令第百
 十號三十五年六月廳令第七十八號ヲ以テ本條道
 加改正)
 ○明治二十四年五月十六日廳令第十九號
 町村醫務給支給方ハ本年(五月)當廳令第十八號町
 村立病院職員俸給支給規則ニ依ル
 ○明治三十四年三月十三日廳令第二十七號
 死亡診斷書死體檢案書死産證書死胎檢案書付與規
 則左ノ通定ム
 死亡診斷書死體檢案書死産證書
 死胎檢案書付與規則
 第一條 醫師ハ其ノ施治ノ患者死亡シタルトキハ
 死亡診斷書ヲ其ノ家人若クハ關係人ニ付與スヘシ
 第二條 醫師施治ノ患者ニアラサル死體ヲ檢案シ
 タルトキハ死體檢案書ヲ其ノ家人若クハ關係人ニ
 付與スヘシ
 第三條 醫師又ハ産婆ハ妊娠四箇月以上ノ死産ニ
 立會タルトキハ死産證書ヲ其ノ家人若クハ關係
 人ニ付與スヘシ
 第四條 前條ノ場合ニ於テ其ノ死胎方家督相續人
 卜定メ届出テタルモノナルトキハ死胎檢案書ヲ

其ノ家人若クハ關係人ニ付與スヘシ
 第五條 醫師産婆ハ死體又ハ死産ニシテ犯罪者ハ
 變死ニ係ル疑アルトキハ速ニ警察官吏ニ告知ス
 ヘシ
 第六條 死亡診斷書死體檢案書死産證書死胎檢案
 書ハ左ノ様式ニ據ルヘシ
 第七條 本則第一條乃至第五條ニ違背シタル者ハ
 一四九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 附則
 第八條 明治三十三年(一月)北海道廳令第五號及
 明治三十三年(十月)北海道廳令第九十七號ハ之
 ヲ廢止ス
 第一 死亡診斷書、死體檢案書
 様式
 一 死亡診斷書(死體檢案書)
 一 氏名
 二 男女ノ別
 三 出生ノ年月日
 四 職業(死者ノ職業)
 五 病死、自殺、其ノ他ノ變死、中毒ノ別
 六 病名(自殺者ニシテ自殺以外ノ變死者種類)
 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ種類)
 八 死亡ノ年月日
 九 死亡ノ場所
 右證明(檢案)候也
 住 所
 醫師 何 某甲
 一 戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在
 テハ

○若シ氏名明カラサルトキハ不詳ト記スヘ
 シ
 一 久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルト
 キハ不詳ト記スヘシ
 二 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラ
 サルトキハ推定年輪何歲ト記シ若シ推定シ能
 ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
 三 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者
 ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者若シ婦女等
 ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主
 ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業ナシト記スヘシ
 又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者
 アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナ
 ル職業トヲ併記スヘシ
 四 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ル
 シテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
 自殺者變死者等ニ在テハ其職業明カラサル場
 合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
 五 病死ナルハ自殺ナルハ若クハ自殺以外ノ變死
 ナルハ中毒ナルハ若クハ自殺以外ノ變死
 病死ノ場合ハ其ノ死因トナリタル病名ノ外何
 等ノ事項ヲモ記スヘカラス
 六 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者
 ニシテ一ノ原病アリテ他ノ繼發病若クハ胎後
 病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立
 ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリ
 タル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ナラ
 シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
 全ク死因タル病名ヲ決定シ能ハサルトキハ不
 詳ト記スヘシ
 自殺者ニ在テハ自殺ノ手段例之ハ絞死、刀傷、
 入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例
 之ハ病死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、ア
 ルコール中毒等ノ別ヲ記スヘシ
 七 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年
 月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定
 何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサ
 ル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
 八 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年
 月日ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ
 死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日
 時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシ
 ムルヲ要ス
 九 死亡ノ場所ハ都市區町村大字名及番地(番戶、
 番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニシ
 テ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所
 ヲ記スヘシ
 此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス
 第二 死産證書、死胎檢案書
 様式
 死産證書(死胎檢案書)
 一 父ノ氏名(私生子ノ場)母ノ氏名
 二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ
 在テハ之ヲ除ク)
 三 母ノ出生ノ年月日
 四 父ノ職業(私生子ノ場ノ職業)
 五 妊娠ノ月數
 六 分娩ノ年月日時
 七 分娩ノ場所
 八 死胎ノ男女ノ別
 九 死胎ノ抽出子、庶子、私生子ノ別、
 右證明(檢案)候也

年月日 住所
 醫師(産婆)何 某甲
 一 死胎ノ抽出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父
 ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母
 ノ氏名ヲ記スヘシ
 二 死胎ノ抽出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父
 ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
 三 死胎ノ何處ニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日
 ヲ記スヘシ
 四 死胎ノ抽出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父
 ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母
 ノ職業ヲ記スヘシ
 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラ
 シテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過
 ニシテ死胎ハ約四週目ナリト做シタル第幾
 月日ニ發露セルカヲ記スヘシ
 六 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサル
 トキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合
 ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
 七 分娩ノ場所ハ都市區町村大字名及番地(番戶、
 番屋敷)ヲ記スヘシ
 八 死胎ノ男女ノ別ニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼
 胎等ニ在テ男女ノ區別ナラサル場合ニ
 於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ
 九 死胎ハ抽出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私
 生子ナルカノ別ヲ記スヘシ
 ○明治三十二年六月二十九日訓第三百六十五號
 (警察署同分署宛)
 明治九年(七月)内務省邊ニ基キ病死體ノ解剖ヲ爲
 スニハ警察署ニ於テ許可シ來リタル處其局部解剖

ニ限リ警察分署ニ於テ許可スルコトヲ得
 ○明治三十年十月十四日告示第百二十一號
 醫術開業免狀醫師免狀ノ新規定附テ請フ者ニア
 リテハ其醫術開業試驗及第證書開業試驗及第證
 書若クハ大學又ハ各學校ニ於ケル卒業證書ノ點檢
 ヲ要シ候條自今免狀下付願書ニ各其本證書寫ヲ添
 添ヘ差出スヘシ
 ○明治三十一年二月十五日告示第三十三號
 醫術開業試驗ヲ受ケントスル者ニシテ官立府縣立
 醫學校又ハ私立醫學校ノ卒業證書若クハ前記試驗
 及第證書及免狀合格承認書ヲ有スル者ハ其點檢
 ヲ要シ候條試驗願書ニ各其本證書寫ヲ添ヘ差出
 スヘシ
 ○明治二十三年四月二十九日廳令第二十一號
 入商開業口申療治接骨營業取締規則ノ通定ム
 但明治十八年(四月)札幌縣甲第十八號布達同年
 (同月)根室縣甲第十八號布達同年(五月)函館縣
 甲第二十七號布達同年(六月)根室縣甲第三十六
 號布達同年(十二月)札幌縣甲第七十號布達廢止
 ス
 入商開業口申療治接骨營業取締規則
 第一條 入商開業接骨營業者ハ免許證ヲ所持ス
 ル者ニ限ル
 第二條 府縣免許ノ者管内ニ於テ營業セントスル
 トキハ免許證ヲ添ヘ當廳ニ願出免許證ヲ
 受ケルヘシ
 第三條 族譜氏名ヲ變更シ又ハ免許證ヲ遺失毀損シ
 タルトキハ書換又ハ再渡ヲ受ケルヘシ
 第四條 廢業死亡ノトキハ免許證ヲ返納スヘシ
 府縣ニ轉住營業セントスル者ハ其場所ノ記シ届
 出ヘシ
 第五條 醫師治療中ノ患者ハ其醫師ノ承諾ヲ得ル

ニ非サレハ施術スルコトヲ得ス
醫師ノ承諾ヲ得テ施術スル場合ト雖トモ服藥ヲ
與ヘ若クハ藥方ヲ指示スルヲ得ス
第六條 本則第一條第五條ニ違背シタル者ハ違背
罪ヲ以テ罰セラルヘシ
附則
第七條 新ニ入爾爾抜口中療治接骨ヲ營業セント
スル者ハ明治十六年(十月)太政官第三十四號布
達ニ據リ試驗ヲ經可シ
○明治三十年四月八日廳令第十五號
鍼灸治業規則左ノ通り定ム
鍼灸治業規則
第一條 鍼灸(毫鍼ヲ云フ)灸治(藥灸藥水灸
漆灸ト稱スル類モ包含ス)ノ業ヲ營業メント欲ス
ル者ハ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ當廳長
官ニ願出免許證札ヲ受ケヘシ
一 修業履歷書並授業者ノ證明書
二 墨灸藥水灸漆灸ハ其方劑書
證明者死亡又ハ所在不明等ニテ證明書ヲ得ル能
ハサルトキハ北海道居住ノ醫師二名以上ノ保證
書ヲ添フヘシ
第二條 第一條ノ方劑ヲ變更セントスルトキハ所
轄警察署ヲ經テ當廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ
第三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ鍼灸治業ノ營業
ヲ許可セザルモノトス
一 瘋癲自癩ノ者
二 年齡二十年ニ滿タサル者
三 鍼灸治業ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行為
アルモノニシテ其情狀重キ者
第四條 鍼灸治業業者ハ左ノ諸件ヲ行フコトヲ
禁ス
一 醫師治療中ノ病者ニ對シ其醫師ノ承諾ヲ得
ズシテ施術スルコト
二 粧結及重病者若クハ傳染病ニ疑ヒアル者ニ
對シ施術スルコト
三 對シ施術スルコト
四 施術中ニハ又ハ藥方治療法等ヲ指示シ若クハ
書換テ當廳長官ニ願出ヘシ
五 日以内ニ免許證札ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ當
廳ニ届出ヘシ
六 但シ死亡トキハ戸主又ハ家族ヨリ届出ヘシ
第七條 免許證札ハ貸借スルコトヲ得ス
第八條 營業者申合規約ヲ設ケントスルトキハ所
轄警察署ヲ經テ當廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ其
規約ヲ變更セントスルトキモ亦同シ
第九條 第一條第二條第四條第五條第六條第
七條第八條第九條ヲ犯シタル者ハ一日以上十日
以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以
下ノ科料ニ處ス
第十條 營業者其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行
爲アルトキハ其免許ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ
得ルヘシ
附則
第十二條 本令ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス
第十三條 從來免許ノ鍼灸治業業者ハ明治三十
年六月三十日迄ニ更ニ第二條ニ據リ免許ヲ受ケ
ヘシ若シ右期限迄ニ免許ヲ受ケザルトキハ其免
許ノ效力失フモノトス
但シ從來ノ免許證札ハ同日限リ郡區役所ニ返
納スヘシ
第十四條 明治二十一年(十一月)北海道廳令第六
十九號鍼灸治業取締規則ハ本令施行ノ日ヨ
リ廢止ス
○明治三十年四月十五日廳令第六十號(內務部警察
署同分署宛)
鍼灸治業規則施行細則左ノ通り定ム
鍼灸治業規則施行細則
第一條 鍼灸治業業者ハ少クモ一箇年以上營業シ
タル者ニシテ本則第三條ニ載ルセザル者ニ限リ
免許證札ヲ付與スヘシ
第二條 本則第一條ノ保證書ニハ技能鑑定ノ事實
ヲ記載セシムヘシ
第三條 鍼灸治業業者ノ出願者アルトキハ所轄警
察署ニ於テハ本則第三條ノ各項ヲ調査シ奏出
スヘシ
第四條 本則第五條ノ標札ノ寸法ハ適宜ニ任スト
雖モ成ルヘク一定シ且ク公衆ノ注目シ易カラシ
ムルヲ要ス
第五條 鍼灸治業業者管轄ノ異リタル警察署部
内ニ轉居シ免許證札ノ書換ヲ願出タルトキハ其
願出ヲ受ケタル警察署ニ於テ其旨前管轄警察
官署ニ通報スヘシ
第六條 本則第十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其事
實ヲ記シ當廳長官ニ報告スヘシ

第七條 營業者其業務ニ關シ犯罪(前條ノモノヲ
除ク)又ハ不正ノ行為アルトキハ所轄警察署
ニ於テ其事實ヲ調査シ當廳長官ニ報告スヘシ
第八條 免許證札ハ附録雜形ニ依リ記載シ付與ス
ヘシ
附録雜形 四寸
第 號
何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地華土族
(平民)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
表 鍼灸(灸治)營業免許證札
明治 年 月 日
北海道廳 印
○明治三十年三月二十四日廳令第七號
按摩營業規則
按摩營業規則
第一條 按摩(按腹及乳揉ト稱スル類モ包含ス)
ノ業ヲ營業メント欲スル者ハ修業履歷書並授業者
ノ證明書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出免許證札ヲ
受ケヘシ
一 修業履歷書並授業者ノ證明書
二 墨灸藥水灸漆灸ハ其方劑書
證明者死亡又ハ所在不明等ニテ證明書ヲ得ル能
ハサルトキハ北海道居住ノ醫師二名以上ノ保證
書ヲ添フヘシ
第二條 第一條ノ方劑ヲ變更セントスルトキハ所
轄警察署ヲ經テ當廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ
第三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ按摩治業ノ營業
ヲ許可セザルモノトス
一 瘋癲自癩ノ者
二 年齡二十年ニ滿タサル者
三 按摩治業ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行為
アルモノニシテ其情狀重キ者
第四條 按摩治業業者ハ左ノ諸件ヲ行フコトヲ
禁ス
一 醫師治療中ノ病者ニ對シ其醫師ノ承諾ヲ得
ズシテ施術スルコト
二 粧結及重病者若クハ傳染病ニ疑ヒアル者ニ
對シ施術スルコト
三 對シ施術スルコト
四 施術中ニハ又ハ藥方治療法等ヲ指示シ若クハ
書換テ當廳長官ニ願出ヘシ
五 日以内ニ免許證札ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ當
廳ニ届出ヘシ
六 但シ死亡トキハ戸主又ハ家族ヨリ届出ヘシ
第七條 免許證札ハ貸借スルコトヲ得ス
第八條 營業者申合規約ヲ設ケントスルトキハ所
轄警察署ヲ經テ當廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ其
規約ヲ變更セントスルトキモ亦同シ
第九條 第一條第二條第四條第五條第六條第
七條第八條第九條ヲ犯シタル者ハ一日以上十日
以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以
下ノ科料ニ處ス
第十條 營業者其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行
爲アルトキハ其免許ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ
得ルヘシ
附則
第十二條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
第十三條 從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セント
スル者ハ明治三十年五月三十一日マデニ第一條
ノ手續ヲナスヘシ
○明治三十年二月二十二日廳令第二十一號(警察署
同分署宛)
按摩營業規則施行細則左ノ通り定ム
按摩營業規則施行細則
第一條 按摩營業業者ハ少クモ六箇月以上營業シタル
者ニシテ其事實ヲ調査シ免許證札ヲ付與スヘシ
本則第一條ノ保證書ニハ技能鑑定ノ事實ヲ
記載セシムヘシ
第二條 (三十一)年十月調第四百九條ヲ以テ本條
削除
第三條 本則第三條ノ標札ノ寸法ハ適宜ニ任スト
雖モ成ルヘク公衆ノ注目シ易カラシムルヲ要ス
第四條 本則第四條轉居ノ場合ニ於テ免許證札ノ
書換ヲ願出ツル者アルトキハ新住地所轄警察官
署ニ於テ其事實ヲ調査シ免許證札ヲ交付シ其旨
前住地所轄警察官署ニ通知スヘシ
第五條 免許證札ハ附録雜形ニ依リ記載シ付與ス
ヘシ
但シ用紙ハ各警察署(分署ヲ稱メ)ヨリ當廳ニ
請求スヘシ
第六條 本則第七條ノ規約ヲ認可シタルトキハ其
寫ヲ添ヘ當廳ニ報告スヘシ其變更ノ時モ亦同シ
第七條 本則第九條ニ依リ停止又ハ禁止ノ處分ヲ
ナサントスルトキハ當廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

附錄雛形 四寸

第 號
何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地華士族
(平民)何郡(區)何町(村)何番地(寄留)
按察 免許 准札 氏 名

明治 年 月 日
何警察(分)署 署

●產 婆

○明治三十三年三月七日總令第七號
產婆試驗規則施行細則左ノ通り定ム
第一條 產婆試驗ハ毎年二回之ヲ舉行シ其期日及
場所ハ一箇月前之ヲ告示ス
第二條 產婆試驗ヲ受ケントスル者ハ毎年三月及
九月中別記様式ニ依リ支廳區役所又ハ長役場ヲ
經由シ當廳ニ願出シヘシ
第三條 產婆試驗願書ハ本人之ヲ自書スヘシ
第四條 學費試驗問頭ハ受験者之ヲ筆答スヘシ

第五條 試驗中一科以上缺席シタル者ハ其期ノ試
驗ヲ受ケルコトヲ得ス
(別記様式)
產婆試驗願

何國(何郡)何町(何村)番地
(寄留ナレハ本籍ヲ列記スヘシ)士
族(平民)(外國人ナレハ國籍)
氏 名

私儀產婆(實地) 試驗相受度別紙規定ノ書類相添
ヘ此段相願候也
年 月 日
氏 名 印
(外國ナレハ捺印
ヲ要セス)

北海道廳長官宛
○明治三十三年三月七日訓令第十五號(支廳區役
所ノ長役場宛)
產婆試驗願書ヲ經由スルトキハ書類整備ノ如何ヲ
調査シ戶籍上ニ關スル事項ハ戶籍役場ニ備付アル
戶籍簿ニ照合シ誤謬ナキヲ認メタル上進達スヘシ

第十一類

●土功營繕

○明治三十五年三月八日訓令第二三三號(廳中一般支廳宛)

| 名 | 稱 | 區 | 位 | 置 |
|-------|-------|---|---|-------------------|
| 國費工事課 | 札幌派出所 | 札幌、密部、岩内、小樽、空知、上川 | 石 | 野 岡 札 樽 區 |
| 國費工事課 | 室蘭派出所 | 支廳管轄區域及札幌區小樽區内 函館、松前、檜山、室蘭、浦川支廳管轄區域 及函館區内 | 廳 | 後 國 室 蘭 室 蘭 町 |
| 國費工事課 | 増毛派出所 | 増毛、宗谷支廳管轄區域内 | 天 | 國 増 毛 郡 増 毛 町 |
| 國費工事課 | 網走派出所 | 網走支廳管轄區域内 | 北 | 見 國 網 走 郡 北 見 町 |
| 國費工事課 | 釧路派出所 | 釧路、根室、紗那支廳管轄區域内 | 釧 | 路 國 釧 路 郡 釧 路 町 |
| 國費工事課 | 河西派出所 | 河西支廳管轄區域内 | 十 | 勝 國 河 西 郡 下 帯 廣 村 |

第二條 工事ノ二區域以上ニ涉ルトキハ豫メ土木部ニ於テ其ノ所屬ヲ指定ス

第三條 派出所ニ所長一名所員若干名ヲ置ク

第四條 所長ハ技師屬技手所員ハ屬技手事業生ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 所長ハ所員ヲ指揮監督シ其區域内ノ國費工事施行ニ關スル事務ヲ處理スルモノトス

但所長事故アルトキハ次席所員之ヲ代理ス

第六條 所員ハ所長ノ指揮監督ヲ受ケ工事ノ測量、設計、施行、監督及庶務ニ従事スルモノトス

第七條 所長ニ於テ工事ノ受持分擔ヲ定メタルトキハ其首席者ヲ以テ受持主任トス受持主任ヲ定メタルトキハ所長ハ直チニ之ヲ土木部ニ報告スヘシ

第十條 派出所ニ於テ測量スヘキ箇所其經費積算及工費概算ハ土木部ヨリ

シ其變更シタル場合亦同シ

受持主任ハ擔當ノ工事ニ付分擔員ヲ指揮監督シ其事務ヲ處理スル者トス

第八條 區域内ノ工事ト雖モ土木部ニ於テ直接施行ノ必用アルモノハ本規程ニ依リサレコトアルヘシ

第二章 設計及施行

第九條 所長ハ土木部ノ通牒ニ據リ翌年度ニ於ケル測量ノ箇所ヲ豫メ所管支廳ト協議ノ上意見ヲ付シ別紙第一號様式ニヨリ概算書ヲ調製シ毎年一月三十一日限リ土木部ニ進達スヘシ

前項測量箇所ニ關シテハ二箇以上ノ比較線路ヲ添附スヘシ但比較線路ヲ踏査スルノ必要ナキト認ムルトキハ其理由ヲ詳記スヘシ

第十一類 土功營繕

令達スルモノトス 所長ハ前項ノ令達ヲ受ケタルトキハ實地測量ノ 上實施設計書及圖面ヲ調製シ第二號様式ノ工費 豫算表ヲ添ヘ翌年一月三十一日限リ土木部ニ進 達スヘシ 第十一條 前條經費豫算以內ニテ測量設計スルチ 得サル場合ハ其理由ヲ詳記シ土木部ニ稟議スヘ シ 實施設計額カ前條工費概算ヲ超過スル場合ハ其 理由ヲ詳記スヘシ 第十二條 工事施行ノ箇所ニ係ル敷地收用家屋移 轉土地使川除却木伐採等ヲ無償ニテ承諾スル者 アルトキ又ハ之等ノ爲メ補償ヲ要スルモノアル トキハ其金額數量ヲ取調ヘ本人ノ承諾書及關係 書類ヲ添ヘ設計書ト共ニ土木部ニ進達スヘシ 第十三條 派出所ニ於テ施行スヘキ工費及其豫算 竝ニ所長ニ於テ取扱ヘキ工事請負契約ニ關シテ ハ土木部ヨリ令達スルモノトス 所長ニ於テ前項令達工事ノ内ニテ請負ニ付セス 直營スルチ必要ト認メタルモノアルトキハ其理 由及施行方法ヲ詳記シ土木部ニ稟議スヘシ 所長ニ於テ工事設計ヲ變更スルノ必要ト認メタ ルトキハ設計書圖面及工費比較表ヲ調製シ其理 由ヲ詳記シ土木部ニ稟議スヘシ 第十四條 所長ハ工事ノ請負ニ關シ職掌入札ヲ執 行シ請負契約ノ締結ヲ取扱ヒ其入札書及契約書 ハ之ヲ土木部ニ送付スヘシ 第十五條 土木部ニ於テ工事請負契約ヲ締結シ派 出所ヲシテ之ヲ執行セシムル工事ノ請負人定リ タルトキ又ハ直營工事ニ關シ供給人ヲ定メタル トキハ之ヲ所長ニ通牒スルモノトス 第十六條 工事ノ請負人定リタルトキハ所長ハ其

工事ノ難易緩急ヲ裁リ請負人ニ施行順序ヲ指示 シ工程書ヲ徴シ土木部ニ進達スヘシ 第十七條 請負ハカ工事請負手續第四十二條ノ各 項ニ該當シタルトキハ所長ハ直チニ意見ヲ付シ 土木部ニ稟議スヘシ 第十八條 工事受持主任ハ擔當工事ノ實況ヲ取調 ヘ毎半箇月分ヲ翌日第三號様式ニヨリ所長ニ報 告スヘシ 第十九條 所長ハ毎月一回第四號様式ニヨリ區域 内事業ノ實況ヲ調査シ翌月十日限リ土木部ニ報告 スヘシ 第二十條 工事ノ著手延期又ハ竣功延期ヲ出願ス ルモノアルトキハ所長ハ其事由實況ヲ調査シ意 見ヲ付シ土木部ニ稟議スヘシ 竣功延期ニ付テハ左ノ調査ヲ添附スルチ要ス 一 著手後ノ天候及就業職工人夫數 但ニ同以上提出ノ場合ハ前同提出後ニ係 ルモノヲ掲載スルモノトス 二 工事損害ヲ生シタル場合ハ其原因程度及之 カ復舊ヲ要スル工程 三 工事ノ材料ヲ損失シタル場合ハ其原因種類 數量及之カ復舊ニ要スル日數 四 前各號ノ外必要ノ事項 第二十一條 跡受理限アルモノハ其期限材料時其 箇所ヲ巡視シ補修ノ必要ヲ生シタルトキハ所長 見テ付シ土木部ニ稟議スヘシ 第二十二條 工事ノタメ交通ニ關シ指示ヲ要スル トキハ所長ハ所轄警察官署ニ其執行ヲ求メ同時 ニ事山場所及揭示期日ヲ土木部ニ報告スヘシ 第二十三條 設計變更等ノ爲メ工費中止ヲ命ジ タル場合ハ所長ハ直チニ土木部ニ報告スヘシ

第三章 検査

第二十四條 工事竣功シタルトキハ受持主任ハ設 計書ニ對比シ簡便ニ調査ノ上直チニ所長ニ報告 スヘシ 第二十五條 前條ノ報告ニ接シタルトキハ所長ハ 左ノ手續ヲナスヘシ 一 金高五千圓以下ノ工事ハ一週間以內ニ實地 検査ヲナシ竣功ト認メタルトキハ第五號様 式ニヨリ受渡書ニ通テ調製シ交互に置シ別 二 第八號様式ニヨリ竣功調査ヲ調製スヘシ 前項竣功調査及受渡書ハ債權者ノ請求書ヲ 添ヘ直チニ之ヲ土木部ニ送致シ工費ノ仕拂 ナ申請スヘシ 三 金高五千圓以上ノ工事ハ三日以內ニ實地檢 査ヲナシ竣功ト認メタルトキハ第六號様式 ニヨリ檢定書ヲ調製シ直チニ土木部ニ進 達スヘシ 四 前條檢定書ニ對シ土木部ヨリ認可ノ通牒ヲ 得タルトキハ所長ハ本條第一號第二號ニ 據リ工事ノ受渡ヲナシ工費ノ仕拂ヲ申請ス 五 所長ハ事務ノ都合ニヨリ本條第一號及第三 號ノ檢定書當該分擔員以外ノ所員ニ爲サシ ムルコトヲ得 第二十六條 工事竣功前其工事ノ既成部分ニ對シ テ工費金内渡ヲ要スルトキハ所長ハ既成部分ニ 對スル出來形検査ヲナシ第七號様式ニ依リ檢定 書ヲ調製シ債權者ノ請求書ヲ添ヘ直チニ之ヲ土 木部ニ送致シ工費ノ仕拂ヲ申請スヘシ 第二十七條 派出所ノ物品及現金ノ出納ニ關スル 規定ハ別ニ之ヲ定ム 第四章 雜則

第二十八條 所員ノ出張、歸省、缺勤、(忌引)賜暇 等ヲ包含スノ届ハ十日毎ニ之ヲ額メ土木部ニ

進達スヘシ 第二十九條 所員派出所區域外ニ出張ノ必要アル

トキハ所長ハ其事由及住復日數ヲ詳記シ土木 部ノ認可ヲ受ケヘシ

(第一號)

Table with 4 columns: 施行箇所, 延長又ハ徑間, 延長又ハ徑間, 六二六丁三〇〇. Includes rows for '何何市街道路開墾' and '何何川橋梁架設'.

明治 年度測量費概算書 何何派出所長 官 氏 名 印

(第二號様式)

Table with 5 columns: 施行箇所, 延長又ハ徑間, 概算金額, 設計金額, 差引増減. Includes a row for '前表ノ如シ'.

第十一類 土功營繕

第十一類 土功營繕

右進捗候也

明治 年 月 日

土木部長宛

何何派出所長 官 氏

名印

(第三號様式)

明治 年 自 月 日 第 回報告

明治 年度 何 何 地 間 何 何 工 事 實 況

| 施行箇所 | 工事種類 | 月 日 | 天 候 | 職 工 | | 功 程 | 備 考 |
|-------------------|------|-----|---------|-----|----|-------|-----|
| | | | | 人 夫 | 工 | | |
| 前表ノ例ノ如シ 又ハ直營工事 | 請負工事 | | 晴 | 一〇 | 三〇 | 三分通竣功 | |
| | | | 雨 | 四〇 | 一〇 | | |
| | | | 午後二時ヨリ雨 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

一 功程書ト工事進捗ノ對比

一 其他參考トナルヘキ事項
右報告候也

明治 年 月 日

何何派出所長宛

受持主任 官 氏

名印

備考

- 一 天候ハ降雨等ノ時ハ其時間ヲ記入スヘシ
- 二 功程ハ工事ノ進行ノ程度ヲ簡明ニ記載スヘシ
- 三 備考欄ニハ雨天等ノ中事業ヲ休業シタルトキハ少合ヲ記スヘシ
- 四 特ニ報告スヘキ事項長文ニ涉ルトキハ別ニ添附スヘシ
- 五 本書ハ受持主任ニ於テ取纏メ送付スルモノトス
- 六 所員ニシテ天候若クハ疾病其他ノ事故ニヨリ職務セサルトキハ備考欄ニ記載スヘシ

(第四號様式)

何何派出所内明治 年度 國 設 工 事 實 況 報 告

| 計 | 施 行 箇 所 | 工 事 種 類 | 竣 功 箇 所 | 未 著 手 箇 所 |
|---|---------|---------|---------|-----------|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

- 一 事業施行ノ状況
- 一 未著手事業アラハ其理由
- 一 中止事業アラハ其理由
- 一 功程書ト工事進捗ノ對比
- 一 其他參考トナルヘキ事項

右及報告候也

明治 年 月 日

土木部長宛

何何派出所所長 官 氏

名印

第十一類 土功營繕

(第五號樣式)

工事受渡書
 一 何地間道路開鑿工事
 此請負高金何程
 明治 年 月 日竣功
 右工事竣功シタルヲ以テ検査ノ上本日其受渡ヲ爲シ本書ニ通テ作リ變方署名捺印ノ上各一通ヲ領置スルモノナリ
 北海道廳長官爵氏名代理
 受取人 官 氏 名 印
 何國何何番地
 引渡人 請負人 何 某 印

工事竣功檢定書

| 施行箇所 | 工事種類 | 工事箇所細則 | 竣功状況 |
|-----------|-----------------|-------------|--|
| 何地間道路開鑿工事 | 請負工事 請負人 何 某 | 自何地至何地道路里程延 | 設 計 書 通 過 竣 功 |
| 同 | 同 | 同 | 何何點ニ於テ設計書ト差異アリタルヲ以テ竣功檢 書却下更ニ設計書通竣功セシメタリ |
| 何地何川何橋梁 | 同 | 同 | 同 |
| 、、、、、 | 、、、、、 | 、、、、、 | 、、、、、 |

右工事設計書ト對比シ検査候處前記ノ通相違無之候也

何何派出所所長
 官 氏 名 印

備考

一 工事竣功狀況ニシテ長文ニ涉ルモノハ別ニ詳記シテ添附スヘシ
 二 受持主任ノ監督方法ニ付記載スヘキモノアラハ別ニ詳記シテ添附スヘシ
 (第七號樣式)

工事既成部分檢定書

何地間道路開鑿工事

| 種別 | 内 | 詳 |
|-----------|----|---|
| 伐木草薙及線路掃除 | | |
| 埋土 | | |
| 切土 | | |
| 砂利敷 | | |
| 大下水掘鑿 | | |
| 片側下水掘鑿 | | |
| 土留掘取 | | |
| 石垣築造 | | |
| 岩石切取 | | |
| 何暗渠 | | |
| 何暗渠 | | |
| 板橋 | 何間 | |
| 橋 | 何間 | |
| 土橋 | 何間 | 簡 |
| 何 | 何 | |

此請負高金何程

金何程
 金何程
 金何程

今同請求高
 任拂濟高
 殘高

第十一類 土功營繕

一四八〇

右何分通(何分通以上)ノ出来形ニシテ其既成部分ニ對スル工費ノ算出ハ左ノ如シ

| 種別 | 既成部分員數 | 單價 | 小計 |
|-------|--------|----|----|
| 一、道路費 | | | |
| 二、橋梁費 | | | |
| 計 | | | |

右之通檢定ス

明治 年 月 日

何派出所所長

官 氏

名 印

前記ノ通正ニ奉請候也

年 月 日

請負人 何 某

某 印

(第八號様式)

工事竣功調書

何里何町何間

造成箇何間

一 道路延長

内橋梁延長何間ナ包有ス

此 伐木草薙延長何間幅何間

盛土何坪

切土何坪

岩石切取何坪

砂利敷何坪

片側下水延長何間底幅何尺法何割何分

兩側下水兩側合計延長何間底幅何尺法何割何分

何尺何何暗渠何箇

板橋渡何間幅何間何箇

(右ノ例ニ從ヒ工事ノ要領ヲ摘要スヘシ)

此工費金何程

明治何年何月何日著手

明治何年何月何日成功

右之通

明年何年何月何日

何 官 何

某 印

○明治三十五年四月一日訓第三百三十六號(國費工事課派出所宛)

左ニ掲グル購買並ニ修繕ノ經費定額ノ豫算内ニ於テ所長限リ專行スルコトヲ得

一 一 廉價金額二十四未滿ノ備品消耗品ノ購買

一 一 廉價金額五圓未滿ノ備品ノ修繕

○明治三十五年三月二十七日訓第二百九十一號(内務部土木部宛)

國費工事課派出所現金出納及物品其他取扱ニ關スル規定左ノ通相定ム

第一條 國費工事課派出所ニ左ノ官吏及取扱主任ヲ置キ一般ノ規定ニ據リ其事務ヲ取扱ハシム

一 歳入歳出外現金出納官吏

一 物品取扱主任

一 保管物取扱主任

第二條 前條ノ官吏及取扱主任ハ土木部長之ヲ任免ス

○明治三十四年八月二十九日訓第六百九十一號(土木部支廳宛)

北海道土木部出張員心得別冊ノ通相定ム

(別冊)

北海道土木部出張員心得

第一條 工事又ハ測量ノタメ出張スルトキハ手帳ヲ受取り出張中毎日左ノ事項ヲ詳記スヘシ但シ手帳ハ其後白ナキニ至リ之ヲ返納シ檢閲ヲ受ケ

一 天氣

二 自己ノ從事シタル業務及疾病事故

三 發着シタル公信ノ件名但シ發信ノ郵便電信トモ其要領ヲ控置クヘシ

四 仕拂ヒタル郵便料電信料

五 官費ヲ以テ使役シタル雇夫ノ用務姓名及其賃金

六 旅行ノトキハ其發着地名

七 踏査測量ニ從事シタルトキハ其地名及狀況

八 工事監督ノトキハ工事ニ從事シタル箇所使役夫工夫等ノ種別人員及其狀況

右ノ外出出張中公務ニ關スル事項

第二條 前條ノ記事ハ一箇月毎ニ其要領ノ報告書ヲ作り翌月二日限リ長官又ハ支廳長ニ提出スヘシ但シ隨廳シタルトキハ其提出未済ニ係ル分チ二日以内ニ提出スヘシ

第三條 工事監督トシテ出張スルトキハ豫メ契約書仕樣書圖面等ヲ携帶シ其履行方ヲ細大熟知シテ出發スヘシ

第四條 工事監督員ハ左ノ事項ヲ周到嚴密ニ監視シ尚請負人又ハ代理人ノ舉止動作ヲ常ニ觀察シテ其事故ノ如何ヲ了知シ若シ契約ノ條項ニ違ヒ相當ノ處分ヲ要スルトキハ其事項ヲ長官又ハ支廳長ニ具申シ指揮ヲ請フヘシ

一 契約ノ著手期限ニ著手セシヤ否ヤ

二 請負人又ハ正當代理人ハ現場ニ臨在管理スルヤ否ヤ

三 現場ニ臨在スル請負人ノ代理人ハ承認ヲ受ケタルモノナルヤ否ヤ

四 工事ニ使用シタル材料ハ下檢査ヲ受ケタルモノナルヤ否ヤ

五 毎日工事ノ出来形ハ仕樣書ニ適合セルヤ否ヤ

六 工事ヲ廢止シタルハ本廳ノ許可ヲ受ケタルヤ否ヤ

七 工事ノ進行程度カ工事工程書ニ適合シ居ルヤ否ヤ

第五條 工事監督員ハ請負人ノ使役スル工夫人夫等ノ適否ヲ分別シ若シ不適當ト認ムルトキハ宜シク請負人ニ諭示督促スヘシ

第六條 請負人ヨリ現場ニ臨在スル代理人ヲ提出タルトキ工事監督員ハ其適否如何ヲ取調ヘ意見書ヲ添ヘ長官又ハ支廳長ニ提出スヘシ

第七條 請負人ヨリ工事竣功ヲ届出タルトキ工事監督員ハ其竣功年月日ヲ調査シ證明書ヲ添ヘ長官又ハ支廳長ニ提出スヘシ

第八條 請負人ヨリ天災其他ノ事故ニ因リ工事竣功延期ヲ願出タルトキハ工事監督員ハ事實ヲ審究シ其取調ノ始末ヲ詳記シタル意見書ヲ添ヘ長

第十一類 土功營繕

一四八一

○明治三十五年四月十五日告示第五十三號
北海道廳拓殖費支辨土木工事請負規程左ノ通り定ム

第一章 總則

第一條 拓殖費支辨ニ關スル土木工事請負ハ法律規則ニ據ルノ外尙此規程ニ據ルヘシ
第二條 入札人請負人其事ヲ他人ニ代理セシムルトキハ委任狀ヲ以テ之ヲ證明シ尙ハ請負人ノ代理人ハ豫メ其住所氏名ヲ届出テ承認ヲ受ケヘシ
代理人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ拒ムコトアルヘシ
第三條 本規程ニ據リ締結シタル契約ニ違背シ其契約ヲ解除セラレタル者ハ爾後滿二箇年間拓殖支辨ノ工事ニ就キ請負人又ハ代理人トナルコトヲ得ス
第四條 特別ノ規程アルモノ、外ハ連帶シテ請負人ヲナスコトヲ得ス
第五條 入札ヲ爲サントスル者ハ圖面工事仕様書仕譯書及契約書案並ニ實地ヲ熟覽スヘシ
附則其他ニ懸念アルトキハ係員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得
第六條 入札人ハ入札前ニ合計規則第六十九條第一項ニ基キ營業證明書並内務省令第四十九號ノ資格ヲ證スル書類ヲ入札ヲ執行スル官衙ニ提出シ承認ヲ受ケヘシ但シ本項書類ハ開札時二時間前迄ニ提出スヘシ
營業證明書ハ入札當日午前三十日以内ニ證明シタルモノニ限ル
第七條 入札人ハ入札保證金ヲ入札前ニ入札ヲ執

行スル官衙ニ納付シ係員ノ受領證ヲ受取ルヘシ但本項保證金ハ開札時二時間前迄ニ納付スヘシ會計規則第六十九條ニ依リ依價額ヲ以テ保證金ニ充用スルトキハ時價ニ依リ計算スヘシ
保證金ハ記名債券ナルトキハ之ニ書入證書及委任狀ヲ添附シ納付スルモノトス(三十五年四月告示第七十四號ヲ以テ本項改正)
第八條 入札人ハ書式ニ依リ入札書ヲ封緘シ封緘ノ上開札時迄ニ係員ノ承認ヲ經テ入札函ニ投入スヘシ
第九條 入札保證金ハ落札人ノ提出シタルモノノ外ハ落札人確定後直ニ受領證引換ニ之ヲ還付スルモノトス
落札人ヨリ領置シタル入札保證金ハ契約締結後ニアラサレハ還付セザルモノトス
第十條 入札執行ノ場所ニハ豫定價格書ヲ封緘シ之ヲ封緘シテ備ヘ置クモノトス
第十一條 入札後ハ入札書ノ變更又ハ引換ヲ爲スコトヲ得ス
第十二條 入札人ハ開札ノ際立會スルモノトス開札後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第十三條 左記ノ入札ハ無効トス
一 開札ノ際立會セザルモノ
二 保證金額不足ナルモノ
三 書式ニ違ヒ又ハ文字誤謬汚染塗抹改竄等ノ爲メ其事項ヲ認メ難キモノ
第十四條 入札ハ有效入札中豫定價格以下ニシテ最低價ノモノヲ落札トス
最低價ニシテ同價ノモノ二人以上アルトキハ其金額以下ニ於テ直ニ再入札ヲ爲サシム其入札尙同價ナルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 最低價格ノ入札ニシテ豫定價格ニ超過シタルトキハ直ニ再入札ヲ執行スルコトアルヘシ
第十六條 落札人ハ落札ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ五日以内(休日ニ當ルトキハ翌日)ニ契約書二通ヲ作り請負金内譯書ヲ添ヘ提出スヘシ
第十七條 契約保證金ハ百分ノ十五トス(前位未滿ハ切上トス)但シ特ニ廣告シテ増減スルコトアルヘシ(三十五年五月告示第二百二十七號ヲ以テ第二項削除)
第十八條 契約保證金ハ契約締結前金額ニ寄託シ其保管證書ヲ差出スヘシ
本規程第七條第二項第三項ハ契約保證金ニモ適用ス但シ利札ハ利子拂渡期ニ至リ寄託金額ニ請求シテ之レカ交付ヲ受クルコトヲ得
保證金ハ充用シタル國貨證券其他ノ債券ノ價格低落シタルトキハ臨時期日ヲ定メ之ヲ補足シ命スルコトアルヘシ
第十九條 契約保證金ハ請負人其義務ヲ履行シタルトキ之ヲ還付ス
第二十條 工事ハ請負人自ラ擔當シ賣買讓渡ヲ爲スヘカラス
第二十一條 工事に必要ト認メタルトキハ相當ノ期限ヲ定メ請負人ノ契約ヲ締結スルコトアルヘシ前項ノ場合ニ於テハ契約保證金ハ請負期間満了ノ後還付スヘシ
第三章 隨意契約
第二十二條 隨意契約ニ依リ工事請負人請負人セントスルトキハ營業者數名ヲ撰ミ圖面工事仕様書仕譯書及契約書案ヲ示シ見積書ヲ提出セシムルモノトス
但シ特ニ一名ヲ指定シテ見積書ヲ提出セシム

ルコトアルヘシ
第二十三條 前條ノ請負見積價格豫定以内ニシテ其金額相當ト認ムルトキハ契約締結スヘキ旨見積書差出人ニ通知スルモノトス
第二十四條 契約締結ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十六條ノ期限内ニ契約書二通ヲ作り請負金内譯書ヲ提出スヘシ之ニ違背シタルトキハ請負人ヲ辭シタルモノト見做ス
一 際百圓未滿ノ工事ニ在テハ請負書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトアルヘシ
第二十五條 第二條乃至第五條第十七條乃至第二十一條ノ規程ハ之ヲ隨意契約ニ適用ス
一 際百圓未滿ノ工事ニ在テハ第十七條ノ契約保證金ハ之ヲ徵セザルコトアルヘシ(三十五年五月告示第二百二十七號ヲ以テ本項追加)
第四章 工事執行
第二十六條 工事ハ契約書ニ記載シタル期限内ニ著手シ契約締結後十日以内ニ工程書ヲ提出スヘシ
第二十七條 工事中ハ請負人又ハ代理人常ニ工場ニ臨在シテ之ヲ管理シタルヘシ
受渡以前ニ於テ生シタル損害及工事管理上ノ過失懈怠等ニ依リ他人ニ與ヘタル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス
第二十八條 工事ハ仕様書仕譯書工程書等ニ據リ施行スルハ勿論工事監督員ノ監督ヲ受ケ其指揮ニ從フヘシ
第二十九條 工事ニ使用スヘキ材料ハ豫メ工事監督員ノ検査ヲ受ケヘシ若シ検査未済ノ材料ヲ使用シタルトキハ構造解除ノ上之カ適否ヲ検査スルコトアルヘシ此場合ニ於テ解除ニ復舊ノ費用ハ請負人ノ負擔トス

第三十條 左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ臨時期日ヲ定メ請負人ノ私費ヲ以テ之ヲ取拂引換又ハ改造修理ヲ爲サシムヘシ
一 使用後ニ係リ材料不適當ト認ムルトキ
二 工事ノ仕様書及契約書ニ違ヒタルモノトキ
三 請負期間内ニ生シタル破損
第三十一條 請負人ニ於テ止ムテ得ザル事由ニ依リ期限内ニ竣功ノ見込ナキトキハ其事由ヲ詳具シ既往ノ工程書ヲ添ヘ工事監督員ヲ經テ延期ヲ出願スヘシ天災其他不可抗力ニ基因スルモノニ在テハ其事由ヲ終了後十日以内ニ出願スヘシ前項ノ場合ニ於テ理由アルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ
第三十二條 工事完済シタルトキハ請負人ハ工事監督員ヲ經テ道廳又ハ派出所ニ届出ツヘシ道廳ハ十五日以内ニ検査官吏ヲ派遣シ請負人又ハ代理人立會ノ上検査合格ト認メタルトキ受渡ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テ立會ヲ爲サザルトキハ異議ヲ申出ツルコトヲ得ス
第三十三條 請負人ヨリ工事完済前其工事に既成部分ニ對シ請負金ノ下渡ヲ請求シタルトキハ検査官吏ヲ派遣シ請負人立會ノ上之ヲ検査セシメ正當ト認ムルトキハ出來形八分以内ノ工費ヲ仕拂フ可シ但シ此工費算定方ハ工事既成部分ニ係ル材料職工等ノ數並ニ豫定價格ヲ編成スル數並ニ基キ計算ス(其豫定價格ノ算率即單價ヲ乘シテ得タル金額ヲ集計シ之ヲ豫定價格ニテ除シ其既成歩通ヲ算出スルモノトス
内渡金ノ回数ハ三回以内トス
工事ノ材料ヲ現場ニ蒐集シ或ハ之ニ作工ヲ施ス

モ未ダ工事ノ組織上ニ使用セザルモノハ出來形ノ部分ニ算入セス
第三十四條 事業施行中中止變更若クハ廢止ヲ要スルトキハ請負人ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
中止又ハ變更ノ場合ニハ第三十三條第一項但書ノ例ニ依リ請負金及契約保證金ヲ増減ス
變更又ハ廢止ノ爲メ既ニ準備シタル材料ニシテ不用ニ歸シタルモノノ引受ケ請ハントスルモノハ請負人ニ於テ十日以内ニ現場ニ蒐集スヘシ
工事廢止ノ場合ニ於テハ仕様書ニ適合シタル出來形ニ對シ相當ノ工費ヲ仕拂フヘシ此場合ニ於ケル工費算定方ハ第三十三條第一項但書ノ例ニ依ル
第三十五條 特別ノ條件ヲ要スル工事ハ其條件ヲ契約書ニ記スルモノトス
第五章 違約處分損害賠償
第三十六條 左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ入札保證金ハ還附ノ所得トス
一 落札人ハ入札ノ取消ヲ爲シタルトキ
二 落札人ハ入札ノ撤回ノ入札人其入札ヲ取消シ又ハ再入札ヲ爲サザルトキ
三 落札人契約書又ハ契約保證金ヲ期限内ニ提出セザルトキ
第三十七條 請負人ニ於テ第三十一條ニ依リ延期ヲ與ヘラレタルトキハ延滞日數一日ニ付請負金額ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ過意金トシテ納付スルモノトス
天災其他不可抗力ニ基因スル延滞日數ニ對シテハ過意金ヲ免ス
第三十八條 左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ但シ此場合ニ在テハ

第十一類 土功營繕

契約保證金ハ道廳ノ所得トス

- 一 契約範圍内ニ於テスル係員ノ要求ニ應セザルトキ又ハ工程書ノ如ク工事竣功セザルトキ
- 二 契約ノ期限内ニ著手セズ又ハ工事ヲ廢止シタルトキ
- 三 竣功期限内ニ工事ヲ竣功セザルトキ
- 四 第十八條第三項又ハ第三十四條第二項ノ補充金ヲ指定期限内ニ納付セザルトキ
- 五 請負人ヨリ解約ヲ乞フトキ
- 六 第二十条ニ違背シタルトキ
- 七 第三十九條 前條ニ依リ契約ヲ解除シタルトキ

第一項但書ニ據リ受渡シタル部分ニ對スル相當額ヲ仕拂フヘシ

前項受渡外ニ係ル請負人所有ノ物件現場ニ存在スルトキハ受渡後十日以内ニ之ヲ取拂フヘシ若シ其期限内ニ取拂フ爲メサルトキハ權利ヲ拋棄シタルモノト見做シ道廳ニ於テ適宜之ヲ處分スルモノトス此場合ニ於テハ請負人ニ如何ナル損害アルモ道廳ハ其責任ニ任セズ

請負人ニ於テ前項期限内ニ取拂フ難キトキハ其理由ヲ詳細シ受渡後五日以内ニ延期ヲ出願スヘシ相當ノ理由アリト認めタルトキハ許可スルコトアルヘシ

第四十條 第三十八條ノ場合ニ於テ契約保證金ノ代用トシテ國債證券其他ノ債權ヲ領置セルトキハ道廳ハ之ヲ質押シ契約保證金ノ金額ニ相當スル金額ヲ道廳ノ所得トシ且其質押費用ヲ控除シ尙剩餘アルハ請負人ニ還付ス若シ其質押價格ニシテ契約保證金及其質押ニ要シタル費用ノ額ニ達セザルトキハ其不足額ハ請負人ヨリ徴收スル

モノトス 本規程ハ明治三十五年四月十五日ヨリ施行ス

第四十一條 本規程ハ明治三十五年四月十五日ヨリ施行ス

入札書式

工事請負入札書

何工事

一金 請負高

右金高ヲ以テ御指示ノ仕様書仕譯書ノ通り工事請負可仕候也

住所職業

年月日 入札人 某 印

長官宛

契約書

一 何何工事

右工事請負ノ件競争入札ノ結果ニ依リ北海道廳長官ニ請負人某トノ間ニ締結スル契約左ノ如シ

第一條 本契約ノ要領ハ左ノ如シ

一 何何工事請負

但シ別紙圖面仕様書仕譯書ノ通り

二 工事施行期ハ日數 日トス

但シ契約締結ノ翌日ヨリ起算シ晴雨ヲ論セズ

三 請負金額ハ金 トス

但シ別紙請負金内譯書ノ通り

四 契約保證金ハ金 圓トス

五 工事著手ハ契約締結ノ翌日ヨリ 日以内トス

第二條 前條ノ外ハ明治三十五年四月北海道廳告示第五百五十三條北海道廳拓殖費支辨土木工事請負規程ニ依リスルモノトス

右契約締結ヲ證スル爲メ此證書ニ通テ作リ契約者

雙方署長印シ各一通ヲ保有スルモノトス

年月日 北海道廳長官印

住所職業

請負人 某 印

○明治三十五年六月八日告示第二百四十八號

本年四月當廳告示第五百五十三號北海道廳拓殖費支辨土木工事請負規程ニ依リ執行スル隨意契約保證金ハ同規程第二十五條及第十七條但書ニ基キ當分ノ内請負金高百分ノ十トス

○明治三十一年五月二十一日調令第二百一號(文電)

起業費ニ屬スル工費ニシテ指定工事ノ目的ヲ達シ剩餘ヲ生シタルトキハ更ニ認可ヲ受ケザレハ他ノ工事ニ使用スルヲ得サル心得ヘシ

○明治二十六年四月六日調令第十九號(各課監試)

建築及治水工事ニ屬スル工事設計書等二十六年度以降左記ノ通會計檢査院へ提出スヘキ旨内務大臣ヨリ訓令有之候條此旨相心得ヘシ

一 工事設計書、豫算仕譯書、各種圖面、建築地、地圖、測量圖、断面圖、二階及床伏小、起工ノ當初、模範等工事ハ取調メ年度終結ノ際

一 特ニ毎年度設計書ヲ調製スルモノハ其年年決定ノ際

○明治三十四年七月九日調令第二百二十五號

北海道地方費ヲ以テ支辨スル土木工事ノ範圍左ノ通り定ム

第一條 國道及ニ假定縣道ニ係ル道路橋梁ノ維持ニ要スル費用ハ地方費ノ支辨トス

第二條 交通上ノ狀況ニ依リ國道中ノ一部ヲ里道ニ準シ假定縣道中ノ一部ヲ國道又ハ里道ニ準シ

里道中ノ一部ヲ國道又ハ假定縣道ニ準シテ取扱フコトアルヘシ但其線路ハ別ニ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 二郡以上ニ亘ル河川ノ流身ヲ維持スル費用ハ地方費ヲ以テ支辨ス但其他ノ河川ニシテ地方費ノ支辨ヲ要スト認ムルトキハ別ニ告示ヲ以テ之ヲ指定ス(三十五年五月調令第七十四號ヲ以テ本條中改正)

第四條 左記排水運河ノ維持ニ要スル費用ハ地方費ヲ以テ支辨ス

- 一 幌向排水運河
- 二 馬追排水運河
- 三 札幌茨戸間排水運河
- 四 花畔鏡間排水運河

第五條 左記橋樑及埠頭ノ維持ニ要スル費用ハ地方費ヲ以テ支辨ス

- 一 函館港橋樑
- 二 室蘭港橋樑
- 三 根室港埠頭
- 四 花咲港埠頭

第六條 本令ニ於テ地方費ノ支辨ニ屬スルモノノ外地方費ヲ以テ工事ヲ爲サントスルトキハ特ニ

豫算ニ於テ其箇所ヲ定ム

第七條 區町村其他公共團體若クハ私人ニ於テ地方費支辨ニ屬スル土木工事ヲ施行セントスルトキハ所轄支廳長又ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受ケルモノトス

附則

第八條 本令施行前計畫ヲ了シタル土木工事ニ關シテハ本年度ニ限リ從前ノ例ニ依ル

○明治三十六年三月十八日調令第二百八十一號(土木部支廳宛)

地方費支辨土木工事豫算取調事項及様式別紙ノ通定ム

(別紙)

- 一 地方費支辨土木工事豫算取調事項
- 一 國道ハ左ノ等級ニ據リ別紙第一號ノ通取調ノ事
- 一 等札幌、小樽、函館ノ三區内及旭川市街道
- 二 等一以外ノ各支廳所在地市街道
- 三 等車道中往來頻繁ノモノ
- 四 等同上中往來通常ノモノ
- 五 等八馬道中往來頻繁ノモノ

- 六 等同上中往來通常ノモノ
- 七 等未開闢道路中雜木繁生地
- 八 等同上中海岸砂地
- 九 等外國夜間墾後五箇年以内ノ道路
- 十 等川中局所ノ改修ヲ要スルモノハ概算設計書及平面圖並ニ改修必要ノ說明書ヲ提出ノ事但河線工作物ノ新設増築又ハ廳舎ノ變更、増築又同シ
- 三 橋梁架換箇所ハ別紙第二號ノ通取調ノ事
- 四 河川ノ工作物ハ別紙第三號ノ通取調ノ事
- 五 橋樑及埠頭ノ修繕ハ概算設計書及修繕必要ノ說明書ヲ提出ノ事
- 六 廳舎修繕ハ別紙第四號ノ通取調ノ事
- 七 器具器械ノ購買ヲ要スルモノハ別紙第五號ノ通取調ノ事
- 八 前各項ノ取調書ハ前年度四月三十日迄ニ本廳へ到達スル様提出ノ事
- 九 第一號乃至第五號取調書ハ半紙跡紙ヲ用ヒ設計書ハ別紙第六號ニ據リ調製ノ事
- 十 三十八年度以後第一項及第四項ニ對シテハ其異動部分ノミヲ取調ノ事

| 何街道等級調 | | 何支廳 | |
|--------|------|------|-----|
| 等級 | 起點地名 | 道路間數 | 箇所數 |
| 一 | | | |
| 二 | | | |
| 三 | | | |

| 等外 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 |
|----|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

第十一類 土功營繕

| 名 | 稱 | 品 | 質 | 長 | 寸 | 幅 | 厚 | 法 | 徑 | |
|---|---|---|---|---|---|---|------------|---|---|--|
| 稱 | 單 | 呼 | 位 | 具 | 數 | 摘 | | | | |
| | | | | | | | 材料調書用紙 (甲) | | | |
| | | | | | | | 北海道廳土木部 | | | |
| | | | | | | | | | | |

| 名 | 稱 | 品 | 質 | 長 | 寸 | 幅 | 厚 | 法 | 徑 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 稱 | 單 | 呼 | 位 | 具 | 數 | 摘 | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

| 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 至白 | 測點號 | 至白 | 至白 | 至白 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----------|----|----|----|
| | | | | | | | | | | 土積表用紙 (甲) | | | |
| | | | | | | | | | | 中心高 | | | |
| | | | | | | | | | | 尺 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 離 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |
| | | | | | | | | | | 切取 | | | |
| | | | | | | | | | | 盛土 | | | |
| | | | | | | | | | | 積 | | | |

